

米中シットコムにおける「笑い」の構造ーラフ・トラック挿入ポイントにおける共通点と差異の比較

吉松, 孝

<https://hdl.handle.net/2324/4784627>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :



米中シットコムにおける「笑い」の構造

ーラフ・トラック挿入ポイントにおける共通点と差異の比較

Structure of 'Laughter occurrence' at Sitcom in the
U.S. and China

吉松 孝

Takashi Yoshimatsu

2022年3月

目次

序.....	6
1. 背景.....	6
1.1. 既往研究.....	7
2. 目的.....	8
3. 意義.....	9
4. 方法と流れ.....	9
5. 論文の構成.....	11
第1章 シットコムの定義とラフ・トラックの役割.....	14
1.1. シットコムの歴史.....	14
1.1.1. 米国シットコムの歴史.....	15
1.1.2. 中国シットコムの歴史.....	16
1.2. シットコムの構造.....	17
1.3. シットコムの定義.....	19
1.4. シットコムの特徴.....	20
1.4.1. 米国シットコムの特徴.....	20
1.4.2. 中国シットコムの特徴.....	20
1.4.3. シットコムのニュース性と時流.....	21
1.5. ラフ・トラックの役割.....	22
1.5.1. ラフ・トラックの定義.....	22
1.5.2. 「面白み」についての定義.....	23
1.5.3. ラフ・トラックの有効性についての議論.....	24
1.5.3.1. ラフ・トラックと脳科学分野の研究.....	24
1.5.3.2. ラフ・トラックの社会的証明としての効果.....	25
1.6. 本論文の分析に使用する選定番組に関する概観.....	26
1.6.1. 研究対象作品の歴史とストーリー.....	27
1.6.2. 選定作品の配役と主人公像について.....	29
1.6.3. 配役の多様性と優越性の認識.....	30
1.7. まとめ.....	31
第2章 ユーモアに関する理論のシットコム分析への適用.....	34
2.1. ユーモアに関する理論の系譜.....	34
2.1.1. 不一致理論.....	35

2.1.2. エネルギー理論	36
2.1.3. 優越理論	36
2.1.4. 関連性理論.....	37
2.2. ユーモアに関する理論のシットコムへの適用.....	38
第3章 米中シットコムにおける笑いの要因の分類.....	41
3.1. 分類の概要と目的	41
3.2. 大分類.....	41
3.2.1. 米国シットコムのテキストを使用した分類のプロセス	42
3.2.2. 中国シットコムのテキストを使用した分類のプロセス	47
3.2.3. 分類結果	49
3.3. 小分類.....	51
3.3.1. 分類結果	51
3.3.2.1. 大分類 (A)「未熟性とのギャップ」の小分類	53
3.3.2.2. 大分類 (B)「実在と虚構の混在」の小分類.....	55
3.3.2.3. 大分類 (C)「エネルギーの移行」の小分類.....	56
3.3.2.4. 大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」の小分類.....	57
3.3.2.5. 大分類 (E)「正当な発声、発音とのギャップ」の小分類.....	59
3.3.2.6. 大分類 (F)「優越性の認識」の小分類.....	59
3.3.2.7. 大分類 (G)「フレーミングの変化」の小分類.....	60
3.4. 分類別発生件数の比較分析と考察.....	60
3.4.1. 笑いの構造の共通点	63
3.4.2. 笑いの構造の差異.....	63
3.4.2.1. 笑いの構造の大分類での差異.....	63
3.4.2.2. 笑いの構造の小分類での差異.....	64
3.6. まとめ.....	67
第4章 大分類 (A)「未熟性とのギャップ」の笑いの構造	69
4.1. 「未熟性とのギャップ」構造の概要	69
4.1.1. 「未熟性とのギャップ」の笑いの定性分析.....	71
4.1.2. 分類別発生件数の定量分析	75
4.2. 考察	78
4.2.1. 不一致と未熟性のギャップ	78
4.2.2. 未熟性の出現の両国の傾向	79
4.3. まとめ.....	80
第5章 大分類 (B)「実在と虚構の混在」の笑いの構造.....	81
5.1. 「実在と虚構の混在」構造の概要.....	81
5.1.1. 「実在と虚構の混在」の笑いの定性分析	83

5.1.2. 分類別発生件数の定量分析	89
5.2. 考察	91
5.2.1. 固有名詞の使用	92
5.2.2. メタ構造の面白さ	93
5.3. まとめ.....	94
第6章 大分類 (C)「エネルギー移行」の笑いの構造	95
6.1. 「エネルギー移行」の構造の概要.....	95
6.1.1. 「エネルギー移行」の笑いの定性分析.....	97
6.1.2. 分類別発生件数の定量分析	104
6.2. 考察	106
6.2.1. エネルギー理論からの応用	106
6.2.2. 緊張から緩和へ	107
6.2.3. 緩和から緊張へ	109
6.2.4. 緊張と緩和の出現の傾向.....	110
6.3. まとめ.....	112
第7章 大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」の笑いの構造.....	114
7.1. 「発話の意味の解読」構造の概要.....	114
7.1.1. 「発話の意味と解釈のズレ」の笑いの定性分析	116
7.1.2. 分類別発生件数の定量分析	123
7.2. 考察	125
7.2.1. 推意帰結と推意前提.....	125
7.2.2. 推意帰結と推意前提の具体例.....	128
7.3. まとめ.....	131
第8章 大分類 (E)「正当な発声、発音とのギャップ」の笑いの構造.....	133
8.1. 「正当な発声、発音とのギャップ」の構造の概要	133
8.1.1. 「正当な発声、発音とのギャップ」の笑いの定性分析	133
8.1.2. 分類別発生件数の定量分析	136
8.2. 考察	137
8.3. まとめ.....	139
第9章 大分類 (F)「優越性の認識」の笑いの構造	140
9.1. 「優越性の認識」構造の概要	140
9.1.1. 「優越性の認識」の笑いの定性分析.....	141
9.1.2. 分類別発生件数の定量分析	149
9.2. 考察	150
9.2.1. 優越理論からの応用	150
9.2.2. 「優越性の認識」の米中での差異	151

9.3. まとめ.....	154
第10章 大分類 (G)「フレーミングの変化」の構造	155
10.1. 「フレーミングの変化」構造の概要	155
10.1.1. 「フレーミングの変化」の笑いの定性分析.....	155
10.1.2. 分類別発生件数の定量分析	161
10.2. 考察	162
10.2.1. フレーミングの変化の性質	163
10.3. まとめ.....	164
第11章 ラフ・トラック挿入ポイントにおける面白さの認識	165
11.1. 実験	165
11.1.1. 実験の目的.....	165
11.1.2. 方法.....	165
11.1.3. 調査に使用する番組映像.....	166
11.1.4. 質問紙の内容	166
11.3. 実験結果と分析	167
11.3.1. 定量調査(1) 面白かったと感じた番組の順位	167
11.3.2. 定量調査(2) 各ラフ・トラックの挿入ポイントに対する感じ方の評価	170
11.3.3. 定性調査(1) 各番組に対する感想.....	173
11.3.4. 定性調査(2) 米中作品全体を比較しての感想	174
11.4. 分析	177
11.4.1. 面白さが明確に認識された挿入ポイントについての分析.....	177
11.4.2. 面白さが認識されにくかった挿入ポイントについての分析	179
11.5. 考察	181
11.5.1. シットコムとコンテクスト性.....	181
11.5.2. ラフ・トラック付与の妥当性について.....	183
11.6. まとめ.....	183
第12章 結論	185
12.1. 研究のサマリー	185
12.2. 研究で得た結論	187
12.2. 研究の意義	187
12.3. 研究の限界	188
12.4. 今後の展望	188
謝辞.....	190
文献目録.....	191
付録.....	198

序

1. 背景

シットコムは、家庭のリビングやカフェのソファなど、日常的な生活を設定し、その中で行われる登場人物の会話をセリフとして組み合わせることにより、視聴者に面白みを継続的に感じさせながら展開する番組形態である。制作者は、固定された少ないカメラによるスタジオ内での撮影や、会話を中心にプロットを作成する、時事性を取り込んで新鮮さを出すという枠組みの中で、笑い声（ラフ・トラック）を挿入する方法を用い、高い頻度で笑いの発生ポイントを与えるような番組構成をデザインする。シットコム形式は、高額になりがちなロケなどのジャンルとは一線を画し、ニュースや時事問題をストーリー内に取り込むことで、面白みを作るための土壌を次々と開拓できるという利点を持つ。その中で、制作者が、プロットを作成し、ラフ・トラックをどういう意図で、どのポイントに挿入していくかが、シットコムにおけるデザインの領域といえる。

米国でシットコムの放送が始まったのは1940年代後半で、ラジオからテレビへの主要メディアの移行期に、ラジオのシットコム形式の番組がテレビ版として制作された。1940年代後半に「*The Aldrich Family*」(1949-1953)や「*The Goldbergs*」(1949-1953)などラジオのシットコムが「テレビ版」に移行してきた。そして、同様にラジオのシットコムから移行してきた「*I Love Lucy*」(1951-1957)が大ヒットを遂げた。「*I Love Lucy*」は女性の社会進出が背景に描かれた作品であるが、それ以降も、シットコムは、それぞれの時代の社会問題や世相を背景にしなが、現在まで続いてきた。米国では、シットコムはテレビの中で主流ともいえるジャンルである。

一方、中国でシットコムが誕生したのは1990年代初頭である。米国作品をモデルにして制作され始め¹、「編輯部的故事」(1992)、「我爱我家」(1994)などがその先駆として登場した。その後も「武林外传」(2006)や「爱情公寓」(2009-2020)などの人気作品が連続と誕生し²、長きに亘り一定のシェアを維持している。米国シットコムの影響のもとに制作された歴史を持つ中国シットコムではあるが、その受容プロセスのなかで、独自の文化や言語が反映され、独自の構成が見られるようになっている。

米中シットコムを比較分析することで、シットコム形式における笑いの組み立て方を機能的に体系化し示すことができる。日本には定着したシットコム番組がないが、この体系化された笑いの組み立て方を参照することにより、日本の文化背景に合ったシットコム脚本を組み立て導入しうる可能性がある。

米国、中国では、依然として映像ビジネスの影響力、エンターテインメントが持つ力は強い。そのため、米国・中国という二大言語文化圏から代表的なシットコムを取り上げ分

析することは、得られた知見を、日本のテレビ業界のプロット制作で効果的に活用できるようになると期待できる。

1.1. 既往研究

シットコムに関する既往研究を表1に示す。

表1：シットコムに関する既往研究

研究者（発表年）	研究の内容
Fitriani et al.(2020)	米国シットコム「 <i>The Big Bang Theory</i> 」の発話部分を、語用論的観点から、Searle(1975) ³ の発話行為に関するフレームワークを用いて分析した。その中で、発話行為を assertive（主張）、directive（命令）、commissive（約束）、expressive（表出）、declarative（宣言）に分け、シットコムでは、declarative 以外の発話がなされることによって、ユーモアとなっていることを示した。
苏(2019)	米国「 <i>The Big Bang Theory</i> 」と中国「 <i>爱情公寓</i> 」の物語構成やキャラクター設定の共通性と差異について分析し、共通性として、型破りな性格のキャラクターの配置や、登場しない謎めいたキャラクターの設定を挙げ、差異として、ストーリー構成において「 <i>爱情公寓</i> 」は、創造性が欠落していること、キャラクターの設定が薄いことなどを指摘している。
王(2020)	中国シットコム「 <i>家有儿女</i> 」の発話部分のテキスト分析を行い、Grice(1975)が提唱した「協調の原則」に違反することでユーモアの効果を生み出していると指摘した。しかし、王の研究は単一の作品を提示しているだけで、比較対象がなく、抽出部分に恣意性も残る。
高木（2017）	米国「 <i>I love Lucy</i> 」（1951-1957）の笑いについて分析し、1950年代の「手錠ギャグ」などに関して、ギャグの諸機能を見出すことで、ギャグが作品構成の中にも組み込まれ、ストーリーを牽引する能動的役割を果たしていることを明らかにした。
中村（2018）	笑い（特に不一致理論が適用されるような笑い）を認知する脳の仕組みについて分析した。
茄（2016）	米中のコメディを比較し、「米国では登場人物の心理面、中国では外見の表示に重きがおかれている」といった差異を指摘した。さらに中国では、米国の形式をモデルにし、シットコムが作られるようになったとした
Grandio & Diego（2010）	「 <i>Friends</i> 」（NBC、1994-2004）におけるスペインのシットコムに与えた影響を研究した。
賀（2011）	中国コメディ番組の笑いの仕組みを解析した。
张（2019）	中国シットコムと西洋のシットコムとの傾向を比較し、中国は、悲劇を支持することを美学としており、西洋が喜劇に美的価値を置くこととの相違があったとした。
石（2020）	初期の中国シットコムは、主に主人公の家族環境を中心に展開し、家族向け喜劇につながり、大衆文化を中心に密接に発展したとし、イデオロギーの発達と社会の変化を明らかにしてきたとした。また、「 <i>爱情公寓</i> 」は、米国の「 <i>Friends</i> 」のパターンと生活環境を利用し、笑いのパターンを模倣しているとも指摘した。

Fitriani et al. (2020)⁴は、米国シットコム「*The Big Bang Theory*」の発話部分を、語用論的観点から、Searle(1975)⁵の発話行為に関するフレームワークを用いて分析した。その中で、発話行為を assertive（主張）、directive（命令）、commissive（約束）、expressive（表

出)、declarative (宣言) に分け、シットコムでは、declarative 以外の発話がなされることによって、ユーモアとなっていることを示した。蘇(2019)⁶は、米国「*The Big Bang Theory*」と中国「愛情公寓」の物語構成やキャラクター設定の共通性と差異について分析し、共通性として、型破りな性格のキャラクターの配置や、登場しない謎めいたキャラクターの設定を挙げ、差異として、ストーリー構成において「愛情公寓」は、創造性が欠落していること、キャラクターの設定が薄いことなどを指摘している。王(2020)⁷は、中国シットコム「家有儿女」の発話部分のテキスト分析を行い、Grice(1975)⁸が提唱した「協調の原則」に違反することでユーモアの効果を生み出していると指摘した。

高木 (2017) ⁹は米国「*I love Lucy*」(1951-1957) の笑いについて分析し、1950 年代の「手錠ギャグ」などに関して、ギャグの諸機能を見出すことで、ギャグが作品構成の中にも組み込まれ、ストーリーを牽引する能動的役割を果たしていることを明らかにし、コメディを形作る動作や社会的背景に焦点を当てて分析した。中村 (2018) ¹⁰は、特に不一致理論が適用されるような笑いを認知する脳の仕組みについて分析した。茄 (2016) ¹¹は、米中のコメディを比較し、「米国では登場人物の心理面、中国では外見の表示に重きがおかれている」といった差異を指摘した。Grandio & Diego (2010) ¹²は、「*Friends*」(NBC、1994-2004)におけるスペインのシットコム番組に与えた影響を研究したが、米中間のシットコム比較には言及した研究はない。賀 (2011) ¹³は、中国コメディ作品の笑いの仕組みを解析したが、米国・中国のシットコムの比較を行っていない。

張 (2019) ¹⁴は、中国シットコムと西洋のシットコムとの傾向を比較し、中国は、悲劇を支持することを美学としており、西洋が喜劇に美的価値を置くこととの相違があるとした。石 (2020) ¹⁵は、初期の中国シットコムは、主に主人公の家族環境を中心に展開し、家族向け喜劇につながり、大衆文化を中心に密接に発展したとし、イデオロギーの発達と社会の変化を明らかにしてきたとした。また、「愛情公寓」は、米国の「*Friends*」のパターンと生活環境を利用し、笑いのパターンを模倣しているとも指摘した。

先行研究では、シットコムが面白みを引き起こすための土台となる発話部分の詳細な仕組みについて解明されていない点があり、更なる研究の余地があると考えられる。

2. 目的

以上のような背景から、米国と中国の代表的なシットコムに関して、詳細なテキスト分析の手法を用いることで発話の仕組みを捉えられると考えられる。シットコムは、面白みや笑いのポイントを創り出すことによって視聴者に対して娯楽を提供している。その点で、制作者によって面白みが明確に示されている「ラフ・トラックの挿入ポイント」の前後の文脈を含めた性質を分析することは、先行研究の発話部分の詳細や仕組みについては述べられていないという不足を補ううると考えられる。そこで本研究では、米国と中国の

ラフ・トラックの挿入の仕方を比較し、その性質の共通点と差異を明らかにし、それらを成す社会的背景、言語的背景について考察することを目的とする。

3. 意義

本研究の意義として、見出せるのは以下の点である。

- ・ 米国・中国という二大言語文化圏から代表的なシットコムを取り上げ分析し、得られた知見を整理することで効果的に活用できるようになり、テレビ産業界に有益性をもたらすものと期待できる。両国のシットコムの「笑い」における類似点と差異点が、それぞれの文化とどのような関係にあるか、そこから推論できる笑いの普遍性と文化差を追求できる可能性がある。
- ・ 米中のシットコムをテーマとし、笑いの挿入ポイントの構造を詳細に分析し、文化的、社会的背景に照らして解釈を試みるため、二大言語圏であり固有の歴史を持つ米国・中国のシットコムを対象とし、テキストからラフ・トラックの挿入ポイントに関しての共通性や差異を分析、考察することが、日本の放送業界に対してシットコムというコンテンツの供給の可能性を切り拓くという点で意義を見出せる。また、シットコムが日本では定着してこなかった理由を探索できるとともに、今後、日本のテレビ業界において、シットコムの制作が可能かどうかの検討材料になると考える。
- ・ 日本人である筆者が当研究を行うことは、米国（英語）、中国（中国語）の番組テキストを日本語という他の言語に置き換えることで客観的に比較しやすい状態を作り、中立な立場を維持できるといった利点が挙げられる。日本という第三者的な視座をもって分析できる点で、国際的に見ても独自性のある研究となりえる。

4. 方法と流れ

米中両国から代表的なシットコム 6 作品を取り上げ、定性分析と定量分析の手法を用いて、ラフ・トラックが挿入されたポイントについての分析、考察を行う。

分析の手順は図 1 のような流れとなる。

1. 分析対象として、米国と中国で、放送範囲（放送局）、持続性（エピソード数）、受賞歴から、視聴者に浸透しサンプルとしての代表性が高いと想定されるシットコムを選定する（選定したのは「*the Big Bang Theory*」「*Friends*」「*Full House*」「愛情公寓」「我爱我家」「家有儿女」の 6 作品）。
2. 「*the Big Bang Theory*」「*Friends*」「*Full House*」「愛情公寓」「我爱我家」「家有儿女」の第 1 話から 2 話分のテキストを書き起こす（「*the Big Bang Theory*」のみ 4 話分を書き起こした。当初は「*the Big Bang Theory*」と「愛情公寓」のみの比較をする予定で、その際、放送時間を揃えるため、「*the Big Bang Theory*」4 話と「愛情公寓」2 話としていたが、後に、作品数を増やしたため、「*the Big Bang Theory*」のみ 4 話とした）。

3. 米国の番組は英語のスク립トと必要に応じて日本語訳 (hulu) を付記し、中国の番組は、中国語スク립トと必要に応じて日本語訳 (筆者が作成) を付記する。
4. そのテキスト内に、挿入されたラフ・トラックの位置を抽出する。
5. ユーモアや笑いに関する先行研究、ユーモアを構築する理論を参照しながら大分類を定める。
6. テキスト分析を行うことで、各大分類に対し詳細な小分類を規定する。
7. ラフ・トラックが挿入されているそれぞれの箇所に対して、どういう理由でラフ・トラックが挿入されているのかを小分類に沿って判断し、振り分ける (一つの笑いに対し、複数の要因が重複していると考えられる場合は、関与が強いと考えられる要因に組み入れる)。
8. 発話部分のテキスト内から、ラフ・トラックの挿入がどういった部分で成されているかに着眼し、米中間での共通点や差異を分析し考察を行う (定性分析)。
9. 分類されたラフ・トラックの小分類を番組ごとにカウントする。大分類の比率、小分類の数値と比率を、番組ごと、国ごとの角度から見て、傾向について分析を試みる (定量分析)。

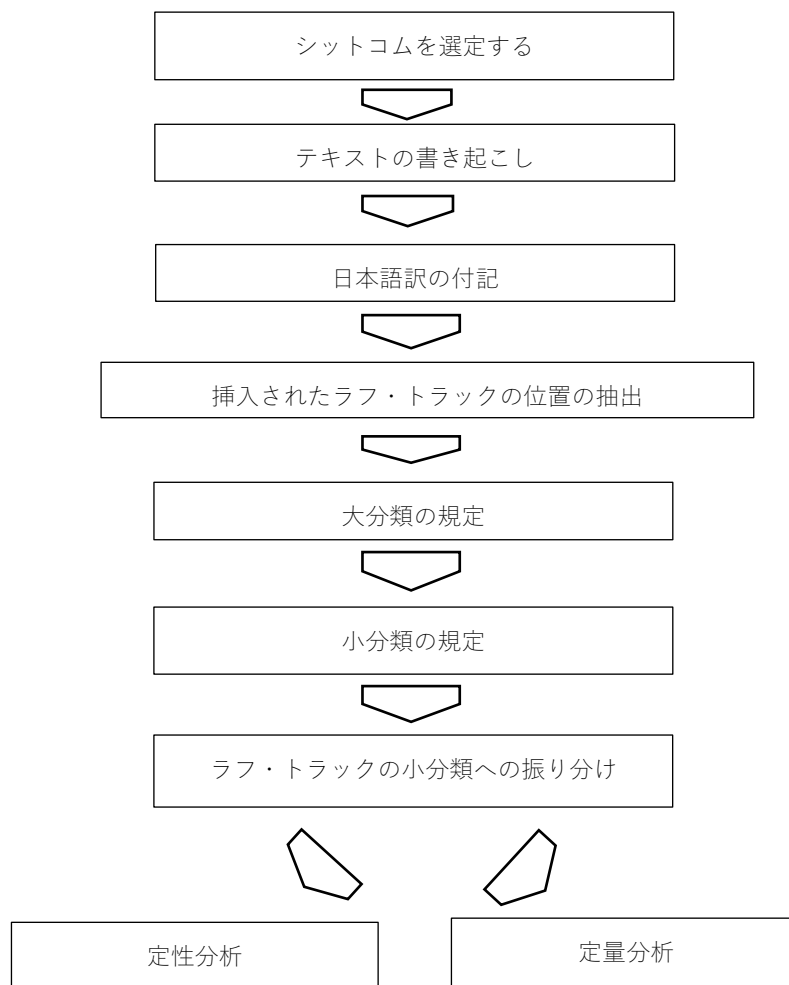


図1：テキスト分析の手順

5. 論文の構成

本論文は序章を含み、第1章から第11章と終章（第12章）で構成される。各章の概略は図2の通りである。

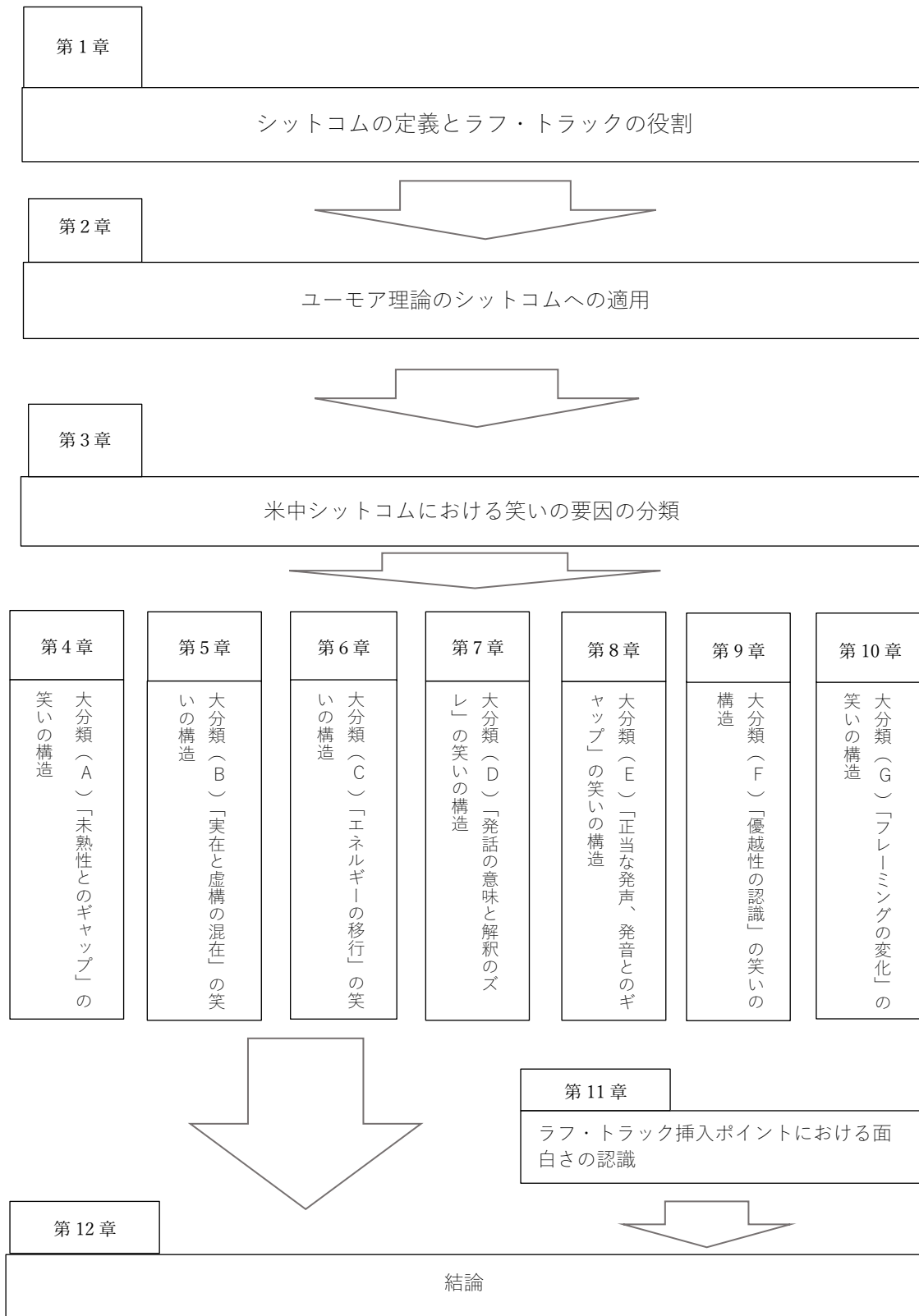


図2：本論文の構成

第1章、第2章で、米中シットコムの定義、歴史と、ユーモアに関する理論のシットコム分析への適用について述べる。第3章では、シットコムのラフ・トラック挿入ポイントの性質の分類項目を設定する。第4章から第10章では、大分類項目(A)から(G)までについての詳細を、定性分析、定量分析をもとに示す。第11章では、日本人被験者が米中シットコムの面白さをどのように認識するかについて実験の結果を述べ、第12章では、本研究の結論を述べる。

¹ 茄苑:中美情景喜剧的幽默性比较, 山西师范大学, pp.25-30, 2016.

² 茄苑:中美情景喜剧的幽默性比较, 山西师范大学, pp.25-30, 2016.

³ Searle, J.R.: A taxonomy of illocutionary acts. University of Minnesota Press. pp.344-350, 1975.

⁴ Fitriani et al.: Pragmatic Perspectives of verbal humor in an American sitcom: Humanities & Social Sciences Reviews, Vol 8, No 3, pp.49-55, 2020.

⁵ Searle, J.R.: A taxonomy of illocutionary acts. University of Minnesota Press. pp.344-350, 1975.

⁶ 苏陶然:中美情景喜剧的叙事策略比较—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》为例, 新闻研究导刊, 2019年第6期, pp.98-99, 2019.

⁷ 王凯琴:合作原则及关联理论下言语幽默分析—以电视剧《家有儿女》中人物对话为例, 青年文学家, 2020年第03期, p.142, 2020.

⁸ H.P. Grice.: Studies in the Way of Word, Harvard University Press, Cambridge, p.37, 1975. (清塚邦彦訳, 論理と会話, pp.53-54)

⁹ 高木ゆかり:シチュエーション・コメディにおけるギャグの生成と機能, 神戸大学大学院国際文化学研究科, 博士論文, pp.23-75, 2017.

¹⁰ 中村太戯留:ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.

¹¹ 茄苑:中美情景喜剧的幽默性比较, 山西师范大学, pp.25-30, 2016.

¹² Mar Grandio & Patricia Diego: The Influence of the American Sitcom on the Production of TV Comedy in Spain, Universidad Católica San Antonio de Murcia, Spain & University of Navarra, 2010.

¹³ 賀彩虹:笑的解码, 山東师范大学, pp.1-2, 2011

¹⁴ 张雨露:探寻中国情景喜剧的未来发展之道, 传媒论坛, 2019年24期, pp.165-166, 2019

¹⁵ 石玉莹:探析我国情景喜剧的“苦中作乐”叙事美学表达, 传媒论坛, 2020年第10期, pp.154, 2020

第1章 シットコムの定義とラフ・トラックの役割

シットコムは発話の掛け合わせを土台にしており、セリフ自体が、番組コンテンツ上の大きな意味を成している。米中シットコムは二大言語圏である米国（英語）、中国（中国語）を放送域としている。そこで、シットコムのセリフのテキストを比較分析することで両言語圏の言語的、社会的背景について浮き彫りにできると考えられる。

米国、中国では、依然として映像ビジネスの影響力、エンターテインメントが持つ力は強い。そのため、米国・中国という二大言語文化圏から代表的なシットコムを取り上げ分析することは、得られた知見をもとに日本のテレビ業界のプロット制作に活用できるようになることが期待できる。はじめに本章では、米国と中国のシットコムの歴史と定義について、本論文の分析の対象となる作品を中心に論じていく。そのうえで、シットコムの重要な要素であるラフ・トラックについての考察を加えていく。

1.1. シットコムの歴史

本論文における「シットコム」を改めて定義するため、シットコムの歴史および構造について示す。過去のシットコムに関する論文、インターネット主力ウェブサイト「wikipedia」¹、「百度百科」²、インターネット百科事典「ENCYCLOPÆDIA BRITANNICA」³を参照しながら、米国と中国のシットコム主要作品の歴史を図表化した。

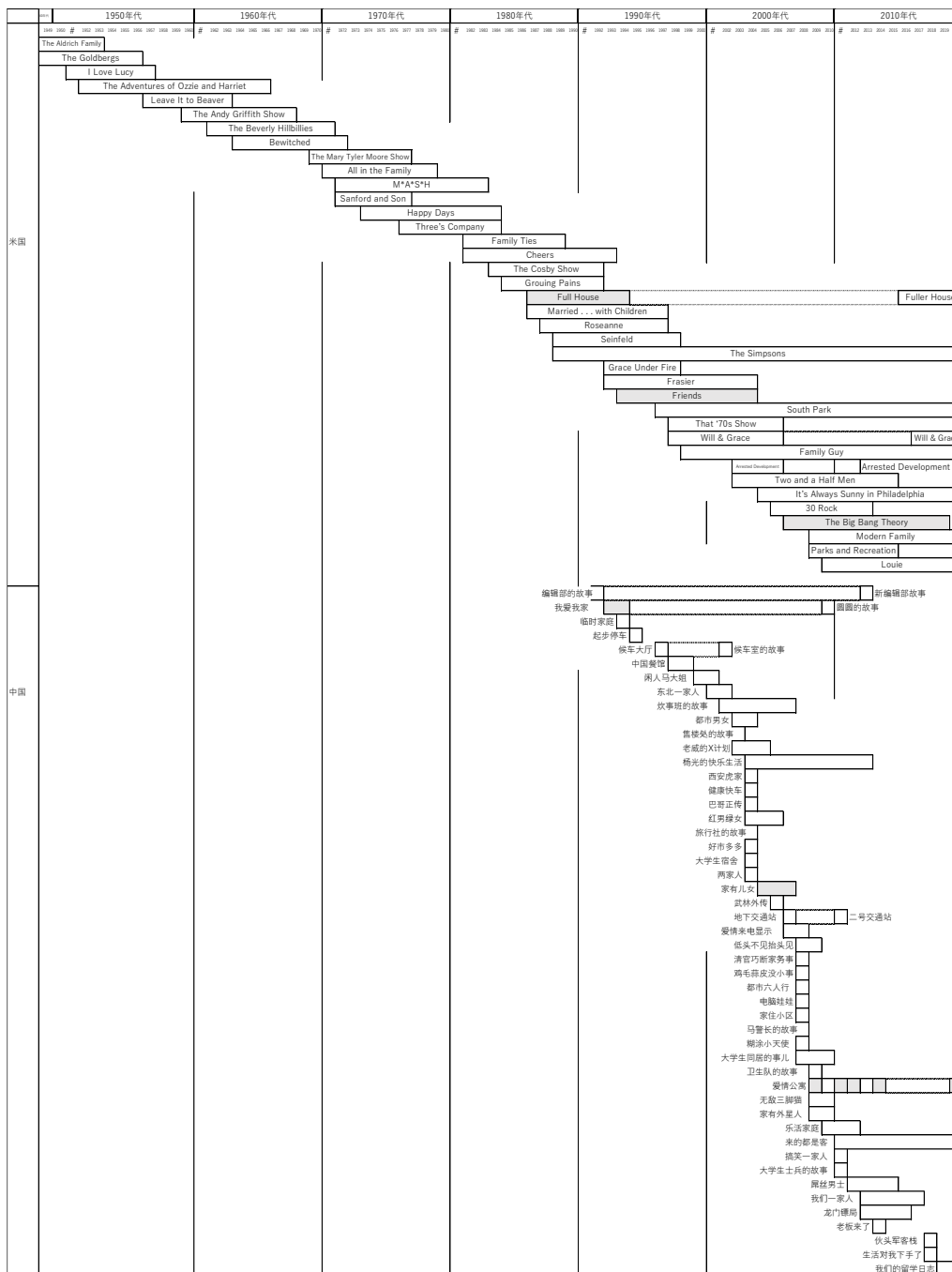


图 1.1 美国·中国的 sitcom 的历史 (wikipedia を参考に筆者作成)

1.1.1. 美国 sitcom 的历史

コメディの歴史を映像業界全体で捉えた場合、「Charlie Chaplin」⁴ (作品は 1914-1967) や、「Buster Keaton」⁵ (作品は 1917-1967) は欠かせない。これらは無声フィルムとして、動作の面白さを利用し、現場のセリフやラフ・トラックを加えず面白さを創出し

た。米国テレビ業界でシットコムの放送が始まったのは1940年代後半である。Hornby (2015)は、シットコムはラジオを介して放送され、1940年代後半にはテレビを通じて「*I Love Lucy*」で大きな変化が始まったとしている⁶。ラジオからテレビへの主要メディアの移行期に、ラジオで放送されていたシットコム形式の番組がテレビ版として制作された。1940年代後半に「*The Aldrich Family*」⁷ (1949–1953) や「*The Goldbergs*」⁸ (1949–1953) などラジオのシットコムが「テレビ版」として移行し、同様にラジオのシットコムから移行してきた「*I Love Lucy*」(1951-1957)が大ヒットを遂げた。シットコムは、1950年代のラジオからテレビへの全盛メディア移行期に、米国で多く制作された⁹。

1.1.2. 中国シットコムの歴史

中国でテレビ放送が開始されたのは1958年のことで、カラーテレビは1970年に登場した。国家経済の発展が進まなかったことから、テレビ受信機は一般家庭になかなか浸透しなかったが、改革開放政策が推進された1980年代に黄金期を迎えた¹⁰。

中国でシットコムが誕生したのは、1990年代初頭である。シットコムは、中国語では「情景喜劇」と訳されるが、米国作品をモデルにして、「編輯部的故事」(1992)、「我爱我家」(1994)などが先駆として制作された。中国最大手の検索サイト百度には、中国初のシットコムは「編輯部的故事」(1992)と記述されているが、この作品には、ラフ・トラックは付与されていない。ラフ・トラックが付与されている最も古い作品が、張(2019)¹¹はこの作品を中国最初のシットコムであると指摘しているが、「我爱我家」(1994)である。中国最初のシットコムを「編輯部的故事」(1992)とするか、「我爱我家」(1994)とするかは解釈が分かれる。

張(2019)¹²は、シットコムというジャンルが中国テレビ界では一定の地位を占めているとしている。蘇(2019)¹³は、「愛情公寓」の中には「*Friends*」や「*the Big Bang theory*」の中に出てきた設定が多数出てきているとし、石(2020)¹⁴は、「愛情公寓」は、米国の「*Friends*」のパターンと生活環境の設定を比較したうえで、中国側が笑いのパターンを模倣していると指摘した。この点からも中国シットコムが米国シットコムに強く影響を受けていたと解釈できる。

中国では、大家族や職場、農村の家庭が舞台になっていたのが、2000年代以降、若者の恋愛をテーマにした作品や歴史を背景にした作品が登場し、インターネット画面(パソコン、スマートフォン)がシットコム内のコミュニケーションツールとして使用されている。蘇(2019)は、「愛情公寓」では「我只是出来打酱油的」「神马都是浮云」「一口盐汽水喷死你」などのインターネットで流行した言葉がそのまま転用されているとした¹⁵。米国ではニュース性の高い話題がシナリオ内に用いられる傾向があるが、中国ではニュース性よりもインターネット内の文化が番組内に取り込まれる傾向にある。

図 1.1 に示したように、米国では一つの作品が、比較的、何シリーズも長続きする傾向にある。中国は米国よりもシリーズとして長続きしない。「愛情公寓」「来的都是客」「楊光的快樂生活」などは例外としても、1 シーズンで終わる作品が多いことが分かる。

米国ではエミー賞 (Emmy Awards) ¹⁶ という表彰システムがあり、シットコムは「Outstanding Comedy Series」部門で表彰され、シットコム制作者の社会的地位や面目が保証されている¹⁷。中国にも「国劇盛典」「电视剧飞天奖」「金鷹节」のような表彰システムがあるが、コメディ部門はほとんどノミネートされていない。これらは、コメディ制作者に対する業界内の地位の問題を相対的に示しているといえよう。

1.2. シットコムの構造

シットコムは、挿入された観客の笑い声や登場人物の会話の中から感じられる面白みが特徴として挙げられ、その特徴を形作る要素として容易に想起されるのは「ユーモア」であろう。ユーモアの性質について、Berger (1992)¹⁸ は種々のメディアにおけるユーモア技法を内容分析し¹⁹、技法を、行動 (Action: 身体的・非言語的ユーモア) 3 種類、性質

(Identity: 存在論的ユーモア) 14 種類、論理 (Logic: 頭を使って考えられる観念的ユーモア) 13 種類、言語 (language: 言葉のユーモア) 15 種類の計 45 種類に分類した。その分類は、シットコムを分析するにあたって非常に有用である。しかし、Berger の分類にシットコムを照らし合わせると、分類項目に当てはまらないケースが出てくる。

例として、「愛情公寓」3-8 から、ラフ・トラックが挿入されている部分のテキストを抽出する。新車 (シボレー) に乗っている美嘉と一菲が操作の仕方がよく分からず、車の説明書を見ながら話をしている²⁰。

[1.1] 美嘉: 说明书上说, 这车有 on star。(説明書には、この車にはオンスターが搭載されてると書いてあるわ)

一菲: 什么 star? (L₁) (なにスター?)

美嘉: on star 是无线技术和全球定位系统卫星向汽车提供的完善无线服务。

只要一个键就能连上客服中心。全程语言帮助解决问题。(オンスターは、ワイヤレス技術と全地球測位システムの衛星を使って、自動車に完全なワイヤレスサービスを提供するものです。キーさえあれば、カスタマーサービスセンターに接続できます。完全な言語対応で問題を解決します)

一菲: 行行行, 行了。别念广告词了。(L₂) (わかった、わかった。宣伝の文章を読まなくていいわ)

(L₁) (L₂) はラフ・トラックが挿入されているポイントであるが、いずれの笑いも Berger のユーモア技法の提言では説明がつかない。(L₁) は「なにスター?」と、よく分からない

ものに対して聞き直しているだけであるし、(L₂)は「広告の文章を読まなくて良い」と相手を制しているだけである。この2箇所、なぜ面白さを見出せるのか。

シットコム内では (L₁)のように聞き返すという行為でも面白みを感じさせるポイントとしてラフ・トラックが付与される。それはシットコム特有の構造にあるといえる。また、(L₂)のように番組スポンサーになっている自動車会社の車（シボレー）の宣伝文句をキャラクターに読ませ、それを読まなくてよいとするようなメタ構造についても、ラフ・トラックが挿入されているケースがある。

シットコムにおける面白さは、ユーモア分析の中に分類されるものがあるが、一方で、シットコム独自の構造により作られているものがある。従来のユーモア分析では、二人の間（AとBの二人を想定）の会話分析では、AがBを笑わせたり、BがAを笑わせたりするといった二人の間に起こる面白みを想定する。しかし、シットコムでは、第三者（視聴者）によるA・B間の会話の客観視における面白みが想定される。制作側は、AとBとの会話を視聴者に見せることを想定する。ジョーク分析やユーモア分析では、AがBを笑わせることが想定されるが、シットコムでは必ずしもAとBとの間に面白みが想起するのではなく、その様子を第三者（視聴者）が見ることにより、第三者が面白みを感じる仕組みなのである。「傍目八目」という言葉がある。大辞泉によると、「他人の囲碁をそばで見ていると、対局者より冷静で、八目先まで手が読める意から、第三者のほうが、物事の是非得失を当事者以上に判断できるということ²¹」である。登場人物（当事者）よりも画面を通じている視聴者の方が状況を冷静に判断しながら、面白みを感じることができる。実際、番組内では、AがBを笑わせたり、BがAを笑わせたりしているシーン（登場人物同士で笑わせようとするような試み）は少なく、AとBの会話を視聴者が客観的に見ることが前提として、ラフ・トラックが挿入されている。

シットコムを分析するにあたり、筆者は、Bergerのユーモア分析を参照し、シットコムの面白みの技法は、大きな枠組みとして、設定、動作、言語の3つに組みなおせると考えた。設定とは、キャラクターやシナリオの設定として面白みを発生させる技法である。シチュエーションに依拠するレベルで、作品の世界観や構成の組み立てによる。[1.1]の2箇所の笑いは、突然「番組に対する宣伝文句を言うことを制止させる」という虚構作品として変則的な形を取っており、シットコムそのものの設定に依拠しているという点から設定に分類されよう。動作は、登場人物の動きの滑稽さによって生まれる面白みを指す。無声映画時代の「*Charlie Chaplin*」（作品は1914-1967）や、「*Buster Keaton*」（作品は1917-1967）なども顕著な例である。英国のコメディ「*Mr.Bean*」（テレビシリーズは1990-1995）も、主人公のBeanの動作そのものが作品の面白みに繋がっている点が少なくない。言語とは、登場人物同士の会話によって生まれる面白みである。言葉の組み合わせによって成立し、シチュエーション設定やキャラクターに影響を受けにくい。言語は番組内のセリフをテキスト分析することによって明らかにできる部分である。むしろ、それぞれのレベルは完全に切り離しにくい点もあり、一箇所の面白みを感じる場所に複数の要因

が混在するシーンもある。いずれにしても、言語の組み合わせを使って面白みを生み出す技法は、シットコムの面白みを構成する最も重要な部分であると考えられる。

シットコムでは、1.1 節でも述べたように「なぜ、ここが面白いのか？」という風に、ユーモアとは認識されない行為や発話でも、ラフ・トラックの挿入のポイントになり得る。シットコムの面白みは、ユーモアとしてのものだけではなく、それ以外の要因や要素も含まれると想定される。それらを踏まえ、本研究では、実際のシットコムで起こり得るラフ・トラックの挿入ポイントを、従来のコメディの設定、動作、言語という枠組みではなく、シットコムならではの分類項目に再構成する必要があると考えた（第3章に再構成した分類を示す）。

1.3. シットコムの定義

シットコムは、wikipedia によると毎回同じ登場人物で物語が展開していくことや、夫婦、家族、職場などの人々の生活を面白おかしく描くことを特徴としている²²。技術的には、複数のカメラで同時に撮影した映像を繋ぎ合わせることや、編集時に観客の笑い声を入れるラフ・トラックも特徴となる。Hornby (2015)²³は、シットコムについて、現代的なキャラクターとストーリーラインをコメディに含めるという、単なるテレビパフォーマンスのジャンル以上のものとして定義できるとしている。しかし、これらはシットコムの特徴を述べているのみで、シットコムについて定義しているわけではない。そこで、本研究でのシットコムを定義するために、シットコムに関する先行研究に加え、世界的にも最大手の百科事典サイトである「wikipedia」²⁴、「百度百科」²⁵、「ENCYCLOPÆDIA BRITANNICA」²⁶を参照する。

筆者は、序章の1で示したシットコムの番組形態の特徴に加え、各サイトや事典での記載をまとめたうえで、シットコムを「固定された空間の中の動きで物語が展開する放送用コンテンツで、ストーリーに連続性があり、視聴者に面白みを感じさせながら進行する」と定義した。なお、筆者は、定義として、多くのシットコムに見られる「笑い声（ラフ・トラック）の挿入」という要素を採用していない。ラフ・トラックの付与に関しては、あくまで、シットコムの番組として効果を高めるためとされ、必要条件とはなっておらず、実際に、シットコムに分類される番組一覧の中には、ラフ・トラックが付与されていない番組も見られる。したがって、本研究でも、ラフ・トラックはシットコムにとっての必要条件ではないと位置付ける。

しかし、ラフ・トラックは、シットコムの面白み（コメディ性）をもっとも明確に表し、視聴者に対し「それが面白いコメディ作品である」ことをはっきり示すため、シットコムにおいては重要な特徴の一つと位置付けられる。したがって、本研究では、シットコムの特徴として、「ラフ・トラックが効果として挿入される」という点に焦点を当て、分析を行う。

日本のテレビ番組ではこの定義に当てはまるようなシットコムを、少なくとも全国ネットの番組からは発見できなかった。この定義に近い人気作品としてホームドラマ「渡る世間は鬼ばかり」²⁷（TBS、シリーズは1990-2011）が挙げられるが、視聴者に面白みを感じさせながら進行するという点を満たしているとは言えず、シットコムの領域から除外する。日本では、視聴者に面白みを感じさせるような番組として、コントやお笑いというジャンルが多勢を占めている。

1.4. シットコムの特徴

1.4.1. 米国シットコムの特徴

米国でシットコム形式が導入された初期段階（米国を1950年代、中国を1980年代とする）は、家庭や職場を舞台とした作品が多かったが、米国ではその後、戦地を舞台にしたシットコムやアニメのシットコムが登場した。「*I Love Lucy*」は女性の社会進出が背景に描かれた作品であるが、それ以降も、シットコムは、社会や世相を背景にしながら、現在まで続いている。ラジオ版からの移行から始まっており、セリフの応酬を基本としながらストーリーが進む。

ここ10年前後では、米国の「*Modern Family*」²⁸（2009-2020）のように、ラフ・トラックを付与せずに、ストーリー展開の中で風刺などの面白みを感じさせる作風がある。また、政治を舞台に風刺を加える「*VEEP*」²⁹（2012-2019）のようにシットコムの枠組みを超えたコメディ番組も生まれている。

1.4.2. 中国シットコムの特徴

中国テレビ番組の大きな特徴として、ドラマやドキュメンタリー作品など事前に収録され編集する余地のある作品には、画面下部に、出演者のセリフ全てに中国語（マンダリン・チャイニーズ）の字幕が付与されている点が挙げられる。米国の番組はそういった画面下部にセリフの字幕を出すことはなく、日本の番組では、字幕は出演者が発した言葉を強調したい場面でしか使用しない。

中国テレビ業界では、1990年以降、番組への中国語字幕の付与を始めた。背景には、香港映画と台湾テレビドラマの影響がある³⁰。香港映画の国際市場開拓に伴い、流通を促進させるため、中国語と英語を2層にしたバイリンガルの字幕が付与されることになった。1980年代から1990年代にかけては、台湾テレビドラマが中国大陸で人気を博したが、音声は撮影と同時に録音しており、無線マイクが発達していなかった。当時は、周囲の音声ノイズが混入した。また、台湾人の発音は中国大陸に比べ音声上の高低が少なく、中国の視聴者にとっては聞き取りが難しかったため、字幕付与で補われていた。中国では方言も多数あり、字幕が補助の役目を果たした。

マンダリンチャイニーズ（Mandarin Chinese）そのものが中国全土に浸透し、無線機器の質の向上で音声ノイズの問題も解決した現在でも、字幕を付記する習慣は消えることな

く中国テレビ業界全体で残っている。それは、視聴者に、同音異義語や似た音による聞き違いを避けさせるための方策ということも考えられる（第9章で詳述する）。シットコムのジャンルでは「編輯部的故事」³¹（1992）や「我爱我家」（1994）では字幕が用いられていないが、「快乐编剧班」（2000）で付与されるようになり、それ以降も、殆どのシットコムに字幕が付けられている。

字幕付記の習慣は、中国シットコムの作風に、同音異義語や似た音の聞き違いによって面白みを作ることができるという影響を与えた。同音異義語や似た音は放置すれば、視聴者にも伝わりにくく、どこが面白いのか認識されにくい。字幕付記によって、登場人物の発した単語と、文脈上本来発すべき単語の違いを視聴者に即座に気づかせることができる。中国のシットコムでは、習慣化された全てのセリフに中国語字幕を下部に付記することのみならず、強調的な効果として用いられるケースも出てきた。テキストで同音異義語や似た音による聞き間違いを発生させ、その間違いを強調するような字幕で指摘し、ラフ・トラックを挿入するポイントを作ることが可能になった。

米中間の作風の違いについて、張（2019）³²は、中国シットコムと西洋のシットコムとの傾向を比較し、中国では悲劇を支持することを美学としており、西洋が喜劇に美的価値を置く相違があるとしている。石（2020）³³は、初期の中国シットコムは、主に主人公の家族環境を中心に展開し、大衆文化を中心に密接に発展したとした。そして、イデオロギーの発達と社会の変化を明らかにし、その中に「苦しみを喜びにする」という人生観が描かれているとした。さらに、「武林外传」³⁴（2006）、「爱情公寓」以降、中国シットコムは、複数の主人公を作り上げるような設定に変わっていったとしている。蘇（2019）は、中国のテレビ脚本は、物を欲しがることや、物を豊かにしたいといった物質的な欲求や本能的な欲求を表現することができない環境にあると述べた³⁵。また、張（2019）³⁶は、「生活对我下手了」³⁷（2018-）のような新しい種類のシットコムもあり、質を問題視する一方、今後の作風の変化を与える糸口になる作品としている。

1.4.3. シットコムのニュース性と時流

中国テレビ番組は、政府のラジオ・テレビ総局（国家广播电视总局）³⁸の審査により、放送されるかどうか事前に判断される。審査の結果、放送を認められないことや長期間許可がおりず却下といった判断が下される場合もある。判断基準は明確に示されておらず、制作者は不透明な中で、審査を通過するような内容であることを最低条件として番組を制作することになる。政府に許可されるような表現の枠組みを設定し、その領域内だと判断される話題を用いてシットコムを制作する。米国シットコムが社会に対する皮肉を用いて笑いのポイントを作っているにもかかわらず、中国では、特に政府批判と取れる可能性のある話題は持ち込まれない。面白みは、時に批判精神と表裏一体でもあるが、中国の場合、批判精神の矛先は政府や政策に向けられることはない。政府が許容する範囲内で笑いのポイントを作っていくことが、中国シットコム制作者に求められる条件となる。

日常生活を描くシットコムでは、登場人物に生活感のある会話をさせるプロットが中心となる。たとえニュース性のある話題や政府への批判などの話題は用いられなくとも、時流に沿った話題を中心とした展開が欠かせない。「家有儿女」の離婚経験者同士が再婚した家庭であるという設定や、「愛情公寓」内で挿入される「日本人役を登場させる」「台北に仕事に行く」という話題も、「ラジオ・テレビ総局の許可が下りる」という想定のもとに設定され、実際に政府によって認められた（却下されなかった）。シットコムは社会の世相も反映しており、米国でも「*I Love Lucy*」は1950年代の女性の社会進出を背景に描かれた作品とされ、世相を反映している。中国シットコムのテーマが、徐々に開放的になってきたというのは、社会が開放に向かっていく道筋と無関係とはいえない。

中国シットコム「我们的留学日志」³⁹（2019-）は、シドニーでの中国人留学生の生活を描いた作品である。冒頭の数秒だけ海外の建物のシーン（外観など）を放送し、他の部分を、中国国内で撮影した室内の会話の映像であると考えられる。国外で撮影を行わなくても、国外が舞台であるかのように見せられるというのも会話中心で構成するシットコムの強みであり、中国国外を舞台にする作品が誕生しているのも中国シットコムの変容ともいえるだろう。

1.5. ラフ・トラックの役割

1.5.1. ラフ・トラックの定義

シットコムの要件や特徴は必要性の中から生まれ、歴史的に醸成されていった。必要性とはラジオからテレビに移行した時代のコンテンツ不足で番組を手取り早く生み出していくことであり、現在に至っても、高額の予算を必要としがちな屋外でのロケや大掛かりなセット組みを回避するため少ないカメラで登場人物の動きをあまり伴わない形でセリフを中心に撮影を行うことを指す。

固定された少ないカメラによるスタジオ内での撮影や、会話を中心にプロットを作成する、時事性を取り込んで新鮮さを出すという必要性の中で、シットコムは、高い頻度でラフ・トラックを挿入し、視聴者に面白さを提供する番組を制作するという目的を達成しようとする。ラフ・トラックとは、テレビ番組の編集済みの映像素材に、笑い声のサウンドトラックを追加し、視聴者の反応を強化する手法で、制作者が視聴者に反応を促すために使用するもので、視聴者の本物の笑いではなく、いわば、客席の笑いを偽装したものである⁴⁰。北折（2011）は、録音笑いについて「出演者以外の笑い声がどこからともなく流れてくるこの手法は、実は古典的な“笑い”を誘発するテクニックである。（中略）録音笑いが効果をもたらすメカニズムが体系的に整理されているわけではない」⁴¹としている。

ラフ・トラックには、①番組制作者が視聴者に対し、シーンの面白い箇所を提示する機能（ポイント機能⁴²）、②他人の笑い声が聞こえることで、視聴者が釣られて面白いと感じる機能（1.5.3.2で示す「社会的証明」としての機能）、③ラフ・トラックそのものが、発話に対するツッコミの機能（ツッコミ機能⁴³）を果たし、「ラフ・トラックがあるおかげ

で」面白みに変わる場合だろう（本稿では、基本的に①のポイント機能の位置づけでラフ・トラックを論じる）。制作者が、プロットの中に、ラフ・トラックを、どういう意図でどのポイントに挿入していくかは、シットコムにおけるデザインの領域といえる。

ラフ・トラックが有効か否かに関しては、特に脳科学の分野でも論じられている（1.5.3で詳述する）が、依然として、ラフ・トラックが付与されたシットコムは存在し続けている。

1.5.2. 「面白み」についての定義

本研究は、「笑い声（ラフ・トラック）の挿入」という番組制作者の行為から、コメディ番組の一ジャンルであるシットコムの面白さの性質について分析しようとする。したがって、本稿には、面白さについて示す「面白み」「笑える」「笑い」「楽しさ」「ユーモラス」といった類似の概念を持つ単語が頻出する。そこで、本項では、本稿における「面白み」や、それに関連した単語について定義する。

「面白み」は、「面白い」の名詞形と捉えられるが、この「面白い」は、様々な局面で使用される汎用性が高い単語である。interesting や humorous など様々な意を含む。「面白い書籍」といえば「興味深い」という意味を表し、「面白い選手」といえば、「今はまだ活躍していないが、今後、一気に開花する可能性がある」といった意味になるなど、用いられ方は多岐に亘る。Hurley（2020、片岡訳）⁴⁴では、「物事がおかしい」ことについて「情報が特定の人たちにユーモアの反応を呼び起こすと安定して予測できる」と定義している。また、同著では「おかしみ」や「情動⁴⁵」という表現を用いて説明されている。

テレビ番組で「面白い番組」や「面白みのある番組」（この2つは同義と捉える）といった表現をすれば、「面白いドキュメンタリーがある」という形で「興味深い」といった意味合いに近い。それらの単語には、コメディ番組にあるような「受け手が笑うという行為をしてしまうこと誘うような」といった限定的な意味合いはない。

ただし、シットコムでの「面白み」は、視聴者が絶対に笑うという行為をするまでは示し得ない。笑うという表出的な現象がなくても、心の中で内面的に感じる愉快さも存在する。「笑う」とは、「おかしさから口角が横に動く」という現象を指すが、本稿のシットコム分析での「笑える」は「受け手が出演者の言動を理解することによって、愉快さから口角を横に動かし得る程度のおかしさ」とし、その中で「面白み」とは「視聴者が考えたり、出演者の言動を理解することによって、笑う行為を誘う性質」と定義する。面白みを誘発する要因としては、滑稽さや愉快さが挙げられよう。「笑い」という単語も本来は広義であるが、本稿では、先行研究の記述に関しては「笑うという行為」、筆者による分析では「ラフ・トラック」と同義とする。なお、本稿の以下の部分も、この定義に基づいて進める。

1.5.3. ラフ・トラックの有効性についての議論

本項では、1.5.1 で示したシットコムに挿入されている笑い声であるラフ・トラックについて、脳科学分野と、社会的証明という2つの視点から考察する。

1.5.3.1. ラフ・トラックと脳科学分野の研究

ラフ・トラックに関する研究は、脳科学の分野でも行われてきた。Moran et al. (2004)⁴⁶が、ラフ・トラックが与える影響に関して、ユーモアの検出 (humor detection) とユーモアの鑑賞 (humor appreciation) は別の機能かどうかという実験を行っている。実験で使われた映像素材は、米国を代表するコメディ番組「*Seinfeld*」⁴⁷と「*The Simpsons*」⁴⁸である。「*Seinfeld*」はラフ・トラックが入っており、「*The Simpsons*」はラフ・トラックが入っていない。Moran et al.は実験を通じて、ユーモア検出の脳活動は、左下前頭皮質と後側頭皮質が増加し、ユーモアの鑑賞の脳活動は、頭皮質と扁桃体の両側領域が増加することを明らかにし、ラフ・トラックによるバイアスは受けていないことを示した。

ラフ・トラックが視聴者の笑いをそのまま反映したものかについては解釈が分かれる(ラフ・トラックの位置は、脚本制作の段階で指定されるのか、あるいは、撮影が終わった後、編集の段階で、編集の段階で編集担当者が考えるのかという疑念がある。筆者は前者であると推測はするが、制作プロセスの詳細については公開されておらず知り得ないため、確定できない。本稿では「制作者」と括弧に留める)が視聴者に対し、「ここが面白いポイントである」と示唆しているとは言える。Moran et al.⁴⁹は、実験結果からラフ・トラックによるバイアスはないとしている。ただ、例えば、日本のお笑いコント番組で、「どう考えても面白いとは思えない場面」にラフ・トラックをつけ、視聴者の笑いを誘発しようというシーンが少なからず見られる。一発ギャグのジャンルなどがその例で、一発ギャグの瞬間、なぜか関係者やテレビ画面の向こうにいる人の笑い声が聞こえ、なぜ笑っているのだろうかと感じられるシーンもある。その点では、特に面白みが想定されない映像にラフ・トラックを付与した場合、人は面白みをそれなりに感じる可能性があるといえる。

また、Gillespie et al. (2016)⁵⁰は、fMRI⁵¹を用いて、ラフ・トラックが与えるネガティブな影響について調査した。この調査は、コメディ番組にラフ・トラックを追加するという一般的に受け入れられている慣習とその影響について調べ、マイナスの影響を与えているという、それまでにはなかった前提に踏み込んだ。それまでラフ・トラックが視聴者に対し、ポジティブな影響を与える、或いは、無関係であるという論調があった中で、当論文は「laugh-track paradox」というフレーズを用い、ラフ・トラックが、むしろ逆効果を与えるのではないかという仮説を立てた。

実験では、ランダムに分けられたグループが米国シットコム「*the Big Bang Theory*」を視聴し、笑い声が付いていないパターンを見た視聴者は、スタジオのライブ視聴者の笑い声が付いて作品を見た視聴者よりもユーモラスではないと認識し(つまり、笑い声が付いていなければ、面白い雰囲気のあるシーンである認識しにくい)、ライブスタジオの笑い声が

付いた作品を見た視聴者とラフ・トラックがない作品を見た視聴者との間では、楽しいと感じたレベルに差がなかったということが示された（ラフ・トラックがあってもなくても、楽しいと感じたレベルはあまり変わらない）。つまり、笑い声がついていることで、「面白い雰囲気のあるシーンである」という認識できたものの、「実際に面白いと思ったか」は別物であるということである。

結果として、ラフ・トラックのある作品を見た視聴者は、付与されていない作品を視聴した視聴者よりも面白い雰囲気を持つエピソードとして認識したことが示された（つまり、面白いシーンであることは認識できる）。ラフ・トラックは滑稽さの認識の手がかりとはなったが、視聴者が物語に意識を移動(narrative transportation)させていく能力を低下させたということも示されている。この分析から、視聴者は、ラフ・トラックがあることで、面白い部分であるという認識は持てるものの、実際に面白みを感じたとは言えないことが示された。

1.5.3.2. ラフ・トラックの社会的証明としての効果

Cialdini (1984)⁵²はラフ・トラックを「社会的証明の原理」の一部であると提唱している。社会的証明とは、人間は自分と類似している他者の態度や行動を基準にして自らの態度や行動の正しさを評価し、特定の状況である行動を遂行する人が多いほど、それが正しい行動だと判断するという理論である。Cialdiniは、Provine (2000)⁵³や Nosanchuk et al (1974)⁵⁴の言説を参照した。Provine⁵⁵は、数々の実験結果から、笑い所である笑い声を使うと、観客の笑う回数が増え、笑っている時間も長くなること、観客はそのネタをより面白く感じるということが分かっていると示した。また、Provine (2000)は、テストに参加した学生の半数近くが、滑稽な内容もないのに、笑い声の録音を最初に聞かされたときに笑い出したことを示した⁵⁶。

Nosanchuk et al⁵⁷は、ジョークがつまらないときにこそ、「あの」笑い声が効果的であることを示す証拠もあるとしている。Provine⁵⁸は、ラフ・トラックを laugh epidemics（伝染性の笑い）と捉え、1950年代に米国で起きたラフ・トラックを用いて視聴者に影響を与えることの実践性について、「have unlimited possibilities（無限の可能性を秘めていた）」としているが、一方で、1950年以降、ラフ・トラックはいたる所で物議をかもし、そして、近年はラフ・トラックについての論争は収まり、避けられないものとして受け入れられているとも述べている。また、テレビの視聴者数をコントロールするための不適切な取り組みとみなされていたとしている。

お笑い番組で笑い声が付与されているのも、「他人が笑うということは、面白いことが起こっているに違いない」と視聴者が刷り込まれているだろうと制作者が風習的に判断しているためと考えられる。ラフ・トラックが入ることで、面白さを喚起する効果もある。Cialdiniの観点からは、ラフ・トラックは、面白くないものですら面白いと感じさせ得るほどに効果的なものであるとすることができる。一方、その効果のみに依存し、「効果音

的に」面白みが認識できない箇所に挿入している可能性があり、ラフ・トラック挿入についての妥当性が低いということも想定される。

このように、ラフ・トラックが有効かどうかに関しては意見が分かれる。しかし、制作者は、ラフ・トラックを用いることにより、面白みのあるところを視聴者に示そうとする意図を持っている。その点で、ラフ・トラックは、視聴者が感じる面白みというよりは、制作者の意図として面白みのあるシーンであるということを示していると解釈できる。本研究では、ラフ・トラックを「視聴者の直接的な面白さの反応」というより、「制作者が視聴者に『笑うべきポイントである』と示しているポイント」であると位置付ける。

1.6. 本論文の分析に使用する選定番組に関する概観

中国最古のシットコムともされている「編輯部的故事」(1992)は、ストーリーの内容として面白みを持たせて展開している部分もあり、日本人の筆者もコメディであるということは認識しやすいが、ラフ・トラックが付与されていない点から、どの点が具体的に面白みのポイントを作っているかについては把握しにくい。このように、ラフ・トラックが付与されていない作品については、面白みのポイントが具体的に把握できないため、「編輯部的故事」を含め、ラフ・トラックが付与されていない作品は、本研究の分析対象からは除外した。

本研究では、米国と中国から、受賞歴や話数、放送エリアの広さに加え、ラフ・トラックが付与されたシットコムの入手を試みた。米国・中国の作品とも、日本からは入手ができない、或いは、インターネット配信サイトなどでの視聴も不可能な作品が多数ある。その中で、現在の日本で入手できる作品は極めて限定的で、入手や視聴可能な計6作品（「*the Big Bang Theory*」「*Friends*」「*Full House*」「愛情公寓」「我爱我家」「家有儿女」）を選んだ。

表 1.1 本研究で使用するシットコムと対象とするエピソード

番組名	制作国	主な放送局	放送時期	総エピソード数	主な受賞歴	番組内容	分析対象エピソード
the Big Bang Theory	米国	CBS	2007-2019	279	2010、Jim Parsons won a Primetime Emmy Award for Outstanding Lead Actor in a Comedy Series. 2013、People's Choice Award for Favorite Comedy.etc	カリフォルニア工科大学に所属する頭脳明晰な大学院生グループの日常を描いた作品。	1-1. 1-2. 1-3. 1-4
Friends	米国	NBC	1994-2004	236	Primetime Emmy Award for Outstanding Comedy Series in 2002、receiving nominations in 1995、1996、1999、2000、and 2003. etc	ニューヨークに暮らす仲良い男女の日常生活を軽やかに描いた作品。	1-1. 1-2.
Full House	米国	ABC	1987-1995	192	1990、Young Artist Awards Best Family Television Series Nominated、1991 Best Young Actress Starring in a Television Series. etc)	妻を事故で亡くした男が、愉快的な男友達に助けられながら子育てをしていく物語。	1-1. 1-2.
爱情公寓	中国	江西卫视、东方卫视	2009-2020	124	2012、国剧盛典网络最受欢迎电视剧(爱情公寓 3) 2014、国剧盛典十佳电视剧第七名(爱情公寓 4)2015、爱奇艺尖叫之夜互联网最具人气电视剧	北京のマンションをシェアして暮らすことになった男女の物語を描いた作品。	1-1. 1-2.
我爱我家	中国	深圳电视台、江西电视台、北京电视台	1994、2010	206	2019、新时代国际电视节全国十佳电视剧	北京の大家族の日常をコミカルに描いた作品。	第1集(上). 第1集(下)
家有儿女	中国	北京电视台	2005-2007	367	2007、中国电视剧飞天奖少儿电视剧一等奖. 2008、金鹰节最佳少儿电视剧奖	連れ子を持つ親同士が再婚して共に暮らすことになった家族のドタバタを描いた作品。	1-1. 1-2.

1.6.1. 研究対象作品の歴史とストーリー

研究対象の米国 3 作品を放送開始年順に並べると、「*Full House*」「*Friends*」「*the Big Bang Theory*」となり、中国 3 作品は「*我爱我家*」「*家有儿女*」「*爱情公寓*」となる。本研究は、放送開始が直近の作品である「*the Big Bang Theory*」「*我爱我家*」から開始し、その後、代表性の高い他作品を追加する形で行ってきた。したがって、本論文は、放送開始年順ではなく、研究への着手順で並べる。

この節では、本論文で取り上げる各作品の内容について概観する。

(a) 「*Full House*」

妻を事故で亡くした男が、愉快的な男友達に助けられながら、残された子供達を育てていく物語である。好評を受け、放送終了後から約 20 年後に「*Fuller House*」(2016-) というタイトルでスピンオフ版の放送が開始された。

(b) 「*Friends*」

ニューヨークに暮らす仲よし男女の日常生活を軽快に描いた作品である。「Central Perk」というカフェでの登場人物の会話を中心に物語が展開する。若者の恋愛の話題が中心のテーマとなっている。

(c) 「*the Big Bang Theory*」

カリフォルニア工科大学に所属する頭脳明晰な大学院生グループで、ルームメイトの Sheldon と Leonard、友人の Raj (インド人という設定)、Howard (ユダヤ人という設定)、Sheldon と Leonard の住む部屋の隣に引っ越してきた Penny の 5 人が中心となる。Sheldon と Leonard が住むリビングルームを中心に登場人物間の会話が繰り広げられる。男性 4 人はオタク (番組内では nerd と表現されている) としての性格を持っていることが初期的な設定である。「*Friends*」の放送が 2004 年に終了して以降、一斉を風靡したシットコムが「*the Big Bang Theory*」と言える。

(d) 「我爱我家」

中国でのシットコム創始期の作品で、北京の大家族の日常をコミカルに描いている。舞台となる家には老人から子供までの三世代の大家族が住んでおり、世代間での考え方の相違などが浮き彫りになる。また、長老の傅老の几帳面で頑固で閉鎖的な性格が、家族を振り回したり、息子夫婦や孫たちと考えが対立したりといった点からも面白みを生みだしている。

(e) 「家有儿女」

連れ子を持つ親同士が再婚して共に暮らすことになった家族のドタバタを描いている。同居する年齢の幅がある家族を土台とした構成になっている。離婚や再婚を現代劇ではあまり描いてこなかった中国で、それらのテーマがドラマの背景として取り上げられたことも、この時代の中国の社会の開放を示していると言える。

(f) 「爱情公寓」

第 1 シーズンが 2009 年に江西卫视から全国放送されヒット作となった。第 2 シーズン (2011) から第 4 シーズン (2014) は「爱情公寓番外編」と題し、インターネットメディア (爱奇艺、2015-2016) に放送基盤を移しながら、スピンオフシリーズを含め放送を持続してきた⁵⁹。「爱情公寓」は、北京のあるマンション内で 20 代を中心とした若者が繰り広げる群像劇で、マンションが恋人、夫婦で住めば家賃や電気水道代が大幅に割引になるため、恋人のフリをした男女ら 6 人が、マンション内の複数の部屋で共同生活を始めると

いうところからスタートする。男女3人ずつが固定の登場人物となるスタイルは、米国の「*Friends*」や「*the Big Bang Theory*」の影響を受けていると見られる。

米中で登場人物の設定が共通して採用されているのは、恋愛や人生設計、悩みなどが、視聴者層として想定される世代に共有されやすいためだと考えられる。若者の恋愛も、年長者には通ってきた道として未知の世界ではない。物語内で登場キャラクター同士が交際に発展したり口ゲンカをするのも、米中に共通した構成といえる。

1.6.2. 選定作品の配役と主人公像について

シットコムでは、主人公が1人に絞られるのではなく、5-6人がイメージされていることが多い。その中で、特に存在が際立つキャラクターが1人か2人に絞られてくる。「*the Big Bang Theory*」の成功の要因の一つとして、Sheldon というキャラクターの設定が挙げられよう。空気を読めない振る舞いを米国一般で Sheldon と造語として用いるようになる⁶⁰など、社会現象になった。他の登場人物として、Raj はインド人、Howard はユダヤ人、Penny は骨太、Leonard は背が低いといった身体的特徴も番組内で登場人物のセリフでも表現され、その特徴をもとにした笑いも生成されている。それらは他者への優越性から作り出されたものである。構成上、視聴者は Sheldon を、その存在感から主人公とみなすだろう。

主人公のキャラクター設定について、Mckee (2018)⁶¹は、「主人公は共感できる人物でなくてはならない。好感が持てるかどうかは問題ではない。(中略)主人公の心の奥底に観客は共通の人間性を見いだす。もちろん、登場人物と観客はあらゆる点で似ても似つかないので、共通するのはただひとつの特徴かもしれない。だが、登場人物の何かが心の琴線に触れる」と述べる⁶²。複数の博士号を持つ Sheldon は、頭脳的明晰で、時折、複雑な定理を持ち出し、世の中のどんな理論でも説明するという設定だが、異常に神経質で潔癖症であり、生活を規則通りに進めるなど、融通が利かない。コミュニケーションでは、Sheldon に向けられた皮肉を、皮肉としてではなく言葉通りに受けとる傾向が見られる。主人公の Sheldon に視聴者は好感を持ってないものの、Mckee (2018)が指摘する通り、主人公として共感できるような存在にはなっている。

「愛情公寓」の配役は、ラジオ・パーソナリティの曾小賢、ペテン師まがいの生き方をする吕子乔、米国から留学帰りの男性（展博）と女性（婉瑜）、展博の姉（一菲）らで構成される。また、「神経質で、物事をきっちり進めないと気が済まない」という性格のキャラクターが主役級に配置されている。「*Full House*」での Danny、「*Friends*」での Monica、「*the Big Bang Theory*」での Sheldon、「我爱我家」の傅老、「家有儿女」の刘梅、「愛情公寓」の一菲がそのような性格の設定になっている。

1.6.3. 配役の多様性と優越性の認識

配役に関しては、「*the Big Bang Theory*」では多種多様な民族が共に暮らしている設定で、「*Friends*」も Ross と Monica の兄弟はユダヤ教徒で、Joey はイタリア系という風に異文化が混ざり合ったような設定が見られる。一方、中国シットコムで、例えば「我爱我家」では、配役は大家族内の血縁関係が基本で、職業の違いなどは設定されているものの多様性は認められない。「愛情公寓」では、米国帰りの中国人という設定が2人配置され、日本人の設定の登場人物も出ており、配役も中国国内の枠組みを越えようとしていることがうかがえる。配役が多様化することで、他国の風土をバカにするというような優越性の認識による笑いが生まれやすい土壌ができる。

以下に、「優越性の認識」がどのようなものか、「*the Big Bang Theory*」1-4 から、優越性の認識にカテゴライズできるラフ・トラックの挿入の例を抽出する。Sheldon が自分の部屋で、パーティ会場で Gablehouser 博士に会うことを想定し、Leonard に向かって、挨拶のイメージトレーニングをしている。

[1.2] Sheldon: How's this? Pleased to meet you, Dr Gablehouser. How fortunate for you that the University has chosen to hire you, despite the fact that you've done no original research in 25 years, and instead have written a series of popular books that reduce the great concepts of science to a series of anecdotes, each one dumbed down to accommodate the duration of an average bowel movement. (L₁) Mahalo. (L₂) (はじめまして、ゲールハウザー博士。学部長になって運がいい。25年間、独創的な研究はナシ。科学に関する逸話を集めた本を書いただけだ。どれも平均的な排便時間で読めますね。マハロ。)

このブロックでは2回のラフ・トラックが挿入されているが、優越性の認識による笑いのポイントは(L₂)に見出すことができる。急に「Mahalo」(ありがとう/ハワイ語)というハワイ語を挿入することで、ハワイ出身であると想定される Gablehouser 博士への侮蔑が込められている。単に Sheldon が Gablehouser 博士をバカにしているだけのようでもあるが、ここでラフ・トラックが挿入されているのは、制作者が、自分自身(米国)をハワイと比べて優越的位置にあるという Sheldon の優越性の認識をラフ・トラックの挿入ポイントとして設定しており、面白みを感じるポイントだと示しているからである。(L₁)と(L₂)は、同じラフ・トラックであっても、その性質には違いがあると考えられる。(L₁)は平均的な排便時間に例えているという不自然な比喻が笑いの挿入ポイントになり、(L₂)はハワイ語を使用することで、エスニック(米国がハワイより優っている)の意識が笑いの挿入ポイントとなっている。エスニックの意識は、優越性の認識でもある(相手が

学部長という権威、組織の上下関係にある中で、相手を馬鹿にするという態度も面白みの要因と考えられるが、このポイントは、エスニックの性質が強いと判断した)。エスニックは差別意識とも似て非なるが、このようにシットコムではエスニックの要素がラフ・トラックの挿入ポイントとなっている箇所が存在する。Gablehouser 博士は「*the Big Bang Theory*」では主役級キャストではないが、民族的にも多様性のある登場人物を配置しておくことで、優越性の認識によるラフ・トラックの挿入ポイントを作ることが可能となる（優越性の認識については第9章でも述べる）。

ラフ・トラックの性質の違いを、分類により明確にし、その分類を用いることとテキスト分析を用いることで、米中間のラフ・トラックの挿入にどのような共通性や差異があるのかを分析し考察していくのが本研究の主題である。

1.7. まとめ

本章では、シットコムとは何か、その歴史と定義について論じ、シットコムには重要な要素となっているラフ・トラックに関連した用語について述べてきた。

シットコムを、固定された空間の中の動きで物語が展開する、ストーリーに連続性がある、視聴者に面白みを感じさせながら進行するという点で定義したが、重要な特徴として、ラフ・トラックが効果として挿入されるという点を挙げた。また、シットコムにはユーモア分析では説明がつかない点でラフ・トラックが挿入されている点がある。疑問口調やメタ構造の部分で、ユーモアの範疇以外のところでラフ・トラックが挿入され、面白みを感じさせようとするシットコム特有の構造ともいえる。ラフ・トラックが有効か否かについては、脳科学の分野で、研究が行われてきたが、賛否分かれるところだ。ただし、ラフ・トラックがあることで面白い部分であると認識できるという結果は支持できる。

米国では、ラジオからテレビへの主流メディア移行期に、制作プロセスがシンプルで枠を埋めていきやすいということからシットコム形式の番組が多く作られてきた。中国シットコムが始まったのは米国でシットコムが開始されて約40年後で、米国で既に人気を博していた作品と酷似したような内容のシーンも盛り込まれた。いずれにしても中国シットコムが米国シットコムから濃く影響を受けたということは否定できないだろう。

米中シットコムとも家庭や職場などが舞台にされた作品が主流であるが、中国では、社会の開放に伴い、若者の恋愛などをテーマとした作品も登場するようになった。字幕付記が習慣として行われるようになった中国のテレビ業界では、全てのセリフに機械的に付けるだけでなく、強調や意味の解釈への補足として字幕が活用されるようになった。それにより、同音異義語や似た音での間違いのシーンをより効果的にシットコムに取り入れられるようになっている。この音声的な側面は、本研究でも分析として取り入れる。

本研究では、分析対象として、日本で入手や視聴が可能な計6作品（「*the Big Bang Theory*」 「*Friends*」 「*Full House*」 「*爱情公寓*」 「*我爱我家*」 「*家有儿女*」）を選定した。配役では、米国シットコムでは「*the Big Bang Theory*」 「*Friends*」 のように民族や人種も含め

た多様性が認められる。中国シットコムでは、登場人物間の年齢の幅の広さで多様性が示されていたが、「愛情公寓」では、主人公を一人に限定しない傾向も出ている。選定作品では、几帳面で神経質な性格のキャラクターが重要な位置を占める傾向も見られている。シットコムは社会背景を反映しているということが、選定した米中シットコムを通してもうかがえる。とくに中国シットコムでは、年代を追うごとに、配役やテーマが徐々に海外を取り入れるような外向きで開放的な方向性に変化していることが分かった。

-
- ¹ Sitcom, Wikipedia, <https://en.wikipedia.org/wiki/Sitcom> (2019/11/5 閲覧)
- ² 情景喜剧, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/情景喜剧/1528621?fromtitle=sitcom&fromid=379212&fr=aladdin> (2018/12/18 閲覧)
- ³ ENCYCLOPÆDIA BRITANNICA, <https://www.britannica.com/art/situation-comedy> (2019/11/5 閲覧)
- ⁴ Charlie Chaplin, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Charlie_Chaplin (2019/11/5 閲覧)
- ⁵ Buster Keaton, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Buster_Keaton (2019/1/10 閲覧)
- ⁶ Richard Hornby: Sitcom, The Hudson Review, SPRING 2015, Vol. 68, No. 1, pp.111-117, 2015.
- ⁷ The Aldrich Family, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/The_Aldrich_Family (2019/12/10 閲覧)
- ⁸ The Goldbergs, Wikipedia, [https://en.wikipedia.org/wiki/The_Goldbergs_\(broadcast_series\)](https://en.wikipedia.org/wiki/The_Goldbergs_(broadcast_series)) (2019/11/5 閲覧)
- ⁹ Sitcom, Wikipedia, <https://en.wikipedia.org/wiki/Sitcom> (2018/12/18 閲覧)
- ¹⁰ 情景喜剧, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/%E6%83%85%E6%99%AF%E5%96%9C%E5%89%A7#6> (2018/12/18 閲覧)
- ¹¹ 张雨露: 探寻中国情景喜剧的未来发展之道, 传媒论坛, 2019年24期, pp.165-166, 2019.
- ¹² 张雨露: 探寻中国情景喜剧的未来发展之道, 传媒论坛, 2019年24期, pp.165-166, 2019.
- ¹³ 苏陶然: 中美情景喜剧的叙事策略比较—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》为例, 新闻研究导刊, 2019年第6期, pp.98-99, 2019.
- ¹⁴ 石玉莹: 试论我国情景喜剧的发展特征, 戏剧之家, 2020年19期, 2020
- ¹⁵ 苏陶然: 中美情景喜剧的叙事策略比较—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》为例, 新闻研究导刊, 2019年第6期, pp.98-99, 2019.
- ¹⁶ emmy awards website, <https://www.emmys.com/awards> (2019/1/18 閲覧)
- ¹⁷ 苏陶然: 中美情景喜剧的叙事策略比较—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》为例, 新闻研究导刊, 2019年第6期, pp.98-99, 2019.
- ¹⁸ Arthur Asa Berger.: An Anatomy of humor, Routledge, pp.16-18, 1992
- ¹⁹ Arthur Asa Berger.: An Anatomy of humor, Routledge, pp.16-18, 1992
- ²⁰ (L_n) の L はラフ・トラックの挿入箇所、_n は指定シーン内におけるラフ・トラックの順番を示すものとする。
- ²¹ 傍目八目, 大辞泉, 小学館, 大辞泉編集部, 1995.
- ²² Sitcom, Wikipedia, <https://en.wikipedia.org/wiki/Sitcom> (2019/11/5 閲覧)
- ²³ Richard Hornby: Sitcom, The Hudson Review, SPRING 2015, Vol. 68, No. 1 (SPRING 2015), pp.111-117, 2015.
- ²⁴ Sitcom, Wikipedia, <https://en.wikipedia.org/wiki/Sitcom> (2019/11/5 閲覧)
- ²⁵ 情景喜剧, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/情景喜剧/1528621?fromtitle=sitcom&fromid=379212&fr=aladdin> (2018/12/18 閲覧)
- ²⁶ Situation Comedy, ENCYCLOPÆDIA BRITANNICA, <https://www.britannica.com/art/situation-comedy> (2019/11/5 閲覧)
- ²⁷ 渡る世間は鬼ばかり, TBS, 1990-2011, 全10シリーズ, <http://www.tbs.co.jp/oni/> (2019/9/1 閲覧)
- ²⁸ Modern Family official website, <https://abc.com/shows/modern-family> (2019/10/6 閲覧)
- ²⁹ VEEP, official website, <https://www.hbo.com/veep> (2019/12/21 閲覧)
- ³⁰ 为啥中国的影视作品普遍有字幕?, 教老外说汉语, <https://zhuanlan.zhihu.com/p/150238518> (2020/1/8 閲覧)
- ³¹ 编辑部的故事, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/编辑部的故事/5212070> (2018/12/18 閲覧)

-
- ³² 张雨露:探寻中国情景喜剧的未来发展之道, 传媒论坛, 2019年24期, pp.165-166, 2019
- ³³ 石玉莹:探析我国情景喜剧的“苦中作乐”叙事美学表达, 传媒论坛, 2020年第10期, pp.154, 2020
- ³⁴ 武林外传, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/武林外传/5298> (2019/10/3 閲覧)
- ³⁵ 苏陶然:中美情景喜剧的叙事策略比较—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》为例, 新闻研究导刊, 2019年第6期, pp.98-99, 2019.
- ³⁶ 张雨露:探寻中国情景喜剧的未来发展之道, 传媒论坛, 2019年24期, pp.165-166, 2019
- ³⁷ 生活对我下手了, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/生活对我下手了/23176734?fr=aladdin> (2018/12/18 閲覧)
- ³⁸ 国家广播电视总局 website, <http://www.nrta.gov.cn> (2018/12/18 閲覧)
- ³⁹ 我们的留学日志, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/我们的留学日志/24224892?fr=aladdin> (2018/12/18 閲覧)
- ⁴⁰ Laugh track, Merriam-Webster, <https://www.merriamwebster.com/dictionary/laugh%20track> (2018/12/18 閲覧)
- ⁴¹ 北折充隆:録音笑いの印象に関する研究, 金城学院大学論集.人文科学編, 8(1), pp.11-13, 2011.
- ⁴² 「ポイント機能」は本稿での造語である。
- ⁴³ 「ツッコミ機能」は本稿での造語である。
- ⁴⁴ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett. & Reginald B. Adams.: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind. MIT Press, 2011. (片岡宏仁訳, ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, pp.44-45, 2015.)
- ⁴⁵ 情動とは「恐怖・驚き・怒り・悲しみ・喜びなどの感情で、急激で一時的なもの。情緒」と説明されている (goo 辞書, <https://dictionary.goo.ne.jp/word/%E6%83%85%E5%8B%95/> (2021/11/30 閲覧))
- ⁴⁶ Moran et al.: Neural correlates of humor detection and appreciation NeuroImage, 21, pp.1055-1060, 2004.
- ⁴⁷ Seinfeld (NBC, 1989-1998), <https://en.wikipedia.org/wiki/Seinfeld> (2018/12/18 閲覧)
- ⁴⁸ The Simpsons (FOX, 1989-present), https://en.wikipedia.org/wiki/The_Simpsons (2019/5/20 閲覧)
- ⁴⁹ Moran et al.: Neural correlates of humor detection and appreciation NeuroImage, 21, pp.1055-1060, 2004.
- ⁵⁰ Gillespie et al.: Who's Laughing Now? The Effect of Simulated Laughter on Consumer Enjoyment of Television Comedies and the Laugh-Track Paradox, THE SCIENCE OF HEDONISTIC CONSUMPTION, pp.592-606. 2016.
- ⁵¹ fMRI (核磁気共鳴を利用し、脳の活動を視覚化する方法), Wikipedia, [https://ja.wikipedia.org/wiki/FMRI#:~:text=fMRI%20\(functional%20magnetic%20resonance%20imaging,%E3%81%AE%E4%B8%80%E3%81%A4%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82](https://ja.wikipedia.org/wiki/FMRI#:~:text=fMRI%20(functional%20magnetic%20resonance%20imaging,%E3%81%AE%E4%B8%80%E3%81%A4%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82) (2020/10/16 閲覧)
- ⁵² Cialdini.R.B.:Influence: The Psychology of Persuasion, 1984. (社会行動研究会訳, 影響力の武器—なぜ、人は動かされるのか, 第3版, 誠信書房, pp.187-191, 2014.)
- ⁵³ Provine.R.: Laughter: A scientific investigation, New York, Viking, pp.137-138, 2000.
- ⁵⁴ Nosanchuk.T.A.& Lightshon.J.: Canned laughter and public and private conformity. Journal of Personality and Social Psychology, 29, pp153-156. 1974.
- ⁵⁵ Provine.R.: Laughter: A scientific investigation, New York, Viking, pp.137-138, 2000.
- ⁵⁶ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett. & Reginald B. Adams.: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind. MIT Press, 2011. (片岡宏仁訳, ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, pp50-51, 2015.)
- ⁵⁷ Nosanchuk.T.A.& Lightshon.J.: Canned laughter and public and private conformity. Journal of Personality and Social Psychology, 29, pp153-156. 1974.
- ⁵⁸ Provine.R.: Laughter: A scientific investigation, New York, Viking, pp.137-138, 2000.
- ⁵⁹ 「爱情公寓」百度百科 <https://baike.baidu.com/item/爱情公寓/17434> (2018/12/23 閲覧)
- ⁶⁰ Sheldon or Aspergery? the Big Bang Theory, psychologytoday.com, <https://www.psychologytoday.com/intl/blog/aspergers-diary/200904/sheldony-or-aspergery-the-big-bang-theory> (2018/12/18 閲覧)
- ⁶¹ Robert Mckee.: Story, 2005. (越前敏弥訳, ストーリー—ロバートマッキーが教える物語の基本と原則, フィルムアート社, pp.170-173, 2018.)
- ⁶² Robert Mckee.: Story, 2005. (越前敏弥訳, ストーリー—ロバートマッキーが教える物語の基本と原則, フィルムアート社, pp.170-173, 2018.)

第2章 ユーモアに関する理論のシットコム分析への適用

前章では、シットコムとは何か、その歴史と定義について論じ、シットコムには重要な要素となっているラフ・トラックに関連した用語について述べてきた。本章では、シットコムに援用できる理論を抽出し、どのようにシットコム分析に適用できるかを示すことで、第3章のラフ・トラック挿入ポイントの性質の分類に結び付ける。

2.1. ユーモアに関する理論の系譜

シットコムのテキストを分析するにあたり、ユーモアや笑いを分析する理論の枠組みを援用できると考えた。ユーモアや笑いを解釈した理論には、いくつかの主流な理論が存在する。

Hurley et al. (2011)¹は、生物学的理論、遊戯理論、解放理論、優位理論、不一致解決理論、驚き理論の6種類を挙げている。雨宮 (2016)²、中村 (2017)³は、ユーモアに関する理論や研究をまとめ、ユーモアに関する理論は、優越理論、エネルギー理論、そして不調和解消理論の3つに大別されるとした。江連他 (1999)⁴も、「笑いについては、これまでの多くの研究がなされているが、ショーペンハウエル、ベルグソン、グレアムら、笑いはコントラストや不一致の表現だとするコントラストの理論、パニョル、ホップス、スタンダーラら、笑いは優越感の表現だとする優越感の理論、フロイト、スペンサー、カントラら、笑いは張り詰めた期待が突如無へ変わることによって生じるとする緊張解放の理論の大きな3つの流れに集約される」とまとめ、ユーモアに関する理論が3つに束ねられることを支持している。その中で、不一致解決理論、コントラスト理論と不調和解消理論、優位理論と優越理論、エネルギー理論と緊張解放理論は、ほぼ同質と解釈できる。

Hurley et al.がユーモアに関する理論として取り上げた理論には、生物学的理論、遊戯理論、驚き理論があるが、それらの理論は、本シットコム研究では、不採用とした。生物学的理論は、ユーモアと笑いは人間が生まれ持ち生得的であるという観察にあり、幼児がおのずと笑うようになる点に着目している。しかし、シットコムのラフ・トラック挿入ポイントは、視聴者の生得的な笑いを誘導する類ではないため、この理論はシットコム分析への適用から除外した。遊戯理論は、遊ぶ子供が笑うことに人間の笑いのルーツがあるのではないかという考え方である。ところが、この遊戯理論も生得的な笑いに着目している点で、制作された番組を視聴し、その性質を理解しながら面白みを感じるという類のシットコムのラフ・トラック挿入ポイントを分析するには相応しない。驚き理論は、典型的に予測しなかったものが引き起こす特徴的な感情が笑いに繋がるという理論である。シットコムも視聴者の驚きを生むことで面白みを誘発しようという点もあるが、視聴者が予測し

なかった会話や設定の展開から面白みを作るという点では、不一致理論の性質と似通った理論であると判断できる。したがって、本研究では、驚き理論を不一致理論の部分的な構成要素の一部であると考え、援用できる理論として採用しない。

このように、ユーモアや笑いについての研究の系譜を見ていく中で、シットコム分析に援用できると判断したのは、一般的に成されるべき言動からの逸脱した不一致性を指摘する不一致理論、緊張と緩和のエネルギーの動きについて述べるエネルギー理論、人が認識する優越性によって面白みが発生すると説明する優越理論、発話は人が解釈することによって成立することに着目する関連性理論である。これらの理論を融合することで、シットコムにおけるラフ・トラック挿入ポイント創出の手法を広範なアプローチから解析することが可能となる。

2.1.1. 不一致理論

不一致理論は、Suls (1972)⁵、Forabosco (1992)⁶、Attardo et al (2002)⁷、Mio&Graesser (1991)⁸、Hillson&Martin (1994)⁹、Hurley et al (2011)¹⁰らが示したもので、いつもと違う何か、曖昧で不調和な何かを、そのギャップを埋める新たな関係性を見いだしたり、思い込みの間違いを見いだしたりして解消する際に笑いが発生するとしたものである。不一致理論はユーモア研究の中での主流とされ、不調和理論や不調和解消理論などもその一部とされるが、本研究では、それらを不一致理論として取りまとめる。

中村 (2018) は、不調和解消理論 (Suls, 1972¹¹; Forabosco, 1992¹²; Attardo et al, 2002¹³) は、いつもと違う何か (Forabosco, 1992) や曖昧で不調和な何か (Attardo et al., 2002) という不調和を、そのギャップを埋める新たな関係性を見いだしたり (Mio & Graesser, 1991¹⁴; Hillson & Martin, 1994¹⁵)、思い込みの間違いを見いだしたり (Hurley et al, 2011¹⁶) して解消すると指摘する。不一致理論とは、一般的に想定され得る状況とは一致しない状況が生まれ、それを認知した時に、笑いが生まれるというものである。Schopenhauer (1819)¹⁷ は、予期がまったくの無へと転化することが笑いを生み出すのではなく、予期したものと別のも、何らかの意味で状況に合致した何ものかを得ることで笑いが生じると述べた。雨宮 (2016)¹⁸ は、何かがユーモラスであるかどうかを決定づける要因は、不調和を知覚することだと説明する。おかしい事柄は、不調和で普通ではなく、我々が通常期待することとは異なり、我々が何かに対して五感で知覚したこととその対象についての抽象的な知識や概念との間に不一致や衝突がある時にユーモアは生じるとしている。

シットコムでは、一般的な行動パターンや一般的に想定されるパターンとは違った言動を登場人物が行うことにより、一般的なパターンとのギャップ (不一致性) を視聴者に把握させることを前提に、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている箇所がある。不一致理論では、シットコムで、一般的なパターンとの不一致を視聴者に把握させ、その不一致とのギャップを視聴者の思考で解消させるシーンの仕組みを説明できる。例えば、視聴者や社会が一般的に想定するものとは違うような行動、発音されるべきところと違う発音のさ

れ方や声真似など、言語や音声を要因として起こる発話、カットの変化や状況が変化する部分などである。これらの性質を持つラフ・トラックの挿入ポイントは、不一致理論を採用することで多くのケースの説明が可能となる。

2.1.2. エネルギー理論

エネルギー理論について、Spencer (1859)¹⁹、Freud (1905)²⁰、中村(2018)²¹は、神経エネルギーの解放、神経の興奮の解放、緊張と緩和といった概念を示した。ユーモアは高まりすぎた神経の興奮を解放する。思考により緊張が次第に高まり、緊張がさらなる思考がもたらした肯定的な感情によって解放されたとき、エネルギーが笑いに変形するというものである。

Spencer (1859)は、笑いという現象を生物学的な立場から説明し、笑いは神経エネルギーの発散であるとするものとした²²。その後のエネルギー理論は、笑いやユーモアについての先行研究である Relief theory²³や Release theory²⁴などがエネルギー理論として括られ²⁵、神経エネルギーの解放（解放理論）、神経の興奮の解放、緊張と緩和という概念で説明される。雨宮（2016）は「スペンサー、フロイトを源流としたユーモア論は放出理論ともよばれるが、理論的には神経エネルギーあるいは、心的なエネルギーを想定した点に特色があるので、エネルギー論と総称する」と規定した²⁶。また、中村（2017）は、エネルギー理論（Spencer, 1859²⁷; Freud, 1905²⁸）は、特に性的あるいは暴力的な余剰な神経エネルギーの放出とまとめている²⁹。Hurley (2011)は、解放理論では、ユーモアとは高まりすぎた神経の興奮を解放する形式だと捉える。思考により緊張が次第に高まり、この緊張がさらなる思考がもたらした肯定的な感情によって解放されたとき、エネルギーが笑いに変形する。ジョークは、抑圧されたエネルギーを流出させ、おかしみの喜びを生み出し、笑いを通じてこのエネルギーを解放する³⁰としている。

シットコムでは、緊張したムードが急に緩やかになる状態の変化により、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている箇所がある。この性質を持つラフ・トラックの挿入ポイントは、エネルギー理論を採用することで説明が可能となる（また、シットコムでは、緩和から緊張の動きによって、ラフ・トラックの挿入ポイントになっている箇所もあり、その点は、第6章で詳述する）。

2.1.3. 優越理論

優越理論は、笑いが他人に対する優越感の表現とし、Hobbes (1651)³¹が定式化したとされる。優越性の認識については、古来から笑いを作る方法となってきた。Hobbes は、笑いとは他人や過去における自分と今の自分とを比較したときに、自分のなかにそれらよりも卓越したある種の能力があると認められたときに生まれる突然の大得意であるとした³²。人が他者からの優越を認識、指摘する際に面白みが生まれるという理論で、標的となった他の

誰かよりもあるレベルで優っている、卓越しているという感覚や認識から生じる突然の栄光や勝利から笑いが発生するというものである。

Hurley (2011) は、優越理論に於ける笑いを「標的となった他の誰かよりもあるレベルで優っている、または卓越しているという感覚または認識から生じる突然の栄光、または勝利のことだ」という定義を採用した。雨宮 (2016) ³³は「優越理論は社会的な他者との比較を基本としているので、笑いにおける社会性の一端はとらえている」とした。中村 (2018) は、Hobbes の優越理論³⁴の言説を採用し、他人や過去の自分の劣る側面が明るみに出ること、相対的に現在の自分が突然の栄光を享受するという要因の重要性を指摘した。

シットコムでは、もともとの先天的な違いを嘲笑し、優越性を根拠とした言動により、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている箇所がある。この性質を持つラフ・トラックの挿入ポイントは、優越理論を採用することで多くのケースの説明が可能となる。

2.1.4. 関連性理論

ラフ・トラックの挿入ポイントの主な構成要素は「発話の組み合わせ」であり、発話内容の要素を構造的に説明できるのが、言語学の一分野の関連性理論である。ユーモアや笑いについての理論とは一線を画すが、発話者同士の解釈のズレを説明するのに有用な理論と考えられる。

関連性理論は、Sperber&Wilson (1986、1995)³⁵が示し、雨宮 (2016) ³⁶、東森 (2011) ³⁷らが解釈を進めた。発話者の言葉通りの意味を表意とし、受け手側の解釈する意味を推意とする。発話は聞き手の推論の出発点となり、解釈の方向を導く働きをする。何を言っているか聞き手に分かりにくい (→関連性が低い) 状態の中で、推意のズレが意図的に作り出されることにより面白みが発生するというものである。

言葉を用いたコミュニケーションでは、発話という刺激に基づいて、話し手が何を伝達しようとしているのかについて推論を始める。発話は、聞き手の解釈に委ねられ、我々は聞き手の解釈に委ねられているという前提で発話を行い、発話の理解は聞き手側の推論に基づいている。日常会話では、関連性が高く聞き手にとって分かりやすい発話をするのが基本であるが、親近感が湧く間柄になってくれば、発話の関連性が低くなる。シットコムのテキストから、瞬間的には何が言いたいのか分からない内容を、発話の関連性に焦点を当てることで、表意と推意という考え方のフィルターを通すことで解読できる部分がある。

関連性理論では、発話者が何を言っているか聞き手に理解しやすい (推意しやすい) ことを関連性が高いとし、発話者が何を言っているか聞き手に理解しにくい (推意しにくい) ことを関連性が低いとする。表意と推意の関連性の高低によって、人の発話解釈の難易度が変わる。関連性が高ければ、発話解釈は容易となり、関連性が低ければ、発話解釈は困難となる。シットコムでは、聞き手の部分を視聴者に置き換えることになるが、関連性が低い発話は、視聴者にとっては分かりにくく、意味が理解できない視聴者に対して排他的ともなるが、発話の意味を解読できた際の視聴者にとっての面白みは深いことが想定される。

シットコムでは、会話としての構成によって起きる発話、発話の意味と解釈にズレが生じることにより、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている箇所がある。この性質を持つラフ・トラックの挿入ポイントは、関連性理論を採用することで多くのケースの説明が可能となる。

2.2. ユーモアに関する理論のシットコムへの適用

本研究の分析では、不一致理論、エネルギー理論、優越理論という3つの理論の流れの要素に、言語学分野の関連性理論の考え方の要素を加えた。図2.1に、シットコム分析に用いた理論に関するイメージを図示する。

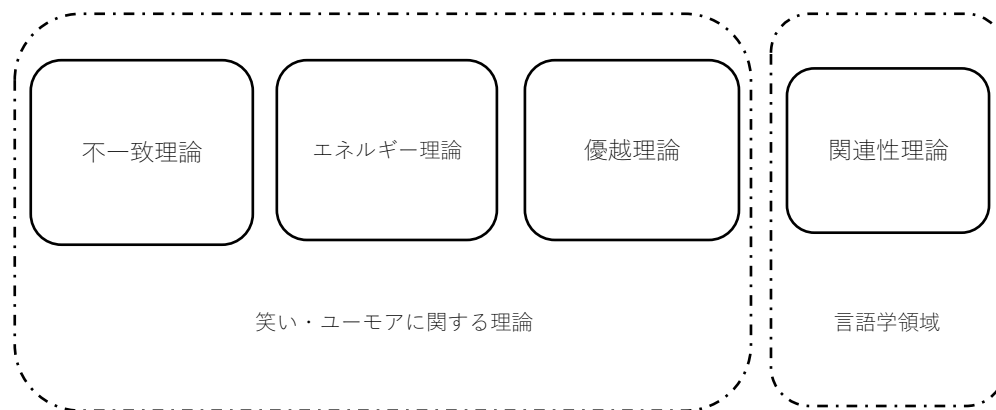


図2.1 シットコム分析に用いた理論についてのイメージ

シットコム分析における有用性を考慮すると、不一致解決理論、コントラスト理論、不調和解消理論を含む不一致理論、緊張解放理論を含むエネルギー理論、優位理論、優越感の理論を含む優越理論の内容を援用できる。

しかし、これらの理論の枠組みのみでは、本稿の主題であるシットコムのラフ・トラック挿入ポイントの性質の分析は、忠実に行うことができない。本章で示したユーモアや言語学に関する理論を参考に、シットコムの性質に合った独自の分析手段を作り出す必要があると考えた。その分析手段が分類項目の設定である。

次章では、シットコムの傾向をより詳細に調べるための手段と分類項目を示す。ラフ・トラックを生み出す性質に関して、本章までで示したシットコムに関する先行研究や、ユーモアについての理論を参照し、米中シットコムのテキストを用いながら、大分類項目と下位区分である小分類項目を作成し、分類項目の詳細を述べる。そして、第4章以降で、ラフ・トラック挿入ポイントに焦点を当て、米中シットコムにおける笑いの構造を解明していく。

-
- ¹ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett. & Reginald B. Adams.: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind. MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳, ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015.)
- ² 兩宮俊彦: 笑いと言語の心理学-何が可笑しいの?, ミネルヴァ書房, pp.100-124, 2016.
- ³ 中村太戯留: ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.
- ⁴ 江連三香, 内海彰: ユーモアを含む言語表現の解釈モデルに関する研究, 言語処理学会第5回年次大会発表論文集, pp.325-326, 1999.
- ⁵ Suls, J. M.: A two-stage model for the appreciation of jokes and cartoons: An information-processing analysis. In Goldstein, J. H. & McGhee, P. E. (Eds.), The psychology of humor: Theoretical perspectives and empirical issues, pp.81-100, Academic Press. (1972)
- ⁶ Forabosco, G.: Cognitive aspects of the humor process: The concept of incongruity. *Humor*, 5(1), pp.45-68, 1992.
- ⁷ Attardo, S., Hempelmann, C. F., & Di Maio S.: Script oppositions and logical mechanisms: Modeling incongruities and their resolutions, *Humor*, 15(1), pp.3-46, 2002.
- ⁸ Mio, J. S., & Graesser, A. C.: Humor, Language and Metaphor: Metaphor and Symbolic Activity, 6(2), pp.87-102, 1991.
- ⁹ Hillson, T. R., & Martin, R. A.: What's so funny about that?: The domains-interaction approach as a model of incongruity and resolution in humor.: *Motivation and Emotion*, 18(1), pp.1-29, 1994.
- ¹⁰ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams.: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳: ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015)
- ¹¹ Suls, J. M.: A two-stage model for the appreciation of jokes and cartoons: An information-processing analysis. In Goldstein, J. H. & McGhee, P. E. (Eds.), The psychology of humor: Theoretical perspectives and empirical issues, pp.81-100, Academic Press, 1972.
- ¹² Forabosco, G.: Cognitive aspects of the humor process: The concept of incongruity. *Humor*, 5(1), pp.45-68, 1992.
- ¹³ Attardo, S., Hempelmann, C. F., & Di Maio S.: Script oppositions and logical mechanisms: Modeling incongruities and their resolutions, *Humor*, 15(1), pp.3-46, 2002.
- ¹⁴ Mio, J. S., & Graesser, A. C.: Humor, Language and Metaphor: Metaphor and Symbolic Activity, 6(2), pp.87-102, 1991.
- ¹⁵ Hillson, T. R. & Martin, R. A.: What's so funny about that?: The domains-interaction approach as a model of incongruity and resolution in humor, *Motivation and Emotion*, 18(1), pp.1-29, 1994.
- ¹⁶ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams.: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳, ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015)
- ¹⁷ A. Schopenhauer.: *Die Welt als Wille und Vorstellung*, 1819. (斎藤忍随ほか訳, 意志と表象としての世界, ショーペンハウアー全集, 第2巻, 白水社, pp.134-139, 1972.)
- ¹⁸ 中村太戯留: ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.
- ¹⁹ Herbert Spencer.: *Physiology of laughter, Essays: Scientific, political and speculative*, vol.1, William and Norgate. 1868 (木村洋二訳: 下降性の不一致と笑いの生成, 笑いの生理学, 現代思想, 特集, 笑い, vol.12-2, 青土社, pp.238-248, 1984.)
- ²⁰ Bergson, H., Freud, S.: *Le rire*, 1900. (原章二訳: 笑い/不気味なもの, 平凡社ライブラリー, 2016.)
- ²¹ 中村太戯留: ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.
- ²² Herbert Spencer.: *Physiology of laughter, Essays: Scientific, political and speculative*, vol.1, William and Norgate. 1868 (木村洋二訳: 下降性の不一致と笑いの生成, 笑いの生理学, 現代思想, 特集, 笑い, vol.12-2, 青土社, pp.238-248, 1984.)
- ²³ Rod A. Martin, Thomas E. Ford.: *The psychology of humor, An integrative approach*, Academic Press, 2018.
- ²⁴ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams.: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳: ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015.)

-
- ²⁵ 中村太戯留:ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.
- ²⁶ 雨宮俊彦:笑いとうモアの心理学-何が可笑しいの?, ミネルヴァ書房, pp.100-124, 2016.
- ²⁷ Herbert Spencer.: Physiology of laughter, Essays: Scientific, political and speculative, vol.1, William and Norgate. 1868 (木村洋二訳:下降性の不一致と笑いの生成, 笑いの生理学, 現代思想, 特集, 笑い, vol.12-2, 青土社, pp.238-248, 1984.
- ²⁸ Bergson.H., Freud. S.: Le rire, 1900. (原章二訳: 笑い/不気味なもの, 平凡社ライブラリー, 2016.)
- ²⁹ 中村太戯留:ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.
- ³⁰ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳:ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015.)
- ³¹ Thomas Hobbes: Leviathan, 1651. (水田洋・田中浩訳, リヴァイアサン, 世界の大思想, 第13巻, 河出書房, pp.42-67, 1966.)
- ³² Thomas Hobbes: Leviathan, 1651. (水田洋・田中浩訳, リヴァイアサン, 世界の大思想, 第13巻, 河出書房, pp.42-67, 1966.)
- ³³ 雨宮俊彦:笑いとうモアの心理学-何が可笑しいの?, ミネルヴァ書房, pp.100-124, 2016.
- ³⁴ Thomas Hobbes: Leviathan, 1651. (水田洋・田中浩訳, リヴァイアサン, 世界の大思想, 第13巻, 河出書房, pp.42-67, 1966.)
- ³⁵ Deirdre Wilson & Dan Sperber.(2004, Sperber 1994; Wilson 2000).: Relevance Theory, In L. R. Horn & G. Ward (eds.), The Handbook of Pragmatics, Blackwell, pp.607-632, (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子翻訳. 関連性理論—伝達と認知, 研究社, 2000.)
- ³⁶ 雨宮俊彦:笑いとうモアの心理学-何が可笑しいの?, ミネルヴァ書房, pp.100-124, 2016.
- ³⁷ 東森勲:英語ジョークの研究-関連性理論による分析, 龍谷叢書, pp.7-57, 2011.

第3章 米中シットコムにおける笑いの要因の分類

前章では、シットコムに援用できる理論を抽出し、どのようにシットコム分析に適用できるかを示した。本章では、前章で示した理論の内容を受け、シットコムのラフ・トラックが挿入されている場所に着眼し、シットコム内のラフ・トラック挿入ポイントの性質における米中間の共通点と差異を示す。

3.1. 分類の概要と目的

本章では、ラフ・トラックが挿入されるポイントの性質を、挿入ポイントごとに分類し、その傾向を探り、文化的背景、社会的背景に照らしだす。シットコムの傾向をより詳細に調べるための手段として、ラフ・トラックを生み出す性質に関して、第2章で示した笑いに関する先行研究、笑いを構築する理論を参照し、米中シットコムのテキストを用いながら、大分類と小分類を作成し、その分類項目の詳細について述べる。そして、米国シットコムと中国シットコム各作品に発生するラフ・トラックの挿入ポイントの数を集計し、上位順や傾向を示す。

各シットコムのスクリプトと、各シーンの設定や出演者の動作に着眼して分類と基準を示す。分類するにあたって、一つのポイントに対し複数の性質が混在していると考えられる箇所もあるが、その場合は、より強く作用していると判断できる要因を選択し、適用した。分類項目はシットコム6作品を視聴し、テキストと翻訳字幕を記し、ラフ・トラックの挿入ポイントを記述することにより作成した。次章以降でも詳述するが、大分類、小分類項目の設定にあたっては、ユーモア分析の理論である不一致理論、エネルギー理論、優越理論の流れの要素に、言語学分野の関連性理論の考え方の要素を加えた。分類プロセスの例は、付録3、4に示す。次節では、どのように分類項目を作成し、テキストを振り分けていったのかについて、本研究で、ラフ・トラック挿入ポイントの分析対象とした箇所以外の部分から、テキストの事例を複数取り上げる。

3.2. 大分類

本項では、どのように大分類項目を作成していったかについてのプロセスを示すため、事例を示しながら分類の手順を説明する。

3.2.1. 米国シットコムのテキストを使用した分類のプロセス

はじめに「*the Big Bang Theory*」1-11のテキストから提示する。出身地のネブラスカ州に里帰りしていた Penny が、(ドラマの舞台設定である)カリフォルニアに戻ってきた。そして、同じマンションに住む Leonard、Sheldon と会話をしている。

[3.1] Leonard: Yeah, right here. How was Nebraska? (ネブラスカはどうだった?)

Penny: Oh, better than North Dakota! (ノースダコタよりマシ)

(Leonard、Sheldon : シラけて無言) (L₁)

Penny: I guess that joke's only funny in Nebraska. (地元でしかウケないか)

Sheldon: From the data at hand you really can't draw that conclusion. All you can say with absolute certainty is that that joke is not funny here. (その結論はまだ早い。ここでウケないと分かっただけだ。) (L₂)

(L₁)は、better than North Dakota!の後に Leonard、Sheldon がシラけるポイントでのラフ・トラック挿入である。Penny はウケたと思って話していたが、Leonard と Sheldon は黙ってしまった。会話の和やかな雰囲気から、沈黙という状態に移行したところに、ラフ・トラックが挿入されている。こういった性質のラフ・トラックの挿入を、エネルギーの移行と設定した。エネルギー理論は通常、緊張から緩和の移行を説明しているが、シットコムでは、このように緩和した雰囲気から緊張した状態に移る場合でも、ラフ・トラックが挿入されている。

(L₂)は「ここでウケないと分かっただけ」というセリフは、「この部屋でウケないと分かっただけ」(表意)、「ここでウケない」とは Penny は他の場所でウケると確信している(推意前提①)、その話は、我々には面白くない(推意前提②)に加え、Sheldon はその話を「他の場所でもウケない可能性が高い」と確信している。表意と推意にギャップが見られて面白みを生んでいることから、関連性理論が適用できる。推意前提とは、前提が推測されることである。関連性理論の中の推意前提と、後の動きの示唆が推測される推意帰結という概念については、第5章で詳しく述べる。

Penny が発した言葉がシラけたことについて、Penny 自身は「地元でしかウケないネタを発した(だからここではシラけた)」と解釈したが、Sheldon はそうではなく「どこでもウケないほどに、言葉自体が面白くなかった」と推意帰結を生み出すことでラフ・トラック挿入ポイントとしている。このようなポイントでラフ・トラックが挿入される点を発話の意味と解釈のズレとして大分類の項目に設定した。「*the Big Bang Theory*」の Sheldon は普通なら深く考えず流してしまいそうな相手の言葉を論理的に解釈し、言葉にして発するキャラクターとしても設定されている。

次に、大分類のプロセスとして、「*the Big Bang Theory*」から[3.1]の後続のシーンを取り上げる。Penny が戻ってきたことで、Leonard が Penny のネブラスカの実家の様子を聞いている。

[3.2] Leonard: How was your family? (家族は?)

Penny: Ugh, it was the worst trip, everyone got sick over the weekend. (それが最悪、みんな病気で)

Sheldon: Sick?

(ソファから逃げ出そうとする素振り)

Leonard: Here we go. (始まった)

(Sheldon が逃げ出して Penny から距離を置こうとする) (L₁)

Sheldon: What kind of sick? (どんな病気?)

Penny: Oh, the flu I guess. (たぶんインフルエンザ)

Sheldon: I don't need you to guess, I need you to know, now when did the symptoms first appear? (はっきりしてくれ。いつから症状が?)
(分厚いファイルを取り出し、メモを取り始めようとする。その姿が医者
の問診のように見える) (L₂)

Penny: Maybe Friday. (金曜かな)

Sheldon: Friday, was that morning or afternoon? (L₃) (金曜の朝? 午後?)

Penny: I... I don't. (どうかな)

Sheldon: Think woman, who blew their nose and when? (いつ、誰が鼻をかんだ?) (L₄)

Leonard: Sheldon, relax, she doesn't have any symptoms, I'm sure she's not contagious. (Penny に症状はないし、感染しないよ)

Sheldon: Oh please, if influenza was only contagious after symptoms appear it would have died out thousands of years ago. (何を言ってる?)
(近づきそうになるも、思い出したように、足を踏み止める)

Sheldon: Somewhere between tool using and cave painting, homo habilis would have figured out to kill the guy with the runny nose. (感染が発症後なら、はるか昔に根絶できてる。きっと化石人類が、鼻水野郎を皆殺しにしたはずだ。) (L₅)

Leonard: Penny, you'll have to excuse Sheldon, he's a bit of a germophobe. (Sheldon は細菌恐怖症で...)

Penny: Oh, it's okay, I understand. (分かるわ)

Sheldon: Thanks for your consideration, now please leave. 分かるなら出て行ってくれ) (L₆)

Leonard: You'd better go before he starts spraying you with Lysol. (除菌スプレーをかけられるよ)

Penny: Okay, well, thank you for getting my mail. (郵便物ありがとう)

Leonard: No problem. Welcome home. (いいんだ。おかえり)

(Penny が部屋を出て行く。Leonard が扉を閉める)

(Sheldon が除菌スプレーをかけている) (L₇)

(L₁)は病気と聞いて、病気が自分にも感染すると推意し、即座に逃げ出そうとする Sheldon の過剰反応のところで、ラフ・トラックが挿入されている。仮に病気と聞いても、一般には、すぐに場所を変えるような動きをしない。このように、一般的な態度として想定される「平静を装う」などの動きと、「すぐに場所を変える」といった大人になりきれていない、人間として成熟していないような未熟性の部分にはギャップが見られ、未熟性とのギャップという大分類を設定した(会話から緊張した動きという点では、エネルギーの移行という分類も考えられるが、テキストの文脈から、未熟性とのギャップの要素が強いと考えた)。不一致理論が適用できる。

(L₂)は、症状を詰問していく Sheldon の様子が、医者のようにも、検疫官のようにも見えることから面白みが生まれている。成熟した大人はそのように振る舞わないことが想定されるので、人との接し方に対する未熟さの点から、未熟性とのギャップという大分類を採用した。ここでも不一致理論が適用できる。

(L₃)は、医者よりも細かい尋問を、症状も出ていない、症状がある人と一緒にいたというだけで行う Sheldon の様子に面白みが生まれている。対人的な礼儀を考えれば、詰問調にはならないが、Sheldon の様子は不一致であり、ここでも未熟性とのギャップを生んでいる。

(L₄)は、厳しさをどんどん増していく Sheldon の様子に面白みが生まれている。一般の人間社会ならば、そういう質問は空気を読むことによって徐々に穏やかになっていくが Sheldon の場合は、その様子を空気が読めないがために強めて言うところにある。ここでも未熟性とのギャップという大分類が採用できる。

(L₅)は比喩表現であるが、比喩の言い回しが大げさで、かつ、原型を留めないほどの例えを用いていることで、視聴者が発話の意味と解釈のズレを見出すことにより面白さが生まれる。Sheldon の理屈っぽいキャラクターがにじみ出ていることから笑いを挿入し得るポイントとなっている。

(L₆)は、Penny が Sheldon の気持ちを汲み取ろうとしているにも関わらず、Sheldon が容赦無く、出ていけとけしかけることは、Sheldon の社交性における未熟性とのギャップが生まれ、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

(L₇)は、「除菌スプレーをかけられるよ」と冗談めかして言った Leonard の言葉通り、シェルドンが行動を起こしていることにラフ・トラックの挿入ポイントが発生している。Sheldon の異常なまでのウイルスに対するこだわりは、大人になっても異常なこだわりが

減っていないという点での未熟性とのギャップを引き起こしている。

つづいて、大分類のプロセスとして、「*the Big Bang Theory*」1-11 から[3.2]の後続のシーンを取り上げる。Penny にウイルスに感染したと思い込んだ Sheldon が、スポイトでゼリーのようなものを作っている。

[3.3] Sheldon: We have no idea what pathogen Typhoid Penny has introduced into our environment. And having never been to Nebraska I'm fairly certain that I have no cornhusking antibodies. (L₁) (ペニーの持ち込んだ菌が何か不明だし、ネブラスカの菌に僕は抗体がない)

(口を開ける Sheldon) (L₂)

Leonard: Sheldon, don't you think you're overreacting? (大げさと思わないか?)

Sheldon: When I'm lying comatose in a hospital relying on inferior minds to cure me, these jello cultures and my accompanying notes will give them a fighting chance. (医者が無能なせいで僕が昏睡したら、菌を培養したゼリーが役に立つんだ。)

(喉を Leonard に見てもらいがために、口を開ける Sheldon) (L₃)

Leonard: I'm going back to bed. (寝るよ)

Sheldon: Wait.

(計量カップを Leonard に渡して)

Sheldon: Put this in the bathroom. (これ、トイレに置いて)

Leonard: What for? (なぜ?)

Sheldon: I need to measure my fluid intake and output to make sure my kidneys aren't shutting down. (水分排出量を測定し、腎機能を確認する) (L₄)

Leonard: I mix pancake batter in this! (これでパンケーキを作ってる) (L₅)

Sheldon: No, that measuring cup has always been for urine. (これは前から尿検査用だ。) (L₆)

Leonard: You had time to make a label for everything in this apartment, including the label maker, but you didn't have ten seconds to make one that said urine cup? (君はラベルを何にでも貼るのに、おしっこ用となぜ貼ってない?)

Sheldon: It's right here on the bottom. (底に貼ってある)

(ピンを裏返すと、底にテプラで「URINE CUP」と貼ってある) (L₇)

Leonard: Huh. I guess I owe the Betty Crocker company a letter of apology.
(パンケーキミックスが悪いと思っていた。) (L₈)

(L₁)は、Sheldon が「ネブラスカの菌に抗体がない」と発言することで、ネブラスカを異国扱いにし、別世界のような差別的な見解を加えている。大げさな表現である。こういった優越性の認識による表現でのラフ・トラック挿入に関して、優越性の認識という大分類を設定し、振り分けた。優越理論が適用できる。

(L₂)は、オーバーに口を開ける Sheldon の様子に対し、面白みが生まれている。成人はそういった動作を通常しないことから未熟性のギャップに分類する。

(L₃)は、Sheldon がもう一度、口を開けて奇妙な動きをしている。この部分も未熟性と
のギャップに分類する。

(L₄)は、Sheldon がトイレに計量カップを置くことを指示したことについて、Leonard が理由を聞くと、Sheldon が「水分排出量を測定」と答えている。表意は水分量の測定であるが、「小便を入れる」という推意が解読できるため発話の意味と解釈のズレに分類する。

(L₅)は Leonard の「これでパンケーキを作ってる」は表意であるが、「このカップでパンケーキを作っているの、そのカップに尿を入れるわけにはいかない」という推意を生むため、発話の意味と解釈のズレに分類される。

(L₆)は、(L₅)の推意に対し、表意として「以前から使ってきた」としているものの、推意として「このカップは以前から尿を入れる容器として使ってきたので、Leonard は、尿を入れるために使ってきた容器をパンケーキ用にも使ってきた」「Leonard は尿を入れたカップで作ったパンケーキを食べてきた」推意が成立し、この部分も発話の意味と解釈のズレに分類できる。容器が今後パンケーキ用として使えなくなるのではなく、これまでもう既に使ってきたという解釈が成立する。そして、「そのカップに尿を入れるわけにはいかない」という推意を生み出している。

(L₇)は、Sheldon がカップを見せると尿用 (URINE CUP) と書かれたラベルが存在し、Sheldon の落ち度ではないことを Sheldon が強調している様子に、ラフ・トラックが挿入されている。Leonard が尿入りのカップで作ったパンケーキを食べさせていたにも関わらず、Sheldon が自分の主張を正当化する行為をしていることであり、視聴者は、発話がズレていることを解読することにより、面白みを感じることができる。

(L₈)は、Betty Crocker という実在する社名を登場させるという実在と虚構の混在が面白みの要因ともなっている。しかし、ここでは「パンケーキミックスの品質が落ちたと Leonard が考えていた」という表意に対し、推意として「Leonard はこれまでパンケーキの味に違和感を持っていた。それを Leonard はパンケーキミックスの味・質が落ちたと判断していたが、Sheldon の話を照合するに、尿を入れるための容器を使っていたため、パンケーキの味も尿の影響を受けて変質していた」という解釈が面白みには強く結びつくと考えられ、発話の意味と解釈のズレによる面白みの発生に分類した。

さらに、「*the Big Bang Theory*」7-12 から、Sheldon と Amy が、「笑いとは何か」について話をしているシーンを取り上げる。

[3.4] Sheldon: This is interesting. Apparently, a key component in some forms of humour is the element of surprise. (これは興味深いな。笑いの基本要素の一つは「サプライズ」らしい)

Amy: Well, that makes sense. The prefrontal cortex is responsible for planning and anticipation, and patients with brain lesions on their... (理にかなって。予測をつかさどるのは前頭前皮質だけで、脳障害...)

Sheldon: BRAIN LESIONS! (脳障害!) (叫ぶ) (L₁)

Amy: Sheldon, you scared me. That wasn't funny. (脅かさないで。笑えない)

(L₁)は、二人が真剣に落ち着いて話をしているのに Sheldon が急に叫ぶところで、緩和から緊張という場の雰囲気のエネルギーの移行が起きている。

3.2.2. 中国シットコムのテキストを使用した分類のプロセス

中国シットコム「愛情公寓」1-6 のテキストから、ラフ・トラックの挿入ポイントについての分類を行う。呂小布、美嘉、一菲、展博がリビングルームで話をしている。呂小布が「芸能人としての新しい仕事が取れた」と喜び、今後の金銭面でも楽観的になり始めたが、美嘉と一菲は懐疑的である。

[3.5] 呂小布：你们能不能对一颗、正在冉冉升起的新星有一点儿最起码的尊重。(あなたたちは、ゆっくり調子を上げてきている新星のタレントに対して、最低限の敬意は払えないのですか?)

美嘉：你以为我们在拍傻冒电视剧啊、难不成帮你找一帮群众演员围着你给你当鲜花。(L₁) (あなたは、私たちがくだらないソープオペラを作っていると思ってるの? だったら、あなたを取り囲んで花束をプレゼントするエキストラを探してあげましょうか)

一菲：不是我们打击你。我觉得这幕完全不靠谱、中国男足世界杯夺冠和你的离谱程度其实差不多。(L₂) (あなたを攻撃するわけじゃないんだけど、あなたの話は現実的じゃない。ワールドカップで中国チームが優勝するくらい現実離れしてるんじゃないの)

(L₁)は、花を贈るためのエキストラ例示を用いて奇妙な提案がなされている。ラフ・トラックの挿入ポイントは、花束をプレゼントするエキストラを、それだけつまらないという意図に変換して捉えさせる発話の意味と解釈のズレという性質であると考えられる。

(L₂)は、呂小布の実現の可能性が低いことを表現するために、「サッカーワールドカップで中国チームが優勝するほどに（程遠い）」という比喩が用いられている。実際、中国のサッカー代表チームはワールドカップの本戦にすら出場することも殆どない（番組放送時点）ことから、実現の可能性が低いことの比喩として成立している。この比喩は、虚構であるシットコムに対し、実在する中国チームと、中国チームがワールドカップで優勝しないという実際的话题を取り込んでおり、このラフ・トラックの挿入ポイントは、実在と虚構の混在が要因となっている。

つづいて、「愛情公寓」1-3のテキストから、关谷と美嘉が話をしている場面を抽出する。

[3.6] 关谷：今天还有两个泰国同学给我起绰号。他说在他们家乡最好的朋友都要叫P 什么什么。比方说、美嘉你是我的朋友、你姓陈、我就叫你P 陈。子乔君、子乔君、他姓吕、我就叫他P 吕。（今日タイからの2人の留学生に私のニックネームをつけられた。彼が言うには、故郷で友人を呼ぶときには「ピーなになに」と呼ぶ習慣がある。美嘉は私の友達だが、名字がチェンなので、「ピーチェン」、子乔は名字がリュウなので「ピーリュウ」)

美嘉：P 吕，那没有什么问题啊。你就叫P 关谷嘛。（ピーリュウ、別に問題ないじゃない。あなたはグワンクーが名字なので「ピーグワンクー」でしょ）

关谷：问题就在这里。他们觉得麻烦一定要叫我P 谷。（L₁）（問題はそこなんだよ。彼らは面倒くさがって、私のことを「ピーグー」と呼ぶんだよ）

(L₁)は、ここでは「P 谷（ピーグ）」と「屁股（ピーグ／意味：尻）」という正当な発声、発音とのギャップが生まれている。

次に、「愛情公寓」3-8のテキストから、車を借り運転する一菲と美嘉が、車内で行き先の場所が分かっておらず困るシーンを抽出する。

[3.7] 一菲：那我们现在怎么办？(L₁)（それなら、私たちはどうすればいいのよ？）

美嘉：说明书上说，这车有 on star。（説明書には、この車は on star が搭載されていると書いてあるわ）

一菲：什么 star？(L₂)（何の star？）

美嘉：on star 是无线技术和全球定位系统卫星向汽车提供的完善无线服务。只要一个键就能连上客服中心。全程语言帮助解决问题。（on star は自動車

向けに無線技術および地球全土の衛星配置システムによる完全な無線サービスだと書いてあるわ)

一菲：行行行、行了。別念广告词了。(L₃) (もういい、もういい。宣伝の原稿を読まなくていい)

(L₁)は、地図という根本的なものが欠落していることに気づき困り果て、疑問形のように攻撃的なセリフであることから発話の意味と解釈のズレの性質を持っている。(L₂)は、外来語に関して、まったく分かっていないことの聞き返りで、未熟性とのギャップが生まれている。「最後の部分だけは聞き取れたが、それ以外は聞き取れなかった」という言葉のプロセスを省略し「何の star?」とぶっきらぼうに聞き返している。(L₃)は、シボレー(雪佛兰)ブランドによる番組へのプロダクト・プレイスメントが行われたことを認めるセリフが突然、出現する。ドラマという虚構空間で「広告のセリフを読む」ということは通常、視聴者には「広告とは分からない形で成される」ことが一般的だが、このシーンでは一菲が「広告を読まなくていい」と、あえて、プロダクト・プレイスメントを暴露するようなセリフが投入されている。視聴者は、虚構のストーリーを見ているはずだったが、急に、広告が出現するという想定外の枠組みの変化にさらされることになる。このような視聴者の視線の枠組みの変化を、フレーミングの変化と規定する。このシーンでは、固有名詞が挿入されたわけではなく、登場人物がシットコムという前提が存在することを口走ったことに要因がある。虚構の中に現実を入れ込むメタ構造の要因も強いが、ここでは、想定外の事態が起きるというフレーミングの変化という性質も見いだせる。

3.2.3. 分類結果

3.2.1 で説明した方法で、対象作品の対象エピソードのテキスト分析を行い(プロセスの例を付録1、2に示す)ラフ・トラックの生成要因の性質に関する分類を設定した。分類項目は(A)から(H)とし、分類の基準は以下のように設定した。表3.1にその内容を示す。

表 3.1 シットコムの笑い挿入箇所の大分類の性質と分類基準

分類記号	性質	分類基準
(A)	未熟性とのギャップ	大人が本来取るべき行動ではない（想定と一致しない）幼稚な行動や人間としての未熟性によって引き起こされるミスなどが含まれる。行動レベルによって起きる。
(B)	実在と虚構の混在	場面の当事者間では虚言や過ちが判明しようがないが、視聴者が持つ俯瞰性によって気づいたり、判明したりする。ウソ（妄想、空想、仮定）を土台にした「本当」の積み上げ。「本当」を前提にしたウソ（妄想、仮定、虚構、フィクション）の積み上げにより作られる。
(C)	エネルギーの移行	場面の空気感や状態が変化することによって起きる笑いのタイミングを指す。緊張から緩和がエネルギー理論における一般的な方向性だが「気まずさ」「警察ザタ」「食物アレルギー」「高価なものの紛失」のような緩和から緊張への方向性も含まれる。
(D)	発話の意味と解釈のズレ	会話の構成、発話の組み合わせによって起きる。発話者と聴き手の解釈のズレによって引き起こされる。
(E)	正当な発声、発音とのギャップ	発音されるべきところと違う発音のされ方や声真似など、声の出し方や発し方を要因として起こる。言語的要因、音韻、音の高低によって発生する。
(F)	優越性の認識	もともとの（先天的な）違いを嘲笑するもので、優越性を根拠とする。優越性の認識を伴ったエスニックや、自文化・他文化の未理解によって起こる。
(G)	フレーミングの変化	シーン冒頭に奇妙な動作をしているカットや立場が急に逆転するなど、シーンの変化や状況が変化する。
(H)	その他	A から G のいずれにも該当しない要因。

(A) には、視聴者や社会が一般的に想定するものとは違うような人間の幼稚で未熟な行動、(B) には、シットコムが持つ虚構性をベースにした場面の当事者間では判明しようがないが、視聴者が持つ俯瞰性によって気づく、判明する性質のシーン、(C) には、緩やかなムードが、急に緊張感を帯びたり、緊張ムードが急に緩やかになったりする状態の変化を指す。(D) には、会話としての構成によって起きる発話、発話の意味と解釈にズレが生じ面白みを発生する箇所を分類した。(E) は、発音されるべきところと違う発音のされ方や声真似など、言語や音声を要因として起こる発話を分類した。(E) も、一般的な想定とそのシーンにおいて実際に起きたことのズレを要因とした箇所であるが、(A) は動作レベルで、(E) は言語レベルとする。(F) は、もともとの（先天的な）違いを嘲笑し、優越性を根拠とした言動を分類した。(G) は、カットの変化や状況が変化するによって、視聴者の視線の枠組みが変わるフレーミングが変わり、ラフ・トラックの発生ポイントとなるシーンを分類した。俯瞰性を持つ点では (B) とも共通するが、(G) はシーンの内容よりも、シナリオや編集によってシーンが意図的に動かされたりするポイントを指す。(H) は、(A) から (G) のいずれにも該当しない要因をその他として振り分けた。

なお、表 3.2 に大分類と第 2 章で示した各理論の対応について示す。

表 3.2 理論と大分類の対応

大分類の内容	対応する理論
A：未熟性とのギャップ	不一致理論
B：実在と虚構の混在	メタ構造（理論対応なし）
C：エネルギーの移行	エネルギー理論
D：発話の意味の解釈	関連性理論
E：正当な発声、発音とのギャップ	不一致理論
F：優越性の認識	優越理論
G：フレーミングの変化	不一致理論
H：その他	

大分類（B）はシットコム特有の「メタ構造」であり、ユーモアに関する理論や関連性理論は対応しにくいと考えた。

3.3. 小分類

3.3.1. 分類結果

前節では、ラフ・トラック挿入の性質に関して分類を行なったが、分類の過程で、さらに細かく分類できる余地があり、より細分化することで、米中シットコムの性質の共通性と差異をより明確に把握できると考えた。そこで、前節で設定した分類を大分類とし、各大分類の下位分類として、詳細な小分類を設定した。小分類は、(D11)、(A17)のように、大分類を示す(A) - (H)の後に連番で数字を振った。方法は、大分類の設定時と同様にテキストを分析することにより規定していった。分類結果の詳細を、表 3.3 に示した。

表 3.3 ラフ・トラックの挿入ポイントの小分類と内容

大分類	小分類	内容	小分類	内容
A：未熟性とのギャップ	A1	容易に見抜けることに騙されている様子	A2	空気の読めなさ
	A3	無垢で悪意のない異常性	A4	できない注文にできると言う無謀さ
	A5	妙なこだわり	A6	約束に対する抜けがけ
	A7	嫉妬心を大げさに掻き立てる行為	A8	大声での怒鳴り
	A9	一心不乱な動作	A10	不適切な時間帯の行動
	A11	ケチな振る舞い	A12	頭の悪さ、常識の無さ
	A13	動作の異常な速さや遅さ、反復	A14	決めつけとその勘違い
	A15	下心	A16	ミスの発生やミスを認める行為
	A17	融通の利かなさ	A18	子供の子供らしくない振る舞いや意見
B：実在と虚構の混在	B1a	世論の代弁	B1b	実在しているものの話題への挿入
	B2	発話内の自己矛盾	B3	誇張
	B4	奇妙なこだわりを正当化する論理性	B5	虚構に関する真剣な議論
	B6	新知識に由来した複雑な説明	B7	夢や空想であると判明
	B8	ウソを吹き込まれて、本気になる行為	B9	ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為
	B10	ウソがばれての水の泡	B11	奇妙な提案
	B12	安易なウソ	B13	作戦の成功
C：エネルギーの移行	C1	態度の急激な和らぎ	C2	仕掛け、復讐、悪巧みの失敗
	C3	奇妙な動作	C4	話題がなく沈黙
	C5	外見の変形	C6	高価なものを紛失
	C7	警察沙汰になった後の展開	C8	予想外のシリアスな反応
	C9	顛末の省略		
D：発話の意味と解釈のズレ	D1	聞き手の勘違い	D2	拡大解釈
	D3	自慢	D4	好戦的な問いかけ
	D5	汎用性の高い答え	D6	不自然な比喩や例示
	D7	推意すべきところの表意での解釈	D8	表意は平凡、推意は卑猥
	D9	本音と建前のギャップ	D10	回りくどい言い換え
	D11	奇妙な現実やミスの指摘	D12	遠回り
	D13	嫌悪感の表示	D14	同音異義語や似た音での聞き違い
E：正当な発声、発音とのギャップ	E1	韻の発生	E2	早口言葉
	E3	モノマネ	E4	音の高低
	E5	インパクトのあるワード		
F：優越性の認識	F1	エスニック	F2	障害や病気に関する表現
	F3	自文化、異文化の未理解による失敗		
G：フレーミングの変化	G1	決めごとに対する想定外の事態	G2	シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作
	G3	唐突な話題の挿入や転換	G4	立場の逆転、変化
H：その他	H1	映像的効果		

大分類 (A) の「未熟性とのギャップ」からは、簡単に見破られそうな嘘に騙されている様子や、空気の読めない行動、無垢で悪意のない異常性などの行動を小分類として設定

した。大分類 (B) の「実在と虚構の混在」からは、世論が持つ正論の代弁、実在人物や実在キャラクターを登場人物の会話へ挿入することなど、場面の当事者間では判明しようがないが、視聴者が持つ俯瞰性によって気づく、或いは判明するという面白みの要素を含むラフ・トラック挿入ポイントを分類した。大分類 (C) の「エネルギーの移行」として、態度の豹変や、仕掛け・復讐・計画・悪巧みの情けない失敗など場面の空気感や状態が変化することによって起きる要素を分類した。大分類 (D) 「発話の意味と解釈のズレ」では、本音と建前のギャップや、奇妙な現実の指摘など、会話の構成、発話の組み合わせによって起きる要素を分類した。大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」では、同音異義語・似た音で間違いや音の高低など、発音されるべきところと違う発音のされ方や声真似など、言語や音声を要因として起こる要素を分類した。大分類 (F) 「優越性の再認識」では、エスニックや自文化・異文化の未理解により起こる要素を分類し、大分類 (G) 「フレーミングの変化」では、決めごと・規定路線に対する想定外や、シーンの変化や状況が変化することによって、笑いのポイントとなる要素を分類した。大分類 (H) 「その他」では、大分類 (A) から大分類 (G) に当てはまらない映像的效果を振り分けた。

3.3.2.1. 大分類 (A) 「未熟性とのギャップ」の小分類

小分類の項目に対する詳細な内容を示す。

大分類 (A) は、大人が本来取るべき行動ではない（想定と一致しない）幼稚な行動や人間としての未熟性によって引き起こされるミスなどが含まれる。第2章で示した不一致理論で説明される。本項では、大分類 (A) 「未熟性とのギャップ」からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

(A1)：容易に見抜けることに騙されている様子

普通は騙されないような、人間として成熟していれば容易に見抜けるレベルの嘘に騙されている様子を指す。

(A2)：空気の読めなさ

場の空気を読めないキャストが、無関係な言動や場の空気を壊すような言動を取る。人間として未熟なために空気が読めないと判断できる。

(A3)：無垢で悪意のない異常性

無垢な性格のキャストが、悪意はないが異常な行動を取る。

(A4)：できない注文にできると言う無謀さ

視聴者が客観的に捉えれば実行が不可能な注文や要請に対し、「できる」と答えてしまう無謀な行動を指す。

(A5)：妙なこだわり

特定の登場人物の妙なこだわり。意味がないようなことに一生懸命、行動する。また、一生懸命行動しても、結果的に見返りが低い行動を指す。

(A6)：約束に対する抜けがけ

出演キャスト同士で暗黙のうちに決まっていることや約束に対する一方の抜け駆けや裏切りと、その結果を指す。人間関係の破壊を誘発しかねないために未熟性に分類した。

(A7)：嫉妬心を大げさに掻き立てる行為

相手の嫉妬心をわざとらしく大袈裟に掻き立てる。幼稚な行動と判断できるため、大分類 (A) に分類した。

(A8)：大声での怒鳴り

登場人物同士が大声で怒鳴り合う。このようなシーンは、ラフ・トラックが挿入されないケースもあるが、大声で怒鳴り合うことによってラフ・トラックが挿入されるケースもある。

(A9)：一心不乱な動作

音楽やダンス、歌うことに一心不乱になっている様子を指す。熱唱やテレビゲームに夢中になり過ぎて過剰に体を動かす。

(A10)：不適切な時間帯の行動

夜中などの不適切な時間帯に行動をしている。

(A11)：ケチな振る舞い

金銭面に対して執着している様子を指す。金銭的な割引や、他人におごってもらうことに腐心する。人間的に成熟してくればそういう振る舞いは薄れることが想定されるため、大分類 (A) に振り分けた。

(A12)：頭の悪さ、常識の無さ

登場人物の知識や常識が欠落している様子を指す。

(A13)：動作の異常な速さや遅さ、反復

動作が異常に速かったり遅かったりする様子や、時間が経ってもまだ同じことをやっていることを指す。普通の手速や回数ではないことに幼稚性を見出せるため、大分類 (A) に振り分けた。

(A14)：決めつけとその勘違い

何かが発生した時に、発生理由について確信を持って推測するが、その推測が見当違いな場合を指す。

(A15)：下心

色恋などに発生する下心に由来する行為を指す。付随して幼稚な行動が露見する場合もある。

(A16)：ミスが発生やミスを認める行為

誤った判断や場に不相応な行為をしてしまう。ミスの発生のみならず、ミスも認める行為も含まれる。

(A17)：融通の利かなさ

周囲の雰囲気や状況を考慮せず、自分のこだわりを主張する場違いな行動を指す。

(A18)：子供の子供らしくない振る舞いや意見

子供の登場人物が、大人のような成熟した論理性や行動、考え方を堂々と示す。

3.3.2.2. 大分類 (B)「実在と虚構の混在」の小分類

大分類 (B)「実在と虚構の混在」は、場面の当事者間では判明しようがないが、視聴者が持つ俯瞰性によって気づくことや、判明するものを指す。コメディという虚構世界に差し込まれた事実によるものであり、実在性と架空性のものが混在している状態を指す。ここでは、大分類 (B) からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

(B1)：世論の代弁

世間一般に正論とされることの代弁とした。世間やメディアが圧倒的に押している流れとは反対の表面化しない潜在的な世論の表現になることもある。

(B2)：実在しているものの話題への挿入

登場人物の会話に、実在人物や実在するキャラクター、ニュース性の高い話題が挿入されることを指す。(B1)、(B2) は、時事性が取り込まれた形といえる。

(B3)：発話内の自己矛盾

登場人物の発話に自己矛盾が引き起こされているが、登場人物本人が気づいていない。発話が現実と乖離している妄想の性質のため矛盾が起きており、矛盾を起こしている発話部分は虚構的といえる。

(B4)：誇張

視聴者の俯瞰的視野により、誇張されていると認識できるものを指す。誇張の部分は架空であり、俯瞰的視野がなければ状況的に認識されにくい事象を示す。

(B5)：奇妙なこだわりを正当化する論理性

実在する虚構の作品やキャラクターに対し、登場人物が持つ奇妙なこだわりを正当化するレベルの圧倒的な論理性を指す。

(B6)：虚構に関する真剣な議論

虚構の作品に関し、あたかも現実に存在するかのようなトーンで真剣に議論を行う様子を指す。

(B7)：新知識に由来した複雑な説明

登場人物内の聞き手や視聴者にとっての新しい知識をもとに、複雑な説明や誇大妄想が展開される

(B8)：夢や空想であると判明

とんでもない展開となるが、実は夢や空想だったことが判明する。

(B9)：ウソを吹き込まれて、本気になる行為

ウソや間違った知識を吹き込まれて、本気やその気になる。ウソや間違った知識は架空であり、吹き込まれた登場人物は間違った知識だと分かっていない。

(B10)：ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為

初めのウソ、ミスが露見しないように、連続的にウソを重ねる。

(B11)：ウソがばれて水の泡

ついてきたウソがばれて、それまでの計画が水の泡となる。

(B12)：奇妙な提案

突拍子もなく奇妙な提案がなされる。奇妙な提案は実際には実行が不可能に近い場合、実在の中に虚構が混在していると考えられる。

(B13)：安易なウソ

軽率にウソをつく。

(B14)：作戦の成功

作戦や仕掛けが、当人達の思惑通りに成功する。思惑は当初、思い描く架空のシナリオであるが、それが実現する。虚構と現実が混在することを示し、作戦の成功は、視聴者の俯瞰的視野によって把握できる。

3.3.2.3. 大分類 (C) 「エネルギーの移行」の小分類

大分類 (C) 「エネルギーの移行」は、場面の空気感や状態が変化することによって起きる。第2章のエネルギー理論で示したように緊張状態から緩和状態へといったエネルギーの動きによって生じる面白さを指す。緊張は、場の張りつめた空気、緊張した雰囲気を示し、緩和は、場の和らぐ雰囲気、ゆったりとした空気感と言い換えることができる。従来、緊張から緩和へという動きが面白さをもたらすとされてきたが、シットコムでは、緩和から緊張へという動きでも、ラフ・トラックの挿入ポイントとなり得る。ここでは、大分類 (C) からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

(C1)：態度の急激な和らぎ

緊張していた態度が急激に和らぎ、軟化する。

(C2)：仕掛け、復讐、悪巧みの失敗

何かを仕掛けたり、復讐をたくらんだり、悪巧みを実行しようとして、緊張感を伴うが、そのもくろみは失敗に終わる。(B11)「ウソがばれて水の泡」は言葉のミスによって嘘がバレるという失敗に重点が置かれるが、本項目は、場の空気感の移行に重点が置かれる。

(C3)：奇妙な動作

場を和ませるような、奇妙で風変わりな動作をする。雰囲気が緊張から緩和に変わる性質を持つ。

(C4)：話題がなく沈黙

緊張感や共通の話題がないといった理由で、会話が続き沈黙する。沈黙時間は短くとも、気まずい空白という認識がなされればラフ・トラックの発生ポイントとなる。

(C5)：外見の変形

アクシデントによる顔や外見の変形。アレルギー発生などで顔が変形することで、緊急事態発生となる（実際のアレルギー発生後の顔は特殊メイクによって作られている）。

(C6)：高価なものを紛失

大事な贈り物や財布など高価なものを紛失する。あるいは、紛失したことでの緊迫した展開を指す。

(C7)：警察沙汰になった後の展開

警察沙汰になるということは一般生活に於いては過酷な緊張状態となるが、シットコムでは、警察沙汰のシチュエーションへの変化は面白みを引き起こす。

(C8)：予想外のシリアスな反応

楽観的な流れが予測できるところで、予想外に、まじめな反応や惨劇、激しい対応が起きる。雰囲気は緩和から緊張に変わる。

(C9)：顛末の省略

顛末を省いて結論を出す。プロセスがスキップされ、事象と事象の顛末の重要な部分が省略され、次のカットで、奇妙な結果になっている。顛末が省略されると話が急に展開したように見え、緊張が緩和に、緩和からの緊張という場のエネルギーの動きが明確に示される。

3.3.2.4. 大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」の小分類

大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」では、会話の構成、発話の組み合わせによって起きる、発話者と聴き手の解釈にズレが起きることにより面白みが引き起こされる性質の箇所を分類した。第2章で示した関連性理論によって説明がつく。以下に、大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

(D1)：聞き手の勘違い

言葉足らず、或いは、解釈の際にミスや誤解が生じ、聞き手の勘違いが起きる。

(D2)：拡大解釈

聞き手が発話者の表意を勝手に大きく推意することで、不必要な拡大解釈を生む。

(D3)：自慢

自分の能力や実績を顕示する自慢を指す。発話側は示したいことを事実として話しているが、聴き手側は自慢だと感じてうんざりしている。愚痴に見せかけた自慢も含まれる。

(D4)：好戦的な問いかけ

文法上は疑問形を取っているが、その問いかけに好戦的な態度や相手への攻撃性が示されている。発話の意味が悪く解釈される。逆説的な問いかけも含まれる。

(D5)：汎用性の高い答え

どういう問いに対しても通用するような汎用性の高い答えを指す。汎用性の高い答えは、会話内では適当にやり過ぎることができ、便利である。答えをする発話者が適切な答えを考えず適当な答えでその場を凌ごうとする時に、その適当さを視聴者が解釈することにより、面白さに変わる。発話者は丁寧に言葉を発したとしても、聴き手は適当さに焦点を当てて解釈し、このズレによって面白みが引き起こされる。

(D6)：不自然な比喻や例示

状況に適していない比喻や例示が用いられており、発話者は意図を持って発話しても、聴き手は意味が分からないというズレが起きる。

(D7)：推意すべきところの表意での解釈

視聴者は状況を鑑みて推意して受け取っているが、登場人物の聞き手は表意で受け取っている。

(D8)：表意は平凡、推意は卑猥

表向きは卑猥な表現をしていないが、視聴者の推意で卑猥な解釈をさせようとしている。

(D9)：本音と建前のギャップ

発話上の本音と建前のギャップが乖離している。本音と建前の解釈のズレを視聴者が把握することで面白みが生まれる。

(D10)：回りくどい言い換え

発話の説明がわざわざ回りくどい言い換えとなっている。回りくどく言い換えることで、表意と推意の関連性が低くなり、聞き手にスムーズに伝わりにくくなる。

(D11)：奇妙な現実やミス of 指摘

奇妙な現実やミスが、登場人物の発話によって指摘される。発話によって、推意前提を提示し、視聴者に面白みを伝えようとすることもある。

(D12)：遠回り

普通の結論にスムーズに到達せず、別のステップを踏んで遠回りする。遠回りしていることを視聴者が解釈し、面白みが生まれる。(D10)と類似しているが、(D10)は発話による言い回し、(D12)は事の流れのステップに重点を置く。

(D13)：嫌悪感の表示

喧嘩や陰悪な雰囲気の中で、出演キャスト同士で発話や表情により嫌悪感が示される。嫌悪感を視聴者が解釈し、面白みが生まれる。

(D14)：同音異義語や似た音での聞き違い

同じ発音で違う意味の単語や、似たような発音の発生で勘違いや聞き違いが起きる。発話者の音と受け手の意味の間にギャップが生じる。本項目は、大分類 (E) とも関連があるが、音声的な問題よりも、発話者の意図と聴き手の解釈のズレの方が強く起因していると考えられるため、大分類 (D) の下位分類とした。

3.3.2.5. 大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」の小分類

大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」は、声の出し方、音の出し方の標準とのギャップを要因として起こすものを指す。同音異義語や近い音による解釈のズレ、音声を起因とする誤解の要素が含まれる。ここでは、大分類 (E) からさらに分類した小分類項目を具体的に挙げていく。

(E1)：韻の発生

発話の中で、韻を踏むことや、似た響きの単語が一定のペースで生じる。韻は日常の会話ではあまり起こらないことなので、通常の発話の響きとのギャップが生まれる。

(E2)：早口言葉

早口で長く発話する。音のリズムの速さが正当な発声、発音とのギャップが生まれている。

(E3)：モノマネ

登場人物が、別の登場人物や実在人物のモノマネをすることで笑いが起きる。音に関係したパロディもこの分類の中に含む。

(E4)：音の高低

発音の高低が付けられる。英語では、文末のトーンを高くすることで、疑問形となる。平叙文の文末を高くすることで、意図的に疑問形に変化させる。驚きや興奮で、声が裏返ることも、音の高低に区分される。

(E5)：インパクトのあるワード

悔しさや罵りを表現する際に、インパクトのある単語や過激な単語が使用される。意味よりも、インパクトのある強い音感の単語の出現により面白さが生まれていると解釈し、大分類 (E) に振り分けた。

3.3.2.6. 大分類 (F) 「優越性の認識」の小分類

大分類 (F) 「優越性の認識」は、先天的な違いを嘲笑するもので、優越性を根拠とした性質を指す。登場人物が持つ優越性を視聴者が認識することで、面白みが生まれる。第2章で示した優越理論で説明がつく。ここでは、大分類 (F) からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

(F1)：エスニック

エスニックを意識した区別や差別。民族や国家、国籍、血筋などの区別、差別が表現される。差別的な表現も、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

(F2)：障害や病気に関する表現

目の見えない人や病気を患う人を話題にした表現を指す。

(F3)：自文化、異文化の未理解による失敗

自国文化や異国文化を理解していないことで失敗が起きる。文化を理解していないということを視聴者が認識することで面白みが生まれる。

3.3.2.7. 大分類 (G)「フレーミングの変化」の小分類

大分類 (G)「フレーミングの変化」は、構図が変化することで、シーンの変化や状況、物の見方や角度が変化することによって、笑いのポイントとなるものを指す。ここでは、大分類 (G) からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

(G1)：決めごとに対する想定外の事態

決めごとや約束事が設定されるが、想定外の出来事が起きて、予定通り行われなくなる。そうなるだろうという暗黙の決めごとというフレーミングが想定外の事態によって変化している。

(G2)：シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作

シーン変わりの冒頭、登場人物が奇妙に見える動きをしている。シーンの途中であれば動きの意味が分かり面白さは生まれませんが、シーンの冒頭なので、視聴者は動きの意味が分からない。視聴者は、これまで見ていたフレーミングの唐突な変化を感じる。

(G3)：唐突な話題の挿入や転換

話の流れにそぐわないような急な話題の挿入や発言など。第三者の発言などによって会話がさえぎられ、話題が転換することもある。これまで展開されていた話題というフレーミングが変化する。

(G4)：立場の逆転、変化

立場の優位性や好守が逆転したり、変化したりする。不利な立場が、一つのきっかけで、有利な立場へ急に変化する。それまでの登場人物間の関係性のフレーミングが変化する。

(H)「その他」には、大分類 (A) から (G) に振り分けられない性質として、(H1)として、スローやパーンナップなど映像や編集の効果による「映像的效果」を設定した。

3.4. 分類別発生件数の比較分析と考察

米中の代表的なシットコム計6作品の研究対象エピソードのラフ・トラック挿入ポイントの性質が、どの小分類項目に当てはまるかを、テキストを起し確認していった。発生回数と割合を表3.4に示す(番組ごとの発生回数と割合を含めた表は付録3に示す)。

表 3.4 米中シットコム 6 作品に於けるラフ・トラック挿入ポイントの合計と小分類の割合

	内容	米国合計		中国合計		米中合計	
		回数	パーセンテージ	回数	パーセンテージ	回数	パーセンテージ
A1	容易に見抜けることに騙されている様子	5	0.4%	4	0.4%	9	0.4%
A2	空気の読めなさ	30	2.4%	18	1.8%	48	2.2%
A3	無垢で悪意のない異常性	16	1.3%	6	0.6%	22	1.0%
A4	できない注文にできると言う無謀さ	0	0.0%	2	0.2%	2	0.1%
A5	妙なこだわり	37	3.0%	29	3.0%	66	3.0%
A6	約束に対する抜けがけ	7	0.6%	7	0.7%	14	0.6%
A7	嫉妬心を大げさに掻き立てる行為	1	0.1%	0	0.0%	1	0.0%
A8	大声での怒鳴り	4	0.3%	7	0.7%	11	0.5%
A9	一心不乱な動作	19	1.5%	13	1.3%	32	1.4%
A10	不適切な時間帯の行動	5	0.4%	1	0.1%	6	0.3%
A11	ケチな振る舞い	0	0.0%	9	0.9%	9	0.4%
A12	頭の悪さ、常識の無さ	20	1.6%	17	1.7%	37	1.7%
A13	動作の異常な速さや遅さ	1	0.1%	2	0.2%	3	0.1%
A14	決めつけとその勘違い	18	1.4%	18	1.8%	36	1.6%
A15	下心	14	1.1%	2	0.2%	16	0.7%
A16	ミスの発生やミスを認める行為	38	3.0%	25	2.5%	63	2.8%
A17	融通の利かなさ	13	1.0%	12	1.2%	25	1.1%
A18	子供の子供らしくない振る舞い、意見	11	0.9%	4	0.4%	15	0.7%
		239	19.1%	176	17.9%	415	18.6%
B1	世論の代弁	9	0.7%	2	0.2%	11	0.5%
B2	実在しているものの会話の話題への挿入	23	1.8%	4	0.4%	27	1.2%
B3	発話内の自己矛盾	35	2.8%	18	1.8%	53	2.4%
B4	誇張	30	2.4%	71	7.2%	101	4.5%
B5	奇妙なこだわりを正当化する論理性	33	2.6%	15	1.5%	48	2.2%
B6	虚構に関する真剣な議論	49	3.9%	11	1.1%	60	2.7%
B7	新知識に由来した複雑な説明	18	1.4%	8	0.8%	26	1.2%
B8	夢や空想であると判明	4	0.3%	0	0.0%	4	0.2%
B9	ウソを吹き込まれて、本気になる行為	2	0.2%	7	0.7%	9	0.4%
B10	ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為	6	0.5%	32	3.3%	38	1.7%
B11	ウソがばれて水の泡	5	0.4%	7	0.7%	12	0.5%
B12	奇妙な提案	12	1.0%	27	2.8%	39	1.7%
B13	安易なウソ	13	1.0%	7	0.7%	20	0.9%
B14	作戦の成功	1	0.1%	4	0.4%	5	0.2%
		239	19.1%	213	21.7%	452	20.3%
C1	態度の急激な和らぎ	25	2.0%	29	3.0%	54	2.4%
C2	仕掛け、復讐、計画、悪だくみの失敗	16	1.3%	15	1.5%	31	1.4%
C3	奇妙な動作	18	1.4%	15	1.5%	33	1.5%
C4	話題がなく沈黙	21	1.7%	6	0.6%	27	1.2%
C5	外見の変形	0	0.0%	2	0.2%	2	0.1%
C6	高価なものを紛失	1	0.1%	2	0.2%	3	0.1%
C7	警察沙汰になった後の展開	0	0.0%	1	0.1%	1	0.0%
C8	予想外のシリアスな反応	37	3.0%	42	4.3%	79	3.5%
C9	顔末の省略	36	2.9%	11	1.1%	47	2.1%
		154	12.3%	123	12.5%	277	12.4%
D1	聞き手の勘違い	10	0.8%	5	0.5%	15	0.7%
D2	拡大解釈	3	0.2%	12	1.2%	15	0.7%
D3	自慢	9	0.7%	1	0.1%	10	0.4%
D4	好戦的な問いかけ	24	1.9%	22	2.2%	46	2.1%
D5	汎用性の高い答え	22	1.8%	15	1.5%	37	1.7%
D6	不自然な比喩や例示	55	4.4%	36	3.7%	91	4.1%
D7	推意すべきところの表意での解釈	11	0.9%	3	0.3%	14	0.6%
D8	表意は平凡、推意は卑猥	6	0.5%	11	1.1%	17	0.8%
D9	本音と建前のギャップ	42	3.4%	4	0.4%	46	2.1%
D10	回りにくい言い換え	78	6.2%	43	4.4%	121	5.4%
D11	奇妙な現実やミスの指摘	180	14.4%	119	12.1%	299	13.4%
D12	遠回り	28	2.2%	17	1.7%	45	2.0%
D13	嫌悪感の表示	10	0.8%	26	2.7%	36	1.6%
D14	同音異義語や似た音での聞き違い	1	0.1%	10	1.0%	11	0.5%
		479	38.3%	324	33.0%	803	36.0%
E1	顔の発生	9	0.7%	3	0.3%	12	0.5%
E2	早口言葉	3	0.2%	0	0.0%	3	0.1%
E3	モノマネ	22	1.8%	16	1.6%	38	1.7%
E4	音の高低	11	0.9%	2	0.2%	13	0.6%
E5	インパクトのあるワード	8	0.6%	3	0.3%	11	0.5%
		53	4.2%	24	2.4%	77	3.5%
F1	エスニック	4	0.3%	2	0.2%	6	0.3%
F2	障碍や病気にに関する表現	1	0.1%	0	0.0%	1	0.0%
F3	自文化、異文化の未理解による失敗	0	0.0%	13	1.3%	13	0.6%
		5	0.4%	15	1.5%	20	0.9%
G1	決めごとに対する想定外の事態	32	2.6%	42	4.3%	74	3.3%
G2	シーン冒頭の衝突で奇妙に見える動作	17	1.4%	14	1.4%	31	1.4%
G3	唐突な話題の挿入や転換	21	1.7%	24	2.4%	45	2.0%
G4	立場の逆転、変化	9	0.7%	26	2.7%	35	1.6%
		79	6.3%	106	10.8%	185	8.3%
H1	映画的効果	2	0.2%	0	0.0%	2	0.1%
		2	0.2%	0	0.0%	2	0.1%
	合計	1250		981		2231	

小分類の発生割合を米中ごとに上位順に並び替えると、表 3.5、表 3.6 の通りとなる。

表 3.5 米国シットコムにおけるラフ・トラック挿入個所の小分類の順位

上位順	小分類項目	割合	回数
1	D11: 奇妙な現実やミスの指摘	14.4%	180
2	D10: 回りくどい言い換え	6.2%	78
3	D6: 不自然な比喻や例示	4.4%	55
4	B7: 新知識に由来した複雑な説明	3.9%	49
5	D9: 本音と建前のギャップ	3.4%	42
6	A16: ミスの発生やミス認める行為	3.0%	38
7	A5: 妙なこだわり	3.0%	37
8	C8: 予想外のシリアスな反応	2.9%	36
9	C9: 顛末の省略	2.9%	36
10	B3: 発話内の自己矛盾	2.8%	35

表 3.6 中国シットコムにおけるラフ・トラック挿入個所の小分類の順位

上位順	小分類項目	割合	回数
1	D11: 奇妙な現実やミスの指摘	12.2%	119
2	B4: 誇張	7.3%	71
3	D10: 回りくどい言い換え	4.4%	43
4	G1: 決めごとに対する想定外の事態	4.3%	42
5	C8: 予想外にまじめな反応、惨劇、激烈な反応	4.1%	40
6	D6: 不自然な比喻や例示	3.7%	36
7	B10: ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為	3.3%	32
8	C1: 態度の急激な和らぎ	3.2%	31
9	A5: 妙なこだわり	3.0%	29
10	B12: 奇妙な提案	2.7%	26
10	D13: 嫌悪感の表示	2.7%	26
10	G4: 立場の逆転、変化	2.7%	26

米国で多く見られたラフ・トラック挿入ポイントの性質に、(B6)「虚構に関する真剣な議論」、(A5)「妙なこだわり」、(A2)「空気の読めなさ」が挙げられる。「*the Big Bang Theory*」のように奇異で多様なキャラクターを配す傾向にある米国シットコムの特徴とも言えよう。「新知識に基づいた複雑な説明」「矛盾」が米国で多用され、中国ではランク外であることも、英語の論理性の高さによる傾向と考えられる。

中国の上位ランキングで特徴的なのは、(B4)「誇張」や (D10)「回りくどい言い換え」で、大げさな表現が頻繁に用いられる傾向にある。(C1)「態度の豹変」、(G4)「立場の変化」など、言葉の組み合わせよりも、設定を変化させることによりラフ・トラックを挿入するタイミングを作る傾向も中国では多く見られる。(C9)「顛末の省略」は米国では2.8%で10位だが、中国では1.1%で少ない。中国独自で見られた手法として、(B4)「誇張」や (D10)「回りくどい言い換え」に加え、(G1)「決めごと、規定路線に対する想定外」、(C8)「予想外のシリアスな反応」が挙げられる。これらも会話の組み合わせを基調としたものではなく、設定レベルに動きや変化をつけて、ラフ・トラックを挿入しているという動きである。怒鳴りや叫びの数も米国に比べ多く、視聴者にケンカ構造を分かりやすく知らせることにより、ケンカでの言い合いの中に面白みを見出させる仕組みが作られているためと想定される。会話だけの展開ではなく、怒鳴る、口喧嘩、言い合い、しぐさを入れるなどの抑揚のある展開を加え、構造を分かりやすくさせている。

3.4.1. 笑いの構造の共通点

大分類で、米中両国に共通して最も高かったのは、(D)「発話の意味の解説」で、両国シットコムで、割合が30%を越えた。ラジオ用のコンテンツとして始まり、登場人物達の日常会話の設定から面白みを生み出すことを原点としているシットコムでは、セリフの応酬だけで組み立てる点で最もクラシカルな手法といえる。その中で、表意から推意前提や推意帰結を解説させる（第7章で詳述する）ことにより、効果的に面白みを感じさせている。

両国ともに次に高かったのが、大分類 (B)「実在と虚構の混在」で、両国とも20%近い割合を占めた。仮に現実世界で同様のことが発生した時に、登場人物当事者間では面白いとは認識されにくく、普通の会話をしているようにしか認識できない。しかし、ラフ・トラックが付与されているのは、視聴者が第三者的に俯瞰的に視聴することで面白みを感じるメタ構造を形成しているからと考えられる。社会情勢も反映させながら、視聴者の社会に対する想像を利用し、面白みを生む。無から有を生み出すためのメタ構造が生まれている。メタ構造で、視聴者の視野は広がり、視聴者がシットコムを楽しめる材料となる。

シットコムでは、プロットで発話と聞き手の解釈のズレを意図的に作成することによって、ラフ・トラックの挿入ポイントを発生させるケースが見られる。シットコムが、登場人物同士の会話を中心としてストーリーを展開させるため、登場人物は、実際の人々の生活で想定される発話よりも長く、理屈っぽく発話する傾向がある。その中に、ラフ・トラック挿入ポイントを設定するのが、米中シットコムの共通性である。

3.4.2. 笑いの構造の差異

3.4.2.1. 笑いの構造の大分類での差異

米中の大分類の差を示すため、 χ^2 検定で有意水準を0.05 (5%) とし、大分類項目で有意差が認められた項目を表3.7に示す(有意差をつけ割合が高かった方に○を付けている)。

表 3.7 米中シットコム間で有意差が認められた大分類項目

大分類項目	米国	中国
(D) 発話の意味と解釈のズレ	○	
(E) 正当な発声、発音とのギャップ	○	
(F) 優越性の認識		○
(G) フレーミングの変化		○

米国シットコムで大分類項目の割合が有意差をつけて高かったのは、(D)「発話の意味と解釈のズレ」、(E)「正当な発声、発音とのギャップ」であった。一方、中国シットコムで割合が高かったのは、(F)「優越性の認識」、(G)「フレーミングの変化」であった。

米国で、「発話の意味の解釈」が高かったのは、論理性を基軸とする英語では、その論理性の中で遊戯性を作る傾向が強く、「正当な発声、発音とのギャップ」が高かったのは、発音の標準が明確に存在し、その標準から崩れることを面白みとする背景があると推測できる。中国で「優越性の認識」の割合が高かったのは、自国、自民族を中心とする意識が制作者の思考の前提として存在することが考えられる。「フレーミングの変化」の割合が高かったのは、米国シットコムが発話の応酬によって展開する傾向があるのに対し、中国では設定を動かす傾向が出ているためだと考えられる。

3.4.2.2. 笑いの構造の小分類での差異

つづいて、米中の小分類の差を示すため、 χ^2 検定で有意水準を 0.05 (5%) とし、小分類項目で有意差が認められた項目を表 3.8 に示す (有意差をつけて割合が高かった方に○を付けている)。

表 3.8 米中シットコム間で有意差が認められた小分類項目

小分類項目	米国	中国
(A11) ケチな振る舞い		○
(A15) 下心	○	
(B2) 実在しているものの話題への挿入	○	
(B4) 誇張		○
(B6) 虚構に関する真剣な議論	○	
(B9) ウソを吹き込まれて、本気になる行為		○
(B10) ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為		○
(B12) 奇妙な提案		○
(C4) 話題がなく沈黙	○	
(C9) 顛末の省略	○	
(D2) 拡大解釈		○
(D3) 自慢	○	
(D9) 本音と建前のギャップ	○	
(D13) 嫌悪感の表示		○
(D14) 同音異義語や似た音での聞き違い		○
(E4) 音の高低	○	
(F3) 自文化、異文化の未理解による失敗		○
(G1) 決めごとに対する想定外の事態		○
(G4) 立場の逆転、変化		○

有意差をつけて、米国シットコムで小分類項目の割合が高かったのは、(A15)「下心」、(B2)「実在しているものの話題への挿入」、(B6)「虚構に関する真剣な議論」、(C4)「話題がなく沈黙」、(C9)「顛末の省略」、(D3)「自慢」、(D9)「本音と建前のギャップ」、(E4)「音の高低」であった。一方、中国シットコムで割合が高かったのは、(A11)「ケチな振る舞い」、(B4)「誇張」、(B9)「ウソを吹き込まれて、本気になる行為」、(B10)「ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為」、(B12)「奇妙な提案」、(D2)「拡大解釈」、(D13)「嫌悪感の表示」、(D14)「同音異義語や似た音での聞き違い」、(F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」、(G1)「決めごとに対する想定外の事態」、(G4)「立場の逆転、変化」であった。

米国で高かった小分類項目について、「下心」は、第2章の実験で被験者が記したように「米国のシットコムは下品」という表現からも見ることができる。米国シットコムでは、性的な表現について自由で奔放な傾向が、中国と比較して高いと考えられる。「実在しているものの話題への挿入」、「虚構に関する真剣な議論」は、視聴者が持つ俯瞰性を利用したメタ構造が成立している。実在部分を虚構であるシットコムで利用することは、視聴者大半が「実在部分を知っている」という前提が成立していると考えられる。中国では、実在部分を

入れ込む習慣が米国に比べ低く、実在部分を入れ込んだ場合の制作者のリスク（放送不許可の処置など）が発生することも考えられる。「話題がなく沈黙」については、会話間に一瞬の間をつくることで変化をつけて面白みがつけられるのは、米国シットコムが常に会話でテンポよく展開しているということを物語っている。「顛末の省略」は、顛末を省略することで面白みを出す傾向が米国シットコムに強いのは、元来、米国シットコムに会話の展開の顛末が省略されず論理の積み重ねによって進行する傾向が強いことと、顛末が省略されたことに対し視聴者がバグを検出できるという前提があるからこそ割合が高いと考えられる。「自慢」に関して、中国の傾向として自慢が少ないのは、自己アピールが少ない、或いは自己アピールを面白いと感じにくい傾向にあることが考えられる。「本音と建前のギャップ」については、本音と建前の乖離を読み取り、そこに面白みを感じうるという米国の風土があると考えられる。「音の高低」に関して、米国シットコムで割合が高かった理由として、中国語では、文末に「吗」をつけることで疑問形を表すが、英語では、平叙文の構造であっても文末のトーンを高くすることで疑問形を表すなど、文章の中に音の高低を用いることが考えられる。シットコムでは、他者に「疑問を投げかける」ことにより猜疑心を示したり、あるいは疑問形を平叙文に戻したトーンにすることで、相手からの要求を飲んだのを示すケースがある。米国シットコムでは、視聴者に疑問形がはっきりと伝わる手法である「音の高低」が中国に比べ多く用いられていると推察できる。

中国で高かった小分類項目について、「ケチな振る舞い」は、金欲や物欲を示すことである。第1章でも触れたように、苏（2019）は物質的な欲求は表現されにくいと示したが、対照的に本研究の調査では、中国シットコムでは、その傾向が米国に比べ数字の上では強かった。ただ、この小分類項目は、中国シットコムの中では新しい作品である「愛情公寓」が数値を引き上げており、中国シットコムが金欲や物欲を表現するような時代の変化が生まれてきたと考えることもできる。「誇張」については、米国では話の筋に投入した形で発話を展開し、ストーリーへの感情移入を維持したままラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られるが、中国シットコムは、状況から逸脱したあり得ないことや起こりにくい表現を盛り込んでも、ラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られた。「ウソを吹き込まれて、本気になる行為」、「ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為」、「奇妙な提案」については、中国シットコムは、発話の内容そのものが、虚構作品の中でも、さらに、登場キャラクターは現実とかけ離れた誇張や嘘といった正しくないことや、食い違うこと、論理性を欠くことを発話する傾向にあることを示している。その反面、米国シットコムでは、登場キャラクターは論理的で正しいことを言うなかで面白みを作ろうという方向性が見られることを示している。「拡大解釈」は、「誇張」にも通じるが、意図的に話を拡大させる傾向が中国に見られることを示している。「嫌悪感の表示」は、他人に対する対立を表現する傾向が中国に強いと考えられる。「同音異義語や似た音での聞き違い」については、大分類（D）の差異でも述べたように、言語的特性が表れている。「自文化、異文化の未理解による失敗」は、中国では、視聴者が自国文化を理解しているということを前提にしているため、

この類の面白みが成立すると考えられる。「決めごとに対する想定外の事態」と「立場の逆転、変化」は、中国シットコムが、設定を変えて面白みを出す傾向を示している。

3.6. まとめ

本章では、シットコムの傾向を詳細に調べるため、ラフ・トラック挿入ポイントの性質に関して、大分類項目と小分類項目を作成し、分類した。そして、米国と中国のシットコムの代表的な6作品におけるテキスト分析から各小分類に振り分けられたシーンについて、各シットコムのラフ・トラックの発生回数とそれぞれのラフ・トラックの性質がどの分類項目に振り分けられるか、各項目の総数が、全てのラフ・トラックの発生総数に対し、どれくらいの割合を占めているかと、米中それぞれの上位順を示した。

大分類項目について χ^2 乗検定を行なった結果、p 値が一般的な基準とされる 0.05 を下回り有意な差が認められた ($p < 0.05$) のが、大分類 (B)、(D)、(F)、(G) である。大分類 (D) が有意な差で、米国シットコムの方が高く、大分類 (B)、(F)、(G) が中国シットコムで高かった。大分類 (D) 「発話の意味の解釈」が米国で高いのは、米国シットコム (英語圏) が持つ言葉の論理性が由来していると考えられる。大分類 (B) 「実在と虚構の混在」が中国で高いのは、中国シットコムの方が虚構作品であるシットコムに現実を入れ込むパターンが多く入れられることを示していると考えられる。(F) 「優越性の認識」が中国で高いのは、他者と比較しての優越性が、中国の方が、米国よりも強く示されることを表す。また、(G) 「フレーミングの変化」が中国で高いのは、セリフでの起伏よりも、設定上の変化を多用する中国シットコムの性質が示されると考えられる。

小分類項目の上位順で、米中に共通して最も高い割合を占めたのが、(D11) 「奇妙な現実やミス の指摘」である。日常にはあまりいないキャラクターや生活環境を設定し、生活の中で起こりうる奇妙な現実やミスを、つぶやいたり指摘したりすることで視聴者に理解させ、ラフ・トラックの発生ポイントを作る効果がある。

米国で次に多く、中国でも比較的多用されているのは (D10) 「回りくどい言い換え」である。笑いを形成しようとする根本的な仕組みとして「回りくどさ=遠回り」は鍵を握ると考えられる。話者 A の問いに、話者 B はスムーズに答えを返せばよいのだが、シットコムでは、あえて遠回りをさせ、ラフ・トラックの挿入ポイントを作る傾向にあることが分かった。

次章以降では、主要な大分類項目について、本節で示した分類内容や上位順を用いながら、米中シットコムにおいて、ラフ・トラックの挿入ポイントの性質にどのような共通性と差異があるのかを、大分類 (A) から大分類 (G) までを順番に分析し、考察していく。

表 3.9 大分類項目の内容と本論文の章の位置

分類記号	性質	内容	本論文での章
(A)	未熟性とのギャップ	視聴者や社会が一般的に想定するものとは違うような人間の幼稚で未熟な行動。	第4章
(B)	実在と虚構の混在	シットコムが持つ虚構性をベースにした場面の当事者間では判明しようがないが、視聴者が持つ俯瞰性によって気づく、判明する性質のシーン。	第5章
(C)	エネルギーの移行	緩やかなムードが、急に緊張感を帯びたり、緊張ムードが急に緩やかになったりする状態の変化。	第6章
(D)	発話の意味と解釈のズレ	発音されるべきところと違う発音のされ方や声真似など、言語や音声を要因として起こる発話。	第7章
(E)	正当な発声、発音とのギャップ	一般的な想定とそのシーンにおいて実際に起きたことのズレを要因とした箇所。	第8章
(F)	優越性の認識	もともとの（先天的な）違いを嘲笑し、優越性を根拠とした言動。	第9章
(G)	フレーミングの変化	カットの変化や状況が変化することによって、視聴者の視線の枠組みが変わるフレーミングが変わり、ラフ・トラックの発生ポイントとなるシーン。	第10章
(H)	その他	(A) から (G) のいずれにも該当しない要因。	

第4章 大分類 (A) 「未熟性とのギャップ」の笑いの構造

前章で、シットコムの分析のために筆者が設定した大分類と小分類項目を示した。本章から第10章では、その分類項目を使用し、米中シットコムの笑いにどのような共通性と差異が見られるかの発現傾向と、理由、背景について説明する。各大分類 (A) から (G) まで順番に焦点を当て、大分類 (H) は「その他」であるため、除外する。

本章では、まず、大分類 (A) 「未熟性とのギャップ」によって発生する笑いのポイントに関して、どのような共通性と差異があるのかを明らかにする。定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (A) が当てはまる箇所を取り上げ、米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。定量分析では、大分類 (A) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析する。

4.1. 「未熟性とのギャップ」構造の概要

本節では、米中シットコムのテキスト事例から「未熟性とのギャップ」を示す例を挙げる。「*the Big Bang Theory*」1-14 から、リビングのソファで、サンドイッチを食べようとしている Sheldon、Raj、Howard の3人と、リビングの離れた場所で Leonard がパソコン作業をしているというシーンから抽出する。

[4.1] Sheldon: Well, this sandwich is an unmitigated disaster. I asked for turkey and roast beef with lettuce and swiss on wholewheat. (L₁) (このサンドイッチ、最悪だ。ターキー、ローストビーフ、レタス、チーズじゃない)

Raj: What did they give you? (それは?)

Sheldon: Turkey and roast beef with swiss and lettuce on wholewheat. It's the right ingredients but in the wrong order. (L₂) (ターキー、ローストビーフ、チーズ、レタス)

(Sheldon が、Raj の唾然とした表情を見る) (L₃)

Sheldon: In a proper sandwich the cheese is adjacent to the bread to create a moisture barrier against the lettuce. (L₄) They might as well have dragged this thing through a car wash. (L₅) (中身は正しいが、順番が違う。チーズは最後だ。レタスでパンが湿るのを防ぐためにね。洗車後みたいにビチャビチャ)

Leonard: I don't believe it. (ウソだ)

Sheldon: I know, it's basic culinary science. (L₆) (料理の基本だろ?)

(L₁)は、サンドイッチを食べる前からいきなり文句を言い始めている Sheldon の不満の強さと口調の強さにラフ・トラックが挿入されている。(L₂)は、わざわざサンドイッチの具材の順番を数えている Sheldon の意味不明な「こだわり」にラフ・トラックが挿入されている。ここでは、Sheldon のサンドイッチレベルを受け入れられない未熟性と言える。日常生活では「うっとうしい」と毛嫌いされる可能性のある行為やこだわりも、シットコム番組にはめこめば「面白み」に変わることがある。(L₃)は、Sheldon のこだわりに「あきれて物が言えない」様子の二人の表情にラフ・トラックが起きている。(L₄)はサンドイッチの「順番」にこだわるという Sheldon の「こだわりの強さ」にラフ・トラックが生成されている。たかだかサンドイッチの具材の並びを受け入れられない未熟性が示されている。(L₅)は、「奇妙なこだわりを納得させるような筋の通った説得力のある論理性」が成立し、笑いが生じている。Sheldon は複数の博士号取得者という設定であり、この設定が論理性の背景となっている。(L₆)は、Leonard がパソコンの画面に向かって「ウソだ」と言っているにも関わらず、Sheldon は自分に言われたと勘違いして「料理の基本だろ?」と応酬しているところにラフ・トラックが挿入されている。

つづいては、中国シットコム「愛情公寓」3-7 から、「未熟性とのギャップ」が適用できる例を示す。一菲の母親が、一菲に結婚相手を見つけようとしている。母親ははじめに呂子乔を薦めたが、一菲が渋い表情を見せた。そこで、母親は代案を示す。

[4.2] 妈妈：我们可以采取 B 方案。昨天一起吃饭的关谷。(L₁) (それならばプラン B でいきましょう) 长得不错、人又老实。虽然说话是二点、但是、至少比展博还要强。他特别像我插队落户的时候、分配粮食的张队长。(L₂) (男前だし、誠実な性格。話し方はちょっと変だけど、展博よりマシ。彼は、私が農村に行っていた時に食べ物を配布していた張隊長にそっくりだわ) 口音也像、要不是高考 1977、我和他… (発音も似てるし、もし 1977 の試験がなかったら、私と彼は…) (L₃)

一菲：妈、关谷是日本人。(お母さん、关谷は日本人です)

妈妈：好啊！我最喜欢混血小宝宝了。金发碧眼的多可爱啊！（いいじゃない！私は混血の赤ちゃんが好きなの。金髪で青い目をして可愛いじゃないの！）

一菲：日本人也是亚洲人！（L₄）（日本人は、アジア人だよ！）

(L₄)で「中国人が日本人と結婚すれば金髪の子供が生まれる」と母親が間違い、その勘違いを正すところでラフ・トラックが挿入されている。母親の無知さを正す行為となっている。

4.1.1. 「未熟性とのギャップ」の笑いの定性分析

本項では、分析対象作品のテキストを書き出して定性分析を行い、どのような傾向が発話内容に表れているかを確認する。定性分析を行うテキストは、恣意性を排除するため、米国と中国で発生割合に明確な差異が出ている項目の多い国の方の番組として一番初めに出現した箇所を選んだ。各項目の発生割合が高い作品は以下の通りである。下線部はラフ・トラックの挿入ポイントの該当箇所である。

表 4.3 小分類 (A) の発生割合と最も多く発生した番組

ケース番号	国	ラフ・トラック挿入箇所における面白さの小分類	最も多く発生した番組	発生割合
1	米国	(A2)「空気の読めなさ」	「Friends」	3.3%
2	米国	(A3)「無垢で悪意のない異常性」	「the Big Bang Theory」	0.7%
3	中国	(A8)「大声での怒鳴り」	「我爱我家」	1.0%
4	米国	(A10)「不適切な時間帯に行動」	「Full House」	1.2%
5	中国	(A11)「ケチな振る舞い」	「爱情公寓」	1.0%
6	中国	(A14)「決めつけとその勘違い」	「爱情公寓」	1.3%
7	米国	(A15)「下心」	「the Big Bang Theory」	0.8%
8	米国	(A16)「ミスの発生やミスを認める行為」	「Friends」	3.6%
9	米国	(A18)「子供の子供らしくない振る舞いや意見」	「Full House」	3.4%

各作品から、ラフ・トラック挿入箇所における面白さの小分類に該当する項目が、最初に出現した部分についてテキスト分析を行う。

【ケース番号 1】

「Friends」1-1

カフェ内で、Ross が元妻から離婚を切り出された時の様子を悔しそうに話している。

[4.3] Monica: Are you okay, sweetie? (兄さん、大丈夫?)

Ross: I just feel like someone reached down my throat, grabbed my small intestine, pulled it out of my mouth and tied it around my neck... (口から腸を引っ張り出されて、首に巻かれた気分だ。)

Chandler: Cookie? (クッキーいる?) (L₁)

(L₁)は (A2)「空気の読めなさ」で、Chandler が話の筋とは全く関係のない話をするところが、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 2】

「*the Big Bang Theory*」 1-1

Sheldon と Leonard がマンション内の階段で歩きながら話をしている。

[4.4] Sheldon: No, it's true, I did a series of experiments when I was twelve, my father broke his clavicle. (昔実験したら、父さんは鎖骨を折った) (L₁)

Leonard: Is that why they sent you to boarding school? (それで寄宿学校に?)

Sheldon: No, that was the result of my work with lasers. (L₂) (いや。レーザーの実験が原因さ)

(L₁)は (B6)「新知識に由来した複雑な説明」で、(L₂)は (A3)「無垢で悪意のない異常性」で、Sheldon の想像以上の異常性が表されていることが、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 3】

「我爱我家」 1-1

傅老が家族に対して家の仕組みを変えようと提言をしている。

[4.5] 傅老：当然是取之于民用之于民啦！我准备加快咱家基本建设的步伐、为提前进入小康做好充分的准备。(L₁) (もちろん、民間のためにやっているのです！私は家族の資本的な建設のペースを速め、事前に裕福な社会に参入するための十分な準備をするつもりです)

和平：是不是想把咱家的彩电换成“画王”？我早就说过么…… (L₂) (ひょっとして、家のカラーテレビを「画王」に買い替えたくなったのですか？かなり前からそうしてくださいと言ってたのに..)

(L₁)は (B3)「誇張」である。(L₂)は (A8)「大声での怒鳴り」で、テレビを買う計画に興奮し、皆で怒鳴り合う。

【ケース番号 4】

「*Full House*」 1-1

真夜中に、女の子達の部屋で、Stephanie と DJ が夜更かしをしており、Stephanie が歌いながら縄跳びをしている。

[4.6] Stephanie : (歌いながら) (L₁) Hey my name is Zippy and my hus' name's is Zoro. We come from San Fransico with the coddled up zebras. (L₂) Hey my

name is Alice. (私は Zippy、夫は Zoro、ゼブラに乗って来たの。私は Alice… (歌詞))

DJ : That's enough from jump rope. Lets do the hand jive. (L₃) (次はハンド・ジャイブよ)

(L₁)は (A10)「不適切な時間帯に行動」で、子供が夜中に縄跳びをしているという不適切な時間帯に行動しているという要因で、ラフ・トラックの挿入ポイントが発生している。(L₂)は (A9)「一心不乱な動作」で、夢中で歌っている。(L₃)は (A10)「不適切な時間帯に行動」で、深夜なのに、子供が遊びを止める様子もなく、さらに遊ぼうとしている。

【ケース番号 5】

「愛情公寓」1-1

3601 号室の様子にシーンが変わる。

[4.7] 一菲がパーティー用の食事をつまみ食いしている。(L₁)
(このシーンに発話はないが、つまみ食いの映像でラフ・トラックが発生している)

(L₁)は (A11)「ケチな振る舞い」で、一菲が自分で食事を買わずに、パーティー用として振る舞う食事を盗み食いするところにラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 6】

「愛情公寓」1-1

ラジオ番組で、パーソナリティの小賢と、電話越しのリスナーとの会話。リスナーが妄想気味に、自分の部屋の隣に住む人こそが自分の将来の伴侶じゃないかという話をしている。

[4.8] 小賢：很好啊。勇敢地迈出第一步你就会发现你会有意想不到的收获。(それはいいじゃないですか。勇気を出して一歩を踏み出すことで、あなたは予想外の収穫を得ることになるでしょう)
リスナー：所以我刚才在那面墙上打了个洞、你猜搜后来看到了谁 (だから私は壁に穴をあけました。そしたら、誰が出てきたと思う?)
小賢:(あたり前のような表情をして)你的另一半?(L₁)(あなたの将来の伴侶?)

(L₁)は (A14)「決めつけとその勘違い」で、ラジオ・パーソナリティの小賢があたり前のような表情をして「あなたの将来の伴侶?」と決めつけたが、勘違いをしている。本来

なら、司会者は、壁に穴を開けたことの方が問題であると感じるべきなのに、そこは気にも留めず、「将来の伴侶なのか？」と聞き、さらに間違えている。

【ケース番号 7】

「*the Big Bang Theory*」 1-1

Leonard と Sheldon が美女の Penny と話した後に、その時のことを振り返っている。

[4.9] Leonard: I'm not going to engage in hypotheticals here, I'm just trying to be a good neighbour. (僕はただ近所同士仲良くしたいだけだ。)

Sheldon: Oh, of course. (ああ。そうだな)

Leonard: That's not to say that if a carnal relationship were to develop that I wouldn't participate. (L₁) (肉体関係に発展しそうなら拒絶はしないけど) However briefly. (L₂) (一瞬だろうな)

(L₁)は (A15)「下心」で、Leonard の Penny との関係性における妄想に下心が見られる。(L₂)も (A15)「下心」で、すぐ終わるという下心の妄想をしている。発話の意図の解説による面白みも見られる。

【ケース番号 8】

「*Friends*」 1-1

カフェで Ross の離婚の原因に関して登場人物が話している。

[4.10] Joey: And you never knew she was a lesbian... (L₁) (奥さんが同性愛者とはね)

Ross: No!! (L₂) Okay?! Why does everyone keep fixating on that? (L₃) She didn't know, how should I know? (L₄) (知らなかったんだ。僕が気づくわけがないだろ。彼女も知らなかったんだ)

(L₁)は (D11)「奇妙な現実の指摘」で、(L₂)は (A8)「大声での怒鳴り」となっている。(L₃)は (A16)「ミスの発生やミス認める行為」で、結婚後まで妻の性的嗜好に関する違いに気づけなかったというミス認めることがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。(L₄)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」である。

【ケース番号 9】

「*Full House*」 1-1

子供の Stephanie が、子守にきた Jesse に対して、一緒に踊って欲しいとせがんでいる。

[4.11] Stephanie : On your tippytoes. (回って。つま先立ちで)

Jesse : Tippytoes, right. (そうか)

Stephanie : You need practice. We'll do this every day. (L₁) (これから毎日
特訓しなきゃね)

(L₁)は (A18)「子供の子供らしくない振る舞いや意見」で、子供が大人に向かって、上から目線で、「特訓しなきゃね」と言うところが、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

4.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 4.1 から表 4.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 4.1 である。「未熟性とのギャップ」を示す大分類 (A) を太枠で囲んだ。

表 4.1 大分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在と虚構の混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の再認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類 (A) 内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 4.2 に示す。

表 4.2 大分類 (A) 内の小項目についての χ^2 検定の結果

	米国合計	中国合計	米中合計	米国期待値	中国期待値	P値
A1 容易に見抜けることに騙されている様子	5	4	9	5.042581802	3.957418198	0.977186406
A2 空気の読めなさ	30	18	48	26.89376961	21.10623039	0.366376523
A3 無垢で悪意のない異常性	16	6	22	12.32631107	9.673688929	0.114570535
A4 できない注文にできると言う無謀さ	0	2	2	1.120573734	0.879426266	0.110404616
A5 妙なこだわり	37	29	66	36.97893321	29.02106679	0.995831551
A6 約束に対する抜けがけ	7	7	14	7.844016136	6.155983864	0.649496926
A7 嫉妬心を大きめに掻き立てる行為	1	0	1	0.560286867	0.439713133	0.375677137
A8 大声での口喧嘩	4	7	11	6.163155536	4.836844464	0.188839994
A9 一心不乱な動作	19	13	32	17.92917974	14.07082026	0.70292538
A10 不適切な時間帯の行動	5	1	6	3.361721201	2.638278799	0.177825772
A11 ケチな振る舞い	0	9	9	5.042581802	3.957418198	0.00070809
A12 頭の悪さ、常識の無さ	20	17	37	20.73061407	16.26938593	0.808787993
A13 動作の異常な速さや遅さ	1	2	3	1.680860601	1.319139399	0.428379333
A14 決めつけとその勘違い	18	18	36	20.17032721	15.82967279	0.466149
A15 下心	14	2	16	8.96458987	7.03541013	0.011206006
A16 ミスの発生やミスを認める行為	38	25	63	35.29807261	27.70192739	0.492823323
A17 融通の利かなさ	13	12	25	14.00717167	10.99282833	0.684867919
A18 子供の子供らしくない振る舞い、意見	11	4	15	8.404303003	6.595696997	0.176931578
	239	176	415	232.5190498	182.4809502	0.521554644

p 値が 5% の水準を超え有意な差が認められた小分類項目は (A11)、(A16) であった。いずれの項目も、中国シットコムの方が高かった。次に、調査から得られた大分類と小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 4.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んでいる。

表 4.3 大分類 (A) 内の小分類項目の米中の差異

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
A1	容易に見抜けることに騙されている様子	5	0.4%	4	0.4%
A2	空気の読めなさ	30	2.4%	18	1.8%
A3	無垢で悪意のない異常性	16	1.3%	6	0.6%
A4	できない注文にできると言う無謀さ	0	0.0%	2	0.2%
A5	妙なこだわり	37	3.0%	29	2.9%
A6	約束に対する抜けがけ	7	0.6%	7	0.7%
A7	嫉妬心を大げさに掻き立てる行為	1	0.1%	0	0.0%
A8	大声での怒鳴り	4	0.3%	7	0.7%
A9	一心不乱な動作	19	1.5%	13	1.3%
A10	不適切な時間帯の行動	5	0.4%	1	0.1%
A11	ケチな振る舞い	0	0.0%	9	0.9%
A12	頭の悪さ、常識の無さ	20	1.6%	17	1.7%
A13	動作の異常な速さや遅さ	1	0.1%	2	0.2%
A14	決めつけとその勘違い	18	1.4%	18	1.8%
A15	下心	14	1.1%	2	0.2%
A16	ミスの発生やミスを認める行為	38	3.0%	25	2.5%
A17	融通の利かなさ	13	1.0%	12	1.2%
A18	子供の子供らしくない振る舞いや意見	11	0.9%	3	0.3%
	大分類 (A) の合計	239	19.1%	176	17.9%
	ラフ・トラックの発生合計	1250		981	

調査の結果、データ比較からは以下のような傾向が読み取れた。

大分類 (A) は、両国とも、2割前後用いられていた。小分類の共通性として、米国・中国とも (A5)「妙なこだわり」が2.9%、(A17)「ミスの発生やミスを認める行為」が、米国3.0%、中国2.5%、小分類としては高い割合を占めた。小分類の差異として、米中間で有意な差が認められて高かったのは、米国シットコムは (A15)「下心」、中国シットコムは、(A11)「ケチな振る舞い」であった。

4.2. 考察

4.1.1 の定性分析で見た「未熟性とのギャップ」の事例は、「成熟した人間ならばしないようなことをする」という点で、普通の状態からの不一致や逸脱と捉えられる。視聴者が想定した行動から、逸脱させ不一致な状態を作るかが、視聴者の予想を裏切り、シットコムの面白みを作るポイントになってくる。

岡本（2003）¹⁾は、アイロニー発話の分析を行い、ズレの認知について「ズレも規範的な事態が想定されなければありえないので、非対照的な逸脱という概念を用いる方が規範からの乖離を正確に分析することができる」とし、認知的逸脱という語を用いた。

4.2.1. 不一致と未熟性のギャップ

大分類 (A) 「未熟性とのギャップ」は、未熟であるが故に、一般になされる動きとは一致しない言動によってなされることから、第3章で示した不一致理論が参考にできると考えた。

4.1.2 節のケース番号 1-9 の定性分析から、発話や行動における不一致が見出せた。不一致の構造とは、想定される答えや行動の方向性と一致しない方向の答えや行動が返ってくることであり、本来起きるべきであろうことと現実起きたことの不一致感でもある。シットコムで見出せる未熟性とのギャップは、発話者 A と聞き手 B を設定して、図 4.1 のような構図となる。

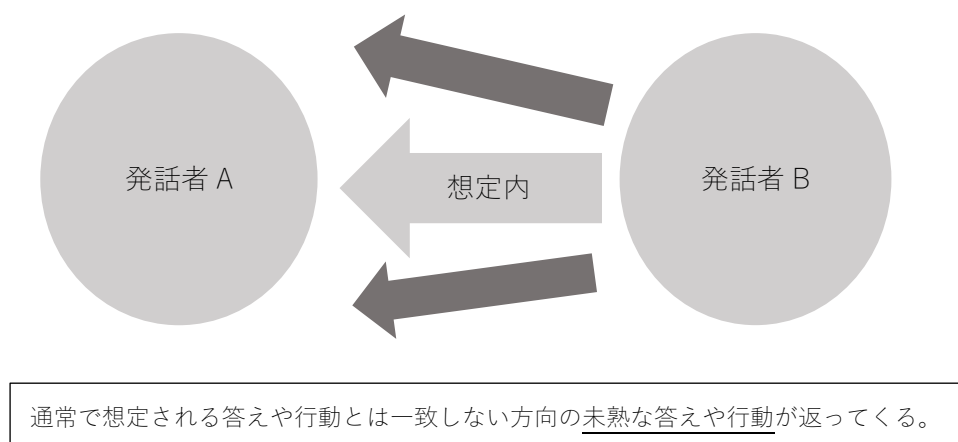


図 4.1 未熟性とのギャップの構造

この構図の中に、さらに、不一致のパターンの違いが見出すことができ、具体的には、想定の不一致、行動上の不一致、話の筋道の不一致、理解の不一致の4つに分けられるのではないかと考えた。想定の不一致とは、行動としてはおかしくないものの、行動と想定が合致していないことを指す。ケース番号 2、4、8、9 と全て米国に見られた。行動上の

不一致は、行動としておかしく、未熟な点が行動に見られるものを指す。ケース番号 3、5 のどちらも中国シットコムに見られた。話の筋道の不一致は、発話の展開に不一致が起きていることを指し、話の展開に未熟な点が見られるものである。ケース番号 1、7 と、共に米国で見られた。理解の不一致は、物事の理解能力に不一致が起き、理解能力に未熟な点が見られることである。ケース番号 6 の中国シットコムに見られた。

表 4.5 にケース番号と属性の区分を示す。

表 4.5 笑いの挿入理由と不一致のポイント

ケース番号	国	笑いの挿入理由	不一致のポイント
1	米国	Chandler が話の筋とは全く関係のない話をして、笑いを生んでいる。	話の筋道の不一致
2	米国	普通の子供は、レーザーの実験などしないが、Sheldon は、「子供の頃からレーザーの実験をしていた」と何食わぬ表情で言って、笑いを生んでいる。	想定不一致
3	中国	傅老がテレビを買うという計画を持ち出したことに家族が興奮し、皆で怒鳴り合っているところで、ラフ・トラックが挿入されている。	行動上の不一致
4	米国	子供が夜中に縄跳びをしているという不適切な時間帯に行動しているという要因で、ラフ・トラックの挿入ポイントが発生している。	想定不一致
5	中国	一菲が自分で食事を買わずに、パーティー用として振る舞う食事を盗み食いするところにラフ・トラックが挿入されている。	行動上の不一致
6	中国	小賢が当たり前のような表情をして「あなたの将来の伴侶？」と決めつけたが、勘違いをしている。	理解の不一致
7	米国	Leonard の Penny との関係性においての妄想に下心が見られる。	話の筋道の不一致
8	米国	妻が同性愛者であることぐらい普通は気づくという規定路線に対する不一致が発生している。	想定不一致
9	米国	子供 (Stephanie) が大人のような振る舞いをする不一致が発生している。	想定不一致

米国では、想定不一致、話の筋道の不一致によるラフ・トラックの挿入ポイントが多く作られているが、中国では、行動上の不一致、理解の不一致が多く見られた。

「未熟性とのギャップ」の構造とは、通常で想定される答えや行動とは一致しない方向の未熟な答えや行動が返ってくるものである。その中で、ケース 1 からケース 9 では、米国・中国の不一致として、米国シットコムでは、話の筋道を崩し、話題とは全く違う話を差し込み、発話の応酬の中でラフ・トラックを挿入しようとする動きが強いことが分かった。

4.2.2. 未熟性の出現の両国の傾向

定量分析では、大分類 (A) 「未熟性とのギャップ」は、両国とも割合が高く 2 割弱を占め、小分類としては (A5) 「妙なこだわり」、(A16) 「ミスの発生やミスを認める行為」が、両国とも高い割合を示した。これは、視聴者が想定する方向性とは違うような、驚くべき展開を提示することで、ラフ・トラックの挿入ポイントを作る安定的な手法といえる。また、登場キャラクター自体を、こだわりが強く、すぐミスをするような奇異な設定

にしておくことで、視聴者に不一致を発見させやすく、面白みを感じさせやすい構造にあると考えられる。

差異として、米国では (A2)「空気の読めなさ」、(A3)「無垢で悪意のない異常性」、(A10)「不適切な時間帯に行動」、(A16)「ミスの発生やミスを認める行為」、(A18)「子供の子供らしくない振る舞いや意見」が中国に比べ高い割合を占めている。中国では、(A8)「大声での怒鳴り」、(A11)「ケチな振る舞い」、(A14)「決めつけとその勘違い」が米国に比べ高い割合を占めた。米国では、キャラクター設定に個性を強く持たせ、(A2)、(A3)、(A18) を作りやすい状況を作っていると考えられ、中国では、(A8) のように動きそのものを強くする傾向があると考えられる。また、中国で高かった「ケチな振る舞い」は、金欲や物欲を出すことである。先行研究では、中国シットコムでは物質的な欲求は表現されにくいと示されていたが、その傾向が米国に比べ強かった。中国シットコムが金欲や物欲を表現するような時代の変化が現れてきたと考えることもできる。

4.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類 (A)「未熟性とのギャップ」の視点から分析、考察した。「未熟性とのギャップ」は、通常で想定される答えや行動とは一致しない方向の未熟な答えや行動が返ってくるものであり、視聴者が想定する方向性とは違うような展開を起こす手法である。ユーモア分析の理論である不一致理論が適用できる。

米中の共通性としてどちらも 2 割近くの発生比率を占め、「妙なこだわり」、「ミスの発生やミスを認める行為」が、「未熟性とのギャップ」の中で高い割合を示した。差異として、米国シットコムでは、「空気の読めなさ」、「無垢で悪意のない異常性」、「不適切な時間帯での行動」、「ミスの発生やミスを認める行為」、「子供の子供らしくない振る舞いや意見」が中国に比べ高い割合を占めた。一方、中国シットコムでは、「大声での怒鳴り」、「ケチな振る舞い」、「決めつけとその勘違い」が米国に比べ高い割合を占めた。

¹ 岡本雅史:アイロニー発話の認知的分析－発話理解とコミュニケーションの統合モデルに向けて、京都大学、博士論文、pp.48-55, 2003.

第5章 大分類 (B) 「実在と虚構の混在」の笑いの構造

前章では、大分類 (A) についての分析、考察を行った。本章では、大分類 (B) についての分析を行う。大分類 (B) は、シットコムが持つ虚構性をベースにした場面の当事者間では判明しようがないが、視聴者が持つ俯瞰性によって気づく、判明する性質のシーンを指す。

定量分析では、大分類 (B) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析し、定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (B) が当てはまる箇所を取り上げる。米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。

5.1. 「実在と虚構の混在」構造の概要

大分類 (B) 「実在と虚構の混在」は、場面の当事者間では判明しようがないが、視聴者が持つ客観性や俯瞰性によって気づくことや、判明する状況を指す。実在性と架空性の事物や状況が混在している状態を指す。ウソ (妄想、空想、仮定) を土台にした本当の積み上げ、本当を前提にしたウソ (妄想、仮定、虚構、フィクション) の積み上げにより作られる。また、大分類 (B) からさらに分類された小分類項目を具体的に挙げていく。

著名人本人が、その著名人の名前で登場するカメオ出演のみならず、会話中に、実在人物やニュース性の高い話題を挿入させる表現技法である。例えば、アニメ「ドラえもん」内の登場人物の話題に、「サザエさん」の話が登場するというイメージである。「サザエさん」も「ドラえもん」もどちらも虚構であり、その虚構空間の中に、さらに現実や虚構が取り入れられることを指す。映画「ET」¹ (1982) では、ハロウィンのシーンで、ET とそっくりな YODA (「Star Wars」² (1977-現在)) の変装をした人物が登場し、ET が YODA を不思議そうに見つめるというシーンがある。「ET」と「YODA」は全く別の虚構作品であり、2作品に関連性はない。「YODAはETと似ている」という観衆が持っているような感想を見越して、作品内で表現している。こういった虚構作品を話題やストーリーに取り入れるという手法はシットコムでも使用されている。

シットコムは、登場人物の発話を組み合わせ、ラフ・トラックを利用して面白みを構築していくものである。面白みを感じさせようとする内容でありながら、発話の中に、テキストから明確に分かるユーモアが盛り込まれているケースも見られる。しかし、例えば、第1章の[1.1]で示したシーンのように、「どこが面白いの?」と、テキストだけでは明確に面白さは見いだせないものの、「シットコムというフレーム」の中に入っているという前提の中で、ラフ・トラックが挿入されたり、視聴者が面白みを感じたりするケースがみ

られる。テキストを起こしても、何も面白くないはずなのに、「なぜかシットコムの中の観客が笑っている」ケースがよくある。これは、視聴者が、シットコムというフレームを、俯瞰的に見ていることでラフ・トラックの挿入や面白みを感じる構造が成立しているためであると考えられる。

虚構が前提となっているテレビドラマやストーリー性の高い作品が大多数を占めるなかで、「実在と虚構が混在している」状況は特殊だと言える。テキスト分析では特に面白さは感知できないものの、シットコムの俯瞰性によって面白さを認知させ、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっているケースが発生している。ある人は「おもしろい」と話していることも、聞く人にとっては「全然おもしろくない」こともある。場合によっては、不快になることすらある。

それでは、「実在と虚構の混在」による面白みというのはどういうものか、分析対象のシットコム「*the Big Bang Theory*」7-14 から抽出する（「実在と虚構の混在」による面白みが示されている要因の場所に下線を引いている）。寿司屋で、番組レギュラーの登場人物 Sheldon が James Earl Jones（声優）と、映画「*Star Wars*」に関する会話を繰り広げるシーンから抽出する（James は、実際の *Star Wars* シリーズで、Darth Vader（ダースベイダー）の声優を務めている）。

- [5.1] James: You know, when I first read the script for Empire Strikes Back and Darth Vader told Luke he was his father, I thought for sure he was lying. (L₁)
(Vader が Luke の父親だと言うシーンがあるだろ) (ウソだと思ってた)
- Sheldon: Me, too. But he wasn't, was he? (ええ、でも本当だった)
- James: He was not. (L₂) How messed up was that? (L₃) (そうなんだ。イカれた話だよ)
- Sheldon: So messed up. (L₄) (まったくです)

(L₁) は (B1a)「世論とされることの代弁」で、作品の一声優が作品の構成に対する評価(批判)をしている。(B6)「虚構に関する真剣な議論」の要素もある。(L₂) は (D5)「汎用性の高い答え」である。(L₃) は (B6)「虚構に関する真剣な議論」で、本物の「*Star wars*」作品の声優が、同作の批判を強めている。(L₄) は (D5)「汎用性の高い答え」である。

ケース番号2 は、「愛情公寓」1-4 から抽出する。关谷の奇妙な習慣が描かれているシーンで、ストレス発散のため、スーパーマーケットでインスタント麺を潰す習慣があることを美嘉に話した关谷が、詳細を告白する。

- [5.2] 关谷：我不喜欢吃方便面。而且、我一捏就是一大箱。买回去太浪费了。(L₁)
 (私はインスタントラーメンを食べるのは好きではない。一回潰すのに、結構な量を使うので、買って帰るのはもったいない)
- 美嘉：这个、你真是损人不利己啊。(それは人を傷つけ、さらに自分の利益にもなっていないわ)
- 关谷：哦、经过我的研究、不同牌子的方便面、捏碎的声音是不一样的。出前一丁捏碎的声音是咔嚓啦啦。(L₂) 統一方便面捏碎的声音是哗啦啦啦。(L₃) 最厉害的一个、是康师傅的方便面捏碎的声音是唏哩哗啦的。(L₄)
 (私の研究によると、メーカーが違えば、潰した時の音も違うようだ。出前一丁は、カラララ (擬音) というし、統一のインスタントラーメンはホアラララ (擬音) というし、一番すごいのは康师傅の麺で、潰した時はシリホアラ (擬音) という)

(L₁)は(A5)「妙なこだわり」である。(L₂)、(L₃)、(L₄)は(B5)「奇妙なこだわりを正当化する論理性」である。このシーンでは、笑いの直接原因となっていないが、具体的な商品名、社名が3つ出現している。固有名詞の挿入そのものに直接的な面白みはないが、実在する社名が連ねられていることと、麺を砕く音が違うということには関連性がある。固有名詞の挿入には、直接的な面白みではなく、間接的に面白みを感じさせる効果もある。

発話内容が、誇張であるかどうかは、発話の対象者よりも、俯瞰的に見ている視聴者の方が冷静に認識できる。元来、シットコム自体に、視聴者が第三者的に俯瞰的に視聴することで面白みを感じさせるメタ構造がある。本章では、誇張や虚構空間への固有名詞挿入といった明確にメタ構造により面白みが成立する要素を対象とする。米中のシットコムという虚構空間に於いて、人名や地名などに「実在する固有名詞」が挿入されるケースが見られる。

5.1.1. 「実在と虚構の混在」の笑いの定性分析

定性分析として、恣意性を避けるため、各作品のシーズン2作目から、大分類(B)に分類されるラフ・トラックの挿入ポイント箇所の最初から2シーンずつ示す。

【ケース番号1】

「*the Big Bang Theory*」1-2

リビングで、Sheldon、Leonard、Howard、Rajが、テイクアウトのタイ料理を食べようとしている。

- [5.3] Sheldon：You don't need chopsticks, this is Thai food. (箸はタイ料理には不要)
 Leonard：Here we go. (L₁) (始まった)

Sheldon : Thailand has had the fork since the latter half of the nineteenth century. Interestingly they don't actually put the fork in their mouth, they use it to put the food on a spoon which then goes into their mouth. (L₂) (タイは 19 世紀後半からフォーク派、料理をフォークでスプーンに載せて、口に運ぶ)

(L₁) は (D11) 「奇妙な現実やミスの指摘」である。(L₂) は (B7) 「新知識に由来した複雑な説明」で、タイ国で実際にある歴史的な慣習を示している。料理を食べようとしている時に、わざわざ豆知識を入れて複雑に説明しているところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 2】

「*the Big Bang Theory*」 1-2

エレベーターホールで Sheldon、Penny、Leonard、Howard、Raj が立ち話をしており、映画「*Superman*」に話題が及ぶ。

[5.4] Leonard : Um, if you don't have any other plans, do you want to join us for Thai food and a Superman movie marathon? (一緒にタイ料理どう？「*Superman*」の全作鑑賞も)

Penny : A marathon? Wow, how many Superman movies are there? (全作鑑賞？いったい何作あるの？)

Sheldon : You're kidding, right? (L₁) (冗談だよ)

Penny : Yeah, I do like the one where Lois Lane falls from the helicopter and Superman swooshes down and catches her, which one was that? (Superman が空中でロイスを受け止めるのは？)

Leonard, Sheldon and Howard together : One. (L₂) (1 作目)

(L₁) は (D4) 「好戦的な問いかけ」である。(L₂) は (B2) 「実在しているものの話題への挿入」で、「*Superman*」という実在する虚構作品の、ストーリーを持ち出し、それが 1 作目であるという知識が、揃って答えられている (Penny 以外のキャラクターにとっては共通の知識である = 虚構作品に関してはオタクである) ことがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 3】

「*Friends*」 1-2

カフェのソファで Rachel、Monica、Chandler ら一同が、恋愛について話をしている。

[5.5] Rachel : Everything you need to know is in that first kiss. (キスで心が決まるの)

Monica : Absolutely. (その通りよ)

Chandler : Yeah, I think for us, kissing is pretty much like an opening act, y'know? I mean it's like the stand-up comedian you have to sit through before Pink Floyd comes out. (L₁) (男にとってはライブの前座だ。ピンク・フロイドの前に出るお笑い芸人って感じ)

(L₁) は (B2) 「実在しているものの話題への挿入」で、Pink Floyd という実在する芸能人の名前が例えとして用いられているところが、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 4】

「*Friends*」 1-2

先史博物館で、展示された石器時代の展示用の人物像を見ながら、Ross と同僚の Marsha が話をしている。文中の she は、展示された古代の女性像を指している。

[5.6] Ross : No, it's good, it is good, it's just that- mm- doesn't she seem a little angry? (文句はないけど、彼女が怒って見えない?)

Marsha : Well, she has issues. (L₁) (ケンカ中だもの)

(L₁) は (B6) 「虚構に関する真剣な議論」で、人物像の歴史に関しての想像で真剣に話をしているところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。喧嘩中かどうかは実際には確かめようもない作り話である。

【ケース番号 5】

「*Full House*」 1-2

Jesse と Joey が、赤ちゃんの Michelle のオムツを四苦八苦しなから取り替えようとしている。

[5.7] Jesse : Loving it, loving it. (L₁) We get two diapers and Michelle Tanner, come on down. (L₂) (さすが、天才だ。2重のオムツに、ミシェル、突っ込め!)

Joey : The other way to go is to tie a hefty bag around her waist. That way we'd only have to change her on trash day. (L₃) (ゴミ袋でお尻を包む手もある。交換は、ゴミの日だけ)

(L₁) は (A14) 「決めつけとその勘違い」で、(L₂) は (E4) 「モノマネ」である。(L₃) は (B12) 「奇妙な提案」で、Joey が、オムツを取り換えることに関して楽をしたいため、変な方法を作ろうとしている。「奇妙な提案」には、大分類 (A) の要素もあるが、当事者同士は面白みを感じないケースという想定の種類は、俯瞰的による面白みがより強いと判断した。

【ケース番号 6】

「Full House」1-2

シーン番号 5 のつづきで、Jesse と Joey が、赤ちゃんの Michelle のオムツを四苦八苦しながら取り替えようとしている。

- [5.8] Jesse : All right. We go. ジョーイに話しながら、おむつを取り替えている
Jesse : We put the leg (L₁) in...like....so...simply...uh...we tie...like this...very nice. (まずは、こっちの脚をここに入れて。簡単さ。結べばいい。こうだ。いいぞ)
Joey : Wow! Snagging a plan. I suggest something eles. We go with the lovely two peice ensemble from baby Almani. (L₂) (いまいちだな。上下をアルマーニで合わせない?)

(L₁) は (A16) 「ミスの発生やミスを認める行為」である。(L₂) は (B12) 「奇妙な提案」で、アルマーニで合わせるという奇妙な提案をしている。このシーンもシーン番号 5 と同様に大分類 (A) の要素もあるが、アルマーニという固有名詞が面白みを強く与えていると判断した。

【ケース番号 7】

「爱情公寓」1-2

リビングルームで、子乔が、得た札束の枚数を数えている。

- [5.9] 子乔 : four, two, three, four, five, five, three, one. (L₁)
美嘉 : 你再数也没用。还能多出一张来。没听说过一句老话吧。只知道数钱的人 最终无钱可数。 (L₂) (何回数えても意味がないでしょう。数えたからといって、増えるわけじゃあるまいし。こういう諺を聞いたことがないですか。金を数えることを知った人間は、最終的に数える金がなくなると。)

(L₁)は(A13)「動作の異常な速さや遅さ、反復」で、(L₂)は(B4)「誇張」で、最後には数える金がなくなってしまうと大げさに表現しているところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 8】

「愛情公寓」1-2

リビングルームで、美嘉と子乔が言い争いをしている。

[5.10] 美嘉：哼哼哼、你以为你是谁啊？（ねえ、あなたは、自分のことを誰だと思ってるんですか？）

子乔：我是谁、哼算命的说过、我有少爷的命。（私が誰かって？占いで言うところ、私は、恵まれた血筋を受け継いでいます）

美嘉：呦（甘えた感じで）吕少爷。(L₁) 我猜你要是多给那算命瞎子一点钱、他肯定说、你有老爷的命。(L₂) (吕少爷。占い師にお金をあげたんなら、占い師は、あなたが恵まれた血筋を受け継いでいるということくらい言うでしょうよ)

(L₁)は(B4)「誇張」で、美嘉が子乔の名前を呼ぶのに、大げさな言い方をするところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。(L₂)は(D10)「回りくどい言い換え」である。

【ケース番号 9】

「我爱我家」第1集（下）

リビングで家族会議が行われている。長老の傅老が他の家族一同に対して文句を言うが、逆に、小凡ら家族一同からの反撃に遭っているシーンを示す。

[5.11] 小凡：爸。干脆您别这儿难受啦。您想求得我们的谅解恐怕也难、还不如咬紧牙关坚持错误死不悔改哪。我去学校了啊。（お父さん、気分を悪くしないでください。お父さんが、私たちの理解を求めるのは難しい。このまま、歯を食いしばり、間違っても自分を悔い改めずにいればいい。私は学校に行くわ。）

傅老：不不不。我对自己要求从来都是严格的。(L₁) (いやいやいや。私は常に自分自身に対して、厳格でした)

(L₁)は(B3)「発話内の自己矛盾」で、自分の政策の不公平さで生じている事態なのに、自分自身を甘く評価している。自分に甘かったことを認めるかと思いきや、認めず「厳しかった」と言うところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 10】

「我爱我家」第1集(下)

長老の傅老が、他の家族一同に対して、厳しい締め付けを行い、他の家族から反発される。

[5.12] 志新：什么什么？(L₁)您还想当负责人呀？(L₂)我宣布啊、就地免职！(L₃)您过去做出的所有决定一律作废。我每月可不往家交钱了啊！(L₄)（なに？引き続き、傅老は家の責任者になるというのですか？私は宣言します。解職です。あなたが過去に行った決定はすべて無効になります。私は、毎月家に家賃を支払う必要はなくなります）

傅老：怎么？你们要把我一棍子打死？还想挟私报复！(L₅)（なに？お前たちは、私を棒で叩き殺すつもりですか？まだ、私に報復を考えているのか！）

(L₁)、(L₂)は(D4)「好戦的な問いかけ」である。(L₃)は(D13)「嫌悪感の表示」で、(L₄)は(A11)「ケチな振る舞い」である。(L₅)は(B4)「誇張」で、「棒で叩き殺す」や「報復」という大袈裟な言い方がラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。棒で叩き殺すという妄想や、報復するというこの局面ではあり得ない架空の考えが入れ込まれているところが、実在と虚構の混在と考えられる。

【ケース番号 11】

「家有儿女」1-2

狂野男孩(ワイルドボーイ)が、夏东海(小雪の父親)に向かって小雪を守ると強気に宣言し、夏东海の怒りが増している。

[5.13] 狂野男孩：别怕、我会保护你的。(L₁)（恐れなくて。私はあなた(小雪)を守ります）

夏东海：你(おまえは・・・)

刘星：狂野男孩。你会为了小雪和她的爸爸决斗吗？(L₂)（ワイルドボーイ。あなたは、小雪のために彼女のお父さんと決闘をする気ですか？）

(L₁)は(A2)「空気の読めなさ」である。(L₂)は(B4)「誇張」で、「決闘」という大げさな単語を使って煽っているところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 12】

「家有儿女」1-2

憧れの眼差しで狂野男孩の動きを見ていた刘星と小雨が、その様子を振り返っている。

[5.14] 刘星：反正这句话、我们以后也会对女孩子说的。（とにかく、俺たちはワイルドボーイが言ったセリフを、そのまま女の子に使ってみよう）

小雨：我们长大了也狂野。（オレたちは、ワイルドに育ったんだ）

刘星：狂野。(L₁) (ワイルドにね)

(L₁) は (B4)「誇張」で、子供が「狂野」と大声で言いながら、大袈裟なポーズをしている。

5.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 5.1 から表 5.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 5.1 である。「実在と虚構の混在」を示す大分類 (B) を太枠で囲んだ。

表 5.1 大分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在と虚構の混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類（B）内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 5.2 に示す。

表 5.2 大分類（B）内の小項目についての χ^2 検定の結果

B1	世論の代弁	9	2	11	6.163155536	4.836844464	0.08484264
B2	実在しているものの話題への挿入	23	4	27	15.12774541	11.87225459	0.002270945
B3	発話内の自己矛盾	35	18	53	29.69520394	23.30479606	0.142090669
B4	誇張	30	71	101	56.58897355	44.41102645	0.000000098
B5	奇妙なこだわりを正当化する論理性	33	15	48	26.89376961	21.10623039	0.075787075
B6	虚構に関する真剣な議論	49	11	60	33.61721201	26.38278799	0.000063073
B7	新知識に由来した複雑な説明	18	8	26	14.56745854	11.43254146	0.175020208
B8	夢や空想であると判明	4	0	4	2.241147468	1.758852532	0.076431288
B9	ウソを吹き込まれて、本気になる行為	2	7	9	5.042581802	3.957418198	0.041023246
B10	ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為	6	32	38	21.29090094	16.70909906	0.000000581
B11	ウソがばれて水の泡	5	7	12	6.723442403	5.276557597	0.316178129
B12	奇妙な提案	12	27	39	21.85118781	17.14881219	0.001482481
B13	安易なウソ	13	7	20	11.20573734	8.794262662	0.418908794
B14	作戦の成功	1	4	5	2.801434334	2.198565666	0.104569455
		239	213	452	253.2496638	198.7503362	0.176904626

p 値が 5% の水準を超え有意な差が認められた小分類項目は（B2）、（B4）、（B6）、（B9）、（B10）、（B12）であった。米国シットコムが高かったのは（B2）、（B6）で、中国シットコムのほうが高かったのは、（B4）、（B9）であった。次に、調査から得られた大分類と小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 5.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んでいる。

表 5.3 大分類 (B) の小分類項目の割合

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
B1	世論の代弁	9	0.7%	2	0.2%
B2	実在しているものの話題への挿入	23	1.8%	4	0.4%
B3	発話内の自己矛盾	35	2.8%	18	1.8%
B4	誇張	30	2.4%	71	7.2%
B5	奇妙なこだわりを正当化する論理性	33	2.6%	15	1.5%
B6	虚構に関する真剣な議論	49	3.9%	11	1.1%
B7	新知識に由来した複雑な説明	18	1.4%	8	0.8%
B8	夢や空想であると判明	4	0.3%	0	0.0%
B9	ウソを吹き込まれて、本気になる行為	2	0.2%	7	0.7%
B10	ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為	6	0.5%	32	3.3%
B11	ウソがばれて水の泡	5	0.4%	7	0.7%
B12	奇妙な提案	11	1.0%	27	2.8%
B13	安易なウソ	13	1.0%	7	0.7%
B14	作戦の成功	1	0.1%	4	0.4%
	大分類 (B) の合計	239	18.9%	213	21.7%
	ラフ・トラックの発生合計	1249		979	

調査の結果、データ比較からは以下のような傾向が読み取れた。

大分類 (B) の合計では有意な差は認められなかったが、大分類 (B) 内の小分類項目では、米国シットコムが、(B2)「実在しているものの会話の話題への挿入」、(B6)「虚構に関する真剣な議論」で、有意な差が認められ、中国シットコムは、(B4)「誇張」、(B7)「ウソを吹き込まれて本気になる行為」で有意な差が認められた。

5.2. 考察

大分類 (B)「実在と虚構の混在」は、虚構作品であるシットコム内で、実在と虚構が混在する構造により、面白みが発生する。実在と虚構の混在の中に、固有名詞の挿入や誇張、ウソにウソを重ねるといった行為が含まれ、視聴者の俯瞰的視野によって発見される。共通性として、メタ構造を使用したラフ・トラックの挿入は、中国の方が約3ポイント上回っているが、両国とも2割前後使用されており、シットコムにおける安定的な手法であると言える。

5.2.1. 固有名詞の使用

「実在と虚構の混在」の例として、固有名詞が使用されている例を取り上げる。視聴者がその固有名詞を知らなければ、話についていけない。ケース番号1の Superman、ケース番号3の Pink Floyd、ケース番号6の Almani がその例である。番組内に挿入される固有名詞は、多数の幅広い年齢層の視聴者が知っていることが前提として求められよう。

定性分析のケース番号1では、Sheldon は、食事をするシーンとしては似つかわしくないものの、タイの歴史的な背景を正確に説明しようとしている。ケース番号2でも、

「Superman」の話数を正確に説明しようとしている。ケース番号3でも、Pink Floyd という固有名詞は、比喩表現の精度を高めるために挿入されている。ケース番号4では、博物館内の展示像の表情から、なぜそういう表情になっているのかを読み取ろうとする動きになっている。ケース番号5、6はオムツを替えなければならないという現実から逃避したい中、せめて妄想だけは異空間に飛ばそうとする動きである。

中国で顕著に多く見られるのは、誇張の手法である。そのほか、ウソを吹き込まれて本気になる行為、ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為というように、ウソが関わってくる。ケース番号7は、お金がなくなるという可能性として起きにくいことを示している。ケース番号8は、口調として大げさな言い方をしている。ケース番号9は、厳格じゃないのに、厳格であると言って矛盾を起こしている。ケース番号10は、棒で叩き殺すや報復といったあり得ない表現を使っている。ケース番号11は、決闘という、状況からは起こりにくい表現を用いている。ケース番号12は、ポーズを取る必要がない状況で大げさなポーズを取っている。

米国では話の筋に投入した形で発話を展開し、ストーリーへの感情移入を維持したままラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られるが、中国シットコムは、状況から逸脱したあり得ないことや起こりにくい表現を盛り込んでも、ラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られる。

米中の差異のイメージを図5.1、図5.2によって比較する。

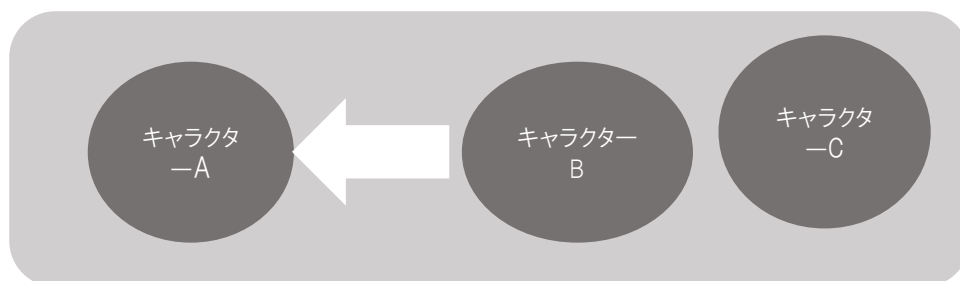


図5.1 「実在と虚構の混在」の米国シットコムの傾向

米国では、登場キャラクターは正しいことを言おうとする方向で言葉を組み立てようとする方向性が強い。一方、中国作品の傾向は以下のようなイメージとなる。

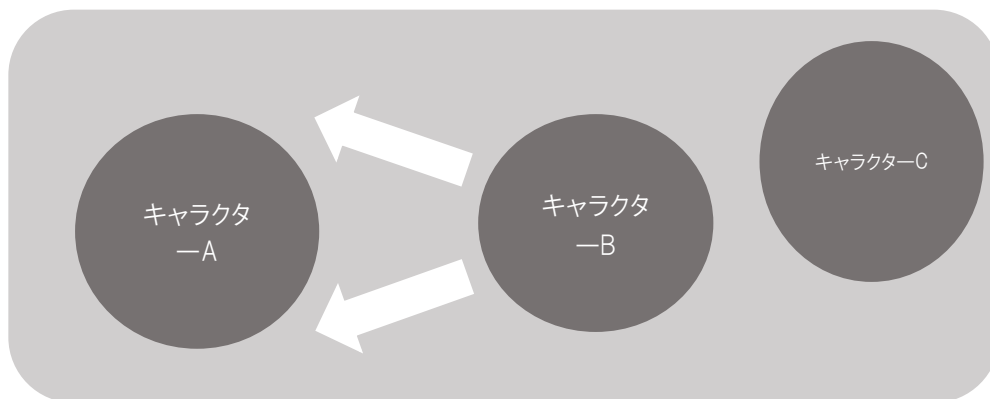


図 5.2 「実在と虚構の混在」の中国シットコムの傾向

中国シットコムは、発話の内容そのものが、キャラクターAに対し、真正面に向かない。虚構作品の中でも、登場キャラクターはさらに誇張や嘘というような正しくないことや、食い違うこと、論理性を欠くことを言う傾向にある。

虚構であっても、米国シットコムでは、登場キャラクターは論理的で正しいことを言おうとする方向で言葉を組み立てようとする方向性が見られ、中国作品は、登場キャラクターはさらに誇張や嘘というような正しくないことや、食い違うことを言うことで、ラフ・トラックの挿入ポイントとする動きが見られる。

5.2.2. メタ構造の面白さ

大分類 (B) 「実在と虚構の混在」は、仮に現実世界で同様のことが発生した時に、当事者間では面白いとは認識されにくく、普通の会話をしているようにしか認識できない。しかし、ここにラフ・トラックが付与されているのは、面白みが見出されるポイントして制作者が意図を持ち、視聴者が第三者的に俯瞰的に視聴することで面白みを感じるメタ構造を形成しているからと考えられる。メタ構造により視聴者の視野は広がり、シットコムを楽しめる環境がさらに作られる。

挿入される固有名詞は、潜在的に特別な記号性を持つ。記号性により、視聴者はその単語から一定の背景を思い浮かべる。具体性の提示も期待でき、イメージや生活感を湧き出させられる。時事性を材料に加えることで、社会風刺が笑いに繋がる、題材が無限に広がる事が期待できる。理解しにくい話題の方が、解説できた時の面白みは深まる。

米中の差異として、米国では、「世論の代弁」、「実在しているものの会話への挿入」、「発話内の自己矛盾」、「奇妙なこだわりを正当化する論理性」、「虚構に関する真剣な議論」、「新知識に由来した複雑な説明」が、中国より顕著に上回っている。

登場キャラクターは虚構設定のまま、その中の登場人物の一人だけ、虚構から現実に引き戻すことは製作サイドの都合の良い設定作りともいえるが、視聴者も、その都合の良い翻弄を楽しむという前提にある。フィクションを現実に引き戻す作業は、俯瞰的構造を作っている。不必要な多用は、視聴者を混乱させる結果にも繋がりがねないが、遊び心として盛り込むことで滑稽さを生む。虚構である番組にさらなる虚構や現実の話題が挿入されることで、俯瞰性を与え、面白みのバリエーションが増加する。

5.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類 (B) 「実在と虚構の混在」の視点から分析、考察した。大分類 (B) 「実在と虚構の混在」では、視聴者のメタ構造を使用するもので、この性質のラフ・トラックの挿入ポイントは、両国とも 2 割前後見られた。メタ構造の活用により、視聴者の角度や視野を広げることができ、視聴者が俯瞰的視野で視聴することで、発話そのものにユーモアの要素が含まれなくても、面白みとして認識され得る。

大分類 (B) 「実在と虚構の混在」の典型的な例として、固有名詞の挿入が挙げられ、固有名詞の記号性によって、具体的なイメージや生活感がリアリティをもって表現される。ニュース性を材料に加えることで、社会風刺が笑いに繋がり、題材が無限に広がる。米国では、「世論の代弁」、「実在しているものの会話への挿入」、「発話内の自己矛盾」、「奇妙なこだわりを正当化する論理性」、「虚構に関する真剣な議論」、「新知識に由来した複雑な説明」が、中国より顕著に上回った。中国作品で米国作品より顕著に多く見られるのは「誇張」や、「ウソを吹き込まれて本気になる行為」、「ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為」であった。米国では会話の筋道に沿った形で発話を展開し、ストーリーへの感情移入を維持したままラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られるが、中国シットコムは、状況から逸脱したあり得ないことや起こりにくい表現を盛り込んでも、ラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られた。

¹ ET, Wikipedia, <https://ja.wikipedia.org/wiki/E.T.> (2021/10/31 閲覧)

² Star Wars, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Star_Wars (2021/10/31 閲覧)

第6章 大分類 (C) 「エネルギー移行」の笑いの構造

前章では、大分類 (B) について、分析と考察を行った。本章では、大分類 (C) の緊張と緩和の間のエネルギー移行におけるラフ・トラック挿入ポイントの性質について、笑いを分析する際に日本で例として用いられる「落語」の分野における緊張と緩和の理論や、緊張から緩和への移行により面白みが生まれるとするエネルギー理論を参照しながら分析を行う。特に「緩和から緊張」の方向性での移行で面白みが起こるケースに焦点を当て、定性分析、定量分析の両面を通して分析を進める。

定量分析では、大分類 (C) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析し、定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (C) が当てはまる箇所を、番組の最初から順に計 12 シーンを取り上げる。米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。

6.1. 「エネルギー移行」の構造の概要

これまでの分析では、一般的に笑いとは「緊張から緩和」の状態の移行で生まれるというのが前提となっている (2011, Hurley)¹ (2016, 雨宮)² (1868, Spencer)³。しかし、シットコムでラフ・トラックが挿入されている箇所では、キャラクターが急に怒りだす、或いは、場の空気が気まずい方向に急変することなど、緩和状態から緊張状態への移行により説明がつく点が見られる。ここでの緊張とは、高まり過ぎた、或いは、張りつめている神経や場の状態や興奮している状態を指し、緩和とは、精神状態や場の雰囲気がリラックスした状態を指す。心的エネルギーとは、人物の内心の感情の不可視部分や、シーンの雰囲気や空気感の不可視部分の概念を指し、神経エネルギーとは、喜怒哀楽などの感情、起伏などのベクトルの強さを表す。心的エネルギーの移行とは、神経的に張りつめた状態から緩やかになった状態への移行や、緩やかな状態から張りつめた状態への変化を指す。

本研究では、大分類 (C) 「エネルギーの移行」が、場面の空気感や状態が変化することによるラフ・トラックの挿入ポイントを指す。本章では、シットコムにおいて、エネルギー移行によるラフ・トラックの挿入という状況を説明するために、分析対象作品のセリフから「緊張から緩和」「緩和から緊張」という性質によるラフ・トラックの挿入ポイントについて示す。

「the Big Bang theory」 1-4

買い物に行くため、Penny が車を運転し、助手席に Sheldon が座っている。Sheldon は、Penny がスピードを上げて車を飛ばしていることに恐怖を感じている。

[6.1] Sheldon : Slow down. Slow down, please slow down! (L₁) (ゆっくり。スピードを落として!)

(L₁)では、車の出すスピードに怯えている様子の Sheldon は、Slow down.と穏やかに言うものの、最後の please slow down.は強めの口調に緊迫した様子で発している。車内は一気に緊張に向かい、このラフ・トラック挿入ポイントは、(C8)「予想外のシリアスな反応」が適用できる。

「the Big Bang theory」 1-4

実験用に卵が欲しいと思っている Sheldon。そこに、運よく Penny が Sheldon の部屋を訪れ「スーパーマーケットに行くけど、何か欲しいものはないか?」と尋ねる。

[6.2] Sheldon : I need eggs. Four dozen should suffice. (卵を 48 個頼むよ)

Penny : Four dozen? (48 個も?)

Sheldon : Yes, and evenly distributed amongst brown, white, free range, large, extra-large and jumbo. (L₁) (赤卵、白卵、自然卵を同じ数ずつ。L、LL、特大で)

Penny : Okay, one more time? (もう 1 回)

Sheldon : Never mind, you won't get it right, (L₂) I'd better come with you. (L₃)
(言ってもムダだ。一緒に行くよ)

(L₁)は (E2)「早口言葉」で、(L₂)は (D12)「遠回り」である。(L₃)は (C8)「予想外のシリアスな反応」で、普通ならば、卵の種類が聞き取れなければ、分かりやすくメモに書くなどの行動が取られるところである。しかし、皮肉な性格で人から毛嫌いされている Sheldon がスーパーマーケットに同行する(厄介なことになる)という予想外な結果になり、緊張が走る。この緊張した状態を作ったところにラフ・トラックが挿入されている。

「愛情公寓」 1-1

結婚式の準備作業をしている一菲宛に電話が掛かってきたシーンを抽出する。トニー(托尼)に命令を下している一菲にスタッフが電話を渡す。電話の相手は顧客である新婦であった。

[6.3] スタッフ：非姐、新娘的电话一线的。(一菲さん。新婦の電話が一番に入ります)

一菲：托尼。帮我问问我的外卖到了没有？(トニー、テイクアウトはまだなの？確認して)

(新婦からの電話に出る。語気を和らげて)

一菲：嗨、亲爱的。(L₁) (ハイ) 放心。我这里一切 OK。你呢就负责打扮得漂漂亮亮的。到时候震撼全场哦。(L₂) (安心して、全部うまくいきますよ。あなたは綺麗に化粧して、会場にいる人全てを驚かせてね) 婚车已经在路上了。没问题的。一切尽在掌握。好了。不多说了我先忙就这样。拜拜 (新郎新婦を乗せた車はもう出発しているし、大丈夫です。安心して。まあそんな感じです。さようなら)

(電話に向かって一菲がキスをする動作) (L₃)

(電話を切る。語気を荒げて)

一菲：催一下音响师的进度太慢了、我十分钟之后下去试音。(L₄) (音効係に、スピードを速めるように急がせて。10分後にリハーサルをするわよ)

このブロックでは、(L₁)と(L₄)に、「エネルギーの移行」が適用できる。(L₁)は、トニーに厳しい口調で命令していた一菲の口調が急に柔らかくなり、声色も変化し、緊張から緩和への空気感の移行が、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。(L₄)は、電話を切った直後に態度が豹変し、厳しい命令口調になる。

シットコムでは、[6.1] [6.2] [6.3] のように、空気の変化などのエネルギー移行によって、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている箇所が見られる。そこで、本章では、シットコムにおけるエネルギー移行でのラフ・トラック挿入について、米中の代表的なシットコムを使用し、どのような共通性と差異が発生しているのかについて分析する。

6.1.1. 「エネルギー移行」の笑いの定性分析

本項では、大分類 (C) 「エネルギー移行」でラフ・トラックが挿入されている事例を、無作為を保つため、各作品の大分類 (C) が出現した最初の部分から取り上げ分析を行う (なお、これまでの他の章で使用した同じテキストは除外した)。

【ケース番号 1】

「*the Big Bang theory*」 1-1

Penny の部屋のドアの前で、Penny、Leonard、Sheldon が初対面の挨拶をしている。

[6.4] Leonard : Hi. Well, uh, oh, welcome to the building. (それじゃ。ここへようこそ)

Penny : Thank you, maybe we can have coffee sometime. (うれしい。今度
コーヒーでも)
Leonard : Oh, great. (ぜひ)
Penny : Great.
Sheldon : Great.(L₁)
Leonard : Great. Well, bye. (じゃ。また)
Penny : Bye. (また)
Sheldon : Bye.
Leonard : Bye. (L₂)

(L₁)、(L₂)とも Leonard、Sheldon が緊張しており、言葉が出ず、一瞬の沈黙ができる。沈黙による緊張が生まれるポイントに、ラフ・トラックが挿入されている。(L₁)は (C4)「話題がなく沈黙」 で、話題がなく Great.と言ったあと、言葉がでない。(L₂)は (C4)「話題がなく沈黙」 で、話題がなく Bye.しか言えない。

【ケース番号 2】

「*the Big Bang theory*」 1-4

Sheldon はビジネスの収益モデルを生み出すのに必死になっている。真剣な表情で金魚を入れた金魚鉢に、スポイトで液体を垂らしている。

[6.5] Sheldon : I read an article about Japanese scientists, who inserted DNA from
luminous jellyfish into other animals, and I thought hey, fish
nightlights. (L₁) (発光クラゲの遺伝子を、他の動物に組み込むんだ。そして、魚の常夜灯を作る)
Leonard : Fish nightlights. (魚の常夜灯か)
Sheldon : It's a billion dollar idea. Shhhhhh! (L₂) (大金になる。シーツ！)

(L₁)は (B5)「奇妙なこだわりを正当化する論理性」である。(L₂)は (C8)「予想外のシリアスな反応」 で、自分のアイデアを得意げに Leonard に語っていた Sheldon だが、名案なので人に聞かれたくないという思いが急に湧いてきて、シーツと急に強くまじめな口調で静粛を促す。唐突に厳しく強い口調に緊張感が生まれたところが、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 3】

「*Friends*」 1-1

カフェのテーブルで、登場人物一同が話している。Ross の前妻のことが話題になり、登場人物達は Ross と前妻を気遣う。

[6.6] Ross : I'll be fine, alright? Really, everyone. I hope she'll be very happy. (平気だよ。妻の幸せを祈ってる)

Monica: No, you don't. (ウソだ)

Ross: No, I don't, to hell with her, she left me! (L₁) (ウソだ。僕を捨てやがって)

(L₁)は (C8)「予想外のシリアスな反応」で、Ross が前妻の幸せを祈っていると言いながら、Monica の一言に刺激され、簡単に違うことを言ったことを認め、急に怒りだし暴言を吐くところに、ラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 4】

「*Friends*」 1-1

シーン番号 3 の続きで、離婚の失意で沈んでいる Ross を Joey ら登場人物一同が励ます。

[6.7] Joey : Alright Ross, look. You're feeling a lot of pain right now. You're angry.

You're hurting. Can I tell you what the answer is? (よく聞け Ross。今は心がいっぱいだろ？怒りと痛みで。特效薬は？)

(Ross は同意のジェスチャーをする)

Joey : Strip joint! C'mon, you're single! Have some hormones! (L₁) (ストリップだ。独身だぞ、遊べよ)

(L₁)は (C9)「顛末の省略」で、怒りや痛み、薬など神妙な話から急に論理が飛躍し、いきなりストリップの話題を持ち出し、場の緊張した空気が緩和されたところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。論理的な段階を踏まず、急に話題が緩やかな方向に向かうところから、大分類 (C) が適用できる。

【ケース番号 5】

「*Full House*」 1-1

孫二人 (DJ, Stephanie) と Danny が祖母である Claire を見送る。

[6.8] DJ, Stephanie, Danny : (Claire を見送りながら) Bye
(Claire が家から出ていく)

Danny : Okay! Are we going to have fun or what? (DJ と Stephanie はしかめっ面をする) (L₁) Hey, hey, hey! Let's see some smiles. Everything is going to work out super great. Your uncle Jesse is moving in; my best friend Joey is moving in, and you know what that means... That means that you two are going to get to be roommates. Isn't that exciting? (さてと、何して遊ぼうか。笑顔を見せてくれよ。楽しくなるんだぞ。Jesse おじさんと親友の Joey が来て、お前たち二人はルームメートになるんだ。最高だろ?)

(L₁)は (C8)「予想外のシリアスな反応」で、急にしかめっ面をする子供ふたり (DJ と Stephanie) の表情がアップになり、緊張感が生まれたところで、ラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 6】

「Full House」1-1

Stephanie (子供) が子守りをしに来た Jesse に対し、一緒に踊って欲しいとしつこく頼んでいる。

[6.9] Stephanie : Yes he does... (L₁) (するの)

Jesse : No he doesn't! (L₂) (しない)

Stephanie : (泣いているフリをしながら) Yes he does. (L₃) (するの)

Jesse : How do you play ballerina? (L₄) (どうやるんだ?)

(L₁)は (A17)「融通の利かなさ」で、(L₂)は (E4)「音の高低」である。(L₃)は (B13)「安易なウソ」で、(L₄)は (C1)「態度の急激な和らぎ」で、Jesse が急に折れて、ダンスをする方向性へ態度を軟化させるところで、ラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 7】

「我爱我家」1-1

家族一同がリビングルームに集まり傅老の陰口を叩いていたが、傅老がリビングに入ってきたことに気づき、急に傅老を褒めだす。

[6.10] 志新 : 还不光是老... (傅老を見つける) 那是他们别人。 (L₁) 咱爸可是越老越明白! (L₂) (傅老は歳をとっているだけではなく...、それは別の人のことで、私達のお父さんに関しては、歳を取れば取るほど、どんどん頭が良くなっていきます)

小凡：根本不可能…。(入ってきた傅老に気づき) (L₃)那是绝对没错儿！我就同意二哥这观点。(それはまったく不可能です。それは絶対に正しいです！ 私は兄さんの考えに同意します！)

(L₁)は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、(L₂)は (B10)「ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為」である。(L₃)は (C4)「話題がなく沈黙」で、小凡も自由に傅老の悪口を言っていたが、傅老に気づき、一瞬黙り込んでしまうところに、ラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 8】

「爱情公寓」1-1

結婚式場のトイレの手洗い場でお腹を押さえ苦しんでいる神父。その様子を見て、子乔が「薬を持っている」と助けようとする。

[6.11] 神父：是吗?太好了给我一颗。(くれるの?一粒くれたらありがたい)

子乔：一颗只卖 380 (子乔が司祭のお金を受け取り、神父が薬瓶を受け取る) 颗颗精品、立竿见影您真是识货、如果你感兴趣的话、可以推荐给您的亲朋好友。(神父が薬を飲む) 我将返你百分之八的提成、这药不但可以保护肠胃还可以润肠通便呢。(L₁) (1粒 380 円で販売しますよ。最高級の商品だということを、あなたならすぐに分かるでしょう。興味があるならば、あなたはそれをあなたの親戚や友人に推薦できます。私はあなたに 8% をバックします。この薬は胃腸を保護するだけでなく腸の動きを活性化させる効果があります)

神父：你说什么? (神父の様子がおかしくなり、自分の腹を押さえだした) 哎呦 (また、便器に急ぐ) (L₂) (今なんて言った? アイター)

(L₁)は (A16)「ミスの発生やミスを認める行為」で、(L₂)は (C8)「予想外のシリアスな反応」で、会話をしながら薬を薦めるという平坦な状態から、腹痛がくるという緊迫した状況へ変化する(予想外の惨劇が起きる)ところにラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 9】

「爱情公寓」1-2

展博(男)は宛瑜(女)に思いがあるが、その思いを伝えきれないでいる。見るに見かねた展博の姉の一菲が、思いを伝えるように諭すも、勇気がない展博はそれを拒んでいる。

[6.12] 展博：姐你别逼我啦。(姉さん、私に強制しないでください)

一菲：你从小到大。哪件事情不是我逼出来的。你爸妈让你过来跟着我。就是为了让我来引导你。这么多不良青年我都收拾了。你我还教不会。(L₁) (あなたの小さい頃から、私はあなたに何かを強制したことは1回もないわ。父母は、私についていきなさいとあなたにしつけた。だから私はあなたにしつけをしてきた。私は、どんなに悪い人間でさえもしつけきたのに、あなただけは、どうしてうまくいかないのかしら?)

展博：可是。(でも・・・)

一菲：(話すのを遮って) 除非你跟我说、你一点都不喜欢宛瑜、要是你这么说了、我就去告诉她。(L₂) (あなたが私に宛瑜が全く好きではないと私に言わない限り、いや、あなたがそれを言った場合でも、私は彼女に言いつけるわよ)

(L₁)は(D4)「好戦的な問いかけ」で、(L₂)は(C8)「予想外のシリアスな反応」で、弟の体たらくに姉の一菲の怒りが増していき、ついには強い口調で「本人に言いつけにくい」という予想外に激烈な顛末となっている。怒りが増し、緊張感が高まったところでラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 10】

「爱情公寓」1-2

日本人という設定で、金銭的に余裕がありそうな关谷に自分の部屋を貸し、家賃としての収入を得たいともくろむ子乔。外国から来たばかりで金銭の駆け引きに頓着がない关谷は、子乔の思惑通りに家賃の額を吊り上げられる。

[6.13] 关谷：我出双倍 (2本の指を差し出す) (2倍出します)

子乔：成交 (关谷の手を握りながら) (L₁) 我们千里有缘来相会 (起き上がって) 里面这间就归你了 (部屋を指さして) 不过我要先收一点房租的押金、你看、契約。(取引成立。私たちはとても深い縁があって知り合いになったこの部屋はもうあなたのものです。しかし、まずは最初に家賃のデポジットを支払ってもら必要があります。それが契約です)

关谷：(人民元の厚い札束を差し出す) 这些够吗? (これで十分ですか?)
(子乔、体のバランスを崩す) (L₂)

(L₁)は(C1)「態度の急激な和らぎ」で、駆け引きをして关谷の支払う金額を吊り上げようと目論んでいた子乔は緊張感漂う様子だったが、いきなり「2倍出す」と提示してきた关谷に対し、あっさりと「取引成立」と認めた。態度が急変し、緊張感が緩和されたと

ころにラフ・トラックが挿入されている。時間をかけて駆け引きをするのではなく、そのステップが一気に省略されたという点から、(C9)「顛末の省略」の要素も含んでいる。(L₂)は (C8)「予想外のシリアスな反応」である。2倍出すという条件で契約は成立しているが、关谷に対して「先にデポジットを払え」と、さらに仕掛ける子乔に対し、关谷のいきなり出した札束の量を見て驚いてよろけてしまった。体のバランスを崩すことが緊張感を生み、ラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 11】

「爱情公寓」1-2

家賃の割り勘の件で、子乔と美嘉は、金銭的なもめごとになっているところへ、日本人の关谷が現れる。子乔は、金銭能力のありそうな关谷を利用すれば家賃が払えない件が何とかなるかもしれないと考え、初めに关谷と話した後、美嘉を別の空間に連れていき、こっそり打ち合わせをしようとする。

[6.14] 子乔：噢、日本人呐、大和民族、幸会幸会、请稍等一下哦、噢日本語呐。
(あー、日本人ですか、大和民族ですね、お会いできて嬉しいです。
しばらくお待ちください。それは日本語ですね。)

(子乔は美嘉を引っ張って出ていく。)

子乔：买卖来了、买卖来了、正常点。(取引がやってきた、取引がやってきた、しっかりね)

美嘉：好帅啊。(L₁) (かっこいい！)

(L₁)は (C1)「態度の急激な和らぎ」で、子乔と険悪な雰囲気になっていた美嘉が、初対面の(男前の)关谷を見るやいなや、「かっこいい！」と態度を豹変させ、その緩んだ表情を変えない。口論という局面の緊張感が発生し、子乔の緊張した状態は維持されているにも関わらず、美嘉は一人だけ表情を緩ませる緩和へと変化し、その状態が維持されていることで、子乔の緊張と対照を成し、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 12】

「我爱我家」1-1

リビングで一同が話をしており、妻と死別した長老の傅老の恋愛について話が及んでいる。

[6.15] 圆圆：爱情不分老少、人生没有单行道。(L₁) (愛は老いも若きも、人生は一方通行ではありません)

和平：嘿嘿嘿、这孩子哪儿学来这么些乱七八糟的。志国、管管她。(あら。子供が、そんな言葉を、どこで勉強したの？ちゃんと面倒みなさいよ)

志国：还不都是你们招的？(L₂)咱爸上了一天班、累了、躺会儿。你们就非说他老人家惦记给咱们找后妈、这是那儿跟那儿啊！(L₃)（自分たちが呼んだんだろ？ お父さんが、一日仕事に行って、疲れて、横になって。義理の母を探していると言っていたけど、そんなことはない！）

(L₁)は (A18)「子供の子供らしくない振る舞いや意見」で、(L₂)は (D4)「好戦的な問いかけ」である。(L₃)は (C9)「顛末の省略」で、話が飛び、急に義理の母（后妈）という話にまでなっている。顛末が省略されることで、話が急展開する。この急展開は、緊張から緩和、緩和から緊張を作っている。

【ケース番号 13】

「家有儿女」1-1

番組そのもののオープニングのシーンで、刘梅と夏东海が話をしている。

[6.16] 刘梅：你愿意做我的老公吗？（私の夫になりたいですか）

夏东海：（沈黙）当然愿意了。（もちろんなりたいです）

(L₁)は (C4)「話題がなく沈黙」で、一瞬言葉に詰まって、沈黙ができる。

【ケース番号 14】

「家有儿女」1-1

シーン番号 12 の続きで、夏东海と刘梅の夫婦の会話に、刘星などの子供達も加わっている。

[6.17] 夏东海：你们虽然没有共同的爷爷。但是有共同的爸爸、（一般的な祖父はいませんが、しかし、一般的なパパ）

刘梅：共同的妈妈。（一般的なママがいます）

刘梅：我们是一个重组家庭、幸福生活就要开始了。(L₁)（私たちは再構築された家族であり、幸せな生活が始まろうとしていますよ）

家族一同：耶。（イエイ）

(L₁)は (C9)「顛末の省略」で、「再構築された家族」から「幸福な生活が始まる」という風にステップが飛んでいるところにラフ・トラックが挿入されている。

6.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 6.1 から表 6.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 6.1 である。「エネルギーの移行」を示す大分類 (A) を太枠で囲んだ。

表 6.1 大分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在のものと虚構との混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の再認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類（C）内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 6.2 に示す。

表 6.2 大分類（C）内の小項目についての χ^2 検定の結果

	米国合計	中国合計	米中合計	米国期待値	中国期待値	P値
C1 態度の急激な和らぎ	25	30	55	30.81577768	24.18422232	0.11412401
C2 仕掛け、復讐、計画、悪だくみの失敗	16	14	30	16.80860601	13.19139399	0.766137393
C3 奇妙な動作	18	15	33	18.48946661	14.51053339	0.863702643
C4 話題がなく沈黙	21	6	27	15.12774541	11.87225459	0.022795612
C5 外見の変形	0	2	2	1.120573734	0.879426266	0.110404616
C6 高価なものを紛失	1	2	3	1.680860601	1.319139399	0.428379333
C7 警察沙汰になった後の展開	0	1	1	0.560286867	0.439713133	0.258978372
C8 予想外のシリアスな反応	37	42	79	44.26266248	34.73733752	0.099714961
C9 顛末の省略	36	11	47	26.33348274	20.66651726	0.004500929
	154	123	277	155.1994621	121.8005379	0.88455558

p 値が 5%の水準を超え有意な差が認められた小分類項目は（C4）（C9）であった。どちらの項目も米国シットコムで割合が高かった。次に、調査から得られた大分類と小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 6.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んでいる。

表 6.3 大分類 (C) に該当する小項目の米中での発生頻度

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
C1	態度の急激な和らぎ	25	2.0%	31	3.2%
C2	仕掛け、復讐、悪だくみの失敗	17	1.4%	15	1.5%
C3	奇妙な動作	18	1.4%	15	1.5%
C4	話題がなく沈黙	21	1.7%	6	0.6%
C5	食物アレルギーによる顔の変形	0	0.0%	2	0.2%
C6	高価なものの紛失	1	0.1%	2	0.2%
C7	警察沙汰になり、その後の展開	0	0.0%	1	0.1%
C8	予想外のシリアスな反応	36	2.9%	40	4.1%
C9	顛末の省略	36	2.9%	11	1.1%
	大分類 (C) の合計	154	12.3%	123	12.6%
	ラフ・トラックの発生合計	1250		981	

大分類 (C) の発生の合計は、米中シットコムとも約 12%であり、米中間において、有意な差は認められなかった。小分類項目では、米国シットコムが中国シットコムに対して (C4)「話題がなく沈黙」、(C9)「顛末の省略」で、有意な差で上回った。

6.2. 考察

6.2.1. エネルギー理論からの応用

シットコムにおけるエネルギーとは、人物の内心の感情の不可視部分や、シーンの雰囲気や空気感の不可視部分の概念を指す。神経エネルギーは、喜怒哀楽などの感情、起伏などのベクトルの強さを表す。エネルギーの移行とは、神経的に張りつめた状態から緩やかになった (リラックスした) 状態への移行や、緩やかな状態から張りつめた状態への変化を指す。これまでの笑いに関する研究ではエネルギー理論が用いられ、緊張と緩和という概念が示されてきており、大分類 (C) は、笑いについての理論の一つであるエネルギー理論のエッセンスが活用できると考えられる。

本研究ではこの流れに沿った理論はエネルギー理論として括って進めるが、エネルギー理論では、先陣の研究者らが緊張 (Tension) と緩和 (Relief) という概念が用いられ、心的エネルギーの移行による笑いの発生について論じられてきた。エネルギー理論を使った笑いの分析では、緊張と緩和の二項の動きについて、緊張から緩和 (Tension to Relief) で説明されるが、緩和から緊張という方向性の動きで笑いは説明された例は見られなかつ

た。次項以降で、シットコムにおける「緩和から緊張へ」という動きでのラフ・トラック挿入について述べる。

6.2.2. 緊張から緩和へ

緊張と緩和のエネルギー移行は、一般的には「緊張から緩和へ」という風に解釈されている。落語家でもあり、笑いの仕組みについて分析的に著述した桂(1993)⁴は、笑いの概念について、以下のように述べている。

「緊張の緩和」がすべての根本なんですわ。はじめグーッと息を詰めててパーッとほき出す。グーッと「緊張」でパーッと「緩和」です。「笑い」の元祖ちゅうことなると、我々の祖先が大昔にマンモスと戦うてそれを仕留める。戦うてる時はエラ緊張でっさかい息を詰めてる。けど、マンモスがドターッと倒れたら息をワーッとほき出して、それが喜びの「笑い」になったんや・・・とねエ。(中略) とりあえずは「緊張が緩和された時笑いが起こる」ちゅうこって、「緊張の法則」と名づけましてね。

桂は「緊張」と表現しても「緊張」とは表現しなかった。長島(2007)も、桂の「緊張の緩和論」について以下のように記している⁵。

桂枝雀の「緊張の緩和論」とは落語家の桂枝雀(1939-1999)が唱えた笑いの起因についての理論である。その骨子は「生理上で最初に緊張があり、それが緩和されると笑いが生じる」という簡単なものであった。

従来のユーモア分析では、エネルギー理論を用い、緊張から緩和へ向かう流れでの面白みの発生が提示されてきた。Martin et al. (2018)⁶のエネルギー理論を用いた緊張と緩和についての研究でも「Relief of Tension」(緊張の解放)によるユーモアは成立すると述べられている。

エネルギー理論に区分される解放理論に関して、Martin et al. (2018) は以下のように記述している。

Philosopher of the 18th century had conceptualized laughter as a way of relieving built-up psychological tension or strain, Immanuel Kant (1724-1804), for instance, stated, “laughter is an affection arising from the sudden transformation of a strained expectation into nothing” (in Critique of Judgement, reprinted in Morreall, 1987, p47). Building on this notion of tension release, several 19th and early 20th century writers developed theories of laughter (and humor more generally) based on a hydraulic

metaphor of the nervous system, which holds that the function of laughter for the nervous system is similar to the function of a pressure relief valve for a steam pipe.⁷

Hurley (2011)⁸も release theories に於いて次のように記している。

In general, release theories claim the tension from thought can build up, and when this tension released by a positive emotion that results from further thought, the energy is transformed into (or spent by) laughing.

これらの記述を見ると、緊張と緩和や、エネルギー理論に関するこれらの記述は、緊張をいかに解放するか、つまり緊張から緩和の方向を前提としている。「緊張から緩和」の反対のベクトルである「From Relief (Relax) to Tension」(解放から緊張へ)における笑いの発生については論述されていない。図 6.1 に、緊張から緩和の方向でのラフ・トラック挿入のイメージを示す。

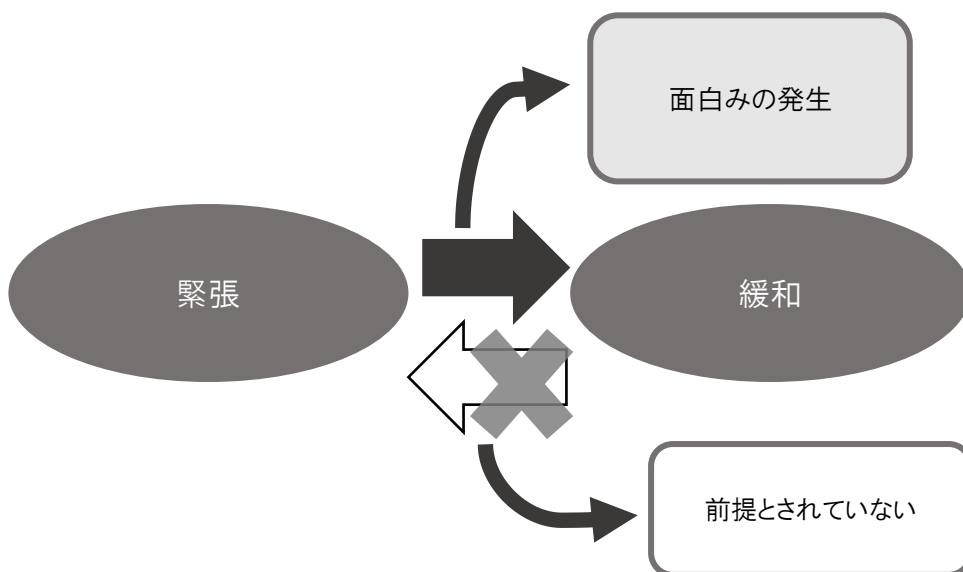


図 6.1 緊張から緩和の方向性での面白みの発生の仕組み

緊張から緩和の方向性での面白みは、多くの映像やエンターテインメント業界でコンテンツが作られてきた。日本の落語でも張りつめた空気から、演者が表情を緩めることにより、面白みを作るシーンは少なくない。

6.2.3. 緩和から緊張へ

緊張から緩和という方向性が、一般的な笑いやユーモアで想起される流れであるが、シットコムでは、緩和から緊張という方向性においてもラフ・トラック挿入のポイントとなっていることが分かる。

小分類項目においては、(C4)「話題がなく沈黙」、(C5)「外見の変形」、(C6)「高価なものを紛失」、(C7)「警察沙汰になり、その後の展開」、(C8)「予想外のシリアスな反応」が緩和から緊張の方向性である。図 6.2 に、シットコムにおける緊張と緩和の双方向におけるラフ・トラック挿入に関するイメージを示す。

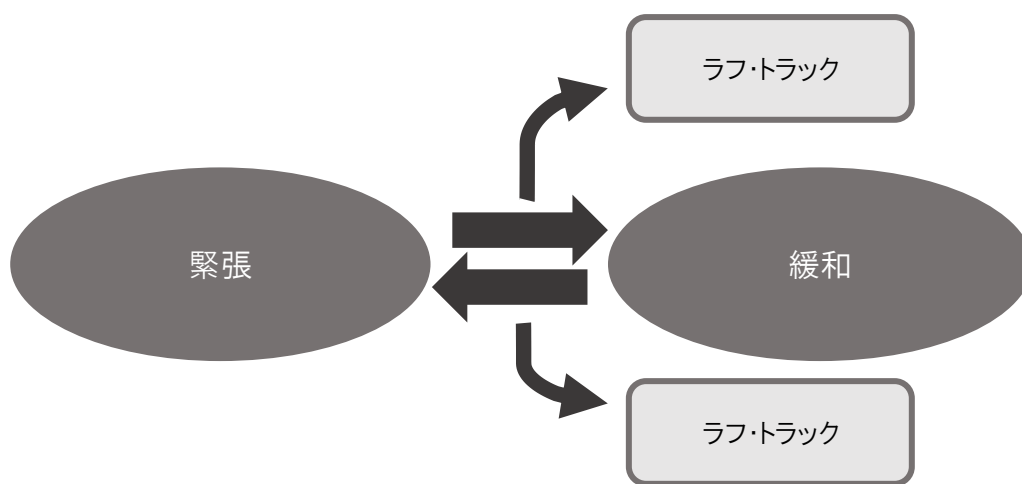


図 6.2 シットコムにおける緊張から緩和、緩和から緊張の方向性でのラフ・トラック挿入の仕組み

シットコムでは、緊張から緩和、緩和から緊張というどちらの方向性でも、ラフ・トラックが挿入されることが分かる。

定量分析では、米国が中国を大きく上回った (C4)「話題がなく沈黙」は、緩和から緊張への移行、(C9)「顛末の省略」は、緊張から緩和への移行を示し、中国が米国を大きく上回った。(C1)「態度の急激な和らぎ」は、緊張から緩和への移行、(C8)「予想外にシリアスな反応」は緩和から緊張への移行を示している。

6.2.4. 緊張と緩和の出現の傾向

6.2.3 の視点も踏まえ、大分類 (C) の小分類を、緊張から緩和、緩和から緊張というベクトルと、定性分析で使用したケース番号 1 からケース番号 14 はどれに当てはまったかを表 6.2 に示す。

表 6.2 大分類 (C) の小分類の、緊張から緩和、緩和から緊張のベクトル

ケース番号	制作国	適用された小分類項目	緊張から緩和	緩和から緊張	理由、備考
1	米国	(C4)「話題がなく沈黙」、(C4)「話題がなく沈黙」		○	
2	米国	(C8)「予想外にシリアスな反応」		○	
3	米国	(C8)「予想外にシリアスな反応」	○		
4	米国	(C9)「顛末の省略」		○	
5	米国	(C8)「予想外にシリアスな反応」	○	○	双方向
6	米国	(C1)「態度の急激な和らぎ」	○		
7	中国	(C4)「話題がなく沈黙」		○	
8	中国	(C8)「予想外にシリアスな反応、惨劇、激烈な反応」		○	
9	中国	(C8)「予想外にシリアスな反応、惨劇、激烈な反応」	○		
10	中国	(C1)「態度の急激な和らぎ」 (C8)「予想外にシリアスな反応」	○		
11	中国	(C1)「態度の急激な和らぎ」	○		
12	中国	(C9)「顛末の省略」	○		
13	中国	(C4)「話題がなく沈黙」		○	
14	中国	(C9)「顛末の省略」	○		

テキスト分析で使用したケース番号 1 からケース番号 14 では、緊張から緩和の方向性は、ケース番号 3、5、6、9、10、11、12、14 で見られ、緩和から緊張の方向性は、ケース番号 1、2、4、5、7、8、13 で見られる。

緊張から緩和、緩和から緊張が一つのシーンに出現しているのは、ケース番号 10「愛情公寓」である。家賃の駆け引きであり、(L₁)では、駆け引きの緊張した空気が緩和に動き、(C1)「態度の急激な和らぎ」を適用し、(L₂)では、札束を見て、よろけてしまうところが緊張感を生み、(C8)「予想外にシリアスな反応」を適用した。よろけることが思惑通りにいったにも関わらず、思惑以上に行きすぎた結果、札束を見せられ倒れてしまうという緊張によってラフ・トラックの挿入ポイントが作られたパターンである。現実では、人が倒れる、というのは、救護や処置が必要であり、笑いが起きることはないが、シットコムの枠では、「致命傷には至らない」という状況が担保された中では、ラフ・トラックが挿入されうる。

本章冒頭で示した[6.1]は、「緩和から緊張」でのラフ・トラック挿入で、恐怖感に至るプロセスが緊張を生んでいる。恐怖感は、当事者にとって嫌なものだが、端から見ればおもしろいと捉えられる。しかし、ホラー映画のようにその恐怖感が命を落としたり傷を負ったりという致命的な展開へと達する可能性が存在する場合は、当事者が怖がっているようなシーンは面白みにはならない。シットコムは、視聴者が「その番組はシットコム番組である」と認識している段階で、緩和が緊張に変わるようなシーンもが致命的な展開へと結びつかないと認識し、作り出された恐怖も面白みに変わる構造が暗黙のうちに約束されている。緩和から緊張は、「当事者は大変でも実際はそうではないから大丈夫」といった枠組みが機能している条件下で起こりうる。ラフ・トラックの付与も、結果的にはこの構造を意識させる機能も果たしている。ラフ・トラックの使用は、人の笑い声につられて、おかしいと思える連鎖的なバイアス効果ももたらす（社会的証明については第1章で述べた）が、「この（シットコム）番組は致命的な展開にはならない」「起こりうる不快さの当事者ではない」「安心して笑ってもよい」ということを示す効果もある。

また、[6.2]は、Sheldonが「自分が行く」というPennyが望まない選択をしたという事態が、緊張状態を作り、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

ケース番号8は、腹痛がくるという惨劇の発生のシーンで、ラフ・トラックが挿入されている。腹痛は本来望ましい状況ではなく、それを笑うというのは、現実社会では不謹慎である。しかし、シットコム番組という枠組みが、「不謹慎を笑える」空間を確保している。シットコムでは、不謹慎なはずの「他人の不幸を笑う」という（少なくとも、シットコム視聴者には想定される）人間的本能により、面白みを感じ得ることが企図されている。ただし、大病や致命的なケガ、現状に戻らないような症状の発生は面白みに繋がらないことが想定される。ケース番号9では、一菲が怒りから予想外に激しい示唆をするところから、ラフ・トラックの挿入タイミングが生まれている。当事者同士は怒ったり、言い合いをしている状況から、面白みを感じるようなシチュエーションではないが、客観的に見て些細なことでケンカをしている状況は、視聴者にとっては面白みを感じ得る要素となりえる。製作者側は「(致命的なことではなく)些細なことである」という設定を明確にしなければならない。

ここで、研究対象外の部分から、緩和から緊張への動きが顕著なラフ・トラック挿入ポイントを2例示す。

「愛情公寓」2-10

[6.18] 張偉がロブスターを食べていると、アレルギーで顔が腫れ上がるところに、ラフ・トラックが挿入されている（セリフなし）。

「the Big Bang theory」1-2

[6.19] Howardがピーナッツを食べた後、アレルギーにより顔が腫れあがるところに、ラフ・トラックが挿入されている（セリフなし）。

この両シーンは、食物アレルギーという現実に関したら深刻なことであり、前節、本節で見てきた例と同様に、緩和から緊張の方向性での動きが起きている。これらのシーンにはラフ・トラックが挿入され、面白みを感じるという設定になっている。このように、緩和からの緊張の動きは、当事者間にとっては思わしくない、笑えないような事態の発生を、第三者（視聴者）が客観的に俯瞰することにより、生まれる。ただし、その俯瞰性は、視聴者にとって、面白みを感じるシットコムの設定の中での、面白みを感じる程度（致命傷にはならない程度）の範囲内の緊張感でなければならない。

米中シットコムを比較すると、大分類（C）の発生比率は両国に有意な差は見られず、両国のシットコムにおいて一定程度、有用であることが示された。小分類では（C4）「話題がなく沈黙」、（C9）「顛末の省略」が米国の方が中国を有意な差で上回っており、米国の方が会話の「沈黙」に面白みを生む意味が発生していることや、話の顛末を省略する、話の筋道を飛ばすことも面白みを持ちうるということが考えられる。また、定性分析で見たように、中国では緊張から緩和という面白みを生むための一般的なスタイルでラフ・トラックの挿入ポイントを作る傾向にあるが、米国では、緩和から緊張というシットコム特有のスタイルで笑いのポイントを作っていると考えられる。

6.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類（C）「エネルギーの移行」の視点から分析、考察した。エネルギー移行による笑いの発生は、従来の笑い・ユーモア分析や落語による緊張から緩和の動きのみならず、シットコムにおいては緩和から緊張のエネルギー移行により発生する。

緊張から緩和の動きにおいては、結論をいきなり言う、途中の説明過程を省く、理屈抜きなどの顛末の省略が、エネルギーの発生と強化に繋がり、態度や表情を急に和やかなものにするといったことが、緊張から緩和を生む。緩和から緊張の動きにおいては、病気の症状、恐怖、厳粛の要請、ケンカ、口論、トラブルなどの緊張感の発生が、シットコムではラフ・トラック挿入のタイミングとなり得る。視聴者は客観的にシチュエーションを見ているために、不快で違和感のある状況が生み出されても、致命傷にならないという笑える枠内に収められ、かつ視聴者が当事者にはならない状態が担保されていれば、ラフ・トラックが挿入される。「シットコムである」というフレームが提示はされることは、視聴者は当事者ではないという状況であるということを視聴者に明確に提示し、緊張感が発生する場面でも視聴者が安心して面白みを感じられる状況が作られる。

緩和から緊張での面白みが起こりうるケースは、仮に我々の日常生活において発生するならば好ましくない事象ばかりであるが、それらがラフ・トラック挿入ポイントのタイミングに変わる条件として、視聴者の客観性が保持されていること、客観的であっても「ホラー映画のように致命的な展開になりえない」ということを視聴者が潜在的に認知していることが挙げられる。深刻な展開になっているにも関わらず、面白みを感じ得るのは、

「その番組がシットコムであるという視聴者の認識」や「ラフ・トラックの挿入」による効果もある。シットコムの特徴の一つである観客の笑い声は、視聴者が客観性を保てることや番組のコメディという性質を明示するための効果も持つ。

米国・中国の代表的なシットコムにおいては、社会背景の差異に関わらず、両国において、エネルギー移行での笑いが約1割発生し、ほぼ同程度であった。小分類項目では、米国シットコムが中国シットコムに対して有意な差で上回っている項目は、「話題がなく沈黙」、「顛末の省略」で、中国シットコムが米国シットコムを有意な差で上回っている項目は、「態度の豹変」、「予想外にまじめな反応、惨劇、激烈な反応」となった。

¹ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams: *Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the Mind*, MIT Press, 2011. (片岡宏仁訳: ヒトはなぜ笑うのか, pp.85-87, 勁草書房, 2015.)

² 雨宮俊彦: 笑いとユーモアの心理学-何が可笑しいの?, ミネルヴァ書房, pp.140-143, 2016.

³ Herbert Spencer.: *Physiology of laughter, Essays: Scientific, political and speculative*, vol.1, William and Norgate. 1868 (木村洋二訳: 下降性の不一致と笑いの生成, 笑いの生理学, 現代思想, 特集, 笑い, vol.12-2, 青土社, pp.238-248, 1984.)

⁴ 桂枝雀: らくご DE 枝雀, ちくま文庫, pp.49-51, 1993.

⁵ 長島平洋: 生理的に見た笑いの分布, 桂枝雀の「緊張の緩和」論を検証するために (I), 笑い学研究 14, 日本笑い学会, pp.3-11, 2007.

⁶ Rod A. Martin, Thomas E. Ford.: *The psychology of humor, An integrative approach*, Academic Press, 2018.

⁷ Rod A. Martin, Thomas E. Ford.: *The psychology of humor, An integrative approach*, Academic Press, 2018.

⁸ Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams: *Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the Mind*, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳: ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015.)

第7章 大分類 (D) 「発話の意味と解釈のズレ」の笑いの構造

前章では、大分類 (C) についての分析、考察を行った。本章では「発話の意味と解釈のズレ」について分析する。大分類 (D) 「発話の意味と解釈のズレ」では、会話の構成、発話の組み合わせによって起きる、発話者と聴き手の解釈のズレによって引き起こされる性質を分類した。

定量分析では、大分類 (D) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析し、定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (D) が当てはまる箇所を取り上げる。米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。

7.1. 「発話の意味の解読」構造の概要

シットコムは、登場人物の会話を効果的に組み合わせ、ラフ・トラックの挿入ポイントの高い頻度で作っていくものである。その会話の組み合わせの中で、発せられた言葉と実際に解釈される間の意味との間に乖離があり、その乖離が埋め合わされる（意味を解読させる）ことによって面白みに変わり、そのポイントにラフ・トラックが挿入されているケースが見られる。それを顕著に示しているのが、大分類 (D) 「発話の意味と解釈のズレ」である。

以下に、「発話の意味の解読」という要因で説明できるシットコムのテキストとはどのようなものかについて、具体的に米中シットコムのテキストから示す。はじめは、米国シットコム「*the Big Bang Theory*」のエピソード 1-12 で、Leonard と Sheldon が、北朝鮮出身の Dennis Kim に大学の校内を案内しているシーンである。

[7.1] Leonard : So, Dennis, how long have you been in America. (米国に来て何年?)

Dennis : A year and a half. (1年半)

Leonard : No kidding, you speak English really well. (英語が流暢だ)

Dennis : So do you. (L₁) Except for your tendency to end sentences with prepositions. (君もね。疑問形が多いのが難点だけ)

Leonard : What are you talking about? (L₂) (どういう意味?)

Dennis : That. (ほらね)

Sheldon : He's not wrong. (L₃) (たしかに)

(L₁)は、Leonard はアメリカ人 (という設定) だが、Dennis Kim からは米国以外の国民に見えて、勘違いを起こしているという「決めつけとその勘違い」(筆者は第3章で (A14) に分類した) であり、(L₂)は、「どういう意味?」とは単なる疑問ではなく、言われたことへの不快感を含んでいる。文字通りに解釈すれば聞いているだけだが、不快感が推測できるという「好戦的な問いかけ」(筆者は (D4) に分類した)、(L₃)は、疑問形が多いのが難点を言っているデニスに対し、どういう意味?と疑問形で聞いている Leonard の様子に、Dennis と Sheldon が、疑問形が多いことを指摘しており、「奇妙な現実やミスの指摘」(筆者は (D11) に分類した) が、ラフ・トラック挿入ポイントの性質である。ここでは、(L₂)と(L₃)が、大分類としての「発話の意味の解説」という要因で説明できる。

つづいては、中国シットコム「愛情公寓」のエピソード 1-3 から、小賢が、一菲が他人の家のゴミ箱をあさっている習慣を見つけて、一菲に問うシーンから示す。

[7.2] 小賢：你有没有翻过我的垃圾桶？（私のゴミ箱もあさっているのか？）
一菲：最近没有。(L₁)（最近はしてない）

(L₁)では、「私のゴミ箱もあさっているのか?」と聞かれ「最近はない」と答える。「最近」をつけることによって「(最近はないが、) これまではあさっていた」と推測が成り立ち、笑いの発生ポイントとなっている。

「発話の意味と解釈のズレ」は、言語学分野の語用論の領域にある関連性理論で説明できる。語用論は主に2つの立場があり、P.Grice による社会語用論(1989)¹と、D. Sperber と D. Wilson により提案された関連性理論(1995)²に分けられる。本研究で参考にするのは関連性理論³の方で、発話は聞き手の解釈に委ねられており、我々は、聞き手の解釈に委ねられているという前提で発話を行っているというものである。コード化された以上のものが伝えられ、受け手の側の推論に基づいており⁴。言語伝達は、話し手が単にものを行っているというのではなく、誰かに何かを言っているのだと聞き手により認識されるときに始まる。ラフ・トラックの挿入に関しては、文字通りの意味が「表意」で、推測される意味を「推意」とする、発話の関連性について述べる関連性理論を参照することが可能であると考えられる。

大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」は、発話の組み合わせに由来し、発話者と聴き手の解釈のズレによって引き起こされる要素を設定した。その中で、本稿では、事前の分類過程で提示した大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」からさらに細分化した小分類項目を用いる。

7.1.1. 「発話の意味と解釈のズレ」の笑いの定性分析

定性分析として、各番組の第1エピソードの大分類 (D)の最初と最後に出てきたところを抽出し、計12箇所をケース番号1-12とした。大分類 (D)に関連する小分類項目に下線を付けた。

【シーン番号1】

「*the Big Bang Theory*」1-1

Leonard と Sheldon が、精子提供バンクの受付にやってきた。

[7.3] Receptionist : Can I help you? (どうしました?)

Leonard : Yes. Um, is this the High IQ sperm bank? (L₁) (IQが高い人用の精子バンクはどこ?)

Receptionist : If you have to ask, maybe you shouldn't be here. (L₂) (IQが高けりゃ分かる)

Sheldon : I think this is the place. (L₃) (ここで合ってる)

Receptionist : Fill these out. (記入して)

Leonard : Thank-you. We'll be right back. (どうも。すぐ書くよ)

Receptionist : Oh, take your time. (L₄) I'll just finish my crossword puzzle. Oh wait. (L₅) (パズル解くからごゆっくり。無理そうね)

(L₁)は (A5)「妙なこだわり」で、(L₂)は (D10)「回りくどい言い換え」で、IQが高けりゃ分かる (もし聞かなければならないのであれば、ここにいるべきではない)、つまり、IQが低いだろという Receptionist からの皮肉である。「それが分からないくらいだからIQは低い」が推意として成り立つ。(L₃)は (C9)「顛末の省略」で、(L₄)は (D9)「本音と建前のギャップ」で、受付係も、クロスワードが解けなくなっている状態を知っていて「ごゆっくり」と、皮肉を使って応酬している。(L₅)は (D11)「奇妙な現実やミス指摘」で、あなたのせいでパズルが解けなくなったという現実を指摘している。

【ケース番号2】

「*the Big Bang Theory*」1-1

食事に向かおうとする車中で、Penny、Howard、Sheldon、Leonard が向かう先について話をしている。

[7.4] Penny : Any ideas Raj? (Rajは何も話さない)(L₁) (何を食べたい?)

Howard : Turn left on Lake Street and head up to Colorado. I know a wonderful little sushi bar that has karaoke. (レイク通りで左折だ。カラオケ付きの寿司バーがある)

Penny : That sounds like fun. (楽しそうね)

Howard : (歌う) Baby, baby don't get hooked on me. Uh, baby, baby don't get hooked on me. (L₂) (ベイビー、ベイビー、俺に惚れるなよ。ベイビー、ベイビー、俺に惚れるなよ。)

Sheldon : I don't know what your odds are in the world as a whole, but as far as the population of this car goes, you're a veritable Mack Daddy. (世間的には違っても、この車内では君が一番のモテ男だ) (L₃)

(L₁)は (C4)「沈黙」で、(L₂)は (A9)「一心不乱な動作」である。(L₃)は、(D11)「奇妙な現実やミスの指摘」で、Mack Daddy という比喩を用いているが、今いるメンバーの中で消去法的に Leonard が一番もてるだろう (他の男達がひどいレベルである) ということを指摘している。

【ケース番号 3】

「*Friends*」 1-1

カフェで、Monica、Joey、Chandler、Phoebe が、Monica の恋愛について話している。

[7.5] Monica : There's nothing to tell! He's just some guy I work with! (普通の男よ。職場の同僚なの。)

Joey : C'mon, you're going out with the guy! There's gotta be something wrong with him! (L₁) (Monica とデートするなんて異常だよ)

Chandler : All right Joey, be nice. So does he have a hump? A hump and a hairpiece? (L₂) (そいつ変態だろ?)

Phoebe : Wait, does he eat chalk? (L₃) (チョーク食べる?)

(L₁)は (D10)「回りくどい言い換え」で、男の行動を異常だと指摘しながら、結局は Monica のことをバカにしている。(L₂)は (D6)「不自然な比喩や例示」で、疑問形であるために (D4)「好戦的な問いかけ」の要素もあるが、hump (歳をとって背中が曲がっている) と hairpiece (かつら) という比喩的な要素の方が強いことから、(D6) に分類した。(L₃)は (A3)「無垢で悪意のない異常性」である。

【ケース番号 4】

「Friends」 1-1

カフェで、Monica、Joey、Chandler、Phoebe が、話をしながら盛り上がっている。

[7.6] Joey : I can't believe what I'm hearing here. (それ冗談だろ?)

Phoebe : (歌う) I can't believe what I'm hearing here...

Monica : What? I-I said you had a- (でも私は…) (L₁)

Phoebe : (歌う) What I said you had...

Monica : (Phoebe に向かって) Would you stop? (やめて)

Phoebe : Oh, was I doing it again? (また歌ってた?)

All : Yes! (L₂)

(L₁)は (A2)「空気の読めなさ」で、(L₂)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」で、全員が肯定することで、Phoebe が歌うことをやめていないという奇妙な行動を指摘している。

【ケース番号 5】

「Full House」 1-1

孫たちの世話に来ていた Claire が自分の家に帰ろうとするが、孫たちに引き留められ、名残惜しい気持ちになる。孫たちの父親で、Claire の息子である Danny が、Claire を自分の家に帰そうとする。

[7.7] Claire : Oh, you know, Danny, I don't have to go back home. (L₁) (別に帰らなくてもいいのよ)

Danny : Mom, this isn't how we rehearsed this last night. (L₂) Let's take a little walk, okay. Now, you know as well as I do that. (ゆうべの打ち合わせとは違うな。少し歩こう。分かっていると思うけど)

(子供が盗み聞きをしようとして、バレた) (L₃)

Danny : Mom look it's time to go home. You've been taking care of us ever since Pamela died. I don't know how we'd have made it the past three months without you. But Dad needs you too. You remember Dad, don't you? Your husband? (L₄) (ママ、頼むよ。パメラが死んでからずっと世話になった。3ヶ月間助かったよ。でもパパは？ママの夫だよ。覚えてる？髪が薄くて、メガネで。大丈夫？夫のこと?)

(L₁)は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」である。(L₂)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」で、Danny と Claire が前もってリハーサルをしていたことがバレた。(L₃)は (C2)

「仕掛け、復讐、悪巧みの失敗」で、(L₄)は (D4)「好戦的な問いかけ」で、自分の旦那のことを忘れてないか？と聞いており、Claire の記憶力低下の可能性を指摘している。

【ケース番号 6】

「*Full House*」1-1

父親の Danny と、娘の Stephanie、DJ が喧嘩していたが、仲直りする。

[7.8] Stephanie : You got me, too. (私もいるよ)

Danny : You got Michelle, and you have your uncle Jesse, and Joey. DJ、 we're still a family, and now is when we really need to stick together. DJ, you and I, we go back a long time - ten years. The ten happiest years of my life. So look; it's up to you. Either you move back inside, or all five of us are moving into the garage. (L₁) But nothing is gonna break up this team. (ミシェルも、ジェシーも、ジョーイもいる。みんな家族だ。こんな時こそ、団結しなきゃ。お前とは長いつきあいだ。10年だぞ。パパはずっと幸せだった。お前が決めてくれ。部屋に戻るか、全員でガレージに住むか。どっちにしろ、家族は一つだ)

DJ : I'll move back in. (部屋に戻る)

Danny : I love you, angel. You too, little ballerina. (L₂) (愛してるよ。バレリーナさんも)

(L₁)は (B11)「奇妙な提案」で、(L₂)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」で、Stephanie がバレリーナの服装をしていることに、Danny がツッコミを入れている。「little ballerina」と言いながら、バレリーナの服装をしていることの奇妙さを指摘している。

【ケース番号 7】

「*愛情公寓*」1-1

空港から市内へ向かうバスに展博が乗ろうとして、バス乗り口の電子マネーのタッチの仕方が分からず、運転手が腹を立てて呟く。

[7.9] 運転手 : 要么刷卡、要么投币、要么滚蛋、扭什么扭。(L₁) (クレジットで払うか、或いは、小銭を出すか、或いは、とっとと出ていくか、一体、何をやってるんだ)

(主題歌と番組オープニングの映像)

(運転中のバス。そのバスが急ブレーキで停車し、展博が頭をぶつける。)(L₂)

展博 : 这么快就到了。(L₃) (こんなに早く着いたんだ)

(他にも空席があるのに、客が展博の隣に乗ってきた) (L₄)

(L₁)は (D10)「回りくどい言い換え」で、不満を表す運転手が回りくどい言葉で暴言を言っている。言い換えの回りくどさの方を重視し、(D10) に振り分けた。(L₂)は (C8)「予想外のシリアスな反応」で、(L₃)は (D1)「聞き手の勘違い」で、展博が、急ブレーキでの停車を目的地への到着と勘違いしている。展博が「急ブレーキを目的地到着と勘違いするほどに頭が悪い」という推意前提が含まれている。(L₄)は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」である。

【ケース番号 8】

「愛情公寓」1-1

宛瑜のテイクアウトのオーダーの電話注文の奇妙さを、小賢が指摘している。

[7.10] 小賢：我很想知道、她是怎么通过电话然后手势沟通的。(L₁) (彼女がなぜ、電話で話しているのに、ジェスチャーを使って伝えようとしているのか、その理由を知りたい)

一菲：我也很想知道。(私も知りたい)

宛瑜：我们到底是要小包的中包的还是大包的。好吧、这样吧。先给我们五份土豆泥吧。请问你们的土豆泥。有没有分大罐中罐小罐。小罐是多大？这么大？还是这么大？还是这么大？(L₂) (スモールサイズとビッグサイズのどちらが必要か……。はい。こうです。まずマッシュポテトを5個ください。マッシュポテトですけども、大中小のサイズのどれか……。小サイズはどれくらいですか？これくらいですか？それともこれくらい？それともこれくらい？) (大きさを示すジェスチャーをつけながら)

一菲：我们还是去麻辣烫吧。(L₃) (やっぱり、マーラータン (スープの名前) を食べに行きましょう)

(L₁)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」で、小賢が、宛瑜の電話をしているのにジェスチャーをしているという理にかなわない行動を指摘している。(L₂)は (A17)「融通の利かなさ」で、(L₃)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」、注文するのに手間取っている様子の宛瑜を見て、一菲が代案を提示している。代案の提示は、一菲が、宛瑜が注文するのに時間がかかり過ぎている (ミスをしている) ことを毛嫌いしていると解釈できる。

【ケース番号 9】

「我爱我家」1-1

リビングで、登場人物一同がテレビを見ながら食事をしている。

[7.11] 小凡：二哥、你霸着鸡腿儿你一人吃你能不咸嘛你、人家一礼拜可才见一回晕腥！（L₁）唉唉唉、动物世界动物世界。（L₂）（兄さんは一人で鶏の足を食べているけど、一人で食べても味がしないんじゃないの。人が、一週間に一回会うとなればめまいがする。ああ、動物の世界、動物の世界（テレビの番組））

和平：哎哎哎、咱爸今儿是怎么回事儿？从单位一回来就打蔫儿、饭都不吃就楼底下溜达去了这大冷的天儿。（えええ、お父さんはどうしたっていうの。仕事から帰ってくるなりぐったりした様子で、ご飯も食べずに階下へ行って、この寒い日をぶらぶらして）

志新：可能是添什么心事了、唉、是不是今儿跟单位巧遇哪位中午丧偶的女同志。（L₃）（何か心に引っ掛かっているものがあるんじゃないの、ひょっとして、職場で昼にあった未亡人の女性のこととか...）

（L₁）は（D11）「奇妙な現実やミスの指摘」で、志新の食べ方のおかしさを指摘している。（L₂）は（A5）「妙なこだわり」で、（L₃）は（D12）「遠回り」で、あり得もしない変な空想を遠回りさせて巡らせている。長老に対し、未亡人の女性の存在を示すことで面白みを生んでいる。

【ケース番号 10】

「我爱我家」1-1

家具を撤収しにきた作業者たちの容赦ない行動に、志新が怒鳴る。

[7.12] 志新：都给我住手！这么毁我家。（L₁）我跟你们拼啦！（L₂）（止めてくれ！私の家を台無しにする気か！俺はお前らと戦うぞ）

（志新はおたまを持って作業者を追いかけまわしている）（L₃）

傅老：（大声で叫ぶ）打电话！快报警！110！110！我们家遭抢啦！（電話して！警察に電話してください！110！110！私たちの家は奪われました！）

（L₁）は（D11）「奇妙な現実やミスの指摘」で、作業者たちが家を壊してしまうのかと指摘している。ここは妄想ではなく、作業者たちの行動が壊すことに結びつきかねないことから現実的である。大分類（C）の要因もあるが、指摘する側面が強いと考え、（D11）に分類した。（L₂）、（L₃）は（C8）「予想外のシリアスな反応」である。

【ケース番号 11】

「家有儿女」1-1

夏东海（夫）と刘梅（妻）が将来の家族の計画について話している。

[7.13] 夏东海：好、如果是再多一个就更好了。(L₁) (よし、もう一人多ければいいじゃないか)

刘梅：什么意思啊、你还想让我再生啊。(L₂) (どういう意味？また子供を生めというのか？)

夏东海：不是、我不是那意思。我是说啊、干脆把小雪从她爷爷家也接过来一块住。你想啊。一头羊也是赶，三头羊也是轰。(L₃) (いや、そういう意味じゃない。単に、小雪をお爺さんの家から連れて来て一緒に住もうと言っているだけだ。羊は、一匹でも三匹でも、育てる手間は同じことだ)

(L₁)は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」である。(L₂)は (D13)「嫌悪感の表示」で、「また産めというのか」と問うているだけのようで、嫌悪感が包含されている。(L₃)は (D6)「不自然な比喩や例示」で、「一头羊也是赶、三头羊也是轰」という比喩は人間を動物に例えたもので不自然である。登場しない羊が話題に挿入されている虚構性から大分類 (B) の性質も持つが、不自然な比喩の側面が強いと考え、(D6) に分類した。

【ケース番号 12】

「家有儿女」1-1

小雪（娘）が夏东海（父親）に、自分のボーイフレンドを紹介する。

[7.14] 小雪：这位是我的男朋友、狂野男孩（これは私のボーイフレンド、ワイルドボーイです）

狂野男孩：(踊りだす) (L₁) 我的爱情、好像一把火、燃烧了整个沙漠。(L₂) (私の愛は、火のように砂漠全体を燃やしました)

小雪：怎么都不说话了。(L₃) 对我的男朋友不满意（なぜ、何も話さないのか。私のボーイフレンドが気に入らないの？）

(夫婦二人でヘンな笑い方をしている) (L₄)

(L₁)、(L₂)は (C3)「奇妙な動作」である。(L₃)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」で、小雪が、両親が何も言わないことを指摘している。指摘されることで、視聴者が面白みを認識しやすくなる。(L₄)は、(C3)「奇妙な動作」である。

7.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 4.1 から表 4.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 7.1 である。「発話の意味の解読」を示す大分類 (D) を太枠で囲んだ。

表 7.1 小分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在のものと虚構との混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の再認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類 (D) 内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 7.2 に示す。

表 7.2 大分類 (D) 内の小項目についての χ^2 検定の結果

	米国合計	中国合計	米中合計	米国期待値	中国期待値	P値
D1 聞き手の勘違い	10	5	15	8.404303003	6.595696997	0.406499056
D2 拡大解釈	3	12	15	8.404303003	6.595696997	0.004934481
D3 自慢	9	1	10	5.602868669	4.397131331	0.030439446
D4 好戦的な問いかけ	24	22	46	25.77319588	20.22680412	0.598381266
D5 汎用性の高い答え	22	15	37	20.73061407	16.26938593	0.674164866
D6 不自然な比喻や例示	55	36	91	50.98610489	40.01389511	0.396590713
D7 推意すべきところの表意での解釈	11	3	14	7.844016136	6.155983864	0.089254745
D8 表意は平凡、推意は卑猥	6	11	17	9.524876737	7.475123263	0.085000302
D9 本音と建前のギャップ	42	4	46	25.77319588	20.22680412	0.000001434
D10 回りくどい言い換え	78	43	121	67.79471089	53.20528911	0.061602827
D11 奇妙な現実やミスの指摘	180	119	299	167.5257732	131.4742268	0.146109991
D12 遠回り	28	17	45	25.21290901	19.78709099	0.402560618
D13 嫌悪感の表示	10	26	36	20.17032721	15.82967279	0.000637764
D14 同音異義語や似た音での聞き違い	1	10	11	6.163155536	4.836844464	0.001710464
	479	324	803	449.9103541	353.0896459	0.038622031

大分類 (D) の合計で、米国シットコムの方の割合が、p 値が 5% の水準を超えて高く、有意な差が認められた。小分類項目は (D2)、(D3)、(D9)、(D13)、(D14) において有意な差が見られた。米国シットコムの方が高かったのは (D3)、(D9) で、中国シットコムのほうが高かったのは、(D2)、(D13)、(D14) であった。次に、大分類と小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 7.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んだ。

表 7.3 大分類 (D) 内の小分類項目の米中の差異

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
D1	聞き手の勘違い	10	0.8%	5	0.5%
D2	拡大解釈	3	0.2%	12	1.2%
D3	自慢	9	0.7%	1	0.1%
D4	好戦的な問いかけ	24	1.9%	22	2.2%
D5	汎用性の高い答え	22	1.8%	15	1.5%
D6	不自然な比喻や例示	55	4.4%	36	3.7%
D7	推意すべきところを表意での解釈	11	0.9%	3	0.3%
D8	表意は平凡、推意は dirty	6	0.5%	11	1.1%
D9	本音と建前のギャップ	42	3.4%	4	0.4%
D10	回りくどい言い換え	78	6.2%	43	4.4%
D11	奇妙な現実の指摘	180	14.2%	119	12.2%
D12	遠回り	28	2.2%	17	1.7%
D13	嫌悪感の表示	10	0.8%	26	2.7%
D14	同音異義語や似た音での聞き違い	1	0.1%	10	1.0%
	大分類 (D) の合計	479	38.3%	324	33.0%
	ラフ・トラックの発生合計	1250		981	

データ比較からは以下のような傾向が読み取れた。

大分類 (D) の合計では米国シットコムの方が中国シットコムに対し、割合が高く、有意な差が認められた。大分類 (D) 内の小分類項目では、米国シットコムが、(D3)「自慢」、(D9)「本音と建前のギャップ」で有意な差での割合の高さが認められ、中国シットコムは、(D2)「拡大解釈」、(D13)「嫌悪感の表示」、(D14)「同音異義語や似た音での聞き違い」で割合の高さが有意な差で認められた。

7.2. 考察

米中シットコムの笑いの発生要因の共通性では、米国、中国、ともに 30%台となった。発話の関連性を使用したラフ・トラックの挿入ポイントの作成は、両国のシットコムともに最も多い手法であるということが分かる。

大分類 (D) 内の小分類項目では、米国シットコムが、(D3)「自慢」、(D9)「本音と建前のギャップ」で有意な差での割合の高さが認められ、中国シットコムは、(D2)「拡大解釈」、(D13)「嫌悪感の表示」、(D14)「同音異義語や似た音での聞き違い」で有意な差での割合の高さが認められた。米国では、登場人物が自分の自慢を主張することや、本音と建前との乖離を面白みに変えていく傾向が見られ、中国では、必要以上に大きく解釈することや、人間関係の中で嫌悪感を示すこと、音の聞き間違いで面白みを作る傾向が示された。有意差は認められなかったが、「不自然な比喻や例示」、「推意すべきところの表意での解釈」、「回りくどい言い換え」、「奇妙な現実やミス指摘」、「遠回り」が高かった。中国は、「拡大解釈」、「表意は平凡、推意は卑猥」、「嫌悪感の表示」が多いことを提示した。さらに、米国で割合が高かった「本音と建前のギャップ」、「回りくどい言い換え」、「遠回り」はストレートに言ったり行ったりせず、婉曲的に表現をしようとする試みで、皮肉としての要素も含んでいる。

中国で割合が高かった「拡大解釈」は、過剰な反応を指し、婉曲的ではなく刺激的な表現をしようとする動きで、「嫌悪感の表示」は、相手をストレートに攻撃する性質である。有意差は認められなかったが「表意は平凡、推意は卑猥」も中国に多く見られ、卑猥な話は遠回しな言い方をしようとする動きであるが、この傾向は表現の規制や、文化背景に由来するものと考えられる。「同音異義語や似た音での聞き違い」が中国に多いのは、表意文字の性質を持つ中国語の言語的特性に由来するものと考えられる。

7.2.1. 推意帰結と推意前提

関連性理論には表意と推意という概念があると述べたが、本項では、推意の中に、さらに推意前提 (implicated premise) と推意帰結 (implicated conclusion) という考え方があることを示し、大分類 (D)「発話の意味と解釈」内のラフ・トラック挿入ポイントの更なる考察へと結びつける。

表意とは、当該発話の想定を確定するために必要な情報を文脈から呼び出して明示したもので、推意とは、当該発話の想定を当該文脈において解釈するために文脈から必要な情報を呼び出すことで新たに導き出される想定のことを指す。その中で、関連性とは、表意と推意の間の関連度合いを指し、何を言っているか聞き手に分かりやすい（推意しやすい）ことを関連性が高いとし、何を言っているか聞き手に分かりにくい（推意しにくい）ことを関連性が低いという。表意と推意の関連性が高くなるほど、視聴者の発話理解度は高まる。関連性が高ければ視聴者は話の内容を理解しやすいが、感じる面白さは下がる。シットコムの笑いは関連性が低いゾーンで作られ、解読を要するものとなる。ただし、関連性が低すぎると視聴者は話しそのものの意味が理解できなくなる。

関連性理論の中では、推意が、さらに推意前提と推意帰結という2種類の概念に分けられることが示されている⁵。推意前提とは、推意された中で、その前提として想起されるもので、推意帰結とは、推意された結果、どのようなことが想定されるかが示されるものである。[7.17]で、推意前提、推意帰結とはどのようなものかを示す。学生であるAが、教壇の近くにいる教師に向かって「先生、寒いです」と発話する。

[7.17] 学生A：先生、寒いです。

[7.17]の発話を言葉通りに解釈する表意は、「先生、室温が低い」「先生、体感として温度が低く感じる」くらいであろう。しかし、この発話から何が推測できるかという点においては、主に二つの方向性で解釈を進めることが可能である。一つは、この会話の背景や土台となっている部分であり、「部屋には冷房機が設置されている」「先生が、冷房機のスイッチを消す権限を持っている」というようなことであり、推意前提とされる。これらは過去に既に設定されているもの、過去に設定され現在も続いている状況を示すことが多い。二つ目が、発話をする際、聞き手に何かを促す意図である。これが推意帰結であり、[7.17]の発話では、「先生、冷房を消してください」というようなことであり、聞き手に対し、現在から未来へ向かう行為を示している。その点では、推意前提は過去にフォーカスし、推意帰結は未来にフォーカスしているといえる。図7.1にイメージを示す。

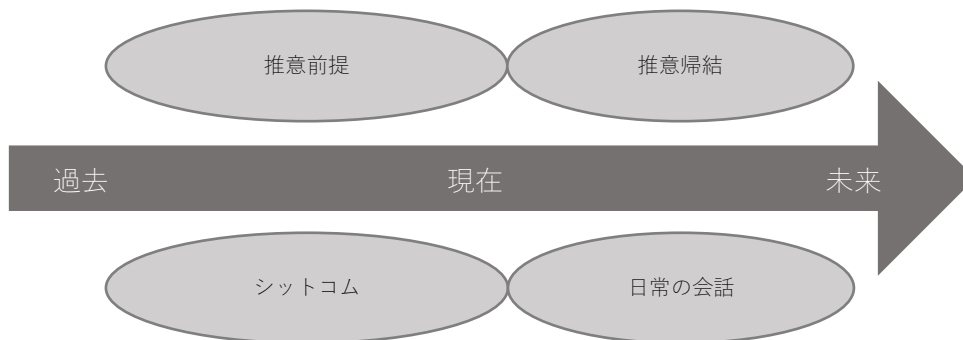


図 7.1：推意前提と推意帰結の時制イメージ

日常の会話では、発話によって、相手に「何かさせよう」という意図を含むことが強いことから、推意は推意帰結となる傾向がある。例えば「ご飯を食べた？」と聞けば、推意前提としての「ご飯を食べていないように見える」や「時間的にご飯を食べられなかった」というよりも、推意帰結として「ご飯を作ろうか?」「ご飯を食べに行こう」という未来への示唆という意味合いが強い。シットコムは日常の会話を再現しているように見えるが、実際には、リアルな日常を忠実に再現しているわけではなく、発話で示すことで、視聴者にイメージさせ、面白みを生むという手法を取る。推意による面白みの提起は、示唆して何かをさせようとする推意帰結と、過去や現在に至る過去を想像させることで奇妙な状況を示す推意前提、どちらにも依らないパターンがある。

我々の一般的な日常会話では、何かをさせようとする動きを解釈させる推意帰結が多いのに対し、シットコムの場合、第三者である視聴者に面白みを感じさせるために、「過去にどうした」「いまこういう状態にある」という風な設定を伝達するための推意前提のパターンも出てくる。推意前提は、発話によって想起させさえすれば、推意前提となる部分を映像化する必要はない。したがって、突拍子もない前提を推意前提の中に加えることは、面白みに変化させられるシットコムの特性が発揮される。その中で、小分類項目として最も使用される (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」は、いわゆるツッコミの要素とも言える。

以下に、7.1.1 のテキスト分析で使った部分から、推意部分がどう読み解けるかを示す。

【ケース番号 1】

Receptionist : If you have to ask, maybe you shouldn't be here. (L₂) (IQ が高けりゃ分かる) では、「それが分からないということは、あなたたちの IQ は低い」という 推意前提 を示す。

【ケース番号 2】

Sheldon : I don't know what your odds are in the world as a whole, but as far as the population of this car goes, you're a veritable Mack Daddy. (L₃) (世間的には違っても、こ

の車内では君が一番のモテ男だ) では、「Leonard が消去法的にモテ男に浮上するほど、他の男達のクオリティが低い」という推意前提を示す。

【ケース番号 3】

Joey : C'mon, you're going out with the guy! There's gotta be something wrong with him!
(L₁) (モニカとデートするなんて異常だよ) では、「Monica がおかしい状態にある」という推意前提を示す。

【ケース番号 5】

Danny : Mom, this isn't how we rehearsed this last night. (L₂) Let's take a little walk, okay. Now, you know as well as I do that. (ゆうべの打ち合わせとは違うな。少し歩こう。分かっていると思うけど) では、「ゆうべ打ち合わせした」という推意前提を示す。

【ケース番号 7】

Danny : I love you, angel. You too, little ballerina. (L₂) (愛してるよ。バレリーナさんも) では、「Stephanie がバレリーナという変な格好をしている」という推意前提を示す。

【ケース番号 8】

小賢 : 我很想知道、她是怎么通过电话然后手势沟通的。(L₁) (彼女がなぜ、電話で話しているのに、ジャスチャーを使って伝えようとしているのか、その理由を知りたい) では、「変な動きをしている」という指摘で、推意前提を示す。

【ケース番号 11】

刘梅 : 什么意思啊、你还想让我再生啊。(L) (どういう意味? また子供を生めというのか?) では、「産みたくない」という意思と嫌悪感の表示で、推意帰結を示している。

【ケース番号 12】

小雪 : 怎么都不说话了。(L) (なぜ、何も喋らないのか) では、小雪が、両親が何も言わない奇妙さを指摘しており、推意前提を示している。

7.2.2. 推意帰結と推意前提の具体例

さらに考察を深めるため、米中で大分類 (D) の中で割合が高かった小分類の例を、米中から一例ずつ示し、どういうポイントで推意前提と推意帰結が成立しているかを示す。米中で割合が高かったのは、(D3)「自慢」、(D6)「不自然な比喻や例示」、(D7)「推意すべきところを表意での解釈」、(D9)「本音と建前のギャップ」、(D10)「回りくどい言い換え」、(D11)「奇妙な現実の指摘」、(D12)「遠回り」、中国で割合が高かったのは、(D2)「拡大解釈」、(D8)「表意は平凡、推意は卑猥」、(D13)「嫌悪感の表示」である。

「*Friends*」1-2 で、Ross が I- I think they're great! I, I really do. (おいしいんだよ。母さん)と言ったことに対して、Ross の父親である Mr. Geller が Do you remember the Ludwins? The big one had a thing for you, didn't she? (L) (あの娘は Ross に惚れてた。Ross はモテモテよ) と答え、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。これは息子を過剰にほめる両親の (D3)「自慢」によるものであるが、両親が息子に対して過剰な愛情を持っているとい

う推意前提が示されている。このように、自慢は、過去や現在の影響に関して、解説させることで述べることができる。

「*Friends*」1-1 で、Ross があまりにも悲しそうで暗い口調で、Hi. と挨拶したことに対し、Joey が、This guy says hello, I wanna kill myself. (自殺したくなっちゃったよ) と、(D6)「不自然な比喩や例示」をしている。この「自殺する」という表現は、Ross の挨拶の仕方が自殺したいほどに気味の悪かったものであったという推意前提を示している。このように、「不自然な比喩や例示」は、現在や過去の状況を表すため、強い印象を伴う。

「*Friends*」1-1 で、I honestly don't know if I'm hungry or horny. (性欲って食欲と似てるね) と発した Ross に対し、Chandler が Stay out of my freezer! (俺の冷蔵庫に近づくな) と、ハングリーに対して反応し、(D7)「推意すべきところを表意での解釈」が起きている。推意前提、推意帰結の意味合いは明確に見られない。

「*Friends*」1-1 で、Ross が Right, you're not even getting your honeymoon, Go.... No, no, although, Aruba, this time of year... talk about your- (thinks) -big lizards... Anyway, if you don't feel like being alone tonight, Joey and Chandler are coming over to help me put together my new furniture. (せっかくの新婚旅行も…。いや、アルバ島なんて、今の季節は最高だけど、トカゲがいる。一人が嫌だったら、僕の引っ越しを手伝わない?) と言ったことに対し、Chandler が Yes, and we're very excited about it. (重労働で楽しみ) と、本当は手伝いたくないのに、楽しみであると裏腹なことを言っており、(D9)「本音と建前のギャップ」が成立している。これは、行かないという自分の意思を示され、推意帰結が強く出ている。ここでの「本音と建前のギャップ」は、あえて建前を言うことで、自分の拒絶などの意思を示している。

「*Friends*」1-1 で、Monica が、I know being spit on is probably not what you need right now. Um... how long? (吹き出す話じゃないわね。何年間?) と聞いているのに対し、Paul が Two years. (2年だ) と答えている。それに対し、Monica が Wow! I'm-I'm-I'm glad you smashed her watch! (ひどい。時計壊して当然よ) と共感している。ここでは、あえて前段に出てきた Paul が時計を壊した話を持ち出し、(D10)「回りくどい言い換え」を行っている。推意前提、推意帰結の意味合いは明確には見られない。

「我爱我家」1-1 で、小凡が、二哥、你霸着鸡腿儿你一人吃你能不咸嘛你、人家一礼拜可才见一回晕腥!(L₁) (兄さんは一人で鶏の足を食べているけど、一人で食べても味がしないんじゃないの) と指摘している。ここでは、食べ方の奇妙さを指摘するという(D11)「奇妙な現実の指摘」で、推意前提が成立している。

「*Friends*」1-1 で、Rachel が噂で耳にしていた Paul が部屋にいたのを見つけ Hello, Paul. と話しかけると、それを聞いた Chandler も Hi, Paul, is it? と話しかけている。Hi, Paul とさえもいいところをあえて、噂を聞いていたことを誇示するかのようにスムーズに言わず、(D12)「遠回り」の表現をしている。推意前提として、Paul に対する嫌味な感覚が表される。

「家有儿女」1-1 で、夏东海が、自分の娘の小雪に関して、「因为小雪是一个特文静、懂礼貌、有教养、典型的乖乖女呀！（小雪は非常に静かで、礼儀正しく、教育を受けた、典型的に良い女の子です）」と言うと、刘梅が、「真的啊。你看她在学校是尖子生、正好咱们在一块儿、她能在刘星的眼皮底下给刘星树立一个活榜样（本当に。ほら、彼女は学校の一番上の生徒なら、私たちが一緒に住めば、彼女は、（自分の息子の）刘星にとって生きた模範を示すことができるでしょう）」と返す。ここでは、刘梅が、小雪の存在を過大に評価し、周囲が良い影響を受けると、理想的なことを安易に描くと、(D2)「拡大解釈」が示されている。

「爱情公寓」1-1 で、子乔が美嘉に対し、「现在知道哭了啊。成天只知道看漫画买洋娃娃。本少爷旨在希望你（美嘉の胸部を見ながら）面对现实」（これで泣き方がわかったな。おまえは漫画を読んで人形を買っているだけ。もっと現実と向き合え）と指摘している。胸部を見ながら「現実と向き合え」というのは、ここでは、「女性という立場を利用しろ」という卑猥な意味合いに解釈でき、何らかの指示を行っていることから推意帰結となっている。ここでの (D8)「表意は平凡、推意は卑猥」は、卑猥なことを匂わせることにより、聞き手に何らかの行動を促そうとする点で未来に向けた意図が見られる。

「家有儿女」1-1 で、刘梅が新しく住む小雪に対し部屋を用意し、男子二人（小雨、刘星）がベッドで遊んでいる。小雨が、小雪のベッドの快適さを確かめながら、对！太舒服了！（このベッド、とても快適！）と言ったのに対し、刘梅が、「哎哎、干吗呢你们俩？去去去、你把姐姐的床都给弄乱了（こら。二人は何をやっているの？早く行きなさい。妹のベッドを台無しにしないで!）」とたしなめるところでラフ・トラックが挿入されている。これは刘梅の子供二人に対する (D13)「嫌悪感の表示」であり、ベッドが汚くなるからどこかに行けという推意帰結となっている。このように、「嫌悪感の表示」は、嫌悪感を伝えることで相手を動かしたいという未来に向けた意図が見られる。

これらの例から、推意の中でも推意前提、推意帰結、どちらも使用されていることが分かる。しかし、その中で、米国に多い (D11)「奇妙な現実の指摘」は推意前提を用いた手法であり、中国に多い (D13)「嫌悪感の表示」は、推意帰結が使われた手法である。表 7.4 に、米中シットコムの大分類「発話の意味の解読」の小分類項目の発生がどちらに多いかと、それが推意前提の傾向か、推意帰結の傾向か、あるいはどちらにも依らないのかという考察を示した。

表 7.4 「発話の意味の解釈」と推意前提、推意帰結の発生傾向

	米国	中国
(D2) 拡大解釈		どちらにも依らない
(D3) 自慢	推意前提	
(D6) 不自然な比喻や例示	推意前提	
(D7) 推意すべきところを表意での解釈	どちらにも依らない	
(D8) 表意は平凡、推意は dirty		推意帰結
(D9) 本音と建前のギャップ	推意帰結	
(D10) 回りくどい言い換え	どちらにも依らない	
(D11) 奇妙な現実の指摘	推意前提	
(D12) 遠回り	推意前提	
(D13) 嫌悪感の表示		推意帰結
(D13) 同音異義語や似た音での聞き違い		どちらにも依らない

米国シットコムの方が、表意が推意に解釈された結果、推意前提が導かれる (D3)「自慢」、(D6)「不自然な比喻や例示」、(D11)「奇妙な現実の指摘」、(D12)「遠回り」に依る傾向にあり、中国シットコムは、表意が推意に解釈された結果、推意帰結が導かれる (D8)「表意は平凡、推意は卑猥」、(D13)「嫌悪感の表示」を多く使う傾向にあることが示された。

7.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」の視点から分析、考察した。分析対象部分では、「発話の意味の解釈」は、米中共に 3 割以上使用されていた。小分類項目において、米国では、「自慢」、「本音と建前のギャップ」、「同音異義語や似た音での聞き違い」、中国で、「拡大解釈」、「表意は平凡、推意は卑猥」、「嫌悪感の表示」がそれぞれ有意差をつけて上回った。

また、大分類 (D)「発話の意味と解釈のズレ」のラフ・トラックの挿入に関する分析は、関連性理論が示す表意と推意 (推意前提、推意帰結) という概念が適用できる。シットコムは登場人物達の日常会話の設定から面白みを生み出すことを特徴としている。その中で、表意から推意前提や推意帰結を解釈させることにより、面白みを感じさせ、ラフ・トラックの挿入ポイントとすることが効果的と考えられる。推意による面白みの提起は、示唆して何かをさせようとする推意帰結と、過去や現在に至る過去を想像させることによ

って、奇妙な状況を示す推意前提、どちらにも依らないパターンがある。実際の日常会話では、推意帰結が使われることが多いが、シットコムの会話では笑いの挿入ポイントとして推意前提が用いられる。米国シットコムで比較的多く用いられる小分類は推意前提を導き出す傾向にあり、中国シットコムで比較的多く用いられる小分類は推意帰結を導き出す傾向があることが分かった。

¹ 塩田英子:メディアとことば2-組み込まれるオーディエンス, ひつじ書房, 2005

² Deirdre Wilson & Dan Sperber.(2004, Sperber 1994; Wilson 2000).: Relevance Theory, In L. R. Horn & G. Ward (eds.), The Handbook of Pragmatics, Blackwell, pp.607-632, (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子翻訳. 関連性理論-伝達と認知, 研究社, 2000.)

³ Deirdre Wilson & Dan Sperber.(2004, Sperber 1994; Wilson 2000).: Relevance Theory, In L. R. Horn & G. Ward (eds.), The Handbook of Pragmatics, Blackwell, pp.607-632, (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子翻訳. 関連性理論-伝達と認知, 研究社, 2000.)

⁴ 岡本真一郎:言語の社会心理学, 中公新書, 2013.

⁵ Deirdre Wilson & Dan Sperber.(2004, Sperber 1994; Wilson 2000).: Relevance Theory, In L. R. Horn & G. Ward (eds.), The Handbook of Pragmatics, Blackwell, pp.607-632, (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子翻訳. 関連性理論-伝達と認知, 研究社, 2000.)

第8章 大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」の笑いの構造

前章では、大分類 (D) についての分析、考察を行った。本章では、大分類 (E) についての米中シットコムの分析を行う。大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」は、発話者の声の出し方、音の出し方の標準的な形とのギャップを要因として起こすものを指す。

定量分析では、大分類 (E) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析し、定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (E) が当てはまる箇所を取り上げる。米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。

8.1. 「正当な発声、発音とのギャップ」の構造の概要

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントで「正当な発声、発音とのギャップ」にどのような違いがあるかを分析する。大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」は、声の出し方、音の出し方の標準とのギャップを要因として起こすものを指す。同音異義語や近い音による解釈のズレ、音声起因とする誤解の要素が含まれる。ラフ・トラックの数のカウントからの定量分析と、発話部分からの定性分析を行う。定性分析では、米中の番組から、発音されるべきところと違う発音のされ方や声真似など、言語や音声契機として笑いが起こされた考えられる大分類 (E) から、初めに出てくるシーンを無作為に取り上げた。

8.1.1. 「正当な発声、発音とのギャップ」の笑いの定性分析

本項では、「正当な発声、発音とのギャップ」に関しての笑い発生の違いを調べるため、各番組から例を取り上げてテキスト分析を行う。無作為性を保つため、分析に使用した6作品の中で、大分類 (E) が最初に出現する部分を抽出した。

【ケース番号 1】

「*the Big Bang Theory*」 1-1

Leonard と Sheldon が、マンションの隣に引っ越してきた Penny に挨拶をしている。

Leonard と Sheldon は緊張気味である。

[8.1] Penny : Oh, hi!
Leonard : Hi.
Sheldon : Hi.

Leonard : Hi.
Sheldon : Hi. (L₁)
Penny : Hi? (L₂)

(L₁)は (C4)「話題がなく沈黙」である。(L₂)は (E4)「音の高低」で、Penny が語尾を上げ疑問形にしているところにラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 2】

「*Friends*」 1-1

Ross のアパートで、Ross が新しい家具を組み立てている。

[8.2] Ross : I'm supposed to attach a brackety thing to the side things, using a bunch of these little worm guys. (L₁) I have no brackety thing, I see no whim guys whatsoever and I cannot feel my legs. (L₂) (サイドに腕木みたいなのを付けろって。虫みたいな釘でだ。腕木なんてないし、虫みたいな釘もない。おまけに脚の感覚もない)

(L₁)は (E4)「音の高低」で、機嫌の悪い Ross が、煩雑な説明書にさらにイライラし、怪訝そうにわざと変な高低のアクセントをつけている。(L₂)は (D11)「奇妙な現実やミスの指摘」である。

【ケース番号 3】

「*Full House*」 1-1

子守に来た Jesse に対し、姪の Stephanie がバレリーナの踊りを踊ってくれとせがんでいる。

[8.3] Stephanie : Uncle Jesse, let's play Ballerina.
Jesse : Uncle Jesse doesn't want to play ballerina. (L₁)
Stephanie : Yes he does...
Jesse : No he doesn't... (L₂)
Stephanie : Yes he does...
Jesse : No he doesn't! (L₃)

(L₁)、(L₂)は (A17)「融通の利かなさ」である。(L₃)は (E4)「音の高低」で、doesn't のトーンを急に下げたところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 4】

「爱情公寓」1-1

小賢が司会をするリスナー参加型のラジオ番組で、電話で繋いでいたリスナーの話が脱線し始めた。はじめは話を合わせていた小賢も我慢しきれなくなってきた。リスナーは、以前、小賢が隣の壁に穴を開けるべきだとアドバイスしたから実行したと言い掛かりをつけ始める。

[8.4] リスナー：不是你说让我砸墙的么？（あなたが、私に壁を壊せと言ったのではないですか？）

小賢：（紙をくしゃくしゃに丸めながら）喂喂喂、你听得见吗？(L₁)（もしもし、聞こえますか？）

（ツーという電話を切った音。マイクをオフにする）(L₂)

(L₁)は (E3)「モノマネ」で、話が脱線したリスナーにうんざりした小賢が、リスナーに、電波のノイズが発生しているように聞かせるため、紙をくしゃくしゃと丸める音を発している。(L₂)は (C8)「予想外のシリアスな反応」である。

【ケース番号 5】

「我爱我家」1-1

一家がリビングで話している。傅老が婦人団体に仕事を始めたと報告すると、志新が傅老をからかう。

[8.5] 志新：您什么时候开始主持妇联工作？(L₁)这可真够新鲜的！（女性連合でいつから働き始めたのですか？新しい話題ですね！）

傅老：倒没有正式明确、就说让我先借那儿办公、我刚进去就见个女工、跟办公室几个人在一起嘀嘀咕、嘀嘀咕。(L₂)（はっきりとは覚えていないけど、私に仕事場を貸してくれると言って・・・、それから私は女性職員を見たけど、他の職員たちとディディクー、ディディグーと話していた。）

(L₁)は (D4)「好戦的な問いかけ」である。(L₂): (E3)「モノマネ」は、傅老が、女性同士の話声のモノマネをすることが笑いの挿入ポイントとなっている。嘀嘀咕（ディディクー）は中国語で「こそこそ」という擬態語であるが、このシーンでは、傅老がディディクーの言い方を女性の話し方のモノマネの調子にしている。

【ケース番号 6】

「家有儿女」 シーズン 1-1

娘が家からいなくなると聞き、夏东海と刘梅の夫婦が、部屋を見に行く。

[8.6] 刘梅： 夏东海、你看看（夏东海、ちょっと見て）

夏东海：（スーツケースを見て笑う）(L₁) 好（よし）

刘梅： 好？(L₂)（よし？）

(L₁)は (A2)「空気の読めなさ」である。(L₂)は (E4)「音の高低」は、刘梅が、夏东海が言った「よし（大丈夫）」という意味の「好（ハオ）」を、文末のトーンを上げて、「好（ハオ）」と、聞き返しているところがラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

8.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 8.1 から表 8.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 4.1 である。「正当な発声、発音とのギャップ」を示す大分類 (E) を太枠で囲んだ（「インパクトのあるワードの挿入」は、未熟性から大分類 (A) の性質もあるが、単語の語感の強さにより面白さを感じさせようとする意図の表れとして、大分類 (F) に振り分けた）。

表 8.1 大分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在のものと虚構との混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の再認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類 (E) 内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 8.2 に示す。

表 8.2 大分類 (E) 内の小項目についての χ^2 検定の結果

		米国合計	中国合計	米中合計	米国期待値	中国期待値	P値
E1	韻の発生	9	3	12	6.723442403	5.276557597	0.185492824
E2	早口言葉	3	0	3	1.680860601	1.319139399	0.124929944
E3	モノマネ	22	16	38	21.29090094	16.70909906	0.816729944
E4	音の高低	11	2	13	7.283729269	5.716270731	0.037841638
E5	インパクトのあるワード	8	3	11	6.163155536	4.836844464	0.264508035
		53	24	77	43.14208875	33.85791125	0.023614802

大分類 (E) の合計で、米国シットコムの方の割合が高く、p 値が 5% の水準を超え有意な差が認められた。小分類項目は (E4) において米国シットコムの方が高く有意な差が見られた。次に、小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 8.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んだ。

表 8.3 大分類 (E) 内の小分類項目の米中の差異

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
E1	韻を踏む	9	0.7%	3	0.3%
E2	早口言葉	3	0.2%	0	0.0%
E3	モノマネ	22	1.8%	16	1.6%
E4	音の高低	11	0.9%	2	0.2%
E5	インパクトのあるワードの挿入	8	0.6%	3	0.3%
	大分類 (E) の合計	53	4.2%	24	2.4%
	ラフ・トラックの発生合計	1250		981	

大分類項目 (E) は、米国シットコムが中国シットコムよりも割合が高く、有意差が認められた。米国では (E4) 「音の高低」が中国よりも有意差をつけて高い割合で用いられている。

8.2. 考察

分析対象エピソードの大分類 (E) では、両国とも共通して 3%~4% の頻度となっている。

8.1.1 では、「正当な発声、発音とのギャップ」として初めて登場した箇所テキスト分析を行い、米国シットコムでは、ケース番号 1 は文末を上げることで怪訝な様子、ケース番号 2 は、奇妙なトーンで説明書を読むことでイライラした様子、ケース番号 3 は、文末

をグッと下げることで、断固とした拒絶の様子を出していたことが分かった。いずれの例も、音の高低により、怪訝さや拒絶を示し、笑いのポイントとなっている。一方、中国シットコムのケース番号4で、電波ノイズに似た音を、紙を丸めることで出す行為、ケース番号5では傅老が女性の口調の真似という、いずれも模倣が笑いのポイントとなり、ケース番号6では、文末のトーンを上げるというケース番号1からケース番号3と同様の手法が取られている。中国シットコムでラフ・トラックの挿入ポイントとして、モノマネ、模倣の割合が高いのは、会話で展開させるよりも、すぐに視聴者にインパクトを与えるような手法が取られた結果だと考えられる。

小分類の差異として、米国では「音の高低」の割合が高くなっている。英語は文末のトーンを上げることにより疑問形を表す言語であり、疑問形にすることで、コミュニケーション上での挑戦的な点や対立構造を示し、笑いの挿入ポイントへと転じる。一方、前章でも示したが、中国シットコムは、中国語が表意文字を由来としているため、同音異義語や似た音が発生しやすく、画面下部の字幕の補助も受けながら、笑いの挿入箇所とする傾向がある。中国語では、文末に「吗」をつけることで疑問形を表すが、英語では、平叙文の構造であっても文末のトーンを高くすることで疑問形を表し、文章の中に音の高低を多く用いる。シットコムでは、他者に疑問を投げかけることにより猜疑心を示したり、あるいは疑問形を平叙文に戻したトーンにすることで、相手からの要求を飲んだことを示すケースがある。米国で「音の高低」が多用されているのは、視聴者に疑問形がはっきりと伝わる手法であるからだと推察できる。

表音文字である英語の音声伝達性が、表意文字である中国語の伝達性を凌ぎ、米国では、ラフ・トラックの挿入ポイントの頻度が高い、或いは、中国シットコムでは、字幕や効果音を補助的に使用し、視聴者へ容易な理解を促すといった工夫がなされている。「ことば（トーク）の掛け合い」を基軸とし、英語で伝承性の高い米国シットコムは、「耳で聞いて分かる状態」が成立しやすく、表意文字形式の漢字を使用する中国語は、英語よりも聴覚での伝承性が劣るため、字幕付記など視覚的な補足によって成立するのではないかと考えられる。そういった困難は、第1章でも触れたが、番組に字幕を付記することにより、一定程度回避することが可能となる。ラフ・トラック挿入ポイントの発生を同じ時間量に換算した場合、中国シットコムの方が、米国シットコムの0.8倍以下とその量が少ない(0.778)¹が、音声伝達性という言語的特性も関係すると考えられる。表意文字という性質や、伝達時に視覚的要素が関連する中国語の方がユーモア理解にラグが出るため、音声的伝達に有利な英語よりも、ラフ・トラックが挿入できる回数が少なくなる。米国では言葉レベルで笑いの挿入ポイントを連続的に作ることが可能だが、中国では構成などの番組の構造に依存せざるを得ない。

また、番組の殆どに字幕が付記されるというのが中国テレビ業界の慣習であり、英米圏の番組は、英語そのものが意味を表さず音を表すため、英語字幕を付記しても意味を成さないため字幕は付記されない。中国語圏視聴者のコメディ理解は、耳を通じた聴覚的な部分と、

補足的に字幕を通した視覚的な部分から成されているともいえる。(E3)「モノマネ」が、米国に比べ、中国での使用頻度が高いのも、ユーモアとしてはっきり認識しやすい構成面での変化が演出として用いられるからであろう。また、米国では、「*the Big Bang Theory*」が放送されている CBS のような大手ネットワークでさえ、過激な表現を直接的に行う傾向がある。一方、中国では、広電総局による表現の規制のみならず、メディアでは露骨な表現はされにくい傾向がある。笑いに結び付けるシットコムであっても、直接的な表現や構成は、強くは成されない。

8.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類 (E)「正当な発声、発音とのギャップ」の視点から分析、考察した。米国では、ラフ・トラックが挿入されるポイントとして「音の高低」が中国よりも高い割合で用いられており、中国では、ラフ・トラックが挿入されるポイントとして「同音異義語、似た音での間違い」の割合が高くなっていることが分かった。英語は文末のトーンを上げることにより疑問形を表す言語であり、疑問形にすることで、コミュニケーション上での挑戦的な点や対立構造を示し、ラフ・トラック挿入ポイントへのタイミングとする傾向があることが分かった。

それらの傾向の違いは、表音文字である英語の音声伝達性が、表意文字である中国語の伝達性を凌ぎ、米国では、ラフ・トラックの挿入ポイントの頻度が高い、或いは、中国シットコムでは、字幕や効果音を補助的に使用し、視聴者へ容易な理解を促すといった工夫にも見て取れる。「ことば（トーク）の掛け合い」を基軸とし、英語で伝承性の高い米国シットコムは、「耳で聞いて分かる状態」が成立しやすく、表意文字形式の漢字を使用する中国語は、英語よりも聴覚での伝承性が劣るため、字幕付記など視覚的な補足によって成立するのではないかと考えられる。

¹ 巻末の付録 3 に記載

第9章 大分類 (F) 「優越性の認識」の笑いの構造

前章では、大分類 (E) についての分析、考察を行った。本章では、大分類 (F) 「優越性の認識」についての分析を行う。「優越性の認識」は、もともとの先天的な違いを嘲笑するもので、優越性を根拠とした性質を指し、他者をバカにするというような見下した構造にあるに於いてのラフ・トラックの挿入が、米中シットコムにおいて、どのように起きているかに着目する。本章では、「優越性の認識」によるラフ・トラック挿入ポイントがどのように発生し、米中シットコム間の表現の間にどのような差異が発生しているかを明らかにする。

定量分析では、大分類 (F) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析し、定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (F) が当てはまる箇所を取り上げる。米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。

9.1. 「優越性の認識」構造の概要

シットコムには、視聴されている地域から、他の地域をバカにする、見下すというような「優越性を認識させる」、「優越性を認識した状態を確認させる」という要因で起こるラフ・トラックが挿入されている。本章では、この大分類 (F) 「優越性の認識」によるラフ・トラックの挿入ポイントがどのようにシットコム内で機能し、米中間の表現の間にどのような差異を発生させているかを分析、考察する。

はじめに、シットコムで見られる「優越性の認識」とはどのようなものか、「*the Big Bang Theory*」 「愛情公寓」からテキストを抽出し、例を示す。

「*the Big Bang Theory*」 1-4

大学のパーティで、Raj がビュッフェ形式になっている食事を見て大喜びしている。

[9.1] Leonard: You don't have buffets in India? (インドでは?)

Raj: Of course, but it's all Indian food. (L₁) You can't find a bagel in Mumbai to save your life. (L₂) Schmear me. (L₃) (インド料理ばかり。ベーグルは宝も同然。塗って)

(L₁)は (F1) 「エスニック」で、ビュッフェを見て大喜びをしている Raj を見て、Leonard が「インドにもビュッフェはあるだろ?」と聞いた。それに対し、Raj が「インドのビュッフェはインド料理ばかり」と言うところで、ラフ・トラックが挿入されてい

る。「インドのビュッフェにインド料理が並ぶ」ことは「当たり前」のようにも取れるが、Raj がそういったビュッフェを嫌がり、米国のビュッフェを絶賛することで「インド人ですらインド料理を見下している」という想定が成り立つ。(L₂)は (B4)「誇張」で、(L₃)は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」である。

「愛情公寓」1-3

日本人役关谷の部屋のインターホンが鳴る。关谷がドアを開けると中国人の少年が立っている。

[9.2] 孩子：叔叔你好。我们为北极熊捐款、你要不要参加？（こんにちは、北極グマの捐款（支援募金活動）に、参加しませんか？）

关谷：捐款是什么？(L₁)（捐款って何？）

孩子：你看这是北极熊照片(L₂)、南极下了冻雨、很多北极熊都被淋湿后冻死了。

（この北極グマの写真を見て。南極でみぞれが降ると、北極グマが濡れて凍死するんだよ）

关谷：哦、南极下了冻雨、为什么北极熊冻死了？(L₃)（へえ、なぜ南極でみぞれが降ると、北極グマが凍死するの？）

孩子：叔叔你是不是小时候没钱上学、所以普通话不标准啊？(L₄)（おじさんは小さい頃お金が無くて学校に行っていないんじゃないの。話し方がおかしいよ）

(L₁)は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、日本人役の关谷が、献金という概念すら知らないというポイントで、ラフ・トラックが挿入されている。(L₂)は (B6)「虚構に関する真剣な議論」で、(L₃)は (B11)「ウソがばれての水の泡」である。(L₄)は (F1)「エスニック」で、中国語がヘタな日本人に対し、バカにしているポイントでラフ・トラックが挿入されている。言葉がヘタなのをバカにするというような、上から下へ見下ろすという構造が、シットコムではラフ・トラックの挿入ポイントになるケースがある。

「優越性の認識」に起因した大分類 (F) は、(F1)「エスニック」、(F2)「障害や病気に関する表現」、(F3)「自文化の異文化の未理解による失敗」という小分類に分けた。これらの優越性の認識に起因したラフ・トラックの挿入ポイントについて分析、考察を行う。

9.1.1. 「優越性の認識」の笑いの定性分析

定性分析では、分析対象シットコムのラフ・トラック挿入ポイントから、大分類 (F) 「優越性の認識」に分類される箇所を、恣意性を避けるため、最初に出現した場所から順に抽出する。

【ケース番号 1】

「*the Big Bang Theory*」 1-1

話しかけても何も答えない Raj に対し、Penny が尋ねる。

[9.3] Penny: : Uh, I'm sorry, do you speak English? (L₁) (あの・・・、英語は話せるの?)

(L₁)は (F1)「エスニック」で、英語で話しかけて何も答えない見た目からインド人の Raj に「英語は話せるの?」と、悪意はないものの、ネイティブが非ネイティブ(と想定される人物)を見下ろしたような構図が、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 2】

「*the Big Bang Theory*」 1-2

ハワードが説明書を読みながら、宅配で取り寄せた家具を組み立てている。

[9.4] Howard: These instructions are a pictographic representation of the least imaginative way to assemble these components. This right here is why Sweden has no space program. (L₁) (この説明書の図解じゃ、創意工夫ができない。さすがスウェーデン製だ)

(L₁)は (F1)「エスニック」で、スウェーデンという国名を使用したポイントでラフ・トラックを挿入し、「創意工夫ができない＝スウェーデンの特性」ということを想起させている。

【ケース番号 3】

「*the Big Bang Theory*」 1-3

車の中で Leonard が吐いたエピソードを、Penny と Leonard が振り返っている。

[9.5] Penny: I know, but you did throw up. Isn't that a sign of a concussion? (吐いたのは脳震盪の兆候かも)

Leonard: Yes, but I get car sick too, so... (L₁) (車酔いするタチだから)

(L₁)は (F2)「障害や病気に関する表現」で、車酔いする体質についての発話に対し、ラフ・トラックを挿入している。

【ケース番号 4】

「*the Big Bang Theory*」 1-4

Sheldon が自分の部屋で、上司である Gablehouser 博士にパーティー会場で出くわすことを想定し、Leonard に向かって、挨拶のイメージトレーニングをしている（第 1 章 8.3 節にも記述した）。

- [9.6] Sheldon: How's this? Pleased to meet you, Dr Gablehouser. How fortunate for you that the University has chosen to hire you, despite the fact that you've done no original research in 25 years, and instead have written a series of popular books that reduce the great concepts of science to a series of anecdotes, each one dumbed down to accommodate the duration of an average bowel movement. (L₁) Mahalo. (L₂) (はじめまして、ゲブルハウザー博士。学部長になれて運がいい。25 年間、独創的な研究はナシ。科学に関する逸話を集めた本を書いただけだ。どれも平均的な排便時間で読めますね。マハロ。)

(L₁)は (D6)「不自然な比喻や例示」である。(L₂)は (F1)「エスニック」で、このブロックでは 2 回のラフ・トラックが挿入されているが、優越性の認識による笑いのポイントは(L₂)に見出すことができる。急に「Mahalo」(ありがとう／ハワイ語)というハワイ語を挿入することで、ハワイ出身であると想定され、Sheldon があまり好きではない Gablehouser 博士への侮蔑が込められていると判断できる。

【ケース番号 5】

「*the Big Bang Theory*」 1-4

- [9.7] このポイントは、本章の冒頭の [9.1] と同じである。

【ケース番号 6】

「*愛情公寓*」 1-1

番組冒頭で、空港からの送迎バスに、女性客と、それに続き、海外留学から帰国した展博が乗り込んでいるシーンを示す。

- [9.8] (バスへ乗り込んでいる女性が、ジープの尻部ポケットを電子マネーのスキヤナーにこすりつける) (L₁)
(同じようにして運賃を払うもの、と勘違いして、展博も尻部をスキヤナーにかざし、こすりつける) (L₂)

(スキャナーが反応しないまま、座席に行こうとするので運転手に呼び止められる)

運転手：喂喂喂。回来。回来。(おいおいおい、戻れ、戻れ)

(L₁)は (G2)「シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作」である。(L₂): (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」、米国から帰ってきた展博が、スキャナーに臀部をこすりつけている行為を見て、意味も分からず、同じような動作をしているところにラフ・トラックが挿入されている。(L₁)と同様に (G2)「シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作」の要素もあるが、知らないことでの失敗による面白みの要素の方が強いと判断した。

【ケース番号 7】

「爱情公寓」1-1

田舎の閑散とした場所で、交通手段を失い途方に暮れた宛瑜と展博が、偶然通りかかったトラクターに乗せてもらう。

[9.9] 宛瑜：大叔你的卡丁车号大只哦。(L₁) (おじさん、あなたのカートは大きいですね)

(L₁)は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、宛瑜が、トラクターをカ丁 (カート) と間違えている。宛瑜は米国帰りの中国人という設定だが、中国人がトラクターという物を知らないという自国文化の未理解の要素がラフ・トラック挿入ポイントを作っている。

【ケース番号 8】

「爱情公寓」1-1

シーン番号 7 からの続きで、運転手と、展博、宛瑜がトラクター脇の路上で話をしている。

[9.10] 運転手：啥。卡车我从来没开过卡车(何?私はカートを運転したことはないよ)

展博：这是拖拉机、你没见过拖拉机啊。(これはトラクターだ。あなたはトラクターというものを見たことがないのかい?)

宛瑜：是吗。(よく見て) 这明明就是卡丁车嘛。(L₁) (そうなの。これは明らかにカートでしょう?)

(L₁)は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、トラクターとカートの区別がついていない状況が、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 9】

「愛情公寓」1-1

乗せてもらったトラクターが故障したので、展博と宛瑜が別の車を見つけ、その車の運転手と交渉している。

[9.11] 展博：师傅能不能带我们一程（運転手さん。私たちを乗せてくれませんか？）

運転手：不行。我这是婚车接新娘子的。（いいえ、これは結婚式で新婦を迎えに行くための車です）

宛瑜：师傅。就把我们送到前面那个村。（遠くを指差して）大叔的卡丁车坏了。（L₁）（運転手さん。私たちを村の前に連れて行ってください。あのおじさんのカートが壊れました）

運転手：嘛玩意儿。这儿有卡丁车找乐吧。（なんと面白いことを。ここにはカートがあるなんて）

(L₁)は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、ケース番号8と同様で、トラクターをカートと間違えているところが、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 10】

「愛情公寓」1-1

宛瑜がケンタッキーフライドチキンを食べたいと、注文の電話をする。

[9.12]（電話の先）ケンタッキーの店員：欢迎致电肯德基。（もしもし、ケンタッキーです）

（電話に向かって）宛瑜：您好、我要一份肯德基。（こんにちは。ケンタッキーを一つください）

（電話の先）ケンタッキーの店員：您需要什么？（何をご注文ですか？）

（電話に向かって）宛瑜：我要一份肯德基。（L₁）（ケンタッキーを一つください）

(L₁)は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、ケンタッキーの注文の仕方を知らないところに、ラフ・トラックの挿入点が発生している。通常なら、客は「チキンを2ピース」「フィレバーガー」といった商品名を言うが、宛瑜は、そういった注文の仕方を知らず、「ケンタッキーを1つ」という奇妙な注文の言い方をしている。この注文の言い方は、多数の人間が持つ一般的な常識から離れ、面白みを作る要因となっている。

【ケース番号 11】

「愛情公寓」1-2

美嘉と子喬の住むマンションの部屋に、日本人の関谷が入ってくる。関谷は、中国で暮らすための部屋を探しており、事前にマンションに予約の電話を掛けていた。

[9.13] 美嘉：请问您真的有预定吗、报上名来。(L₁) (あなたは本当に予約がありますか？名前を記入してください)

関谷：什么叫报上名来？（「报上名来」とはどういう意味ですか？）

子喬：就是告诉他你的名字。（自分の名前を彼女に教えればいいんだよ）

関谷：我中文不是很好、请不要说成语。(L₂) 我叫关谷、关谷神奇、来自横浜。(私は中国語がうまくないですから、慣用句を使わないでください。私は関谷、关谷神奇です。横浜から来ました)

(L₁)は(B10)「ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為」である。(L₂)は(F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、中国語を知らないという状況で、ラフ・トラックが挿入されている。中国人が中国語を知らない日本人からの知識で優越しているという前提がある。

【ケース番号 12】

「愛情公寓」1-2

キッチンで、宛瑜、展博がテレビを見ているところに、一菲が苦い顔をして入ってきた。

[9.14] 宛瑜：你老姐今天好像 不太 happy 呦。(あなたのお姉さんはハッピーじゃなさそうね)

展博：我去安慰她。(一菲のところへ行き) 谁惹你了。(私は一菲を慰めてこよう。誰があなたを困らせているのですか？)

一菲：(鏡として包丁を取る) (L₁)猪肉。楼下猪肉涨了。(L₂) (階下の豚肉の値段が上がっている)

展博：就为这事、楼下的猪肉涨价了你到别人家楼下买猪肉不就行了。(L₃) (階下の豚肉が上がってしまったなら、他の階下から豚肉を買えばいいじゃないですか)

(L₁)は(C8)「予想外のシリアスな反応」で、(L₂)は(C9)「顛末の省略」である。(L₃)は(F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、基本的に他の店でも豚肉の値上がりは同じであるという常識が欠落しているが、ラフ・トラック挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 13】

「愛情公寓」1-2

初対面の子乔（中国人）と关谷（日本人）が、文化について話をしている。

[9.15] 子乔：我对你们日本文化很是了解呀。（私はあなたの日本文化についてたくさん知っています）

关谷：是吗？你会说日语。（そうですか、あなたは日本語を話せるんですか）

子乔：会一些、呀咩爹、呀咩爹、对不对？(L₁)（うん、話せる。やめて、やめて。でしょ）

(L₁)は (F1)「エスニック」で、描写が、中国でも流通している日本の成人向け番組から取ったものと想定される。日本といえば、成人映像のイメージ、中国から見た日本への先入観（日本といえば下品な成人向け映像）がラフ・トラックの挿入ポイントを作っている。(D6)「不自然な比喻や例示」の要素もあるが、(F1)を選択した。

【ケース番号 14】

「愛情公寓」1-2

シーン番号 13 の続きで、子乔（中国人）と关谷（日本人）が、中国文化について話している。

[9.16] 关谷：我有早说啊。你不是说多音字吗。（私は前に言った。あなたは発音がたくさんある文字について話していませんか？）

子乔：唉。这些都不重要。中国文化博大精深。你慢慢慢慢就会参透的唉。（ああ。それは重要ではない。中国の文化は深遠です。ゆっくり学びなさい）

关谷：哦。我知道。这就是中国人说的。学到老活到老。对吗。（子乔が、意味が分からないという表情をする）(L₁)（はい、分かっています。これは中国人が言ったことでもあるけど「老いるまで学び続けるべき」と）

(L₁)は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、子乔は中国人なのに、「学到老活到老」という慣用句を知らないという常識の欠落が、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。

【ケース番号 15】

「愛情公寓」1-2

美嘉（中国人）が关谷（日本人）に対し、自分の書いた絵を見せている。

[9.17] 美嘉：(一枚の紙を広げる) 你看(紙には奇妙な猫の絵が描かれている) (L₁)
(見て)

关谷：哦。我知道。这是中国的武松打虎。(L₂) (ああ、私は知っています、
これは中国の武松打虎(キャラクターの名前)です)

(L₁)は(A3)「無垢で悪意のない異常性」である。(L₂)は(F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、武松打虎ではない。武松打虎は、文学作品『水浒传』の中のエピソードの名前である。

【ケース番号 16】

「爱情公寓」1-2

宛瑜が展博に対し、食事をご馳走になったことのお礼を言っている。

[9.18] 宛瑜：谢谢你的晚餐、真好吃。(あなたの夕食をありがとう、おいしかった)

展博：你的歌唱得真好听。(あなたの歌は本当に良かった)

宛瑜：是吗。我特别喜欢这种风格的摇滚、我以前还组过一个组合呢。(L₁) (私は特にこのスタイルのロックが好きです、私は以前ユニットを組んでいました。)

(L₃)は(F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、ロックではないのにロックだと間違えているところにラフ・トラックが挿入されている。

【ケース番号 17】

「爱情公寓」1-2

リビングで一同が談笑しているところに、警察官が入ってくる。

[9.19] 美嘉：这么热闹啊。(この場所、とても賑やかね)

警察：(警察が入ってくる) 刚刚谁打的 110。(L₁) (誰か 110 番しましたか?)

关谷：是我叫的外卖。(私が注文したデリバリーです) (L₂)

(L₁)は(C7)「警察沙汰になり、その後の展開」である。(L₂)は(F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」で、テイクアウトを注文するために、110番を押していた。

【ケース番号 18】

「我爱我家」1-2

ダイニングルームで、家の手伝いの小张が、食事ができたことを家族に伝えようとしている。

[9.20] 小张：呦嚩、吃饭喽！（L₁）（みんな、ご飯ができたよ！）

（L₁）は（F1）「エスニック」で、なまりの強い呼び方（方言）をしているところに、ラフ・トラックが挿入されている。

9.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 9.1 から表 9.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 4.1 である。「優越性の再認識」を示す大分類（F）を太枠で囲んだ。

表 9.1 大分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在のものと虚構との混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の再認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類（F）内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 9.2 に示す。

表 9.2 大分類（F）内の小項目についての χ^2 検定の結果

		米国合計	中国合計	米中合計	米国期待値	中国期待値	P値
F1	エスニック	4	2	6	3.361721201	2.638278799	0.599595334
F2	障害や病気に関する表現	1	0	1	0.560286867	0.439713133	0.375677137
F3	自文化、異文化の未理解による失敗	0	13	13	7.283729269	5.716270731	0.000047017
		5	15	20	11.20573734	8.794262662	0.005178963

大分類 (F) の合計で、中国シットコムの割合が、p 値が 5% の水準を超えて高く、有意な差が認められた。小分類項目では、(F3) が中国シットコムの割合が高く、有意な差が見られた。次に、大分類と小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 9.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んだ。

表 9.3：大分類 (F) 内の小分類項目の米中の差異

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
F1	エスニック	4	0.3%	2	0.2%
F2	障害者、病気	1	0.1%	0	0.0%
F3	自文化の未理解、他文化の未理解	0	0.0%	13	1.3%
	大分類 (G) の合計	5	0.5%	15	1.5%
	ラフ・トラックの発生合計	1250		981	

表 9.1 から、米中の共通性として、大分類 (F) の発生そのものの割合が、ともに 2% に満たないなど、番組の中のラフ・トラックの大分類で、他の性質と比べて低いことが分かった。中国で、(F3) 「自文化の未理解、他文化の未理解」によるラフ・トラックの挿入数が有意な差で割合が高いことが分かった。また、小分類項目から、米中の差異として、(F1) 「エスニック」は、米国で 0.3%、中国で 0.2% と、発生割合に有意な差は見られなかった。(F2) 「障害や病気に関する表現」については、中国では発生しなかった。(F3) 「自文化の未理解、他文化の未理解」については、対象作品の対象箇所内においては、米国では発生していないが、中国では 1.3% 発生し有意な差が認められた。

9.2. 考察

9.2.1. 優越理論からの応用

第 3 章でも述べたとおり、「優越性の認識」は優越理論で説明できる。

劣った文化を持つ場所や知らない者が笑われるという点が、シットコムにおける優越性の認識である。「優越性の認識」によるラフ・トラック挿入は、登場人物が他者からの優越を指摘し、それを視聴者が認識する際に、面白みが生まれるというもので、国家間の優劣の認識、知識の有無の認識、知らないことに対する嘲笑が該当する。視聴者は知っているだろう (当たり前の) 想定のことを、登場人物が知らなかったということに対し、物事を知らない登場人物に対する嘲笑としてのラフ・トラックが使用されている。「物事を知っている」ことが「物事を知らない」ことより勝る、「民族としての上下の意識」といった前提がある。

また、「バカにされている対象がある」（誰かが誰かをバカにする。誰かがどこかをバカにする）というのが優越性に関する笑いの根本となる。シットコムは虚構という枠組を利用し、他者への攻撃や差別を挿入するが、[9.1]のように、「インド料理をバカにしているのが、インド人の Raj」という構図が作られることによって、作品そのものの他者への攻撃性が若干、緩和されているケースも見られる。

ケース番号 2 では、スウェーデンという単語に対する記号性を解説させることで面白みへと繋げている。仮に視聴者がスウェーデンに対する記号を持たなくても、「Sweden has no space program.」という説明を入れることで、何かを批判しているという構図を分からせようとしている。ケース番号 4 では、単に Sheldon が Gablehouser 博士をバカにしているだけのようでもあるが、ここでラフ・トラックが挿入されているのは、制作者が、自分自身（米国）をハワイと比べて優越的位置にあるという Sheldon の優越性の認識をラフ・トラックの挿入ポイントとして設定しており、面白みを感じるポイントだと示している。(L₁)は平均的な排便時間に例えているという不自然な比喻がラフ・トラックの挿入ポイントになり、(L₂)はハワイ語を使用することで、米国本土がハワイより優っているという優越性の意識が、ラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。ケース番号 7 では、登場人物の知識が欠けている状況や、知識があるものが知識のない者を笑うという状況も、「優越性の認識」の状態から生まれていると考えられる。

大分類 (F) は、米国シットコムでは 0.5%、中国シットコムでは 1.5% と、非常に少ない割合である。これは、不一致や未熟性を指摘することで面白みを作ろうとする通常のシットコムの営みに比べ、原始的であり技巧的ではないという自重が制作者の中に働いているのではないとも考えられる。直接的な批判を避けて、間接的にその母集団に属する登場人物にバカにさせるといった方法が取られている。

まして、昨今では、表現の世界において「差別」などへの風当たりが強くなり、虚構であっても他者への差別や攻撃は許されないという風潮も強まっている。その中で、シットコムの「優越性の認識」という性質のラフ・トラック挿入はさらに減少する可能性もある。この類の笑いは、世論からの批判を受けるリスクがあるため、シットコムという土台であっても使用しやすいわけではなく、発生数の少なさにも表れているといえる。

9.2.2. 「優越性の認識」の米中での差異

「優越性の認識」に起因するラフ・トラックの発生ポイントは、米国と中国の差異として、(F1)「エスニック」に関しては、米国シットコムで 0.3%、中国シットコムで 0.2% と、発生割合に有意な差は見られず、(F2)「障碍や病気に関する表現」については、中国シットコムの分析対象箇所では発生していなかった。

米国シットコムでは、インド人やユダヤ人などのエスニックな要因をラフ・トラック挿入ポイントに変えている部分があるが、一目で「インド人に見える」などという役者の起

用は、優越性を瞬時に明確に知覚させるためとも考えられる。キャラクター設定は視聴者の優越性に対する認知を補強していると解釈できる。

中国では、「自文化・他文化への未理解による失敗」の数の割合が米国より有意差をつけて高く、米国では、有意差は認められなかったが、数値として、「エスニック」、「障碍、病気に関する表現」による笑いの数の比率が中国に比べ高かった。米国シットコムは他国のマイナスイメージの記号性を解読させるような排他的な他国との比較、中国シットコムは、登場人物内の知識の有無の差異によって起きる傾向が強いことが示された。中国では、「自国（自民族）の文化が共有されている」という前提が成立しているとも考えられる。先行研究や言説では、「米国のコンテキスト（文脈）は低く、中国のコンテキストは高い」という認識が共通して提示されていたが、(F3)「自文化の未理解、他文化の未理解」は、この文脈の高低に由来しており、中国の高コンテキスト文化に起因しているとも考えられる。

バカにされている集団、対象の集団を構成する登場人物が自虐的に発話する（インド出身の Raj がインドをバカにする）、傷つく対象が視聴者のマジョリティにいない（当番組はインドではあまり見られていない）ことが条件として挙げられる。この二つの条件を満たすことにより、優越による笑いは、批判を受けにくいような予防線が張られる。米国シットコムで例示した「国名が持つ記号性」は図 9.1 のようになる。

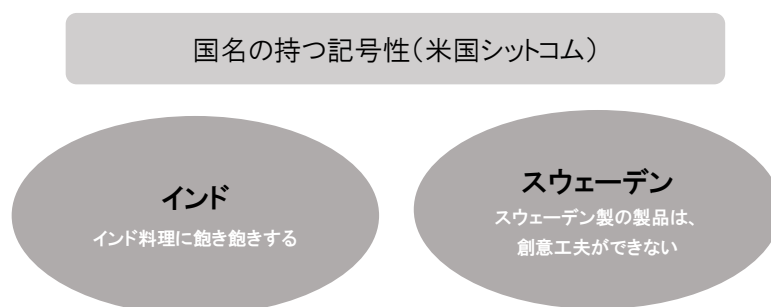


図 9.1 国名が持つ記号性のイメージ（例）

また、インドやスウェーデンといった国名を番組内に挿入することにより、その記号性を一瞬で解読させ、面白みに繋げる効果がある。

中国シットコムのテキスト分析で見た「見下し」は、視聴者の意識が、高いところからの俯瞰性を持つことに由来する。シットコム内の現象に「見下し」の意識が生まれ、面白みの発生に繋がる（イメージを図 9.2 に示す）。

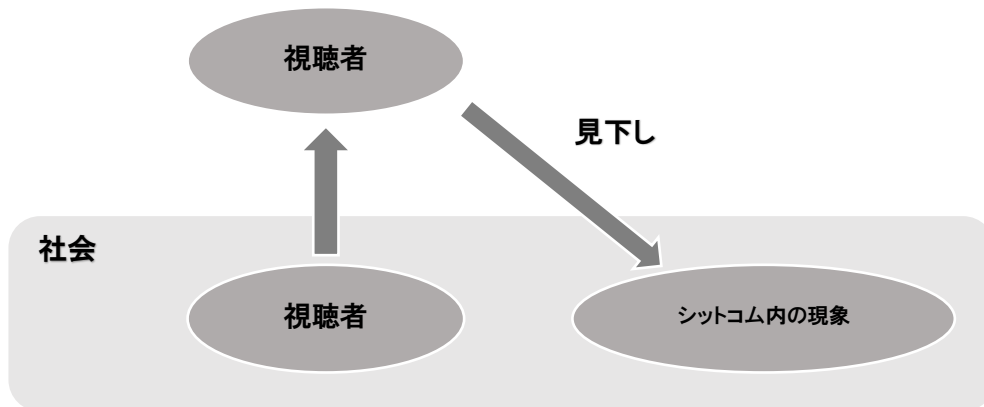


図 9.2 シットコム内の「見下し」の構造

中国人の日常生活の行動や、使う言葉を知らない状況で、対象が中国人であれ、外国人であれ、シットコムではラフ・トラックの挿入ポイントとなっている。中国シットコムにおいて、「登場人物が知らないこと」によって、ラフ・トラックが挿入されるパターンを図 9.3 に示した。

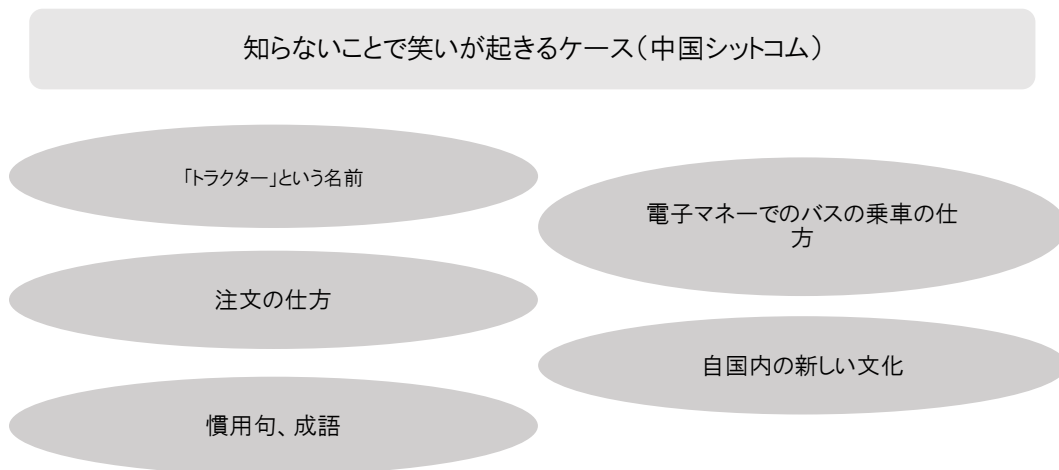


図 9.3 中国シットコムにおいて「知らないこと」で、ラフ・トラックが挿入されるパターン (例)

外国人が中国語のことを知らないことは当然起こりうるが、このようにシットコムでは、優越性の認識により、ラフ・トラック挿入のタイミングとなされている。

9.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類(F)「優越性の認識」の視点から分析、考察した。「優越性の認識」によるラフ・トラック挿入は、登場人物が他者からの優越を指摘し、それを視聴者が認識する際に、面白みが生まれるというもので、国家間の優劣の認識、知識の有無の認識、知らないことに対する嘲笑が該当する。視聴者は知っているだろう(当たり前の)想定のことを、登場人物が知らなかったということに対し、物事を知らない登場人物に対する嘲笑としてのラフ・トラックが使用されている。

この大分類に起因するラフ・トラックの発生ポイントは、両国とも2%に満たず、僅かであった。差異として、中国では、「自文化・他文化への未理解による失敗」でのラフ・トラックの挿入の割合が米国よりも有意差をつけて高いことが示された。これは、中国では、「自国(自民族)の文化が共有されている」という前提が成立していることの裏返しであるとも考えられる。米国シットコムは他国のマイナスイメージの記号性を解読させるような排他的な性質を持つ他国との比較、中国シットコムは、登場人物内の知識の有無の差異によって起きる傾向が強いことが分かった。

第10章 大分類 (G)「フレーミングの変化」の構造

前章では、大分類 (F) についての分析、考察を行った。本章では、大分類 (G) についての分析を行う。大分類 (G)「フレーミングの変化」は、構図が変化することで、シーンの変化や状況、物の見方や角度が変化することによって、ラフ・トラックの挿入ポイントとなるものを指す。

定量分析では、大分類 (A) とその下位分類である小分類別に、米中各作品のラフ・トラックの発生回数を分けた数値を用いて分析し、定性分析では、米国、中国の対象作品から、大分類 (A) が当てはまる箇所を取り上げる。米中番組スクリプトを、それらの小分類に対応させ、米中で起こる割合の提示、適応できた事例を具体的に分析する。

10.1. 「フレーミングの変化」構造の概要

大分類 (G)「フレーミングの変化」には、構図が変化することで、シーンの変化や状況、物の見方や角度が変化し、ラフ・トラックの挿入ポイントとなるシーンが分類される。小分類として、決めごとや約束事が設定されるが、想定外の出来事が起きて、予定通り行われなくなる (G1)「決めごとに対する想定外の事態」、シーン変わりの冒頭、登場人物が奇妙な動きをする (G2)「シーン冒頭の唐突で奇妙な動作」、話の流れにそぐわないような急な話題の挿入や発言などを指す (G3)「唐突な話題の挿入や転換」、立場の優位性や好守が逆転したり、変化したりする (G4)「立場の逆転、変化」に分けられる。

10.1.1. 「フレーミングの変化」の笑いの定性分析

本項では定性分析を行い、どのような傾向が発話内容に表れているかを確認する。恣意性を排除するため、各作品から、該当項目が、最初に出現した部分についてテキスト分析を行う。定性分析として、各番組の第1-1エピソードの大分類 (G) の最初と1-2の最後に出てきた箇所を抽出し、計12箇所をシーン番号1-12とした。大分類項目 (G) 内の小分類項目に下線を付けた。

【ケース番号1】

「*the Big Bang Theory*」1-1

Sheldon と Leonard がマンション内の階段で歩きながら話をしている。Leonard が Sheldon のことを怒っているのではないかと、Sheldon が気遣うシーンを示す。

[10.1] Sheldon : Are you still mad about the sperm bank? (まだ怒ってる?)

Leonard : No. (いや)

Sheldon : You want to hear an interesting thing about stairs? (L₁) (階段の面白い話、聞く?)

Leonard : Not really. (別にいい)

(L₁) は (G3) 「唐突な話題の挿入や転換」で、怒っているかどうかを確認していたが、すぐに次の話題に切り替えた。

【ケース番号 2】

「*the Big Bang Theory*」 1-2

Leonard が Penny の部屋の下に手紙をしのばせようとするが、ドアが開き、気まずい空気になる。

[10.2] Penny : What's going on? (何の用?)

Leonard : Um, here's the thing. (紙の文章を読もうとする) (L₁) Penny. (L₂)

Just as Oppenheimer came to regret his contributions to the first atomic bomb, (L₃) so too I regret my participation in what was, at the very least, an error in judgement. (L₄) The hallmark of the great human experiment is the willingness to recognise one's mistakes. Some mistakes, such as Madame Curie's discovery of Radium turned out to have great scientific potential even though she would later die a slow, painful death from radiation poisoning. (L₅) Another example, from the field of ebola research... (聞いて。「Penny へ。Oppenheimer が原爆開発を後悔したように、僕も判断ミスに関与して後悔してる」「偉大な研究の陰には必ず失敗が存在する」「Curie 夫人もラジウムを発見したが、放射能中毒に苦しみながら死んだ」「エボラの研究では・・・」)

Penny : Leonard. (L₆) (レナード)

(L₁) は (A17) 「融通の利かなさ」で、(L₂) は (E4) 「音の高低」である。(L₃)、(L₄)、(L₅) は (D6) 「不自然な比喻や例示」である。(L₆) は (G3) 「唐突な話題の挿入や転換」で、聞くに堪えない比喻なので話をさえぎった。

【ケース番号 3】

「*Friends*」 1-1

カフェのソファで出演者一同が話をしている。

- [10.3] Ross : I don't want to be single, okay? I just... I just- I just wanna be married again! (独身なんてうれしくない。僕はまた結婚したい)
(突然、ウエディングドレス姿のレイチェルがカフェに入ってくる) (L₁)

(L₁) は (G1) 「決めごとに対する想定外の事態」で、通常はカフェにウエディングドレス姿の人間は突然入ってこない。このラフ・トラック挿入ポイントにセリフはないが、いきなり花嫁姿の人間が入ってきた。

【ケース番号 4】

「*Friends*」 1-2

産婦人科で、Ross と Ross の前妻の Carol が話している。

- [10.4] Carol : No, I mean it's not Geller. (Geller という苗字にはしないわ)
Ross : What, it's gonna be Helen Willick? (君の名字にするのかい?)
Carol : No, actually, um, we talked about Helen Willick-Bunch. (L₁) (私と彼女の名字よ。Helen Willick-Bunch)

(L₁) は (G1) 「決めごとに対する想定外の事態」で、新生児の名付けで、自分の名前が外され、別の人物の Bunch という名前が入っている。

【ケース番号 5】

「*Full House*」 1-1

Claire (子供たちの祖母) が、子供たちと離れるのを惜しんでいる。

- [10.5] Claire : The baby's sleeping like a baby. (L₁) (赤ちゃんの寝顔、赤ん坊みたい)
Claire : Oh, my angels. Oh, I'm going to miss you. (元気でね。さみしくなるわ。放してあげて) (子供が次々とくるのを引き離す) (L₂)

(L₁) は (B2) 「発話内の自己矛盾」である。(L₂) は (G1) 「決めごとに対する想定外の事態」で、子供を引き離そうとしている中で、すぐに子供が戻って来てしまう父親にとっての想定外が発生している。

【ケース番号 6】

「Full House」1-1

寝室で、Danny が赤ちゃんの Michelle を寝かそうと歌を歌う。

[10.6] Danny: Give me my kid. (Michelle を Jesse から受け取り、Michelle に向かって) Ok Michelle, time to go to bed. Yeah. Lullaby and good night, and there's more words I'm not sure of... (L₁) (こっちへ。Michelle。おやすみの時間だよ。眠れ、おやすみ。あとの歌詞は知らないや)

Joey: Conga. (家族一同が Conga というダンスを始める) (L₂)(L₃)(コンガ!)

(L₁) は (A16)「ミスの発生やミスを認める行為」である。(L₂) は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、大声で「Conga」と叫んで歌いだす。(L₃) は (A9)「一心不乱な動作」である。

【ケース番号 7】

「愛情公寓」1-1

シーンの冒頭、飛行機到着が到着し、PVG-LAX (ロサンゼルスから北京へ到着) と書かれたタグのついたスーツケースを展博が運び、バスへと乗り込む。

[10.7] 展博: 总算还有辆空车。(まだ空席があるみたいだ) (女性がジープの尻部ポケットで電子マネーをスキャナーにかざす) (L₁) (電子マネーを持っていないのに、女性と同じ動作をする展博)

(L₁) は (G2)「シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作」で、女性がジーンズの尻部ポケットで電子マネーをスキャナーにかざす動きをしている。(L₂) は (F3)「自文化、異文化の未理解による失敗」である。

【ケース番号 8】

「愛情公寓」1-2

宛瑜の正体を知った展博が、宛瑜を安心させようとする。

[10.8] 展博: 宛瑜、我从小就一直在念书除了读书都不会、其实我遇见你的那天、也是我真正开始独立的第一天、所以我能明白你的感受。放心吧。我们根本就不认识、什么富豪千金林宛瑜、我们只认识卖盗版的林宛瑜。(L₁) (宛瑜、私は若い頃から勉強ばかりしてきたので、勉強以外はできません。でもあなたと出会ったことは私にとって自立の第一歩です。だ

から、あなたの感覚もよく理解できます。安心して下さい。私たちは、金持ちの林宛瑜は知りません。海賊版を販売している林宛瑜だけを知っています)

宛瑜：展博、谢谢你。(展博、ありがとう)(抱きついてくる)(L₂)

子乔：(ブロッコリーの帽子をかぶって部屋に入ってきてながら)哇、都在呢。看看我的新帽子怎么样。(うわー、みんないるんだ。新しい帽子はどうですか、見て下さい)(L₃)

(L₁)は(D9)「本音と建前のギャップ」である。(L₂)は(G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、宛瑜が展博に急に抱きついてくる。(L₃)は(G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、ブロッコリーの形の帽子をかぶってくる想定外が発生する。

【ケース番号 9】

「我爱我家」1-1

志国と圆圆の親子二人がリビングに入ってきて、テレビをつける。

[10.9] 志国：看哪门子动画片呀。看连续剧。(L₁) (アニメなんか見ないで、ドラマにしよう)(親子でチャンネル争いを繰り返す)(L₂)(L₃)

(L₁)は(A18)「融通の利かなさ」である。(L₂)は(G4)「立場の逆転、変化」で、子供がリモコンでチャンネルを戻して、優位に立つ。(L₃)も(G4)「立場の逆転、変化」で、親子でチャンネルを争奪することが2回続く。

【ケース番号 10】

「我爱我家」1-2

家族でひと悶着があった翌朝のリビングルーム。

[10.10] (傅老が一人で座っており、他の家族が笑顔で入ってくる)(L₁)

家族で声を合わせて：爸，实在对不起。昨天确实是跟您开玩笑。我们都是好孩子。(L₂)(お父さん、本当にごめんなさい。昨日はあなたを冗談でからかったのです。私たちは、本当は良い子供です)

(L₁)は(G4)「立場の逆転、変化」で、黙って座る傅老に、ニコニコしながら入ってくる家族。昨晚は家族が嫌な思いをしていたが、このシーンでは家族が笑顔になっており、立場が逆転している。(L₂)は(G4)「立場の逆転、変化」で、昨晚は「ひどい子供」と表現したのに、「よい子供」と言葉を翻している。

【ケース番号 11】

「家有儿女」1-1

番組の冒頭のシーン、夏东海と刘梅が会話を始める。

[10.11] 夏东海：你愿意做我的老婆吗？(L₁) (私の妻になりたいですか？)

刘梅：愿意。(喜んで)

(L₁) は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、いきなり「妻になってくれ」と言い出している。

【ケース番号 12】

「家有儿女」1-2

子供の小雨と刘星が、外で話をしている。

[10.12] 小雨：对，刘星贪玩算得了什么呀？(そうだ、刘星の遊びなんて、大したことないでしょう？)

刘星：真是的、小雨。(そのとおりだ、小雨) (投げキッス) (L₁) 算得了什么呀 (大したことない)

(L₁) は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、話の流れから、投げキッスをするのは想定外の動きと見なすことができる。

抽出したテキスト部分では、米国では、ケース番号 1、2、3、4、5、6、中国では、ケース番号 7、8、9、11、12 のように、ほぼ全てにおいて、抽出部分以前のシーンからの流れとの関連性が低い（前のシーンからの流れを知らなくても、その発話の面白みを感じる）傾向が見られた。ただし、ケース番号 10 のように、前のシーンからの流れを知らなければ、面白みを感じにくいシーンもあった。

一方で、米国では、ケース番号 1、2、6 のように一人がセリフの中で、会話の筋道を変化させフレームを変える傾向が見られたのに対し、中国では、ケース番号 7、9、10、11 のように、登場人物の発話内の動きではなく、設定上での変化でフレームを変える傾向が見られた。

10.1.2. 分類別発生件数の定量分析

定量分析の結果は表 10.1 から表 10.3 の通りである。大分類の割合と米中の割合が表 10.1 である。「フレーミングの変化」を示す大分類 (G) を太枠で囲んだ。

表 10.1 大分類の内容と米中の割合

大分類	大分類の内容	米国		中国	
		発生回数	割合	発生回数	割合
A	未熟性とのギャップ	239	19.1%	176	17.9%
B	実在のものと虚構との混在	239	19.1%	213	21.7%
C	エネルギーの移行	154	12.5%	123	12.4%
D	発話の意味と解釈のズレ	479	38.1%	324	31.5%
E	正当な発声、発音とのギャップ	53	4.3%	24	3.4%
F	優越性の認識	5	0.4%	15	1.5%
G	フレーミングの変化	79	6.4%	106	10.6%
H	その他	2	0.2%	0	0.0%
	合計	1250		981	

米中の差を調べるために、大分類 (G) 内の小分類項目について、有意水準を 0.05 とし、 χ^2 検定を行なった。結果を表 10.2 に示す。

表 10.2 大分類 (G) 内の小項目についての χ^2 検定の結果

		米国合計	中国合計	米中合計	米国期待値	中国期待値	P値
G1	決めごとに対する想定外の事態	32	42	74	41.46122815	32.53877185	0.026701302
G2	シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作	17	14	31	17.36889287	13.63110713	0.893810553
G3	唐突な話題の挿入や転換	21	24	45	25.21290901	19.78709099	0.205771768
G4	立場の逆転、変化	9	26	35	19.61004034	15.38995966	0.000302431
		79	106	185	103.6530704	81.34692963	0.000260509

大分類 (G) の合計で、中国シットコムの方の割合が、p 値が 5% の水準を越えて高く、有意な差が認められた。小分類項目は (G1)、(G4) において中国の方が高く有意な差が見られた。次に、大分類と小分類に於ける米国と中国の発生回数とその割合を表 10.3 に示す。有意な差が見られた項目のセルは太枠で囲んだ。

表 10.3 大分類 (G) 内の小分類項目の米中の差異

項目	分類要因内容	米国		中国	
		発生回数	%	発生回数	%
G1	決めごとに対する想定外の事態	32	2.6%	42	4.3%
G2	シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作	17	1.4%	14	1.4%
G3	唐突な話題の挿入や転換	21	1.7%	24	2.4%
G4	立場の逆転、変化	9	0.7%	26	2.7%
	大分類 (G) の合計	79	6.3%	106	10.8%
	ラフ・トラックの発生合計	1250		981	

調査の結果、データ比較からは以下のような傾向が読み取れた。

大分類 (G) が、全体のラフ・トラックの数に占める割合は、米国で約 6%、中国で約 10%と、大分類の中ではともに 5 番目となったが、中国の方が、大分類 (G) が占める割合が高く、有意な差が認められた。大分類 (G) 内の小分類項目では、中国シットコムが、(G1)「決めごと、規定路線に対する想定外」、(G4)「立場の逆転、変化」で有意な差での割合の高さが認められた。

10.2. 考察

上記の定性・定量分析を総合して「フレーミングの変化」の笑いがどのような構造になっているのか、及びその発現傾向と性質、背景について説明する。

大分類 (G) は、構成上の流れが、急に変化することにより発生する面白みである。流れを突然変える、通常の流れとは違う流れにする。通常に起こり得る流れを逸することから、第 4 章で示した不一致理論により説明がつくと考える。シットコムは、基本的には同一空間の固定カメラによる登場人物の発話の掛け合わせが基軸になることから、シーンやカットの変化が少ない。したがって、その環境下で、どのような変化をつけるかに、大分類 (G) の特徴が現れている。

小分類項目 (G1) から (G4) についてその性質をまとめると、(G1)、(G3)、(G4) は、会話の途中でその筋が崩れ、流れが転換するが、(G2) は、シーン冒頭の唐突さが示される。

10.2.1. フレーミングの変化の性質

発現傾向をさらに調べるため、定性分析のケース番号 1-12 までの抽出部分から、性質として、登場人物が意図的に筋を変えようとするものと、偶発的に何かが起き、構成や設定上の変化の面が強いものに分けた。それらを踏まえ、ケース番号 1-12 のそれぞれのテキストに「セリフ内での変化」「設定での変化」「一人の変化」のいずれの性質かを付記した（1つのテキストに複数発生している箇所もある）。

【ケース番号 1】の(L₁)は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、怒っているかどうかを確認していたが、すぐに次の話題に切り替えており、「セリフ」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 2】の(L₆)は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、聞くに堪えない比喻なので話をさえぎっており、「セリフ」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 3】の(L₁)は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、カフェに花嫁姿は入ってこない。セリフはないが、いきなり花嫁姿の人間が入ってきており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 4】の(L₁)は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、新生児の名付けで、自分の名前が外され、別の人物の名前（Bunch）が入っており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 5】は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、子供を引き離すのに、また戻って来てしまう父親にとっての想定外が発生している。「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 6】は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、大声で「Conga」と叫んで歌いだしており、「セリフ」、「一人の変化」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 7】の(L₁)は (G2)「シーン冒頭の唐突で奇妙に見える動作」で、女性がジーンズの尻部ポケットで電子マネーをスキャナーにかざす動きをしており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 8】の(L₂)は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、急に抱きついており、「一人の変化」の内容で面白みを作っている。(L₃)の (G1)「決めごとに対する想定外の事態」は、ブロッコリーの形の帽子をかぶってくる想定外が発生しており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 9】の(L₂)は (G4)「立場の逆転、変化」で、子供がリモコンでチャンネルを戻して、優位に立っており、「設定」の内容で面白みを作っている。(L₃)は (G4)「立場の逆転、変化」で、親子でチャンネルを争奪することが2回続いており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 10】の(L₁)は (G4)「立場の逆転、変化」で、昨晩は家族が嫌な思いをしていたが、家族が笑顔で立場が逆転しており、「設定」の内容で面白みを作っている。

(L₂) は (G4)「立場の逆転、変化」で、「ひどい子供」と表現した翌日「よい子供」と翻しており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 11】の(L₁) は (G3)「唐突な話題の挿入や転換」で、いきなり妻になってくれと言い出しており、「設定」の内容で面白みを作っている。

【ケース番号 12】の(L₁) は (G1)「決めごとに対する想定外の事態」で、話の流れから、投げキッスをしており、「一人の変化」の内容で面白みを作っている。

米国、中国に共通して、設定上の変化を使用する傾向が見られた。一方、中国シットコムからは、セリフ内での変化は見られず、ケース番号 8 やケース番号 12 のように分かりやすく想定外の展開を発生させることでラフ・トラックの発生ポイントとなっていた。

定量分析からの考察として、(G2) によって示されるシーン冒頭の唐突さは両国ともに 1.4%と同程度発生しているが、会話の途中でその筋が崩れ、流れが転換する (G1)、(G3)、(G4) の割合は、中国シットコムの方が高いことが分かる。

全体的な発現傾向が両国とも約 1 割か 1 割以下に収まったのは、シットコムそのものが発話の組み合わせにより成立する部分が高いことが理由であると考えられる。発話が複数回組み合わせられるので、仮に流れの転換が多用され一定程度の論理性が確保されなければ視聴者は流れを掴みづらくなる。中国の方が全体的に発現頻度は高く、また、中国の方が「唐突な変化」も面白みに変わる傾向にあると考えられる。

10.3. まとめ

本章では、米中シットコムのラフ・トラック挿入ポイントを、大分類 (G)「フレーミングの変化」の視点から分析、考察した。「フレーミングの変化」は、シーンの変化や状況、物の見方や角度が変化することによる。立場の優位性や好守が逆転したり、変化したりするものである。シーンの流れが分からなくても、そのセリフの箇所のみを面白みを感じうる構成になっているのがシットコムの全体的な特徴といえる。

「フレーミングの変化」について、大分類、小分類ともに発現割合が中国の方が高かった。この背景として、会話自体の論理性を飛ばすことを中国に比べ米国はあまりしない、話の途中でそれを変化させることをあまりしない、シットコムという虚構空間であっても、それを受け入れる傾向が少ないことが考えられる。

米国がセリフの中身を動かし、中国が設定を動かす傾向が見られる。その背景として、米国では、論理性を前提として考えることができる。米国では、シットコムの原点である言葉の組み合わせが忠実に行われ続け、中国では、シットコムが、社会背景に即して、よりドラマ的な性質に変化しているからだと考えられる。

第 11 章 ラフ・トラック挿入ポイントにおける面白さの認識

前章までは、ラフ・トラック挿入ポイントの性質を大分類ごとに分け、分析と考察を行ってきた。本章では、本研究の補足として、米国と中国シットコムを日本人被験者が視聴した場合、米国と中国の作品に対する面白さの認識にどのような違いが生まれるのかを明らかにする。定量分析からどこに違いが生まれるのか、内容分析から、なぜそのような違いが生まれたのかについて質問紙を用いて考察を行った。内容分析で、面白さを高く認識できた箇所と、面白さをほとんど認識できなかった箇所を抽出し、その理由を探った。

11.1. 実験

本章では、シットコムにおけるラフ・トラックの挿入が、実際にどのくらい、実際の視聴者の面白さの認識と一致し、米国と中国でどのような差異が生まれるのかについて調査するため、日本人の専門学校生を被験者にし、米中シットコムのラフ・トラック挿入箇所のシーンを面白いと認識したか否かについての調査を実施し、ラフ・トラック挿入と視聴者の面白さの認識がどの程度一致するのかについて実験した。日本人を被験者にすることで、第三者的で客観的な視座に立っての米中シットコムの分析が可能であると考えた。

11.1.1. 実験の目的

米中シットコムにおけるラフ・トラック挿入箇所と視聴者の認識の一致と乖離の度合い、及び傾向を確認することが実験の目的である。

11.1.2. 方法

実験方法は以下の通りである。

米国シットコムは、英語音声日本語字幕モードに設定した DVD を用意し、中国シットコム 3 作品は、番組映像を動画編集ソフト Final cut pro X¹ を用いて、オープニングテーマ部分を取り除き、筆者の翻訳により画面下部に日本語字幕を付する。

福岡県内の専門学校 A 校（福岡市）、B 校（北九州市）で、専門学校生（日本人）男女（N=43）を被験者とし、DVD および編集済みの映像を視聴する。A 校の学生は医療系を専門とし、B 校の学生はコンピュータを専門としている。被験者は A-F の順で番組を視聴し、各番組の映像の終了とともに質問紙への記入を行う。視聴と質問紙記入の合計時間は約 70 分となる（実施期間：2020 年 12 月 15 日-2020 年 12 月 17 日）。これらのデータを集計し、米国シットコムと中国シットコムでの、面白さの認識の違いに関する定量的な検証を行い、また、日本人被験者による米中シットコムの見え方に関するコメントも参照に

定性的な考察を行う。内容分析の手法については、樋口（2020）²を参考にした。なお、被験者は、年齢が10代から20代の日本人専門学校生であり、属性や年齢層が限定されている。本調査研究では、被験者の属性の範囲が限られている点が研究の限界点となるものの、一方で、日本人の若年層が、異国のシットコムを視聴しどのように捉えるかを調査することに意義を見出せる。

11.1.3. 調査に使用する番組映像

米中で調査に使用する番組映像素材は、米国シットコム「*the Big Bang Theory*」³「*Friends*」⁴「*Full House*」⁵、中国「愛情公寓」⁶「我爱我家」⁷「家有儿女」⁸の計6種類である。放送範囲、受賞歴、放送期間に加え、米国作品は、DVDや動画視聴プラットフォームを通して日本で視聴が可能であるか、中国作品は、youtubeや愛奇芸の共有動画サイトのプラットフォームを通して視聴が可能であるものを選定基準とした。

視聴する箇所に関しては、映像が短すぎるとストーリーに入り込めず、また、長すぎるとどこか面白かったのかを忘れてしまう可能性があり、映像の適切な長さの検討が「必要となった。1シーンのみならず、複数のシーンを跨いだ方がストーリーの面白さをより深く認識でき、米中比較を効果的にすることが可能であると考えた（但し、「我爱我家」は同じ場所でのシーンが続くため、その基準から除外した）。各番組の初回エピソードの冒頭5～6分とし、各番組で、オープニングテーマを除いた尺が5分を越えたのち場面が転換するところまでとした⁹。

表 11.1：調査に使用する番組と視聴用映像素材の時間

番組分別用記号	制作国	タイトル	視聴用番組時間
A	米国	<i>the Big Bang Theory</i>	6分00秒
B	中国	愛情公寓	5分40秒
C	米国	<i>Friends</i>	6分00秒
D	中国	我爱我家	5分37秒
E	米国	<i>Full House</i>	6分21秒
F	中国	家有儿女	6分16秒

11.1.4. 質問紙の内容

質問紙には、映像のセリフ部分のシナリオと、ラフ・トラックの挿入箇所を示し、それぞれのラフ・トラック挿入箇所毎に、「3. とてもおもしろい」「2. ややおもしろい」「1.

られるポイントは5で、Cに与えられるポイントは4、最下位のFに与えられるポイントは0となる。

表 11.2：日本人被験者が6作品視聴後に面白かったと感じた順番をつけた結果

回答者番号	回答者の記号入力					
	度合い (+5)	度合い (+4)	度合い (+3)	度合い (+2)	度合い (+1)	度合い (+0)
1	E	D	A	C	B	F
2	E	A	F	C	B	D
3	C	A	E	B	D	F
4	F	A	C	B	E	D
5	A	C	E	B	D	F
6	E	A	C	B	F	D
7	A	B	C	E	D	F
8	C	A	B	E	D	F
9	C	E	D	A	F	B
10	A	C	E	B	D	F
11	C	E	B	D	A	F
12	A	C	E	B	F	D
13	E	A	C	B	D	F
14	A	B	C	F	E	D
15	C	E	A	F	B	D
16	E	C	A	B	F	D
17	E	B	A	D	F	C
18	B	C	F	A	E	D
19	A	D	B	E	C	F
20	C	A	B	E	D	F
21	E	B	D	C	F	A
22	F	E	B	AC (同順位)	AC (同順位)	D
23	E	C	A	B	F	D
24	E	C	D	F	A	B
25	C	F	A	E	B	D
26	E	C	A	D	B	F
27	A	E	B	C	D	F
28	B	C	D	A	E	F
29	E	C	D	A	B	F
30	E	C	B	D	F	A
31 (無効)	C	A	D	B	D	F
32	C	B	A	F	E	D
33	C	B	A	D	E	F
34	A	E	C	B	D	F
35	B	A	C	F	D	E
36	A	C	B	D	E	F
37	A	C	B	D	F	E
38	E	F	C	D	A	B
39	E	C	D	B	F	A
40	E	F	D	A	C	B
41	C	E	D	B	F	A
42	E	A	C	B	F	D
43	E	F	C	A	B	D

表 11.2 の結果を数値化するために、左側の「最も面白かった」を 5 ポイント、1 ポイントずつ差をつけ、最も右側を 0 ポイントに換算した（回答者番号 22 は、「同順位」と質問紙に記されていたため按分し、1.5 ポイントずつを加えた。回答者番号 31 は D が 2 箇所記入されていたため無効とした）。その結果、各番組の面白さのポイントの総計は表 11.3 のようになった。

表 11.3：表 11.2 の評価を数値化しての各番組のポイントの総計

	ポイント総計	順位
the Big Bang Theory	129.5	3
爱情公寓	99	4
Friends	147.5	1
我爱我家	58	5
Full House	142	2
家有儿女	54	6

ポイントの総計では、米国の 3 作品が上位に、中国 3 作品が下位となった。

また、表 11.2 の結果を数値化するために、左側の「最も面白かった」を評価の 1 位とし、次を 2 位とした（回答者番号 31 は D が 2 箇所記入されていたため無効とした）。評価 1 位と 2 位をカウントした結果が、表 11.4 である。

表 11.4 被験者の番組ごとの評価 1 位、2 位（単位：人）

番組名	1 位	2 位
the Big Bang Theory	10	9
爱情公寓	3	6
Friends	10	14
我爱我家	0	2
Full House	17	7
家有儿女	2	4

米国の 3 作品が高い評価を示し、中国 3 作品は、米国作品を下回る評価となった。

11.3.2. 定量調査(2) 各ラフ・トラックの挿入ポイントに対する感じ方の評価

各番組のテキスト内容における、ラフ・トラックの各挿入ポイントに対する面白さの感じ方の度合いは表 11.5 の回答集計表の通りとなった。本研究では、「面白さを認識できたかどうか」に焦点を当てているため、選択肢 3 (とてもおもしろい)、選択肢 2 (ややおもしろい)、選択肢 1 (まったくおもしろくない) の 3 つの選択肢の選択肢 3 に選択肢 2 を加えた合計と選択肢 1 を比べた形を取り、「面白さを認識できた」「面白さを認識できなかった」を対比させた。「とても」「やや」では解釈の仕方に個人差が生まれうるが、その調査結果を「あるかないか」で分けることにより、「面白さの認識」があったかどうか(有無)を把握できる。表 11.5 の A1-F38 は、実験用映像にラフ・トラックが挿入された位置を示している(表 11.5 は選択肢 2 と 3 の計と選択肢 1 のみ記したが、付録 4 に選択肢 2 と 3 の個別回数、合計人数を付した表を示した)。

ラフ・トラック挿入ポイントの面白さの認識についての度合いを計るため、「選択肢 3 : とてもおもしろい」と「選択肢 2 : ややおもしろい」の和と、「選択肢 1 : まったくおもしろくない」について 5 数要約を行なった。5 数要約の結果、高い数値の上位 25% にあたる第 3 四分位数 (Q_3) にあたる数値は、「選択肢 3 : とてもおもしろい」と「選択肢 2 : ややおもしろい」の和が 73.2%、「選択肢 1 : まったくおもしろくない」は 46.6% となった。それぞれ、 Q_3 よりも高い値を示したセルの色を濃くした。表 11.6、表 11.7 で、選択肢 3 と選択肢 2 の和で 73.2% より高く面白さが認識されたセルの数と、選択肢 1 で 46.6% より高く面白さがあまり認識されなかったと判断できるセルの数をまとめた。番組ごとの総合評価と比較参照のため、表の下欄には、選択肢 3、選択肢 2、選択肢 3+2、選択肢 1 の平均値を示した。

表 11.5：ラフ・トラック挿入ポイント（6 番組）に対しての面白さの感じ方の度合い

	the Big Bang Theory		愛情公寓		Friends		我爱我家		Full House		家有儿女						
	選択肢2+3	選択肢1	選択肢2+3	選択肢1	選択肢2+3	選択肢1	選択肢2+3	選択肢1	選択肢2+3	選択肢1	選択肢2+3	選択肢1					
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)					
A1	50.0%	50.0%	B1	69.0%	31.0%	C1	54.8%	45.2%	D1	45.2%	54.8%	E1	59.5%	40.5%	F1	50.0%	50.0%
A2	31.7%	68.3%	B2	88.1%	11.9%	C2	71.4%	28.6%	D2	60.5%	39.5%	E2	82.9%	17.1%	F2	61.0%	39.0%
A3	41.9%	58.1%	B3	80.5%	19.5%	C3	76.2%	23.8%	D3	61.9%	38.1%	E3	61.9%	38.1%	F3	66.7%	33.3%
A4	54.8%	45.2%	B4	64.3%	35.7%	C4	75.6%	24.4%	D4	31.0%	69.0%	E4	66.7%	33.3%	F4	57.1%	42.9%
A5	45.2%	54.8%	B5	79.1%	20.9%	C5	85.7%	14.3%	D5	40.5%	59.5%	E5	64.3%	35.7%	F5	76.2%	23.8%
A6	54.8%	45.2%	B6	57.1%	42.9%	C6	61.9%	38.1%	D6	45.2%	54.8%	E6	46.3%	53.7%	F6	47.6%	52.4%
A7	65.1%	34.9%	B7	42.9%	57.1%	C7	68.3%	31.7%	D7	64.3%	35.7%	E7	71.4%	28.6%	F7	50.0%	50.0%
A8	81.4%	18.6%	B8	26.2%	73.8%	C8	58.1%	41.9%	D8	47.6%	52.4%	E8	78.6%	21.4%	F8	53.7%	46.3%
A9	62.8%	37.2%	B9	83.3%	16.7%	C9	55.8%	44.2%	D9	69.0%	31.0%	E9	83.3%	16.7%	F9	64.3%	35.7%
A10	55.8%	44.2%	B10	65.9%	34.1%	C10	65.1%	34.9%	D10	50.0%	50.0%	E10	78.6%	21.4%	F10	40.5%	59.5%
A11	73.2%	26.8%	B11	59.5%	40.5%	C11	44.2%	55.8%	D11	47.6%	52.4%	E11	52.4%	47.6%	F11	61.9%	38.1%
A12	65.1%	34.9%	B12	66.7%	33.3%	C12	55.8%	44.2%	D12	64.3%	35.7%	E12	75.6%	24.4%	F12	54.8%	45.2%
A13	39.5%	60.5%	B13	76.7%	23.3%	C13	72.1%	27.9%	D13	57.1%	42.9%	E13	73.2%	26.8%	F13	40.5%	59.5%
A14	42.9%	57.1%	B14	52.4%	47.6%	C14	74.4%	25.6%	D14	45.2%	54.8%	E14	58.5%	41.5%	F14	38.1%	61.9%
A15	51.2%	48.8%	B15	44.2%	55.8%	C15	61.0%	39.0%	D15	61.0%	39.0%	E15	56.1%	43.9%	F15	47.6%	52.4%
A16	51.2%	48.8%	B16	73.8%	26.2%	C16	81.4%	18.6%	D16	75.6%	24.4%	E16	53.7%	46.3%	F16	54.8%	45.2%
A17	69.8%	30.2%	B17	62.8%	37.2%	C17	66.7%	33.3%	D17	75.0%	25.0%	E17	61.0%	39.0%	F17	78.6%	21.4%
A18	69.8%	30.2%	B18	58.1%	41.9%	C18	60.5%	39.5%	D18	73.2%	26.8%	E18	51.2%	48.8%	F18	54.8%	45.2%
A19	83.7%	16.3%	B19	62.8%	37.2%	C19	66.7%	33.3%	D19	70.0%	30.0%	E19	61.0%	39.0%	F19	61.9%	38.1%
A20	88.4%	11.6%	B20	66.7%	33.3%	C20	81.4%	18.6%	D20	73.2%	26.8%	E20	65.9%	34.1%	F20	47.6%	52.4%
A21	47.6%	52.4%	B21	46.5%	53.5%	C21	72.1%	27.9%	D21	78.0%	22.0%	E21	63.4%	36.6%	F21	52.4%	47.6%
A22	44.2%	55.8%	B22	72.1%	27.9%	C22	86.0%	14.0%	D22	64.1%	35.9%	E22	75.6%	24.4%	F22	52.4%	47.6%
A23	69.8%	30.2%	B23	76.2%	23.8%	C23	58.1%	41.9%	D23	75.6%	24.4%	E23	56.1%	43.9%	F23	76.2%	23.8%
A24	71.4%	28.6%	B24	81.0%	19.0%	C24	51.2%	48.8%	D24	68.3%	31.7%	E24	58.5%	41.5%	F24	61.9%	38.1%
A25	51.2%	48.8%	B25	69.8%	30.2%	C25	62.8%	37.2%	D25	70.7%	29.3%	E25	65.9%	34.1%	F25	76.2%	23.8%
A26	67.4%	32.6%	B26	55.8%	44.2%	C26	50.0%	50.0%	D26	73.2%	26.8%	E26	75.6%	24.4%	F26	81.0%	19.0%
A27	86.0%	14.0%	B27	73.8%	26.2%	C27	69.0%	31.0%	D27	80.5%	19.5%	E27	68.3%	31.7%	F27	59.5%	40.5%
A28	79.1%	20.9%	B28	62.8%	37.2%	C28	46.5%	53.5%	D28	70.7%	29.3%	E28	65.9%	34.1%	F28	85.7%	14.3%
A29	86.0%	14.0%	B29	62.8%	37.2%	C29	52.4%	47.6%	D29	55.0%	45.0%	E29	63.4%	36.6%	F29	47.6%	52.4%
A30	60.5%	39.5%	B30	69.8%	30.2%	C30	65.1%	34.9%	D30	55.0%	45.0%	E30	78.0%	22.0%	F30	41.5%	58.5%
A31	74.4%	25.6%	平均値	65.0%	35.0%	C31	69.0%	31.0%	D31	65.9%	34.1%	E31	80.5%	19.5%	F31	45.2%	54.8%
A32	74.4%	25.6%				C32	64.3%	35.7%	D32	46.3%	53.7%	E32	70.7%	29.3%	F32	40.5%	59.5%
A33	69.8%	30.2%				C33	52.5%	47.5%	D33	56.1%	43.9%	E33	67.5%	32.5%	F33	54.8%	45.2%
A34	72.1%	27.9%				C34	58.5%	41.5%	D34	53.7%	46.3%	E34	56.1%	43.9%	F34	47.6%	52.4%
A35	40.5%	59.5%				C35	69.8%	30.2%	D35	33.3%	66.7%	E35	80.5%	19.5%	F35	43.9%	56.1%
A36	52.4%	47.6%				C36	81.0%	19.0%	D36	38.5%	61.5%	E36	80.5%	19.5%	F36	45.2%	54.8%
A37	-	0.0%				C37	45.2%	54.8%	D37	46.3%	53.7%	E37	58.5%	41.5%	F37	69.0%	31.0%
A38	79.1%	20.9%				C38	67.4%	32.6%	D38	46.3%	53.7%	E38	68.4%	31.6%	F38	73.8%	26.2%
A39	64.3%	35.7%				C39	83.7%	16.3%	D39	46.3%	53.7%	E39	71.8%	28.2%	平均値	56.9%	43.1%
A40	73.0%	27.0%				C40	55.8%	44.2%	D40	39.0%	61.0%	E40	80.5%	19.5%			
A41	72.1%	27.9%				C41	72.1%	27.9%	D41	53.7%	46.3%	E41	58.5%	41.5%			
A42	62.8%	37.2%				C42	86.0%	14.0%	平均値	57.9%	42.1%	E42	51.2%	48.8%			
A43	72.1%	27.9%				平均値	65.6%	34.4%				E43	58.5%	41.5%			
A44	48.8%	51.2%										E44	82.9%	17.1%			
A45	72.1%	27.9%										E45	62.5%	37.5%			
A46	33.3%	66.7%										E46	73.2%	26.8%			
A47	43.9%	56.1%										E47	77.5%	22.5%			
A48	64.3%	35.7%										E48	56.1%	43.9%			
A49	69.8%	30.2%										E49	78.0%	22.0%			
A50	73.8%	26.2%										E50	82.9%	17.1%			
A51	74.4%	25.6%										平均値	67.4%	32.6%			
平均値	62.7%	36.6%															

表 11.5 で、「選択肢 3：とてもおもしろい」と「選択肢 2：ややおもしろい」の和が Q₃ よりも高い値となり割合が高い項目のセルの数と、「選択肢 1：まったくおもしろくない」が Q₃ よりも高い値となり、面白さがあまり認識されなかったセルの数と、その比率を、表 11.6 にまとめた。

表 11.6：番組ごとの面白さを高く認識できた量と、認識できなかった量の比率（Q₁に入った数における比較）

番組名	①選択肢 3 + 2	②選択肢 1	①/②	①/②の順位
the Big Bang Theory	12	15	0.8	4
爱情公寓	10	4	2.5	2
Friends	10	5	2.0	3
我爱我家	8	15	0.53	5
Full House	17	4	4.25	1
家有儿女	7	17	0.41	6

表 11.3 と表 11.6 を比較した場合、「Full House」は表 2.3 では 2 位で、表 11.6 では 1 位である。「Friends」は、表 11.3 ではポイントが最も高く支持されており、表 11.6 では選択肢 3、2 と 1 の比率において 3 位である。「我爱我家」、「家有儿女」は、表 11.3 では順位が低く、表 11.6 でも選択肢 1 の発生度合いが高く、選択肢 3、2 の発生度合いが少ない。

番組そのものの評価ポイントと、ラフ・トラック挿入ポイントの面白さの評価の相関関係を求め、表 11.7 に示す。番組に対する評価ポイントを①とし、実験対象部分のラフ・トラックの総数を②とし、ラフ・トラック挿入ポイントの面白さを認識できた数を③、ラフ・トラック挿入ポイントの面白さを認識できなかった数を④とした。

表 11.7：ラフ・トラックのポイント合計と、ラフ・トラック挿入ポイントの相関関係

	①番組そのものの評価ポイント	②ラフ・トラックの総数	③面白さを認識できた数	④面白さを認識できなかった数	⑤ (③/④)	⑥ (③/②)
the Big Bang Theory	129.5	50	12	15	0.8	0.24
爱情公寓	99	30	10	4	2.5	0.3333333
Friends	147.5	42	10	5	2	0.2380952
我爱我家	58	41	8	15	0.5333333	0.195122
Full House	142	50	17	4	4.25	0.34
家有儿女	54	38	7	17	0.411765	0.1842105

①と⑤の相関係数 0.650551504

①と⑥の相関係数 0.575771084

⑤は③（ラフ・トラック挿入ポイントの面白さを認識できた数）を④（ラフ・トラック挿入ポイントの面白さを認識できなかった数）で割った値、⑥は③（ラフ・トラック挿入ポイントの面白さを認識できた数）を②（実験対象部分のラフ・トラックの総数）で割った値とした。①と⑤の相関係数は 0.65、①と⑥の相関係数は 0.57 となり、正の相関が認められた。

したがって、表 11.3 と表 11.4、11.5、11.6 は一定の連関が認められ、それぞれのラフ・トラックの挿入ポイントの面白さの認識が、全体に面白かったかどうかに影響を与えていることが確認できた。

11.3.3. 定性調査(1) 各番組に対する感想

定性的な調査として、被験者が番組ごとに記した感想を、表 11.8 に示す（表 11.8 には紙面の都合で、回答者番号上位から 8 人ずつを記し、被験者全体の感想コメントは付録 5 に示した。「面白かった」「面白くなかった」など、具体的でなく、かつ定量分析の質問内容からも読み取れる内容のコメントや、意味が不明である、または番組の感想と直接関係ないと解釈されるコメントは、表 11.8 には掲載していない）。

表 11.8：番組視聴ごとの各番組に対する被験者の感想コメント

	感想コメント		感想コメント		感想コメント
回答者	the Big Bang Theory	回答者	愛情公寓	回答者	Friends
1	人見知り？な男性二人の絶妙にかみあってそうでかみあってない会話は面白かった。女性が出てきてからの2人の人見知りな感じはとても笑えた。	1	主人公のお姉さんが、主人公のイメージとは全く違ったところがおもしろかった。	1	どんどん場面が変わって、テンポよく話が進んでいって面白かった。
2	会話の先が読めない点がおもしろく感じた。	2	Aに比べて動作で笑いをとることが多かった。言葉が分からないとしても楽しめる。	2	笑いが起こったポイントでの、返しの言葉の面白さが分かりづらかった。
3	少し理解するのが難しいところもあったが、おもしろかった。	3	アメリカのとは少し違って、文化の違いを感じた。	6	登場人物が多く、面白かった。
6	引っ越してきた隣人とのコミュニケーションがとてもおもしろかった。	6	最初の押し付けるところが非常に面白かった。	8	会話のテンポが良く、受け答えもおもしろかった。
8	IQは高いのかもしれないが、どこかずれている部分がおもしろかった。	8	似たような番組を見たことがあった。	10	テンポ良く進んでいる作品だが、すぐく見やすかった。
9	あまり分からなかった。	9	あまり分からなかった。	11	笑える部分が一番多かった。
10	会話が流れるように進んでいて、リズム良く見て見やすかった。	10	アメリカのコメディとは違った面白さがあった。中国語はわからないが、笑いのタイミングなどは少し分かった気がした。	14	話の切り替わりが速くて良いと思った。
11	下ネタが多めだけど、そこも含めて面白かった。	11	中国のコメディを初めて見たけれど、楽しめた。	16	真剣な話の最中に、クッキーいるという全く関係ないことを言うところがおもしろい。
12	男性は好きだと思う。	12	アメリカと少し違う	17	最後のやり取りがおもしろかった。
	我爱我家		Full House		家有儿女
1	フーラオが出てきてからのみんなの手のひら返しが面白かった。	1	部屋の内装がメルヘンな感じで、しゅしゅ受け入れる男性の反応が面白かった。	2	一人っ子が多い時代だったと知識を入れるととても理解しやすかった。
2	日本でも見たことのあるような笑いだった。	2	Cと比べて人間関係が把握しやすかった。	3	少し難しかった。
3	最初の方は少し難しかった。途中はとてもおもしろかった。	3	分かりやすかった。おもしろかった。	6	設定が分かりやすかった。
6	フーラオが後ろにいることを知らずに悪口を言っているところが面白かった。	6	情報がとても入ってきやすく、分かりやすくとても面白かった。	8	笑いどころが分からなかった。
10	言葉が入ってこなかったので、話の流れをつかむのが難しかった。内容を理解するのに時間がかかった。	8	Joeyの声マネがすごかった。	9	あまり分からなかった。
11	お父さんが現れて、全員態度が変わる部分が面白い。	12	生感？が何となく分かった。	10	中国の社会の一部が再現されている話だと思った。
14	内容が少し分からなかった。笑いのポイントが違った。	13	演出自体が面白かった。特に子ども達の。	11	少しわかりづらい。
16	おじいちゃんに気付いた時の反応がおもしろい。	14	態度が分かりやすかった。	12	中国ならではの内容だと思う。
19	悪口の話をしている時に、その本人が来て、ほめ始めるのがおもしろかったです。	16	祖母との別れの際、ミッシェルが抱きついてはなさないところ。	14	複雑な家庭だと思った。

11.3.4. 定性調査(2) 米中作品全体を比較しての感想

被験者が、米国・中国の番組全体的に、どのような違いを感じたかについて感想を記述した結果が、表 11.9 である（番組の内容と無関係と考えられるコメントは削除した）。

表 11.9：米国・中国作品全体同士を比較しての被験者の主要な感想コメント

回答者	感想コメント	回答者	感想コメント
	全体を通して（米国）		全体を通して（中国）
1	全体を通して、ボケが多くテンポがよくて、とてもおもしろかった。特徴として、場面がどんどん切り替わって話が進んでいく感じがすごくよかった。	1	米国に比べて場面の切り替わりよりは、一つの物語になつてると感じた。米国より面白みはなかった。
2	理解するのが少し難しい。小バカにして笑いをとることが多い。	2	日本人でも分かりやすい。動作で笑いをとることが多い。
3	若い友人どうし。男女間	3	大家族。家族間
5	下ネタが多い。意見を率直に述べている。笑いの箇所が比較的多い。		
6	登場人物が比較的多い。個人的に米国の番組の方が好きだった。	5	笑いの箇所が比較的に少ない。
7	友人の会話が多い。	6	話が比較的に入ってきにくい。
8	会話のテンポが良く、受け答えもおもしろいものが多い。友人との会話で互いに遠慮がないのが、本当に仲が良いことが伝わりおもしろかった。	7	家族の会話が多い。
9	ラフ・トラックの人数が多い。	8	内輪ノリ感がすごく感じられた。
10	話の中の冗談などのかけ合いがおもしろい。		
11	一人一人キャラ立っていて、人として面白い人の生活を見ている感覚を持った。	10	話の流れの全体でおもしろさがあると感じた。
12	中国と比べて、下ネタが多く感じる。	11	作品として面白いものが多い。
13	笑わせるツボがよくわかるようなコメディだった。特に役をしている方たちのキャラがよく合っていた感じがする。言葉選びも上手だった。	12	途中から出てくる新しい人が少ない気がする。
14	話の進みが速いと思った。	13	米のコメディに慣れているせいか、笑いのツボがよくわからなかった。特にカメラアングルで笑わせようとする人たちの方にカメラがアップしてなかったから笑えなかった。
15	友達同士のものが多くあった。	14	少しゆっくりだと思った。
16	言葉の表現の仕方（比喻）がうまかった。この会話を訳せといっても、直感で出来るものではないと思う。	15	家族間のものが多くあった。
19	冗談ばかりが多く、ネタに対するクオリティが高いなと思いました。友人での物語が多いと思いました。	16	どこか米国に似せた笑いがあるような気がした。
20	登場人物は大体面白いことを言う時しぶい顔をしているか、真顔。話のオチに最初のネタにつながるような言葉を持ってくる。下ネタが多い。	19	家族での物語が多く、ちゃんとした説明が多く米国のように冗談ばかりではない。
21	明らかに笑いを取りに行っている感じではなく、冷静に返事をしたり、行動しているのにジワジワくる面白さがあると思った。また、感情表現がさすが米国だなと思った。		
22	下ネタが多い。笑えないブラックジョークが多い。	21	少しきつめの口調が入っている。
23	話の中にひんばんにジョークを入れている。	22	頭脳を使った笑いが多い。気を張っている雰囲気がある。
24	アメリカの方が、ラフ・トラックが大ききように感じた。	23	家族全員で集まって話している。
25	流れるようなボケがたくさんあった。テンポが良かった。少し難しい例えがあって着いていけないときがあった。動きが日常にありそうでリアルだった。	24	どちらもテンポが速かったので見やすかった。
27	アメリカの番組は友人とおもしろいやり取りが多い印象だった。	25	中国のテレビはセリフでも表情でも笑いを誘ってくる人が多いなと感じた。
		27	中国の番組は家族とおもしろいやり取りが多い印象だった。
29	大胆な発言が多い。	29	裕福な雰囲気が多かった。
30	日本では、デリケートな部分も堂々と出しているところ。	30	日本との文化の違い
31	会話のテンポが速い。正直な会話。	31	遠回しな言い方
32	ジョークが多い		
33	考えないとわからないことが多い。		
37	ジョークが多い番組だったと思う。話での笑い、行動での笑いが多い。たまに放送していいのか疑問に思う場面もある。	37	言動での笑いが多い。人間を大切にしていると思った。
39	笑い声の量が中国より多かった。	39	笑い声の量が多かったが米国ほどではない。

被験者が記載した感想コメント（表 11.7、表 11.8）の「テンポがよい」「リズムがよい」や、「むずかしい」「わかりづらい」などは同義と捉え、同じカテゴリーに分類した。その中で、被験者の感想として、性質、特徴を示し複数回でてきた頻出語句やフレーズを、米国、中国で分け、表 11.10 にまとめた。

表 11.10：被験者の感想コメントに複数回出てきた性質や特徴を示す語句やフレーズ

米国	中国
<ul style="list-style-type: none"> ・テンポがよい（リズムがよい） ・下品（下ネタが多い。家族で見られない） ・関係ないことを言う ・子ども ・友人 	<ul style="list-style-type: none"> ・動作 ・日本と同じような笑い ・態度が変わる（手のひら返し） ・分かりにくい（複雑） ・家族 ・マネ

また、質問紙の中の被験者の感想コメントに見られた性質や特徴を示す語句やフレーズの数、米国、中国で分け、表 11.11 に示した。

表 11.11：感想コメントに見られた性質や特徴を示す頻出語句やフレーズの米中の数

性質、特徴を示すワードのカテゴリー		米国	中国
テンポがよい（リズムがよい、など）	番組個別	13	1
	全体	4	1
分かりにくい（むずかしい、複雑など）	番組個別	2	11
	全体	1	1
動きが面白い（動作）	番組個別	0	4
	全体	1	2
態度が変わる	番組個別	0	4
	全体	0	0
下品（家族で見られない内容、下ネタが多い、など）	番組個別	4	1
	全体	5	0
友人の会話.	番組個別	0	0
	全体	5	0
家族の会話.	番組個別	1	3
	全体	0	5

本節の調査結果から分かったことは以下の通りである。

11.3.1 から、日本人被験者は、作品別では「*Friends*」、「*Full House*」、「*the Big Bang Theory*」の順で面白いと感じており、米国作品の方が上位を占めていることが分かった。11.3.2 から、ラフ・トラック挿入ポイントごとの面白さの認識度が高ければ高いほど、作品全体も面白いと感じる傾向が強いことが分かった。11.3.3、11.3.4 の内容調査は重複している点もあり、11.3.4 が 11.3.3 の補完的調査となっている。日本人専門学校生被験者の感想コメントの語句の出現度合いから、米国作品の「テンポの良さ」が多く、米国作品の「リズム良く笑いを取っていくスタンス」を評価していることが読み取れる。また、米国シットコムには「下品」という類の感想コメントも頻度高く見られた。

中国作品に関しては「分かりにくい」という否定的な感想が出された。「家族の会話」も中国シットコムの特徴と言える。分かりにくさが、11.3.1 で示した番組の面白さの認識を妨げている可能性がある。それでは、中国シットコムの分かりにくさはどこからきているのかを探るため、次節で、面白さが高く認識された箇所と、面白さがあまり認識されなかった箇所の内容分析を行う。

11.4. 分析

11.4.1. 面白さが明確に認識された挿入ポイントについての分析

11.3.2 の定量調査では、「選択肢 3：とてもおもしろい」、「選択肢 2：ややおもしろい」を「面白さが認識された」と括った。本節では、面白さが明確に認識されたテキストの内容について分析するため、ラフ・トラックの挿入ポイントで、選択肢 3 と選択肢 2 を足した合計が Q₃ よりも高い値となった項目を面白さが高く認識されたと位置づけ、その理由について、テキストの内容を分析して、考察した結果を表 11.12 に示した。

表 11.12: 「面白さが高く認識された」ラフ・トラックの挿入ポイントとその理由

挿入ポイントの分類記号	テキスト内容 (日本語訳)	面白さが認識できた理由の推察
a-8	Leonard: IQが高い人用の精子バンクはここ? a-7 Receptionist: IQが高けりゃ分かる。 a-8	Receptionistの皮肉が理解できた。
a-11	Receptionist: パズル解くからごゆっくり。 a-10 無理そうね。 a-11	Receptionistの皮肉が理解できた。
a-19 a-20	Leonard: ああ。(出ようとする行為) a-19 Receptionist: バイ (a-20と連続) Sheldon: バイバイ (こっそり帰るのがバレる) a-20	こっそり帰るという動作(設定)の意図が理解できた。
a-27	Leonard: 前の住人より大進歩だ a-26 Sheldon: 体重90キロの女装野郎よりはね。 a-27	設定の異常性が理解できた。
a-29	Sheldon: ハーイ (沈黙) a-28 Penny: ハーイ? a-29	音程を上げていることの意味が理解できた。
b-2 b-3	(展博がマネをして臀部をカードリーダーに押し付ける) b-2 運転手: おい。戻れ (展博が前の部分をカードリーダーに押し付ける) b-3	b-2、b-3とも、展博の奇妙な動作とその意味が理解できた。
b-9	(展博が急ブレーキでまた頭をぶつける) b-9	急ブレーキというアクシデントが理解できた。
b-24	(そして、一菲が食べるべきものではなかったことに気づき、気づかれないように戻す) b-24	一菲がズルいことをしているという動きの意味が理解できた。
c5	Monica: デートじゃないわ。ただ、食事するだけで性交渉はなしよ。 Chandler: 普通はそれがデートだ。 c-5	Chandlerのツッコミの意味が理解できた。
c-16	Ross: ウソだ。僕を捨てやがって。 c-16	Rossが恨んでいることが理解できた。
c-20 c-22	Ross: 知らなかったんだ。 c-18 僕が気づくわけないだろ。 c-19 彼女も 知らなかったんだ。 c-20 Chandler: レズって憧れるな。 c-21 声に出た? c-22	元妻の異常な設定を理解できた。 Chandlerの奇妙な行動を自分で指摘していることを理解できた。
c-36	Phoebe, Ross, Chandler, and Joey: 突き落とせ、突き落とせ。 c-36	テレビに向かって大人が歓声をあげていることの異常性を理解できた。
c-39	Ross: 物分かり悪いね c-39	Rachelの会話に対するRossのツッコミの意味が理解できた。
c-42	Rachel: 援助は受けない。待って、待って、受ける! c-42	急に態度を翻したことの意味が理解できた。
d-27	和平: おじいちゃんがどうしたの? おじいちゃんの欠点を言っではいけないの? (フーラオを発見) d-24 いや、欠点はあります。欠点がないなんてあり得ない。 d-25 あなたたちは欠点を直さないよ。 d-26 お父さんはとても物分かりがいい。気にしないで。あら、お父さん、起きてきたの。どうぞ座って。 d-27	フーラオを騙そうと、急に態度を変える動きを理解できた。
e-2	Danny: 放してあげて(子供が次々とくるのを引き離す) e-2	子供が代わる代わる祖母をつかまえる動きを理解できた。
e-9	Stephanie: さようなら(ステファニーが足だけ持たれている) e-9	子供が足を持たれているという奇妙な状態に面白さを感じた。
e-31	Joey: こちらこそ大助かりだ。ちょうど、きれいな服がなくなったところだ。(洗濯物が汚いと分かって落とす) e-30 ジェシー、僕と君が同居することになるとはね。 Jesse: 悪夢だ。 e-31	Jesseの強いツッコミが理解できた。
e-35 e-36	Joey: 確かに、よく見るとすごく広いや e-34 これから楽しくなりそうだな。(ポパイの声マネ) e-35 DJ: おばあちゃんを呼び戻そう e-36	e-35は、声マネに面白さを感じた。 e-36は、DJのツッコミの意味が理解できた。
e-40	Jesse: すっげーおしゃれ。 e-39 窓も完璧。バービーのおうちだ。 e-40	比喩の意味が理解できた。
e-44	Jesse: こんな部屋で抱くな e-44	ツッコミの意味が理解できた。
e-50	Jesse: 抱き合うのは、特別な時まで取っておこう。 e-48 (クローゼットを開けたら、サイズがかなり低かった) e-49 すべてミニサイズか e-50	ツッコミの意味が理解できた。
f-26	刘梅: そうよ、7年間もいたら、7年分の時差ボケがある。 f-26	適当な決めつけの意味が理解できた。
f-28	刘梅: なにがカリフォルニアのコモよ? 朝、お母さんが買ってきたカニでしょ。 f-28	種明かしの意味が理解できた。

表 11.12 から読み取れることは以下の通りである。

- ・面白さを高く認識できるラフ・トラックの挿入ポイントは、a、c、e と米国に多い。
- ・a-27 や b-2、b-3 のような分かりやすい比喻や動作は、面白さを認識しやすい。
- ・表 11.7、表 11.8 など複数同様のコメントが発生していることから分かるように、日本人専門学校生の被験者は、米国シットコムから、言葉の言い回しで面白さを認識させる傾向を被験者は強く感じとったと考えられる。
- ・日本人専門学校生の被験者は、b-2、b-3、b-9 のように、中国シットコムから、動作の奇妙さやアクシデントなど設定で面白さを認識させる傾向を感じとった。

11.4.2. 面白さが認識されにくかった挿入ポイントについての分析

本節では、ラフ・トラック挿入ポイントの、面白さが明確に認識されなかったテキスト内容についての分析を行う。選択肢 1 が Q_3 よりも高い値となった挿入ポイントを「面白さが認識されなかった」と位置づけ、表 11.13 にテキスト内容と理由の考察を付記した。これらは、ラフ・トラックは入っているものの、少なくとも日本人被験者が面白いと感じなかった挿入ポイントといえる。

表 11.13: 「面白さが認識されにくかった」ラフ・トラックの挿入ポイントとその理由

挿入ポイント の分類	テキスト内容 (日本語訳)	面白さが認識できなかった理由の推察
a-1 a-2 a-3 a-5	Sheldon: Tシャツの柄にどう? a-1 Leonard: 失礼 Receptionist: ちょっと待って a-2 Leonard: ヨコ1が「エーグ海」、タテ8が「ナボコフ」、ヨコ26が「MCM」、a-3 こっちは、指どけて、a-4 ヨコ14は「ポルトーフランス」 a-5	a-1は、会話の入り口が理解できなかった。a-2、a-3はLeonardの行為の失礼さを理解できなかった。a-5は、Leonardは普通にクロスワードを解いているだけで、行為の失礼さを理解できなかった。
a-13 a-14	Sheldon: これは遺伝子詐欺だ。IQの高い子供が生まれる保証はない。僕と違い、妹は博士号を持っていない。 a-13 Leonard: 君の提案だったろ? 高速回線を敷く資金作りだ。 a-14	SheldonとLeonardの話の面白さが理解できなかった。
a-21 a-22	Sheldon: 階段の面白い話、聞く? a-21 Leonard: 別にいい Sheldon: 1段の高さが2ミリ違えばつまりずく a-22	a-21は、Sheldonの唐突な会話のフリに面白さを感じなかった。a-22は、Sheldonの緻密な計算の提示に面白さを感じなかった。
a-35	Sheldon: 「ギャラクティカ」を見る。 a-35	作品名が理解できなかった。
a-44	Sheldon: 目的は? a-44	質問を面白さとして認識できなかった。
a-46 a-47	Leonard: その、インド料理を買ってきた。 a-46 引越してストレスたまるよね。仲間と食事をする、ストレスに効果があるんだ。 a-47	インド料理についての説明を面白さとして認識できなかった。
b-7 b-8 b-15	(女性がいきなり隣に座ってきた) b-7 宛瑜: シー。声を出さないで。 b-8 宛瑜: それぞれ、知ってるの? 展博: 聞いたことがない。 b-15	隣に座ってきて、口止めをする緊迫感のある行為が、面白さとしてまで認識できなかった。 ただ否定をしているだけのことが、面白さとしてまで認識できなかった。
c-11	Ross: はい b-11	落ち込んだ様子で返事をしていて、面白さとしてまで認識できなかった。
c-26	Waitress: 彼女にコーヒーは? Monica: カフェイン抜きで。 c-26	カフェイン抜きを注文することの意図が理解できなかった。
c-28	Monica: どういうこと? 追ってくる人に聞く? c-28	回りくどい質問の意図が理解できなかった。
c-37	Rachel: 生まれたときから言われてきたのよ。「お嬢様」だって。今日、思ったの。財布や帽子にも、いろんな種類がある。 c-37	比喩から面白さを認識できなかった。
d-1	志国: アニメなんか見ないで、ドラマにしよう (チャンネルを変える) d-1	チャンネルを変える行為に面白さを認識できなかった。
d-4 d-5 d-6	志新: シャオチャン、この料理はちょっとカラいぞ d-4 小凡: 兄さんは一人で鶏の足を食べてるけど、一人で食べても味がしないんじゃないの。 d-5 d-6 一週間に一回しか会えないならめまいがする。ああ、動物の世界、動物の世界 (テレビの番組) d-6	d-4は、文句を言っている行為に面白さを認識できなかった。d-5は、兄の行動を指摘していることに面白さまでを感じなかった。d-6は、テレビのチャンネルを変えようとする行為に面白さを認識できなかった。
d-8	志新: お母さんが死んで2年。お父さんの条件や体のことを考えたら、心配するのは当たり前。 d-8	父をいじっているのに、そのイジリに対しての面白さとしてまで認識できなかった。
d-10 d-11	志国: 自分たちが呼んだら? d-10 お父さんは一日働いて疲れて、横になって…老人が私たちのために後妻を見つこうとしていると言ってきた。どこの家でもある話だ。 d-11	志国と反撃(d-10)と説明(d-11)を、面白さとしてまで認識できなかった。
d-14	和平: とはいえ、お父さんはともかく引退した。2日間くらいしかその幸せを楽しんでない。なぜ、わざわざ遠い職場まで行って顧問をするのか。 d-14	現状へのツッコミを、面白さとしてまで認識できなかった。
d-32	傅老: 仕事が離れない? 離れないならば、なぜ、机もないのか、婦人団体の部屋に行かせるのか? d-32	男性の自分が婦人団体へ行かされたことの指摘を面白さとしてまで認識できなかった。
d-35 d-36 d-38 d-39 d-40	傅老: 私はテーブルで話をしようとしたけど、私に話を聞かれないようにした。 d-35 婦人団体の話は誰がどうしたとか。 d-36 さらに将棋をする始末。 d-37 そして、夫が彼女を殴ったとかで胸元を開けて、おじいさんが座っているから服を脱いだら見るかしらなどと言っている。 d-38 女連の話は下品で、ねえさん、副局長も外国人じゃないんだからと言った。 d-39 そして、女たちはなんと言ったと思う。副局長だけじゃないよ、副社長も勝手にみないようにしてるんだから。 d-40	d-37は将棋をするという特殊な想定から面白さを認識できたが、それ以外は、フーオの起きたことの説明を面白さとしてまで認識できなかった。
f-1	夏东海: 私の妻になりたいですか? f-1	単なる質問を面白さとしてまで認識できなかった。
f-6	刘梅: 私たちは再構成された家族で、幸せな生活が始まろうとしています。 f-6	単なる説明を面白さとしてまで認識できなかった。
f-10	刘梅: 三人の子供の母親になれというの? f-10	単なる質問を面白さとしてまで認識できなかった。
f-13 f-14 f-15	刘梅: (ネクタイを見ながら) どれがいい? これにする? f-13 夏东海: 娘を迎えにいくだけで、正式なものじゃないし。 f-14 刘梅: もちろん正式なことよ。大事なこと。 夏东海: よし 刘梅: 私はあなたの娘と会わなければなりません。あなたは私と一緒にしてから、品格が増した f-15	f-13、f-14、f-15は、単なる夫婦間の会話であり、面白さとしてまで認識できなかった。
f-20	夏东海: 素敵な母親 f-20	単なる描写を面白さとしてまで認識できなかった。
f-29 f-30 f-31 f-32	刘梅: あなた、シャオシュエに伝えといてね、この家に来ることを大歓迎していると、彼女がきたら、またこの家を素晴らしいものにしましょう。 f-29 夏东海: わかった。きょううまくいく f-30 刘梅: あなたは、まだ教えてくれてない、彼女はどんなスープが好き? 夏东海: たしか、トマト入りたまごスープだったと思う。 刘梅: ちょっと f-31 待って、他ににかかすることある? f-32	f-29、f-30、f-31、f-32は、単なる夫婦間の会話であり、面白さとしてまで認識できなかった。
f-34 f-35 f-36	夏东海: 保証する。感覚は良くなっていくはず f-34 刘梅: なんて? 夏东海: シャオシュエは物静かで、礼儀正しく、教養がある、典型的な良い女の子だから 刘梅: 本当に。彼女が学校での優等生で、一緒に生活するのなら、リュウシンの生きた模範になる。 f-35 ほら、早く行って、まだ行かないの? f-36	f-34、f-35、f-36は、現状の説明で、面白さとしてまで認識できなかった。

表 11.13 から読み取れることは以下の通りである。

- ・面白さの認識が低い笑いのポイントに関しては、設定の不一致（一般的な想定と実際に起きたことが一致しないこと）はあるものの、その不一致を、面白さとしてまでは認識できていない。つまり、ラフ・トラック挿入と、実際のテキストの面白さの不一致が発生している。
- ・米国と中国を別に見ていくと、米国は、a-14、a-22 のように説明が難しすぎて分からない、a-35 のように作品名などの固有名詞が分からないといったケースがあるが、その出現度合いは低い。
- ・中国では、f-1、f-6 のように意味が理解できても面白さとして認識できないケースの出現数が多い。
- ・面白さが認識されにくかった箇所数は、米国 (a、c) では少なく、e は全くない。一方、中国 (b、d、f) は多く、特に、d、f は多く見られる。

11.5. 考察

11.5.1. シットコムとコンテクスト性

面白さが認識されやすいか否かは、米国人、中国人ではない日本人が視聴した場合、文脈をスムーズに理解できるか、ここでは、米国のシットコムに対する好意的な反応や、中国シットコムに対する「分かりにくい」という感想は、コンテクスト性にも関係すると考えられる。コンテクスト性は、Hall (1975) [10]¹¹が分類し提唱するもので、文化を高コンテクストと低コンテクストに分け、高コンテクストとは、互いに情報を共有する環境に依存する文化で、低コンテクストは、個人主義が強く、環境に依存しない文化と分類している。米国を低コンテクスト、中国や日本を高コンテクストに位置づけた。低コンテクストは、シットコムでは「国境を越えて多くの人が共有できる感覚」と置き換え、高コンテクストは「少なくともその国に住んでいないと分からない背景がある」と置き換えることができる。実際に、前述の分析の具体的などの部分が高コンテクスト、低コンテクストが関係しているのか、表 11.12、表 11.13 から 2 例ずつを取り上げて説明する。

表 11.12 の米国シットコムからの例示は以下の通りである。

- (1) Leonard：前の住人より大進歩だ (a-26)
Sheldon：体重 90 キロの女装野郎よりはね (a-27)

体重 90 キロが巨漢であり、男性が女装をしていることが、国境や文脈を超えて、多くの人が笑えるであろうことが想定にある低コンテクスト性が土台となっている。

- (2) Sheldon：ハーイ (沈黙) (a-28)
Penny：ハーイ？ (a-29)

「内気な男性が美人の女性に緊張する」という、国境を超えて共有できる感覚は、文脈なしで共有できる低コンテキスト性が土台となっている。

つづいて、以下に、表 11.13 の中国シットコムから例示する。

(1) 傅老：私はテーブルで話をしようとしたけど、私に話を聞かれないようとした。

(d-35)

女性ばかりの職場で中国の長老が働かされ、なおかつ疎外感を味わっているという文脈が掴みにくかった（高コンテキスト）の可能性が考えられる。

(2) 刘梅：三人の子供の母親になれというの？ (f-10)

中国では、一人っ子政策をしいており、3人の子供を持つということが、少なくとも放送当時では、極めて特異であり、それは中国に住んで体感として得ていなければ分かりにくいという高コンテキスト性が土台になっている可能性がある。

低コンテキスト文化は伝達される情報が言葉の中で提示され、高コンテキスト文化は言葉以外にも状況や文脈によっても情報が伝達される。その意味で、シットコムが、言語伝達を前提とした設定を持ち、生活感を表現しているとするならば、作品内でも米国の低コンテキスト性と、中国の高コンテキスト性が反映されていると考えられる。日本人視聴者が、言語伝達性の強い米国シットコムに親和性を感じることも説明がつく。

米国シットコムに対して、より高く面白さが被験者に認識されたり、被験者の番組に対する評価が高かったのは、放映マーケットのエリア設定にもあると考えられる。主要な米国シットコムは、日本などの米国以外にも番組販売される¹²という前提がある。中国では、基本的に中国国内でのみ視聴されることを想定しており、米国の方が、想定される視聴者の幅を広げた構成になっていると考えられる。一方で、米国シットコムにも a-35 のように米国以外の居住者には理解できない可能性もある高コンテキストな内容が入っている場合もあり、全てのラフ・トラック挿入ポイントが低コンテキストで構成されているわけでもないといえる。

米国シットコムは言い回しで面白さを認識し、中国シットコムは動作で面白さを認識するという感想に関しては、Nisbett (2003) [11]¹³の言説が参考にできよう。Nisbett は、中国人は厳密に定義された用語やカテゴリーを用いたがらず、単語が複数の意味を持つため、理解には文脈を必要とするとし、英語の単語は弁別性が高く、英語話者は文脈を必要としない発話を心掛けたとした。このあたりも、シットコムの分かりやすさという面や、米国が上回っているという点を示している。一方、中国シットコムでは、滑稽な動作やハプニングを

加えることで分かりにくさをカバーしようとしているといえよう。中国シットコムは、動作が分かりやすく機能したときに、被験者の面白さの認識へと繋がっている。

11.5.2. ラフ・トラック付与の妥当性について

面白さをほとんど認識できなかったラフ・トラックの挿入ポイントは中国シットコムの「我爱我家」、「家有儿女」で多かった。中国シットコムでは、なぜ面白いのかが説明がつかない笑いの挿入ポイントの箇所が見られた。これはコンテキスト性も起因し、被験者には理解できず、中国人にしか理解できないような文脈が存在しているとも考えられる。しかし、表 11.13 のテキストには、F-1、F-6 のように文脈の高低関係なく、想定そのものが面白さを喚起していないにもかかわらず、ラフ・トラックが挿入されている箇所が見られる。そういう箇所が、特に、中国シットコムで発生しているとなれば、ラフ・トラック付与の妥当性に関しての疑問が生じる。

ラフ・トラックは、第 1 章でも述べた「社会的証明」¹⁴の一種でもあると考えられる。お笑い番組で、笑い声が付与されているのも、「他人が笑うということは、面白いことが起こっているに違いない」と視聴者が刷り込まれているだろうと制作者が風習的に判断しているためと考えられる。当然、笑い声が入ることで、面白さを喚起する効能もある。一方、その効能のみに依存し、「効果音的に」面白みが認識できない箇所に挿入している可能性があり、ラフ・トラック挿入の妥当性が低いということも想定される。

茄 (2016)¹⁵は、中国では、米国の形式をモデルにし、シットコムが作られるようになったとしたが、中国シットコムのラフ・トラック付与の妥当性の低さは、歴史的な蓄積の少なさが起因している可能性もある。ラフ・トラックを付けることで、面白い番組であると認識させようとする意図のみが視聴者の感覚と乖離して過剰に先行してしまう。この点が、中国シットコムが抱える課題であると考えられる。

11.6. まとめ

本章の実験で、米中シットコムを比較し、日本人専門学校生の被験者は、米国シットコムの方の面白さを高く認識し、面白さを高く認識できるラフ・トラックの挿入ポイントは米国に多かった。ラフ・トラック挿入ポイントの個別の面白さの認識度が高いと感じる数が多いほど、作品全体の面白さを認識する度合いも高い傾向にあった。つまり、視聴者の面白さの認識とラフ・トラック挿入箇所は高い度合いで一致することが確認できた。

被験者は、米国シットコムのリズム良く面白さを生み出していくスタンスを評価する一方、「下品」という類の感想も持った。説明が難しすぎて分からない、作品名などの固有名詞が分からないといったケースがあるが、出現度合いは低かった。中国シットコムに対しては、出演者の態度が急変するところに面白みを感じるという感想や、「分かりにくい」という感想も出された。意味は理解できても面白さとして認識できないケースの出現数が多かった。また、被験者は、米国シットコムから、言葉の言い回しで面白さを認識させる傾向を

強く感じとった。中国シットコムから、動作の奇妙さやアクシデントなど設定で面白さを認識させる傾向を感じとった。

¹ Apple 社 (2020 年)

² 樋口耕一, 社会調査のための計量テキスト分析:内容分析の継承と発展を目指して: KH Coder official book, 第 2 版, ナカニシヤ出版, pp.101-108, 2020)

³ the Big Bang Theory, Hulu website, <https://www.happyon.jp/> (2018/12/18 閲覧)

⁴ Friends, Hulu website, <https://www.happyon.jp/> (2019/1/25 閲覧)

⁵ Full House the beginning, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=GvSMctrfb9A> (2019/11/7 閲覧)

⁶ 愛情公寓第一季第 1 集, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=mV0HQj44vtM> (2020/8/20 閲覧)

⁷ 我爱我家第一季第 1 集, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=E2qfVHKsE&list=PLy13jEoAZfgdr3vn-luQliXhwidEb2ICe> (2019/6/25 閲覧)

⁸ 家有儿女第一季第 1 集, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=PC3DmhI-3tU> (2019/10/5 閲覧)

⁹ 「我爱我家」のみ場面が転換せずリビングで話しているシーンのみで構成されているため 5 分 37 秒を区切りとした。

¹⁰ 実験時は「おもしろい」「おもしろくない」という質問を軸に調査を行ったが、「よくわからない」「理解できない」「なんとも言えない」という選択肢を用意するという方法もあり、今後の実験実施は検討しなければならない。

¹¹ Edward. T. Hall.: Beyond Culture, Anchor Press, 1975. (岩田慶治・谷泰訳, 文化を超えて, 阪急コミュニケーションズ, 新装版, pp.20-69, 1993.)

¹² 放送局や放送国によっては、日本の地上波放送局のように現地の言語に「吹き替え」されるケースもある。

¹³ Richard. E. Nisbett.: The geography of thought' How Asians and Westerners Think differently..and Why. (村本由紀子訳, 木を見る西洋人、森を見る東洋人, ダイアモンド社, 第 13 刷, pp.144-179, 2015.)

¹⁴ Cialdini.R.B.:Influence: The Psychology of Persuasion, 1984. (社会行動研究会訳, 影響力の武器ーなぜ、人は動かされるのか, 第 3 版, 誠信書房, pp.187-191, 2014.)

¹⁵ 茄苑: 中美情景喜剧的幽默性比较, 山西师范大学, pp.25- pp.30, 2016.

第12章 結論

本章では、本研究で得られた分析の結果を要約し、その結果をもとに、総合的な考察を加え、今後の課題について述べる。

12.1. 研究のサマリー

前章までは、ラフ・トラック挿入ポイントの性質を大分類（A）から大分類（G）に分類して、それぞれの笑いの性質における米中間の共通点と差異の分析と考察を行ってきた。本研究における研究の段階は大きく次のように分けられる。第1章から第3章が「分類までのプロセス」、第4章から第10章が「分類に基づいた分析と考察」の段階と位置付けられ、米中シットコムにどういった共通性と差異が現れているのかを考察した。第11章が補足として日本人被験者に対する視聴実験を行い、米中シットコムの面白さの認識について述べた。

大分類（A）から大分類（G）の視点に基づいて、それぞれ分析と考察を行った。

大分類（A）「未熟性とのギャップ」は、登場人物の未成熟、幼稚な部分が発露する性質であり、米中の共通性としてどちらも2割近くの発生比率を占め、登場キャラクターが妙なこだわりを示すことや、登場人物の行為にミスが発生やミスを認める行為が高い割合を示した。差異として、米国シットコムでは、登場キャラクターが、場の空気が読めなさいこと、悪意のない異常性を見せること、不適切な時間帯に行動すること、ミスの発生やミスを認める行為、子供が子供らしくない振る舞いや意見が中国に比べ高い割合を占めた。一方、中国シットコムでは、登場人物が、大声で怒鳴ること、ケチな振る舞いを見せることが米国シットコムに比べ高い割合を占めた。米国では、キャラクター設定に個性を強く持たせる一方、中国では、はっきりとした人間同士の対立構造を示すことや金銭的執着を見せる傾向が強いと考えられた。

大分類（B）「実在と虚構の混在」は、両国とも2割前後見られた。米国シットコムでは、世論を代弁したセリフを登場人物が発すること、実在しているものが登場人物同士の会話へ挿入されること、発話が自己矛盾を引き起こすこと、登場人物が自らの奇妙なこだわりを正当化する論理性を持つこと、虚構作品に関する真剣な議論、視聴者にとっての新知識に由来した複雑な説明が、中国シットコムより顕著に上回った。中国シットコムで米国シットコムより割合が高かったのは誇張や、ウソを吹き込まれて本気になる行為、ウソやミスに、さらにウソを重ねる行為、奇妙な提案であった。米国では会話の筋道に沿った形で発話を展開し、ストーリーの筋道を維持したままラフ・トラックの挿入ポイントにする傾向が見られる

が、中国シットコムは、状況から逸脱したあり得ないことや起こりにくい表現や唐突な奇妙な提案を盛り込んでも、ラフ・トラックの挿入ポイントにしようとする傾向が見られた。

大分類 (C) 「エネルギーの移行」は両国シットコムで約 1 割発生し、ほぼ同程度であった。小分類項目で米国シットコムが中国シットコムに対して有意な差で上回っている項目は、話題がなく沈黙すること、顛末が省略されることで、中国シットコムが米国シットコムを有意な差で上回っている項目は、態度が豹変すること、予想外にシリアスな反応となった。米国の方が会話の中の沈黙に面白みを生んでおり、話の顛末を省略することや、話の筋道を飛ばすことから面白みを作っている。中国では、突然の登場人物の態度の変化から面白みを作っている。また、中国では緊張から緩和でラフ・トラックの挿入ポイントを作る傾向にあるが、米国では、緩和から緊張というシットコム特有のスタイルで笑いのポイントを作っている。

大分類 (D) 「発話の意味と解釈のズレ」は、米中共に 3 割以上使用されていた。小分類項目において、米国では、登場人物が自慢すること、本音と建前にギャップがあること、中国で、嫌悪感を表示すること、同音異義語や似た音での聞き違いが上回った。米国では、登場人物が自分の自慢を主張することや、本音と建前との乖離を面白みに変えていく傾向が見られ、中国では、人間関係の中で嫌悪感を示すこと、音の聞き間違いで面白みを作る傾向が示された。また、実際の日常会話では、推意帰結が使われることが多いが、シットコムの会話では笑いの挿入ポイントとして推意前提が用いられる。米国シットコムで比較的多く用いられる小分類は推意前提を導き出す傾向にあり、中国シットコムで比較的多く用いられる小分類は推意帰結を導き出す傾向があることが分かった。

大分類 (E) 「正当な発声、発音とのギャップ」の視点から分析、考察した。米国では、ラフ・トラックが挿入されるポイントとして、音の高低がつけられることが中国よりも高い割合で用いられていることが分かった。英語は文末のトーンを上げることにより疑問形を表す言語であり、疑問形にすることでコミュニケーション上での挑戦的な点や対立構造を示し、ラフ・トラック挿入ポイントへのタイミングとする傾向があることが分かった。

大分類 (F) 「優越性の認識」は、両国とも 2% に満たず、僅かであった。差異として、中国シットコムでは、自文化・他文化への未理解での失敗が生まれることでのラフ・トラックの挿入の割合が米国よりも有意差をつけて高いことが示された。これは、中国では、「自国（自民族）の文化が共有されている」という前提が成立していることの裏返しであるとも考えられる。米国シットコムは他国のマイナスイメージの記号性を解説させるような排他的な性質を持つ他国との比較、中国シットコムは、登場人物内の知識の有無の差異によって起きる傾向が強いことが分かった。

大分類 (G) 「フレーミングの変化」は、大分類、小分類ともに中国の方が、全体的に割合が高かった。特に、小分類では、中国シットコムは、決めごとに対する想定外の事態や、立場の逆転、変化の割合が米国シットコムに比べ高かった。背景として、会話自体の論理性を飛ばすことや、話の途中で筋道を変化させることを米国に比べあまりしないことが考えら

れる。米国がセリフの中身を動かし、中国が設定を動かす傾向が見られた。米国では論理性を前提とし、シットコムの原点である発話の組み合わせが忠実に行われ続け、中国では、シットコムが社会背景に即して、よりドラマ的な性質に変化しているからだと想定される。

日本人専門学生に対する実験からは、日本人視聴者の面白さの認識とラフ・トラック挿入箇所は高い度合いで一致することが確認できた。また、米国シットコムからは、リズム良さを感じ取り、中国シットコムからは、出演者の態度が急変するところからの面白さや、分かりにくさも感じ取った。また、被験者は、米国シットコムから、言葉の言い回しで面白さを認識させる傾向を強く感じとった。中国シットコムから、動作の奇妙さやアクシデントなど設定で面白さを認識させる傾向を感じとった。その中で、米国シットコムの低コンテクスト性、中国シットコムの高コンテクスト性の性質も見え、中国シットコムからはラフ・トラック付与の妥当性に対する疑念も出現した。

低コンテクスト性、中国シットコムの高コンテクスト性の性質も見え、中国シットコムからはラフ・トラック付与の妥当性に対する疑念も出現した。

12.2. 研究で得た結論

本研究の目的は、米国と中国のシットコムのラフ・トラックの挿入の仕方を比較し、その性質の共通点と差異を明らかにすることであった。本研究から、米中シットコムの共通性として、発話の意味と解釈のズレから面白みを作る点で両国とも多用しているのは、シットコムが発話を基本とした面白みの創造という点で一致しているからだと考えられた。米中の差異として、英語と中国語という伝達性における言語的要因や、字幕付記や表現の規制などにおけるテレビ業界の特性の違いが挙げられる。また、米国シットコムの方が、会話が論理的であったり、文脈が低い低コンテクストを前提としているため、登場人物が発話の中で丁寧に状況を説明しようとする点で、元来のシットコムの性質に適合しているとも推察された。中国シットコムは、文脈が高い高コンテクストであるため、視聴者に日常会話の設定の中で、分かりやすく面白みを伝えるため、登場人物内の嫌悪感や対立構造を作ったり、設定を変化させたりする傾向が見いだせた。

12.2. 研究の意義

本研究で得た新しい発見、視点、成果として以下を示す。

(1) 独自の分類法の提示についての意義

従来の研究では、シットコムの面白みの性質を具体的に分類、分析することが困難であった。本研究で設定し、提示した分類項目（大分類、小分類）に新規性とシットコムへの適用度の高さを認めることができる。米中分析対象作品のラフ・トラックの全てを分類することが可能であった。

(2) 米中シットコムの笑いの性質についての発見

先行研究では、米中シットコムの背景やストーリー展開などを比較する文献は存在したが、面白みやラフ・トラック挿入ポイントの性質について言及したものはなかった。その点で、本研究では、シットコムで面白みが発生する仕組みについての詳細について踏み込んだ点で意義があると考えられる。

12.3. 研究の限界

本論文での研究の限界は以下の通りである。

(1) 大分類項目、小分類項目は、項目の再設定の余地がある。とくに、大分類 (H) 「その他」に振り分けた小分類 (H1) 「映像的効果」が、他の大分類に振り分けられないか判断を迷った。大分類 (B) もしくは大分類 (G) に振り分けることも考えたが、決め手に欠けた。また、小分類項目によっては、複数の大分類項目に属するように見えるものもあり、明確に区分することが困難であった点もある。大分類と下位分類である小分類の紐付けについても、更に検討しうる。そういった点も踏まえ、今後、より合理的な分類項目を形成できる余地があると考ええる。

(2) 各大分類項目がなぜ面白みに変わりうるのかについては、ラフ・トラックの有無での影響なども想定され、面白みが生まれうる様々な条件や環境を設定し分析を行う余地と必要性がある。

(3) 分析作品数やエピソード数を増やすことで、分析の精度が上がり、シットコムが映し出す社会情勢の移り変わりについても、より明確に見えることが期待される。今回の実験使用部分は、ストーリーの初回から2エピソードを選定したが、視聴者は、シットコム特有の文脈や世界観を理解した上で楽しむ部分もある。したがって、今後は、作品の途中部分を実験対象にする手法もあるだろう。

(4) 本研究における限界は、作品の数量や被験者の設定であった。分析作品を増やす、実験においては、被験者を米国人、中国人にするというような設定をすることによって、研究として、より精度の高い結果が得られるのではないかと考える。実験では、日本人への調査を行ったが、シットコム特有の、文脈や世界観を理解したうえで楽しむ部分も大きく、初回エピソード、初見の人におもしろさが十分に理解できない可能性もある。それらの懸念材料を効果的に取り除いて実験を行う余地がある。

12.4. 今後の展望

本研究を基にした今後の展望は以下の通りである。

(1) 本稿で提示した分類で述べた項目以外にも、具体的に分析できる余地がある。さらなる事例、米国・中国の他シットコム、或いは米中以外の番組も使用することで各言語圏や文化圏の番組の傾向を探ることが可能である。

(2) シットコムに出現する名詞の記号性などをさらに分析し、単語と、パターンを抽出し、面白みにつながる脚本を、演繹的に作ることを模索できる。ひいては、日本テレビ業界で、シットコム作品を制作し持続させることという検討も、言語的特性や思考習慣、テレビ業界の特性なども踏まえることで可能になる。テレビ業界において、笑いや面白みを伴ったコンテンツは害悪ではないが、視聴者が面白みを感じないのに制作者が強引にラフ・トラックを付与していたのであれば、視聴者のテレビに対する違和感は深まる。

(3) 本研究で帰納的に分類された生成要因から、演繹的にシットコムのプロトタイプを制作し、その脚本の面白さが認識できるかについて調査の余地がある。また、本研究はラフ・トラック挿入ポイントについて帰納的なアプローチで説明を行ってきたが、「どのように面白みを作り出していくか」に関しては研究結果を活かして演繹的なアプローチが必要である。また、シットコムを見ることで視聴者が笑うという仕組みを解析することで、視聴者の笑いたいという心的状態や環境をどのように作りだせるのかに関しては更なる分析の余地が残る。そういった心的状態をどのように作り出すか、或いは、笑いたいという心的状態を持つ人間をどういう風に発見し視聴行動に至らせるのかについて番組制作者サイドの見地から調査、検討できる余地がある。

(4) シットコムに限らず、ラフ・トラック全般に焦点を当て、ラフ・トラックの役割やデザイン要件を示す。第1章でも述べたラフ・トラックの不自然な付与については、日本のテレビ制作者への提言材料とし、警鐘を鳴らすことを検討する。ラフ・トラックの不自然な付与、演出過多の現状と、効果や編集の形骸化を避けるための方法を提示し、ラフ・トラックの妥当性を論じ、制作者に示していくことも視野に入れたい。

謝辞

本論文の作成にあたり、終始、熱心なご指導を頂いた池田美奈子准教授に、深く感謝の意を表します。九州大学の都甲康至教授、齋藤俊文准教授からも貴重なご意見、アドバイスを頂きました。ありがとうございました。

また、私の所属する各学会の査読者の先生方、論文投稿の際に丁寧にレビューやご指摘を頂きました。所属学会での発表の際も、先生方からは、質疑応答などでのご意見、ご指摘を頂き、感謝申し上げます。

調査の実施及び分析にあたり、専門学校 of 学生の方など、多くの方々のご協力を頂きました。感謝の念にたえません。

文献目録

- Abel. T. M. & Hsu. F. L. K.: Some Aspect of Personality of Chinese as Revealed by the Rorschach Test. *Journal of Projective Techniques*, 13, pp.285-301, 1949.
- Arthur. Asa. Berger.: *An Anatomy of humor*, Routledge, pp.16-18, 1992.
- Attardo. S. Hempelmann & Di Maio.S.: Script oppositions and logical mechanisms: Modeling incongruities and their resolutions, *Humor*, 15(1), pp.3-46, 2002.
- A. Schopenhauer.: *Die Welt als Wille und Vorstellung*, 1819. (斎藤忍随ほか訳, 意志と表象としての世界, ショーペンハウアー全集, 第2巻, 白水社, pp.134-139, 1972.)
- Beichen.Liang et al.: AMERICAN AND CHINESE THINKING STYLES: ATTITUDE EFFECTS ON HOLISTIC AND ATTRIBUTE ADS, ORGANIZATIONS AND MARKETS IN EMERGING ECONOMIES, VOL. 5, No.1(9), 2014.
- Bergson.H, Freud.S.: *Le rire*, 1900. (原章二訳, 笑い/不気味なもの, 平凡社ライブラリー, pp.12-28, 2016.)
- Brett. Mills.: *The Sitcom*, Edinburgh University Press, pp.1-6, 2009.
- Buster Keaton, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Buster_Keaton
- Charlie Chaplin, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Charlie_Chaplin
- Cialdini.R.B.: *Influence: The Psychology of Persuasion*, 1984. (社会行動研究会訳, 影響力の武器-なぜ、人は動かされるのか, 第3版, 誠信書房, pp.187-191, 2014.)
- Daniel Riffe, Stephen Lacy, and Frederik Fico.: *Analyzing Media Messages: Using Quantitative Content, Analysis in Research*, 3rd Edition, Routledge. 2014. (千葉涼他訳, 内容分析の進め方-メディア・メッセージを読み解く, 勁草書房, pp.86-95, 2018.)
- David L. Altheide.: *Qualitative media analysis*, SAGE publications, 1993.
- David Silverman.: *Interpreting Qualitative Data- Methods for Analyzing Talk, Text and Interaction*, SAGE publications, 1993.
- Deirdre Wilson & Dan Sperber.(2004, Sperber 1994; Wilson 2000).: *Relevance Theory*, In L. R. Horn & G. Ward (eds.), *The Handbook of Pragmatics*, Blackwell, pp.607-632, (内田聖二・宋南先・中達俊明・田中圭子翻訳, 関連性理論-伝達と認知, 研究社, 2000.)
- Diane Blakemore.: *Understanding Utterances: An Introduction to Pragmatics*, 1992. (武内道子, 山崎英一訳, ひとばな話をどう理解するか, ひつじ書房, 1994.)
- Edward. T. Hall.: *Beyond Culture*, Anchor Press, 1975. (岩田慶治・谷泰訳, 文化を超えて, 阪急コミュニケーションズ, 新装版, pp.20-69, 1993.)
- ET, Wikipedia, <https://ja.wikipedia.org/wiki/E.T.>

- E.Sapir & B.L.Whorf.: 1970. (池上嘉彦訳, 文化人類学と言語学, 弘文堂, pp.84-89, 1985)
- Fitriani et al.: Pragmatic Perspectives of verbal humor in an American sitcom, *Humanities & Social Sciences Reviews*, Vol 8, No 3, pp.49-55, 2020.
- Forabosco.G.: Cognitive aspects of the humor process: The concept of incongruity. *Humor*, 5(1), pp.45-68, 1992.
- fMRI, Wikipedia, [https://ja.wikipedia.org/wiki/FMRI#:~:text=fMRI%20\(functional%20magnetic%20resonance%20imaging,%E3%81%AE%E4%B8%80%E3%81%A4%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82](https://ja.wikipedia.org/wiki/FMRI#:~:text=fMRI%20(functional%20magnetic%20resonance%20imaging,%E3%81%AE%E4%B8%80%E3%81%A4%E3%81%A7%E3%81%82%E3%82%8B%E3%80%82)
- Gillian Rose, *Visual Methodologies- An introduction to researching with visual materials*, SAGE publications, 2016.
- Gillespie et al.: Who's Laughing Now?: The Effect of Simulated Laughter on Consumer Enjoyment of Television Comedies and the Laugh-Track Paradox, *THE SCIENCE OF HEDONISTIC CONSUMPTION*, pp.592-606. 2016.
- H.P. Grice.: *Studies in the Way of Word*, Harvard University Press, Cambridge, p.37, 1975. (清塚邦彦訳, 論理と会話, pp.53-54)
- Herbert Spencer.: *Physiology of laughter*, *Essays: Scientific, political and speculative*, vol.1, William and Norgate. 1868 (木村洋二訳:下降性の不一致と笑いの生成, 笑いの生理学, 現代思想, 特集, 笑い, vol.12-2, 青土社, pp.238-248, 1984.)
- Hillson. T. R. & Martin. R. A.: What's so funny about that?: The domains-interaction approach as a model of incongruity and resolution in humor, *Motivation and Emotion*, 18(1), pp.1- pp.29. 1994.
- the Big Bang Theory, Hulu website, <https://www.happyon.jp/>
- Friends, Hulu website, <https://www.happyon.jp/>
- Matthew. M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams: *Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the mind*, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳:ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015.)
- Jonathan. Culpeper et al. *Pragmatics and the English Language*, Red Globe Press, 2014. (椎名美智. 加藤重広. 滝浦真人. 東泉裕子翻訳, 研究社, pp.84-93, 2020.)
- John. B. Thompson.: *Ideology and Modern Culture*, *Critical Social Theory in the Era of Mass communication*, Polity Press, 1990.
- Robert. B. Kaplan.: *Cultural Thought Patterns in Inter-Cultural Education*, *Language Learning*, 16, 1-2, pp.11-25. 1966.
- Laugh track, Merriam-Webster, <https://www.merriamwebster.com/dictionary/laugh%20track>

- Mar Grandio & Patricia Diego: The Influence of the American Sitcom on the Production of TV Comedy in Spain, Universidad Católica San Antonio de Murcia, Spain & University of Navarra, 2010.
- Matthew M. Hurley, Daniel C. Dennett, & Reginald B. Adams: Inside Jokes: Using Humor to Reverse-Engineer the Mind, MIT Press, pp.45-52, 2011. (片岡宏仁訳:ヒトはなぜ笑うのか, 勁草書房, 2015.)
- Martin W. Bauer and George Gaskell.: Qualitative Researching with text, image and sound, SAGE publications, 2000.
- Monga. A. B. & John. D. R.: Cultural Differences in Brand Extension Evaluation: The Influence of Analytic versus Holistic Thinking, Journal of Consumer Research, 33(4), pp.529-553, 2007.
- Moran et al.: Neural correlates of humor detection and appreciation NeuroImage, 21, pp.1055-1060, 2004.
- Marshall. McLuhan.: The Gutenberg Galaxy, 1962. (森常治訳, グーテンベルグの銀河系, みすず書房, 1986)
- Mio. J. S. & Graesser. A. C.: Humor, Language and Metaphor, Metaphor and Symbolic Activity, 6(2), pp.87-102. 1991.
- Neil J. Smelser.: Comparative Methods in the Social Sciences, 1976. (山中弘訳, 比較文化論の基礎－社会科学における比較の方法, 玉川大学出版部, 1996.)
- Nosanchuk. T. A. & Lightshon. J.: Canned laughter and public and private conformity, Journal of Personality and Social Psychology, 29, pp.153-156, 1974.
- Richard Hornby: Sitcom, The Hudson Review, SPRING 2015, Vol. 68, No. 1, pp.111-117, 2015.
- Richard. E. Nisbett.: The geography of thought' How Asians and Westerners Think differently..and Why, 2011. (村本由紀子訳, 木を見る西洋人、森を見る東洋人, ダイアモンド社, 第13刷, pp.144-179, 2015.)
- Richard E. Nisbett et al: Culture and Systems of Thought, Holistic Versus Analytic Cognition, Psychological Review, Vol.108, No.2, pp.291-310, 2001.
- Rod A. Martin, Thomas E. Ford.: The psychology of humor: an integrative approach, Academic Press. 2018.
- Robert. McKee.: Dialogue, 2016. (越前敏弥訳, ダイアローグー小説・演劇・映画・テレビドラマで効果的な会話を生み出す方法, フィルムアート社, pp.243-pp.287, 2017)
- Robert. McKee.: Story, 2005. (越前敏弥訳, ストーリーーロバートマッキーが教える物語の基本と原則, フィルムアート社, pp.170-173, 2018.)
- Provine. R.: Laughter: A scientific investigation, New York, Viking, pp.137-138, 2000.

- Peter. L. Berger.: Redeeming Laughter: The Comic Dimension of Human Experience.
Loretta Barrett Books 1997. (森下伸也訳, 癒しとしての笑い, 新曜社, 1999.)
- P.A.Martin: (野村良太, 雨宮俊彦, 丸野俊一監訳, ユーモア心理学ハンドブック, 北大路書房, pp.52-pp.64, 2011)
- Searle. J. R.: A taxonomy of illocutionary acts, University of Minnesota Press, pp.344- 350, 1975.
- Sheldony or Aspergery? the Big Bang Theory, psychologytoday.com, <https://www.psychologytoday.com/intl/blog/aspergers-diary/200904/sheldony-or-aspergery-the-big-bang-theory>
- Sitcom, Wikipedia, <https://en.wikipedia.org/wiki/Sitcom>
- Situation Comedy, ENCYCLOPÆDIA BRITANNICA, <https://www.britannica.com/art/situation-comedy>
- Star Wars, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/Star_Wars
- Suls. J. M.: A two-stage model for the appreciation of jokes and cartoons: An information-processing analysis. In Goldstein. J. H.& McGhee. P. E. (Eds.), The psychology of humor: Theoretical perspectives and empirical issues, pp.81-100, Academic Press, 1972.
- Theo. Van. Leeuwen.: Handbook of Visual Analysis, SAGE Publications, 2001.
- The Aldrich Family, Wikipedia, https://en.wikipedia.org/wiki/The_Aldrich_Family
- The Goldbergs, Wikipedia, [https://en.wikipedia.org/wiki/The_Goldbergs_\(broadcast_series\)](https://en.wikipedia.org/wiki/The_Goldbergs_(broadcast_series))
- Thomas Hobbes: Leviathan, 1651. (水田洋・田中浩訳, リヴァイアサン, 世界の大思想, 第13巻, 河出書房, pp.42-67, 1966.)
- Vrticka et al.: Nat. Rev. Neurosci, 14, pp.860-868. 2013.
- Walter J. Ong.: ORALITY AND LITERACY the technologizing of the Word, Methuen & Co.Ltd, 1982. (桜井直文・林正寛・糟谷啓介訳, 声の文化と文字の文化, 藤原書店, pp.10-32, 1991.)
- Xianqing Liu & Jinyan Fan.: The Study of th Chinese People's Inductive Inclination in Communication, Journal of Language Teaching and Research, Academy Publisher, 2014.
- Full House the beginning, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=GvSMctrfb9A>
- 爱情公寓第一季第1集, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=mV0HQj44vtM>
- 我爱我家第一季第1集, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=E2qfVHKsizE&list=Ply13jEoAZfgdr3vn-luQiXhwidEb2ICe>
- 家有儿女第一季第1集, Youtube, <https://www.youtube.com/watch?v=PC3DmhI-3tU>
- 爱情公寓, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/爱情公寓/17434>

- 陈彩蒂.: 英汉情景喜剧中的言语幽默对比研究—以《成长的烦恼》和《家有儿女》为例, 佳木斯职业学院学报, 2019年02期, 2019.
- 茄苑: 中美情景喜剧的幽默性比较, 山西师范大学, pp. 25-30, 2016.
- 国家广播电视总局 website, <http://www.nrta.gov.cn>
- 賀彩虹: 笑的解码, 山東师范大学, pp.1-2, 2011.
- 李珊, 渋谷昌三: 社会的笑いに関する心理学研究の動向, 目白大学心理学研究, 第7号, pp.81-93, 2011.
- 李俊: 英汉情景喜剧中话语标记语的语用功能对比—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》, 湖北开放职业学院学报, 第33卷第4期, 2020
- 梁爽: 笑いに関する日中対象研究—語用論と認知言語学の接点から, 第2回国際日本学コンソーシアム, 2008.
- 情景喜剧, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/情景喜剧/1528621?fr=aladdin>
- 生活对我下手了, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/生活对我下手了/23176734?fr=aladdin>
- 苏陶然: 中美情景喜剧的叙事策略比较—以《生活大爆炸》和《爱情公寓》为例, 新闻研究导刊, 2019年第6期, pp. 98-99, 2019.
- 编辑部的故事, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/编辑部的故事/5212070>
- 王瑾: 現代中国の消費文化—ブランディング・広告・メディア, 2011. (松浦良高訳, 岩波書店, 2011.)
- 王凯琴: 合作原则及关联理论下言语幽默分析—以电视剧《家有儿女》中人物对话为例, 青年文学家, 2020年第03期, 2020
- 为啥中国的影视作品普遍有字幕?, 教老外说汉语, <https://zhuanlan.zhihu.com/p/150238518>
- 张雨露: 探寻中国情景喜剧的未来发展之道, 传媒论坛, 2019年24期, pp.165-166, 2019.
- 石玉莹: 试论我国情景喜剧的发展特征, 戏剧之家, 2020年19期, 2020.
- 石玉莹: 探析我国情景喜剧的“苦中作乐”叙事美学表达传媒论坛, 2020年第10期, p.154, 2020.
- 梁艳: 《武林外传》经久不衰的原因, 艺海, 2020年5期, pp.66- pp.67, 2020.
- 我们的留学日志, 百度百科, <https://baike.baidu.com/item/我们的留学日志/24224892?fr=aladdin>
- Xianqing Liu & Jinyan Fan.: The Study of th Chinese People's Inductive Inclination in Communication, Journal of Language Teaching and Research, Academy Publisher, 2014.
- Yujun Liu.: Similarities and Differences of the Narrative Structure of Western and Chines Short Narratives, Journal of Arts and Humanities, 2017.

- Zejun Ma, Man Jiang.: Interpretation of Verbal Humor in the Sitcom The Big Bang Theory from the Perspective of Adaptation-relevance Theory, ACADEMY PUBLISHER, 2013.
- 李衛兵:中国中央電視台の報道体制と特徴, 経済広報センター活動報告, 2012.
- 会田雄次:日本人の意識構造, 講談社, 1970.
- 阿刀田高:ユーモア革命, 文藝春秋, 2001
- 雨宮俊彦:笑いとはユーモアの心理学-何が可笑しいの?, ミネルヴァ書房, pp.100-124, 2016.
- 石黒圭:日本語は「空気」が決める-社会言語学入門, 光文社新書, 2013.
- 板坂元:日本人の論理構造, 講談社, 1971.
- 伊藤守:テレビニュースの社会学-マルチモダリティ分析の実践, 世界思想社, 2006.
- 内田樹:増補版・街場の中国論, ミシマ社, 2011.
- 江連三香,内海彰:ユーモアを含む言語表現の解釈モデルに関する研究, 言語処理学会, 第5回年次大会発表論文集, pp.325-326, 1999.
- 大津由紀雄:はじめて学ぶ言語学,ことばの世界をさぐる 17章, ミネルヴァ書房, 2009.
- 大場吾郎:アメリカ巨大メディアの戦略-グローバル競争時代のコンテンツビジネス, ミネルヴァ書房, 2009.
- 岡本雅史:アイロニー発話の認知的分析-発話理解とコミュニケーションの統合モデルに向けて, 京都大学, 博士論文, pp.48-55, 2003.
- 岡本真一郎: 言語の社会心理学, 中公新書, 2013
- 桂枝雀: らくご DE 枝雀, ちくま文庫, pp.49-51, 1993.
- 加藤重広, 澤田淳: はじめての語用論-基礎から応用まで, 研究社, pp.10-17, 2020.
- カミュ猫 (id:camusneco), 習得に役立つ『中国語の言語としての特徴』日本語、英語との比較, 今日から使える!中国語学習処・日常会話から仕事まで, <https://www.lang-china.space/entry/chinese-characteristic>
- 河内孝: 次に来るメディアは何か, ちくま新書, 2010.
- 北折充隆:録音笑いの印象に関する研究, 金城学院大学論集, 人文科学編, 8(1), pp.11-13. 2011.
- 酒井邦嘉:チョムスキーと言語脳科学, インターナショナル新書, 2019.
- 塩田英子:メディアとことば2-組み込まれるオーディエンス, ひつじ書房, 2005.
- 傍目八目, 大辞泉, 小学館, 大辞泉編集部, 1995.
- 鈴木武史:ショービジネス in U.S.A, 中公新書, 1991.
- 総務省:情報メディア白書 2017, 2017.
- 高木ゆかり:シチュエーション・コメディにおけるギャグの生成と機能, 神戸大学大学院国際文化学研究科, 博士論文, pp.23-75, 2017.
- 田崎勝也:社会科学のための文化比較の方法-等価性と DIF 分析, ナカニシヤ出版, 2008.
- 田中春美・田中幸子:よくわかる社会言語学, ミネルヴァ書房, pp.10-13, 2016.

- 都留泰作:〈面白さ〉の研究-世界観エンタメはなぜブームを生むのか, 角川新書, 2015.
- 中村太戯留:ユーモア理解過程に関する研究—不調和の解消とその神経基盤—, 慶應義塾大学大学院政策メディア研究科, pp.11-42, 2017.
- 中島義明:映像の心理学, サイエンス社, 1996.
- 長島平洋:生理的に見た笑いの分布, 桂枝雀の「緊張の緩和」論を検証するために (I), 笑い学研究 14, 日本笑い学会, pp.3-11, 2007.
- 難波功士:メディア論, 人文書院, 2013.
- 野崎昭弘:詭弁論理学, 中公新書, 1976.
- 萩原稚加子:意見述べにおける日本人の論理展開についての一考察, 明海日本語, 第 14 号, 2009.
- 橋爪大三郎:おどろきの中国, 講談社現代新書, pp.85-96, 2013.
- 花尻奈緒子:日本語話者における中国語学習者の言語学習ストラテジー使用傾向, 三重大学, 人文論叢, pp.21-22, 2018.
- 坂東孝明:かたちの生成を求めて-「形態論」の根原, デザインに哲学は必要か, 武蔵野美術大学出版局, 2019.
- 東森勲:英語ジョークの研究-関連性理論による分析, 龍谷叢書, pp.7-57, 2011.
- 樋口耕一:社会調査のための計量テキスト分析-内容分析の継承と発展を目指して, KH Coder official book, 第 2 版, ナカニシヤ出版, pp.101-108, 2020.
- 樋口真二:中国語はこんなに日本語と似ている, 東京図書出版, 2014.
- 平野孝治:中国の対外宣伝工作と中国中央テレビの国際放送戦略, ICCS 現代中国学ジャーナル, 第 4 巻, 第 1 号, 2011.
- ふるまいよしこ:中国メディア戦争, NHK 出版新書, 2016.
- 細川佳佑, 寺崎正治:笑いの文脈が笑いを発した他者の印象形成に及ぼす影響, 川崎医療福祉学会誌, Vol.22 No2, pp.166-172, 2013.
- 松本健太郎:理論で読むメディア文化〜「今」を理解するためのリテラシー, 新曜社, 2011.
- 松岡正剛の千夜千冊, <https://1000ya.isis.ne.jp/0070.html>
- 守屋哲治:日本語母語話者の英語複文構造の習得に関する研究-韓国語および中国語母語話者との対照, 金沢大学人間社会学域学校教育学類紀要, 2016.
- 山本英一:言語研究の底を流れる思想を考える-推論様式を手がかりとして, 外国語教育研究, 第 16 号, pp.47-61, 2008.
- 横山雅彦:「超」入門! 論理トレーニング, ちくま新書, pp.58-70, 2016.
- 吉見俊哉:トランプのアメリカに住む, 岩波新書, pp.177-188, 2018.
- 吉村公宏: はじめての認知言語学, 研究社, 2015.
- 玄武岩: 越境するメディアと東アジア〜リージョナル放送の構築に向けて, 勉誠出版, 2015.

付録

「the Big Bang Theory」1-1、「愛情公寓」1-1の SCRIPT と、そのラフ・トラック挿入箇所の分類適用を、紙面の都合により各番組 2 ページずつ表に示す（なお、ラフ・トラックの小分類項目については調査時の記号を変更せず掲載した）。

付録 1 : 「the Big Bang Theory」1-1 SCRIPT と、ラフ・トラック挿入箇所の分類適用

タイムコード	話者	オープニングテーマは 6:00 から	日本語訳	①	②	③	④
0:00-	sperm bank	English Transcript Scene: A corridor at a sperm bank.	日本語訳				設定から「笑」挿入
	Sheldon	So if a photon is directed through a plane with two slits in it and either slit is observed it will not go through both slits. If it's unobserved it will, however, if it's observed after it's left the plane but before it hits its target, it will not have gone through both slits.	スリット2本の板に光子を照射して観測しないと通過する。だが板とターゲットの間で観測すると通過しない。				
	Leonard	Agreed, what's your point?	ああ。それが何?				
	Sheldon	There's no point, I just think it's a good idea for a tee-shirt.	T シャツの柄にどう?	B6(新知識に由来した複雑な説明)			Laugh Track
0:22-	Leonard	Excuse me?	失礼				
0:27-	Receptionist	Hang on. (L1)	ちよつと待って	C6(沈黙)			事務員が無視
	Leonard	One across is Aegean, eight down is Nabakov, twenty-six across is MCM, (L1)fourteen down is... move your finger... (L2) phylum, which makes fourteen across Port-au-Prince. (L3) See, Papa Doc's capital idea, that's Port-au-Prince. Haiti. (L4)	ヨコ1が「エーゲ海」、タテ8が「ナボコフ」、ヨコ26が「MCM」。こっちは、指だけで。ヨコ14は「ポルトープランス」。「ハイチ」の国の首都は?」だ。ハイチね。	A2(空気の読めなさ)	A2(空気の読めなさ)	B5(虚構に関する真剣な議論)	A2(空気の読めなさ)
0:52-	Receptionist	Can I help you?					Leonard がクロスワードを全部解いてしまった。「空気の読めなさ」。コミュニケーション能力不足の露呈。クロスワードを全部解く
	Leonard	Yes. Um, is this the High IQ sperm bank?	IQ が高い人用の精子バンクはどこ?	A5(妙なこだわり)			HighIQ というこだわりを出す
1:02-	Receptionist	If you have to ask, maybe you shouldn't be here.	IQ が高ければ分かる(もし聞かなければならないのであれば、ここにいないべきではない)→IQ が低い	D10(回りくどい言い換え)			Receptionist からの「皮肉」。「それが分からないからだから IQ は低い」が推意
	Sheldon	I think this is the place.	ここで合ってる	C11(観衆の省略)			「皮肉」の理解。あれこれ言わず理解した
1:08-	Receptionist	Fill these out.	記入して				
	Leonard	Thank-you. We'll be right back.	どうも。すぐ書くよ				
	Receptionist	Oh, take your time. (L1) I'll just finish my crossword puzzle. Oh wait. (L1)	パズル解くからごゆっくり。無理そうね。	D9(言葉の表裏)	D11(奇妙な現実の指摘)		「おかげでパズルが解けなくなった」という「皮肉」
		(They sit and begin to fill in forms)					
1:27-	Sheldon	Leonard, I don't think I can do this.	レナード。無理だよ。				
	Leonard	What, are you kidding? You're a semi-pro.	精子出すの得意だろ?	D6(不自然な比喩)			Semi-pro という皮肉
1:34-	Sheldon	No. We are committing genetic fraud. There's no guarantee that our sperm is going to generate high IQ offspring, think about that. I have a sister with the same basic DNA mix who hostesses at Fuddruckers.	これは遺伝子詐欺だ。IQ の高い子供が生まれる保証はない。僕と違い妹は博士号を持っていない。	B4(奇妙なこだわりを正当化する論理性)			精子バンクのシステムに対する Sheldon の批判。博士号所持者以外を見下す。英語版では Fuddruckers(ハンバーガー店)原理主義者への嘲笑
1:43-	Leonard	Sheldon, this was your idea. A little extra money to get fractional T1 bandwidth in the apartment.	君の提案だったろ? 高速回線を敷く資金作りだ。	A5(妙なこだわり)			
1:51-	Sheldon	I know, and I do yearn for faster downloads.① but there's some poor woman is going to pin her hopes on my sperm, what if she winds up with a toddler who doesn't know if he should use an integral or a differential to solve the area under a curve.②	ダウンロード速度は上げたたい。①でも僕の精子で生まれた子が曲線下の面積の求め方も分からなかったらどうなる?②	A5(妙なこだわり)	B3(大げさ)		「ダウンロード速度」という取るに足らないことのために精子提供という Gap。誰も望まないことを懸命に欲する Sheldon
2:03-	Leonard	I'm sure she'll still love him.	母親は愛するさ				
2:05-	Sheldon	I wouldn't.	僕は無理	B3(大げさ)			Laugh Track
	Leonard	Well, what do you want to do?	どうする?				

	Sheldon	I want to leave.	帰る				
	Leonard	Okay.	そうか				
2:15-	Sheldon	What's the protocol for leaving?	帰り方は?				protocol(大げさな表現)
	Leonard	I don't know, I've never reneged on a proffer of sperm before.	精子提供を断るのは僕も初体験だ	D11(奇妙な現実の指摘)			当たり前のこと
2:20-	Sheldon	Let's try just walking out.	黙って出よう				
	Leonard	Okay.	ああ	A6(約束を破る)			
	Receptionist	Bye.					Receptionist が眠っており、その隙に出ようとする二人だが、眠っているはずの Receptionist が Bye と声を発する。
2:35-	Sheldon	Bye-bye(こっそり帰るのがバレル)		C4(悪だくみの情けない失敗)			途中抜けがバレル
	Leonard	See you.	会えてよかった				
	階段	Scene: The stairs of the apartment building.					
2:40-	Sheldon	Are you still mad about the sperm bank?	まだ怒ってる?				
	Leonard	No.	いや				
	Sheldon	You want to hear an interesting thing about stairs?	階段の面白い話、聞く?	G3(唐突な話題転換)			
	Leonard	Not really.	別にいい				
2:48-	Sheldon	If the height of a single step is off by as little as two millimetres, most people will trip.	1段の高さが2ミリ違えばまずく	B6(新知識に由来した複雑な説明)			
	Leonard	I don't care. Two millimetres? That doesn't seem right.	どうでもいい。2ミリで? ウソだ	G4(立場の逆転)			「興味なし」から「興味あり」へ変化
	Sheldon	No, it's true, I did a series of experiments when I was twelve, my father broke his clavicle.	昔実験したら、父さんは鎖骨を折った	B6(新知識に由来した複雑な説明)			
3:03-	Leonard	Is that why they sent you to boarding school?	それで寄宿学校に?				
3:06-	Sheldon	No, that was the result of my work with lasers.	いや。レーザーの実験が原因さ	A3(無稽で悪意のない異常性)			
3:13-	Leonard	New neighbour?	新顔か?				
	Sheldon	Evidently.	まさに				
3:17-	Leonard	Significant improvement over the old neighbour.	前の住人より大進歩だ	D12(遠回り)			
3:21-	Sheldon	Two hundred pound transvestite with a skin condition, yes she is.	体重 90 キロの女装野郎よりはね。	D10(回りくどい言い換え)			
3:27-	ベニーの部屋の前	Penny	Oh, hi!				
	Leonard	Hi.	ハイ				
	Sheldon	Hi.	ハイ				
	Leonard	Hi.	ハイ				
	Sheldon	Hi.	ハイ	C6(話題がなく沈黙)			
3:31-	Penny	Hi?	ハイ?	E5(音の高低)			語尾を上げて疑問形に。
	Leonard	We don't mean to interrupt, we live across the hall.	僕らは向かいの住人だ				
	Penny	Oh, that's nice.	あら、ステキね				
3:38-	Leonard	Oh... uh... no... we don't live together... um... we live together but in separate, heterosexual bedrooms.	一緒に住んでないよ。いや、住んでるけど、寝室は別で異性愛者だ。	B1a(世論的「正論」の代弁)	B2(自己矛盾)		「一緒に住んでいる」と同性愛を疑われる、ことへの言い訳
3:46-	Penny	Oh, okay, well, guess I'm your new neighbour, Penny.	そう。近所同士よろしく。ベニーよ。				
3:50-	Leonard	Leonard, Sheldon.	レナード。シェルドン。				
	Penny	Hi.	ハイ				
	Leonard	Hi.	ハイ				
	Sheldon	Hi.	ハイ	C6(話題がなく沈黙)			話題がなく Hi しか言えない。話題のあとにハイのあとに沈黙を作る。
	Penny	Hi.	ハイ				
3:56-	Leonard	Hi. Well, uh, oh, welcome to the building.	それじゃ。ここへようこそ。				
	Penny	Thankyou, maybe we can have coffee sometime.	うれしい。今度コーヒーでも。				
	Leonard	Oh, great.	ぜひ。				
	Penny	Great.					
	Sheldon	Great.		C6(話題がなく沈黙)			話題がなく Hi しか言えない

付録2：「愛情公寓」1-1 スクリプトと、ラフ・トラック挿入箇所の分類適用

タイムコード		中文字幕	日本語訳	①	②	③	④	「笑い」の生成の理由
		Scene: 飛行機到着。PVG LAXの荷物票						
0:12-	展博	总算还有辆空车。	まだ空席があるみたいだ					
				G2 (奇妙な動作)	F3 (自国文化の未理解)			バスへの乗り込み。女性がジーパンの尻部ポケットで電子マネーをスキャナーにかざし、運賃を払っているのを目にする展博
								同じようにして運賃を払うもの、と勘違いして、自分も尻部をスキャナーにかざし、ごすりつける。笑いの発生。反応しないまま、座席に行こうとするので運転手に呼び止められる。
	バスの運転席	運転手	喂喂喂。回来。回来。					G2 (奇妙な動作) と F3 (自国文化の未理解) が混じっている。
				F3 (自国文化の未理解)	G2 (奇妙な動作)			尻部をスキャナーにかざすも反応せず、今後は前部をごすりつける。笑い発生。
0:47-	運転手	变态啊。	頭おかしいのか					日本の運転手はこのような言葉を発しないが、この運転手の言葉に対し「笑い」の効果が見られる。中国の公共サービスにおいて、「このような言動は少なからず見られる」ということを示しているといえる。アメリカの番組でも病院勤務者などの言動でもそういった「客をバカにする」手の発言が見られる。中国、米国の共通点？
0:49-	運転手	要么刷卡, 要么投币, 要么滚蛋, 扭什么扭。	クレジットで払うか、或いは、小銭を出すか、とととと出ていくか、何をやってるんだ。	D10 (回りくどい言い換え)				運転手の暴言(激しく暴言) C10の要素も
		主題歌						
2:29-			(急ブレーキで頭をぶつける。)	C10 (予想外の挿入)				急ブレーキで頭をぶつける。公共交通機関の急ブレーキなどの描写も日本では考えにくい。中国では「社会一般が持つ不満(ニーズ)」を忠実に描くことによって笑いを生む。表現規制の対象にもなっていない。
2:40-	バスの座席	展博	这么快就到了	D1 (勘違い)	G1 (想定外)			「急ブレーキでの停車」を「目的地への到着」と勘違い。空席があるのに、隣の奥に乗ってきた。
2:47-		宛瑜	嘘。别出声。	C10 (予想外の挿入)				声を出さなと言われた
2:53-				C10 (予想外の挿入)	C10 (予想外の挿入)			また、急ブレーキで頭をぶつける。足を痛めつけられる
3:07-	運転手	回来。要么刷卡, 要么投币, 要么滚蛋, 看什么看。	金を払わないなら、とととと出ていけ、何をやってるんだ。	D10 (回りくどい言い換え)				運転手の暴言。「降りろ」と言わずに、回りくどく言い換えている。
3:15-	運転手	公交车都坐不起, 还冒充黑客帝国。	バスはマフィアの連中で一杯だ。	B3 (誤訳)				運転手の暴言
	宛瑜	好了。没事了。谢谢你啊。	よかった。何もなかった。ありがとう。					
	展博	没关系。	だいじょうぶ					
	宛瑜	喂。没事吧。	何もなかったのね					
	宛瑜	借你这儿躲一下, 不至于吧。	私はここに隠れただけでしょう。					
	展博	你踩着我的脚了。	あなたはずっと私の足を踏んでますよ	D11 (奇妙な現実の指摘)				
	宛瑜	不好意思啊。	ごめんなさい					
	展博	没关系。没关系。	大丈夫。大丈夫					
	宛瑜	谢谢你。	ありがとう					
	展博	刚才那些坏人是谁啊	さっきのおかしな人達は誰?					
	宛瑜	他们啊。他们是坏人。①很坏很坏的人。叫我宛瑜吧	彼らは・・・。彼らは・・・。おかしな人。とてもとてもおかしな人。私はワンユです。	D5 (汎用性の高い笑い)				坏人に対し、坏人と答える。同語反復
	展博	我叫展博。	私はジャンボです。					
	宛瑜	那我们算认识啦。你是来出差的吗?	もう知り合いね。出張から帰ってきたの?					
	展博	我刚从国外留学回来。	海外留学から帰ってきた。					
	宛瑜	学什么呀?	何を勉強してたの?					

	展博	计算机。我从小就那儿念书。好久没回来了。你呢?	コンピュータ。小さい頃から海外で勉強している。しばらく帰ってなかったんだ。あなたは?					
	宛瑜	我。我是来寻宝的。	私、私は・・・。宝物を探しているの					
	展博	寻宝?	宝物を探している?					
	宛瑜	寻宝。我要找一个地方。名字叫爱情公寓	宝物を探しているの。探している場所があって、名前を「愛情マンション」というの。					
	展博	爱情公寓?	愛情マンション?					
	宛瑜	对对对。你知道啊	それぞれ、知ってるの?					
	展博	从没听说过。①那你的藏宝图呢?	聞いたことがない。宝の地図にはどう書いてますか?	D11 (奇妙な現実の指摘)				聞いたことがあるようで、ない。
	宛瑜	什么图?	何の地図?					
	展博	你都说了是寻宝了。一定有藏宝图吧	あなたはそれが宝探しだと言っています。宝の地図があるはずですよ。					
	宛瑜	我只带了个	私が出しているのは、これ					
	展博	我说是藏宝图你给我地图。这还是张世界地图	私は宝の地図を見せてと言った。これはただの世界地図。	A13 (頭の悪さ、常識の無さ)				宝探しの地図を要求されているのに、世界地図を出す
	宛瑜	我要有藏宝图的话, 那还用找啊。直接坐计程车去不就好了。	宝の地図を持っているなら、それを使って探せばいい、タクシーを使って行けばいいでしょう。	D10 (回りくどい言い換え)				タクシーで行けると考えている
	展博	对了。你可以找我姐姐。她这人超热心。说不定能帮上你	そうだ。それなら私の姉を訪ねてみるといい。彼女はとても熱心です。多分姉はあなたを助けることができる					
	宛瑜	真的吗?	本当に?					
	展博	我姐姐是大学老师。本来她应该今天来接我的。可听说她要办一场什么婚礼的总导演。我就只能自己坐车过去了。	私の姉は大学の先生です。もともと彼女は今日私を迎えに来る予定でした。でも彼女は、結婚式にディレクターとして仕事の予定があったのです。それで私は自分でバスで行くことにしたんだ。					
	宛瑜	导演。那她一定很厉害吧	ディレクター? それなら、彼女はきっとすごいに違いない					
	展博	我也好久没见到她了。在我的印象里, 记忆最深刻的就是她的眼睛。明亮, 睿智, 还有她的手纤细, 温暖。我猜她现在一定比几年前更优雅。人们都亲切地用八个字形容她'静若初子动若疯兔'	彼女に長い間会っていない。彼女の眼差しは印象深かった。明るく、賢く、そして彼女の手はほっそりと暖かいです。彼女は数年前よりもエレガントになっているに違いない。人々は愛情を込めて「少女のように穏やかでウサギのように機敏で迅速に行動する」と表現します。					
	3601 部屋	一菲 (手持对讲机) 对 没错 红色的地毯式 80 米① 怎么搞的居然少了 5 米这老板也太缺德了吧。猪肉涨价 地毯也来跟我斤斤计较 他们的地毯不是猪皮做的吧②通知律师 我要起诉他	そう、間違いない、赤のカーペット 80メートル、なんで? 5メートル短いなんて社長は道徳心がないわね、豚肉の値段は上がっているし、絨毯も少なめにしているのね、ただ、絨毯は豚の皮で作ってないわよ、弁護士に知らせて、私は彼を訴えるわよ。	C10 (予想外に激烈)	A8 (大声でケンカ)			展博が姉を「よく」例えたのに、中身は激烈だった。
	龙套	菲姐 你订的花篮来签一下	すみません、注文していたフラワーバスケットが届きましたので、サインしてください。					
	一菲	花篮呢	フラワーバスケット					
		(龙套顺手一指, 一菲走上, 差点撞到花篮)	(ドラゴンが手を伸ばし、1人のフィリップが上がって花かごにぶつかる)	C10 (予想外に大きい)				
	一菲	拜托 这是付款地址不是送货地址还愣在这干嘛 送到楼下草坪上去啊 Go go go go go①	ちょっと、ここは支払い元の住所で、納入先ではないわよ。何やってるのよ、階下の芝生に送ってよ、早く早く	B3 (大げさ)				
		(一菲推手持花篮者出门, 重新拿起对讲机)	(フィリップ人が花かごを押して外に出て再びトランシーバーを拾う)					
	一菲	大家抓紧时间 道具部门 餐饮部门 制景部门 安保部门 还有那个 还有那个 不知道什么部门的① 十分钟之后到总部开会 Over	みんな急いで、小道具部門、ケータリング部門、設営部門、セキュリティ部門、そして、よく分からない部署、10分後に私は打ち合わせに行きます。以上。	A13 (頭の悪さ、常識の無さ)				E2 (早口) も起因
	龙套	Yesmadam	かしこまりました					

付録3：米中シットコム6作品に於けるラフ・トラック挿入ポイントの合計と小分類の割合

	米国会計		中国会計		米中合計		the Big Bang theory								Friends				Full House				愛情公寓				我爱我家				家有儿女															
	ラフ	割合	ラフ	割合	ラフ	割合	1-1	1-2	1-3	1-4	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計	1-1	1-2	合計											
A1 容易に見抜けることに騙されている様子	5	0.4%	4	0.4%	9	0.4%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.5%	0	0.0%	2	0.7%	1	0.7%	1	0.6%	2	0.6%	1	0.3%	1	0.2%	2	0.2%	0	0.0%	2	1.4%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
A2 空気の読めない	30	2.4%	18	1.8%	48	2.2%	11	3.2%	5	1.5%	0	0.0%	2	0.7%	18	1.4%	6	4.5%	3	2.1%	9	3.3%	3	2.0%	0	0.0%	3	0.9%	4	1.1%	0	0.0%	4	0.5%	6	3.6%	2	1.4%	8	2.6%	4	3.1%	6	2.3%		
A3 無垢で悪意のない異常性	16	1.3%	6	0.6%	22	1.0%	1	0.3%	1	0.3%	5	1.6%	2	0.7%	9	0.7%	3	2.3%	0	0.0%	3	1.1%	2	1.3%	2	1.2%	4	1.2%	4	1.1%	1	0.2%	5	0.6%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%		
A4 できぬ/注文にできると言う無謀さ	0	0.0%	2	0.2%	2	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%				
A5 妙なこだわり	37	3.0%	29	3.0%	66	3.0%	11	3.2%	6	1.8%	1	0.3%	4	1.3%	22	1.7%	2	1.5%	3	2.1%	5	1.8%	1	0.7%	9	5.2%	10	3.1%	0	0.0%	1	0.1%	9	5.5%	13	9.2%	22	7.2%	5	3.8%	1	0.8%	6	2.3%		
A6 約束に対する抜け駆け	7	0.6%	7	0.7%	14	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	3	2.3%	0	0.0%	3	1.1%	0	0.0%	3	1.7%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%	5	3.5%	7	2.3%	0	0.0%	0	0.0%		
A7 振動心を大きめに掻き立てる行為	1	0.1%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%				
A8 大声での怒鳴り	4	0.3%	7	0.7%	11	0.5%	2	0.6%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.2%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	1	0.2%	3	0.4%	1	0.6%	2	1.4%	3	1.0%	1	0.8%	0	0.0%		
A9 一心不乱な動作	19	1.5%	13	1.3%	32	1.4%	1	0.3%	2	0.6%	6	1.9%	2	0.7%	11	0.8%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	2	1.3%	5	2.9%	7	2.1%	6	1.7%	3	0.6%	9	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.5%	2	1.6%	4	1.5%		
A10 不適切な時間差の行動	5	0.4%	1	0.1%	6	0.3%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.3%	4	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%		
A11 ケチな振る舞い	0	0.0%	9	0.9%	9	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	8	1.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%				
A12 顔の悪さ、常軌の無さ	20	1.6%	17	1.7%	37	1.7%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	4	3.0%	6	4.2%	10	3.6%	9	5.9%	0	0.0%	9	2.8%	0	0.0%	9	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.3%	3	1.1%				
A13 動作の異常な遅さや速さ	1	0.1%	2	0.2%	3	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.4%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%				
A14 決めつたとその勘違い	18	1.4%	18	1.8%	36	1.6%	1	0.3%	3	0.9%	1	0.3%	3	1.0%	8	0.6%	1	0.8%	2	1.4%	3	1.1%	1	0.7%	6	3.5%	7	2.1%	3	0.9%	8	1.7%	11	1.3%	2	1.7%	1	0.7%	3	1.0%	3	2.3%	1	0.8%		
A15 下心	14	1.1%	2	0.2%	16	0.7%	5	1.5%	4	1.2%	1	0.3%	0	0.0%	10	0.8%	2	1.5%	0	0.0%	2	0.7%	1	0.7%	1	0.6%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.4%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%				
A16 ミスの発生やミスを認める行為	38	3.0%	25	2.5%	63	2.8%	8	2.4%	4	1.2%	3	0.9%	4	1.3%	19	1.5%	6	4.5%	4	2.8%	10	3.6%	4	2.6%	5	2.9%	9	2.8%	5	1.4%	2	0.4%	7	0.8%	5	3.0%	6	4.3%	11	3.6%	4	3.0%	3	2.3%	7	2.7%
A17 融通の利かた	13	1.0%	12	1.2%	25	1.1%	2	0.6%	3	0.9%	2	0.6%	0	0.0%	7	0.5%	3	2.3%	0	0.0%	3	1.1%	2	1.3%	1	0.6%	3	0.9%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.2%	6	3.6%	3	2.1%	9	2.9%	0	0.0%	1	0.8%		
A18 子供の子供らしく振る舞い、意見	11	0.9%	4	0.4%	15	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.6%	4	2.3%	11	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%	2	1.5%	1	0.8%	3	1.1%		
合計	239	19.1%	176	17.9%	415	18.6%	45	13.2%	31	9.1%	19	6.0%	17	5.6%	112	8.6%	35	26.5%	18	12.6%	53	19.3%	33	21.6%	41	23.7%	74	22.7%	49	14.1%	23	4.8%	72	8.7%	33	20.0%	36	25.5%	69	22.5%	19	14.4%	16	12.4%	35	13.4%
B1 世辞の代弁	9	0.7%	2	0.2%	11	0.5%	2	0.6%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	4	0.3%	2	1.5%	0	0.0%	2	0.7%	3	2.0%	0	0.0%	3	0.9%	1	0.3%	1	0.2%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%				
B2 実在しているものの会話の話題への挿入	23	1.8%	4	0.4%	27	1.2%	3	0.9%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	5	0.4%	1	0.8%	3	2.1%	4	1.5%	3	2.0%	11	6.4%	14	4.3%	0	0.0%	3	0.6%	3	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	1	0.4%		
B3 発話内の自己矛盾	35	2.8%	18	1.8%	53	2.4%	4	1.2%	6	1.8%	3	0.9%	6	2.0%	19	1.5%	4	1.5%	8	5.2%	4	1.5%	8	5.2%	4	2.3%	12	3.7%	1	0.3%	3	0.6%	4	0.5%	2	1.2%	5	3.5%	7	2.3%	3	2.3%	4	3.1%	7	2.7%
B4 誇張	30	2.4%	71	7.2%	101	4.5%	3	0.9%	4	1.2%	4	1.3%	3	1.0%	14	1.1%	4	3.0%	3	2.1%	7	2.5%	3	2.0%	6	3.5%	9	2.8%	1	0.3%	20	4.2%	21	2.5%	10	6.1%	20	14.2%	30	9.8%	7	5.3%	13	10.1%	20	7.7%
B5 奇妙なこだわりを正当化する論理性	33	2.6%	15	1.5%	48	2.2%	4	1.2%	6	1.8%	6	1.9%	10	3.3%	26	2.0%	1	0.8%	1	0.7%	2	0.7%	5	3.3%	0	0.0%	5	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.2%	3	2.1%	10	3.3%	3	2.3%	2	1.6%	5	1.9%
B6 虚構に関する真実の議論	49	3.9%	11	1.1%	60	2.7%	7	2.1%	11	3.2%	14	4.4%	6	2.0%	38	2.9%	6	4.5%	4	2.8%	10	3.6%	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%	3	0.9%	7	1.5%	10	1.2%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%		
B7 新知識に由来した複雑な説明	18	1.4%	8	0.8%	26	1.2%	6	1.8%	5	1.5%	5	1.6%	1	0.3%	17	1.3%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	3	0.6%	4	0.5%	3	1.8%	0	0.0%	3	1.0%	0	0.0%				
B8 夢や空想であると判明	4	0.3%	0	0.0%	4	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	3	1.7%	3	0.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%						
B9 ワンを吹き込まれて、本気になる行為	2	0.2%	7	0.7%	9	0.4%	2	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	3	0.6%	5	0.6%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%	1	0.8%				
B10 ワンやミスに、さらにワンを重ねる行為	6	0.5%	32	3.3%	38	1.7%	0	0.0%	1	0.3%	5	1.6%	0	0.0%	6	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	21	4.4%	23	2.8%	4	2.4%	3	2.1%	7	2.3%	2	1.5%	0	0.0%				
B11 ワンがはたけられた水の泡	5	0.4%	7	0.7%	12	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	1	0.3%	3	0.2%	1	0.8%	1	0.7%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	2	0.4%	3	0.4%	2	1.2%	0	0.0%	2	0.7%	0	0.0%				
B12 奇妙な提案	12	1.0%	27	2.8%	39	1.7%	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.6%	7	4.0%	11	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	1	0.3%	16	12.1%	10	7.8%		
B13 安易なワン	13	1.0%	7	0.7%	20	0.9%	0																																							

付録4：ラフ・トラック挿入ポイント（A1-F38）に対しての面白さの感じ方の度合い（全体）

	the Big Bang Theory						愛情公寓						Friends						我爱我家						Full House						家有儿女				
	選択肢3	選択肢2	選択肢2+3	選択肢1	回答者数		選択肢3	選択肢2	選択肢2+3	選択肢1	回答者数		選択肢3	選択肢2	選択肢2+3	選択肢1	回答者数		選択肢3	選択肢2	選択肢2+3	選択肢1	回答者数		選択肢3	選択肢2	選択肢2+3	選択肢1	回答者数		選択肢3	選択肢2	選択肢2+3	選択肢1	回答者数
	割合(M)	割合(M)	割合(M)	割合(M)	人数(N)		割合(M)	割合(M)	割合(M)	割合(M)	人数(N)		割合(M)	割合(M)	割合(M)	割合(M)	人数(N)		割合(M)	割合(M)	割合(M)	割合(M)	人数(N)		割合(M)	割合(M)	割合(M)	割合(M)	人数(N)		割合(M)	割合(M)	割合(M)	割合(M)	人数(N)
A1	9.5%	40.5%	50.0%	50.0%	42	B1	23.8%	45.2%	69.0%	31.0%	42	C1	19.0%	35.7%	54.8%	45.2%	42	D1	9.5%	35.7%	45.2%	54.8%	42	E1	28.6%	31.0%	59.5%	40.5%	42	F1	2.4%	47.6%	50.0%	50.0%	42
A2	2.4%	29.3%	31.7%	68.3%	41	B2	50.0%	38.1%	88.1%	11.9%	42	C2	38.1%	33.3%	71.4%	28.6%	42	D2	14.0%	46.5%	60.5%	39.5%	43	E2	51.2%	31.7%	82.9%	17.1%	41	F2	12.2%	48.8%	61.0%	39.0%	41
A3	25.6%	16.3%	41.9%	58.1%	43	B3	58.5%	22.0%	80.5%	19.5%	41	C3	47.6%	28.6%	76.2%	23.8%	42	D3	19.0%	42.9%	61.9%	38.1%	42	E3	21.4%	40.5%	61.9%	38.1%	42	F3	28.6%	38.1%	66.7%	33.3%	42
A4	23.8%	31.0%	54.8%	45.2%	42	B4	21.4%	42.9%	64.3%	35.7%	42	C4	43.9%	31.7%	75.6%	24.4%	41	D4	2.4%	28.6%	31.0%	69.0%	42	E4	21.4%	45.2%	66.7%	33.3%	42	F4	16.7%	40.5%	57.1%	42.9%	42
A5	11.9%	33.3%	45.2%	54.8%	42	B5	46.5%	32.6%	79.1%	20.9%	43	C5	42.9%	42.9%	85.7%	14.3%	42	D5	7.1%	33.3%	40.5%	59.5%	42	E5	21.4%	42.9%	64.3%	35.7%	42	F5	33.3%	42.9%	76.2%	23.8%	42
A6	28.6%	26.2%	54.8%	45.2%	42	B6	11.9%	45.2%	57.1%	42.9%	42	C6	21.4%	40.5%	61.9%	38.1%	42	D6	11.9%	33.3%	45.2%	54.8%	42	E6	14.6%	31.7%	46.3%	53.7%	41	F6	14.3%	33.3%	47.6%	52.4%	42
A7	30.2%	34.9%	65.1%	34.9%	43	B7	0.0%	42.9%	42.9%	57.1%	42	C7	22.0%	46.3%	68.3%	31.7%	41	D7	19.0%	45.2%	64.3%	35.7%	42	E7	35.7%	35.7%	71.4%	28.6%	42	F7	2.4%	47.6%	50.0%	50.0%	42
A8	55.8%	25.6%	81.4%	18.6%	43	B8	4.8%	21.4%	26.2%	73.8%	42	C8	16.3%	41.9%	58.1%	41.9%	43	D8	9.5%	38.1%	47.6%	52.4%	42	E8	23.8%	54.8%	78.6%	21.4%	42	F8	14.6%	39.0%	53.7%	46.3%	41
A9	25.6%	37.2%	62.8%	37.2%	43	B9	45.2%	38.1%	83.3%	16.7%	42	C9	16.3%	39.5%	55.8%	44.2%	43	D9	23.8%	45.2%	69.0%	31.0%	42	E9	38.1%	45.2%	83.3%	16.7%	42	F9	16.7%	47.6%	64.3%	35.7%	42
A10	14.0%	41.9%	55.8%	44.2%	43	B10	26.8%	39.0%	65.9%	34.1%	41	C10	25.6%	39.5%	65.1%	39.5%	43	D10	9.5%	40.5%	50.0%	50.0%	42	E10	38.1%	40.5%	78.6%	21.4%	42	F10	9.5%	31.0%	54.8%	59.5%	42
A11	41.5%	31.7%	73.2%	26.8%	41	B11	19.0%	40.5%	59.5%	40.5%	42	C11	7.0%	37.2%	44.2%	55.8%	43	D11	9.5%	38.1%	47.6%	52.4%	42	E11	28.6%	23.8%	52.4%	47.6%	42	F11	21.4%	40.5%	61.9%	38.1%	42
A12	39.5%	25.6%	65.1%	34.9%	43	B12	26.2%	40.5%	66.7%	33.3%	42	C12	23.3%	32.6%	55.8%	44.2%	43	D12	23.8%	40.5%	64.3%	35.7%	42	E12	34.1%	41.5%	75.6%	24.4%	41	F12	16.7%	38.1%	54.8%	45.2%	42
A13	14.0%	25.6%	39.5%	60.5%	43	B13	37.2%	39.5%	76.7%	23.3%	43	C13	37.2%	34.9%	72.1%	27.9%	43	D13	19.0%	38.1%	57.1%	42.9%	42	E13	46.3%	26.8%	73.2%	26.8%	41	F13	2.4%	38.1%	40.5%	59.5%	42
A14	11.9%	31.0%	42.9%	57.1%	42	B14	2.4%	50.0%	52.4%	47.6%	42	C14	30.2%	44.2%	74.4%	25.6%	43	D14	11.9%	33.3%	45.2%	54.8%	42	E14	14.6%	43.9%	58.5%	41.5%	41	F14	9.5%	28.6%	38.1%	61.9%	42
A15	20.9%	30.2%	51.2%	48.8%	43	B15	11.6%	32.6%	44.2%	55.8%	43	C15	9.8%	51.2%	61.0%	39.0%	41	D15	19.5%	41.5%	61.0%	39.0%	41	E15	12.2%	43.9%	56.1%	43.9%	41	F15	9.5%	38.1%	47.6%	52.4%	42
A16	20.9%	34.9%	55.8%	44.2%	43	B16	38.1%	35.7%	73.8%	26.2%	42	C16	37.2%	44.2%	81.4%	18.6%	43	D16	34.1%	41.5%	75.6%	24.4%	41	E16	26.8%	26.8%	53.7%	46.3%	41	F16	7.1%	47.6%	54.8%	45.2%	42
A17	34.9%	34.9%	69.8%	30.2%	43	B17	16.3%	46.5%	62.8%	37.2%	43	C17	40.5%	26.2%	66.7%	33.3%	42	D17	20.0%	55.0%	75.0%	25.0%	40	E17	26.8%	34.1%	61.0%	39.0%	41	F17	45.2%	33.3%	78.6%	21.4%	42
A18	34.9%	34.9%	69.8%	30.2%	43	B18	9.3%	48.8%	58.1%	41.9%	43	C18	23.3%	37.2%	60.5%	39.5%	43	D18	36.6%	36.6%	73.2%	26.8%	41	E18	22.0%	29.3%	51.2%	48.8%	41	F18	9.5%	45.2%	54.8%	45.2%	42
A19	32.6%	51.2%	83.7%	16.3%	43	B19	14.0%	48.8%	62.8%	37.2%	43	C19	19.0%	47.6%	66.7%	33.3%	42	D19	25.0%	45.0%	70.0%	30.0%	40	E19	24.4%	36.6%	61.0%	39.0%	41	F19	14.3%	47.6%	61.9%	38.1%	42
A20	51.2%	37.2%	88.4%	11.6%	43	B20	9.5%	57.1%	66.7%	33.3%	42	C20	39.5%	41.9%	81.4%	18.6%	43	D20	31.7%	41.5%	73.2%	26.8%	41	E20	26.8%	39.0%	65.9%	34.1%	41	F20	14.3%	33.3%	47.6%	52.4%	42
A21	21.4%	26.2%	47.6%	52.4%	42	B21	2.3%	44.2%	46.5%	53.5%	43	C21	30.2%	41.9%	72.1%	27.9%	43	D21	43.9%	34.1%	78.0%	22.0%	41	E21	24.4%	39.0%	63.4%	36.6%	41	F21	11.9%	40.5%	52.4%	47.6%	42
A22	16.3%	27.9%	44.2%	55.8%	43	B22	20.9%	51.2%	72.1%	27.9%	43	C22	60.5%	25.6%	86.0%	14.0%	43	D22	20.0%	43.6%	64.1%	35.9%	39	E22	39.0%	36.6%	75.6%	24.4%	41	F22	11.9%	40.5%	52.4%	47.6%	42
A23	39.5%	30.2%	69.8%	30.2%	43	B23	28.6%	47.6%	76.2%	23.8%	42	C23	18.6%	39.5%	58.1%	41.9%	43	D23	29.3%	46.3%	75.6%	24.4%	41	E23	26.8%	29.3%	56.1%	43.9%	41	F23	45.2%	31.0%	76.2%	23.8%	42
A24	42.9%	28.6%	71.4%	28.6%	42	B24	42.9%	38.1%	81.0%	19.0%	42	C24	18.6%	32.6%	51.2%	48.8%	43	D24	29.3%	39.0%	68.3%	31.7%	41	E24	24.4%	34.1%	58.5%	41.5%	41	F24	28.6%	33.3%	61.9%	38.1%	42
A25	20.9%	30.2%	51.2%	48.8%	43	B25	30.2%	39.5%	69.8%	30.2%	43	C25	39.5%	23.3%	62.8%	37.2%	43	D25	31.7%	39.0%	70.7%	29.3%	41	E25	29.3%	36.6%	65.9%	34.1%	41	F25	31.0%	45.2%	76.2%	23.8%	42
A26	25.6%	41.9%	67.4%	32.6%	43	B26	14.0%	41.9%	55.8%	44.2%	43	C26	23.8%	26.2%	50.0%	50.0%	42	D26	24.4%	48.8%	73.2%	26.8%	41	E26	34.1%	41.5%	75.6%	24.4%	41	F26	40.5%	40.5%	81.0%	19.0%	42
A27	53.5%	32.6%	86.0%	14.0%	43	B27	19.0%	54.8%	73.8%	26.2%	42	C27	28.6%	40.5%	69.0%	31.0%	42	D27	39.0%	41.5%	80.5%	19.5%	41	E27	26.8%	41.5%	68.3%	31.7%	41	F27	21.4%	38.1%	59.5%	40.5%	42
A28	39.5%	39.5%	79.1%	20.9%	43	B28	23.3%	39.5%	62.8%	37.2%	43	C28	2.3%	44.2%	46.5%	53.5%	43	D28	29.3%	41.5%	70.7%	29.3%	41	E28	19.5%	46.3%	65.9%	34.1%	41	F28	35.7%	50.0%	85.7%	14.3%	42
A29	55.8%	30.2%	86.0%	14.0%	43	B29	20.9%	41.9%	62.8%	37.2%	43	C29	9.5%	42.9%	52.4%	47.6%	42	D29	5.0%	50.0%	55.0%	45.0%	40	E29	22.0%	41.5%	63.4%	36.6%	41	F29	9.5%	38.1%	47.6%	52.4%	42
A30	25.6%	34.9%	60.5%	39.5%	43	B30	16.3%	53.5%	69.8%	30.2%	43	C30	32.6%	32.6%	65.1%	34.9%	43	D30	22.5%	32.5%	55.0%	45.0%	40	E30	43.9%	34.1%	78.0%	22.0%	41	F30	12.2%	29.3%	41.5%	58.5%	41
A31	32.6%	41.9%	74.4%	25.6%	43	平均値	23.0%	42.0%	65.0%	35.0%		C31	38.1%	31.0%	69.0%	31.0%	42	D31	24.4%	41.5%	65.9%	34.1%	41	E31	29.3%	51.2%	80.5%	19.5%	41	F31	11.9%	33.3%	45.2%	54.8%	42
A32	34.9%	39.5%	74.4%	25.6%	43						C32	21.4%	42.9%	64.3%	35.7%	42	D32	4.9%	41.5%	46.3%	53.7%	41	E32	22.0%	48.8%	70.7%	29.3%	41	F32	4.8%	35.7%	40.5%	59.5%	42	
A33	32.6%	37.2%	69.8%	30.2%	43						C33	12.5%	40.0%	52.5%	47.5%	40	D33	12.2%	43.9%	56.1%	43.9%	41	E33	25.0%	42.5%	67.5%	32.5%	40	F33	7.1%	47.6%	54.8%	45.2%	42	
A34	27.9%	44.2%	72.1%	27.9%	43						C34	24.4%	34.1%	58.5%	41.5%	41	D34	14.6%	39.0%	53.7%	46.3%	41	E34	22.0%	34.1%	56.1%	43.9%	41	F34	4.8%	42.9%	47.6%	52.4%	42	
A35	9.5%	31.0%	40.5%	59.5%	42						C35	25.6%	44.2%	69.8%	30.2%	43	D35	10.3%	23.1%	33.3%	66.7%	39	E35	34.1%	46.3%	80.5%	19.5%	41	F35	2.4%	41.5%	43.9%	56.1%	41	
A36	21.4%	31.0%	52.4%	47.6%	42						C36	40.5%	40.5%	81.0%	19.0%	42	D36	2.6%	35.9%	38.5%	61.5%	39	E36	34.1%	46.3%	80.5%	19.5%	41	F36	11.9%	33.3%	45.2%	54.8%	42	
A37	-	-	-	0.0%	0						C37	9.5%	35.7%	45.2%	54.8%	42	D37	4.9%	41.5%	46.3%	53.7%	41	E37	14.6%	43.9%	58.5%	41.5%	41	F37	23.8%	45.2%	69.0%	31.0%	42	
A38	39.5%	39.5%	79.1%	20.9%	43						C38	27.9%	39.5%	67.4%	32.6%	43	D38	12.2%	34.1%	46.3%	53.7%	41	E38	23.7%	44.7%	68.4%	31.6%	38	F38	21.4%	52.4%	73.8%	26.2%	42	
A39	26.2%	38.1%	64.3%	35.7%	42						C39	32.6%	51.2%	83.7%	16.3%	43	D39	2.4%	43.9%	46.3%	53.7%	41	E39	23.1%	48.7%	71.8%	28.2%	39	平均値	16.8%	40.1%	56.9%	43.1%		
A40	29.7%	43.2%	73.0%	27.0%	37					</																									

付録5：番組視聴ごとの各番組に対する被験者の感想コメント（被験者全員分）

the Big Bang Theory		愛情公寓		Friends		我爱我家		Full House		家有儿女	
回答者番号	感想コメント	回答者番号	感想コメント	回答者番号	感想コメント	回答者番号	感想コメント	回答者番号	感想コメント	回答者番号	感想コメント
1	人見知り？な男性二人の絶妙にかみあってそうでかみあってない会話は面白かった。女性が出てきてからの2人の人見知りな感じはとても笑えた。	1	主人公のお姉さんが、主人公のイメージとは全く違ったところがおもしろかった。	1	どどん場面が変わって、テンポよく話しが進んでいって面白かった。	1	フーオが出てきてからのみんなの手のひら返しが面白かった。	1	部屋の内装がメルヘンな感じで、しぶしぶ受け入れる男性の反応が面白かった。	2	一人っ子が多い時代だったと知識を入れるととても理解しやすかった。
2	会話の先が読めない点がおもしろく感じた。	2	Aに比べて動作で笑いをとることが多かった。言葉が分からないとしても楽しめる。	2	笑いが起こったポイントでの、返しの言葉の面白さが分かりづらかった。	2	日本でも見たことのあるような笑いだった。	2	Cと比べて人間関係が把握しやすかった。	3	少し難しかった。
3	少し理解するのが難しいところもあったが、おもしろかった。	3	アメリカのとは少し違って、文化の違いを感じた。	6	登場人物が多く、面白かった。	3	最初の方は少し難しかった。途中はともおもしろかった。	3	分かりやすかった。おもしろかった。	6	設定が分かりやすかった。
6	引越してきた隣人とのコミュニケーションがとてもおもしろかった。	6	最初の押し付けるところが非常に面白かった。	8	会話のテンポが良く、受け答えもおもしろかった。	6	フーオが後ろにいることを知らずに悪口を言っているところが面白かった。	6	情報がとても入ってきやすく、分かりやすくとても面白かった。	8	笑いどころが分からなかった。
8	IQは高いのかもしれないが、どこかずれている部分がおもしろかった。	8	似たような番組を見たことがあった。	10	テンポ良く進んでいる作品だが、すごく見やすかった。	10	言葉が入ってこなかったため、話の流れをつかむのが難しかった。内容を理解するのに時間がかかった。	8	Joeyの声マネがすごかった。	9	あまり分からなかった。
9	あまり分からなかった。	9	あまり分からなかった。	11	笑える部分が一番多かった。	11	お父さんが現れて、全員態度が変わる部分が面白い。	12	生感？が何となく分かった。	10	中国の社会の一部が再現されている話だと思った。
10	会話が流れるように進んでいて、リズム良く見やすかった。	10	アメリカのコメディとは違った面白さがあった。中国語はわからないが、笑いのタイミングなどは少し分かった気がした。	14	話の切り替わりが速くて良いと思った。	14	内容が少し分からなかった。笑いのポイントが違った。	13	演出自体が面白かった。特に子ども達の。	11	少しわかりづらい。
11	下ネタが多めだけど、そこも含めて面白かった。	11	中国のコメディを初めて見たけれど、楽しめた。	16	真剣な話の最中に、クッキーいるという全く関係ないことを言うところがおもしろい。	16	おじいちゃんに気付いた時の反応がおもしろい。	14	態度が分かりやすかった。	12	中国ならではの内容だと思う。
12	男性は好きだと思う。	12	アメリカと少し違う	17	最後のやり取りがおもしろかった。	19	悪口の話をしている時に、その本人が来て、ほめ始めるのがおもしろかったです。	16	祖母との別れの際、ミッシェルが抱きついてはなさないところ。	14	複雑な家庭だと思った。
14	雰囲気が良いと思った。	13	米のコメディに慣れているせいか、米のコメディの方が面白かった感じがする。	18	テンポがいい。でもたまに理解が難しい。	21	お父さんが婦人団体での話をしていることや、後半の少し口が悪くなっている感じがまた良い。	17	子供がおもしろかった。	16	時差ボケが7年なのに治っていないところ。
15	テンポが良かったので、面白かった。	14	2回続けて同じことをするのが印象的だった。	19	出ている出演者が美人な人が多くて良かったです。登場人物が多かった。	22	番組映像Bとは雰囲気が違うと感じた。より中国っぽい雰囲気だ。	19	部屋に案内されてからがおもしろかった。ジョークの質が高いなと思いました。	19	3人の子供がいるのは日本では普通だけど、中国では宝くじが当たるくらいのことだと聞いてびっくりしました。
16	階段の2mmの話をも1回聞き流して、もう一度聞き返すところがおもしろい。	16	初めのカードリーダーを押すところで、それをまねしているのがおもしろい。	20	夢の話も馬鹿らしかったけど、Rachelと父さんの会話に冷静にツッコむRossが面白かった。	24	笑いのつぼがよく分からなかった。	20	子どもの態度と最後あたりのやりとりが面白かった。	21	表現の仕方が面白い。
18	Hiの繰り返しがおもしろかった。笑い声でつられる。テンポがよい。	18	Aと比べてストーリー性があった。入ってきやすかった。動きでもおもしろいところが多かった。	21	「口から腸を引っ張り出されて、首に巻かれた気分だ」と言った後に「クッキーいる？」のような会話は成り立っていないが、どこか面白い要素があった。	25	言ったことをすぐに取り消すところが面白かった。	21	DannyとJessyの漫才みたいな会話が面白かった。	22	6つの映像の中で一番、人間らしい感情があると思った。入りの部分は面白いと感じる反面、特に切なさを感じる。感情に揺れがあるので見ていて引き込まれる、しかし、子どもに積極的に見せたくない部分もある。
19	冗談の言い合いがおもしろかったです。海外のジョークは日本とは違うなと思いました。	19	中国のこういうのを見たことがなかったので、新鮮でした。テンポが良くておもしろかったです。	22	番組映像Aと同じく家庭で見せられる映像ではない。下品で倫理感（親？）がないと思った。	27	おじいちゃんに対する悪口を言っている所と、その後におじいちゃんがいることに気づいた所がおもしろかった。	22	一発ギャグの要素を感じた。全体的には家庭で見れる内容ではないが、面白いと思う箇所がいくつかあって楽しかった。感動的な要素もあってほっこりするシーンがいくつかあった。	24	時差ボケの話はおもしろかった。
20	特に面白いとは感じなかった。最初のネタと最後のくだりがつながっているのはいいなと思った。	20	冒頭の男の人が天然な感じで面白かった。	25	例えが少し難しかった。	28	年をとるほど賢くなるという言葉がおもしろかった。	24	テンポが速くて面白かった。	25	今までの中国の中で、一番アメリカに似ていると感じた。
21	笑いポイントがある質問に対して、返事がそっけない感じで冷静に答えているところが面白かった。	21	展博が思った今の姉の姿と違っていたところが面白く、多様な声や表情の表現力がすごいと思った。	26	日本でもこんな感じの米国シットコムを見た記憶があったので、とてもなつかしい感じがした。	29	理解するのに時間がかかった。	25	自虐だったり、ノってきてさらにボケを積み重ねていくのが面白い。	26	始まり方が他のやつとは違って不思議だった。
22	笑い声のタイミングで面白く感じるところが少なかった。家庭で見れる内容ではないと思った。	22	番組映像Aより面白く感じた。落差の笑いが多いのか？	27	最初のデートについて話している所と、最後の電話のやり取りがおもしろかった。	31	見つける→ごまかすのくり返しだったけど、それがおもしろかった。	26	見たことあるようなないような。	27	時差ボケの話とカリフォルニアのクモの話がおもしろかった。
23	とてもおもしろかった	24	笑い声が大きすぎず、聞き取りやすかった。	28	生き方にもいろんな種類があることを例えを聞いて訴えているのに、例えが通じていないことに笑った。	37	家族愛の強い番組だと思った。	27	バレリーナのやり取りと最後のジェシーとダニーのやり取りがおもしろかった。	28	蚊が血を吸う理由について答える際、甘いくさいの例えがおもしろかった。

24	日本とアメリカの番組の笑いのタイミングが違うなと感じた。	25	あまり好みのコメディではなかった。	30	冗談を言うタイミングが日本とは違うなと思った。	38	話してたらその相手が来るっていうのはあるかなって思った。	28	とうとう「僕は抱きしめマシンだ」という言葉に笑いを感じた。	29	笑顔（声？）があったら面白く感じる。
25	ボケが流れるように出てくるのがおもしろかった。	26	宝の地図ではなく、世界地図を持った場面がよかった。	33	倒置して話しているところがおもしろい要素なのかなと思いました。	39	よく分からなかった。	29	見たことあるやつだった。	30	あまりよく分からなかったが、中国の歴史が（や？）背景が見えた。
27	最初のクロスワードの答えを言ってしまふところ「はい」のかけあいで、声が高くなった所がおもしろかった。	27	頭をシートにぶつけた所と、何もなかったかのようにこっそり食べかけのケーキを戻した所がおもしろかった。	35	最初見た米国シットコムよりはおもしろくなかった。笑い声が入っていても、あまり笑えなかった。	40	長老のフーオを発見する前と後で、リアクションの仕方が面白くて、話のそらし方も面白かったです。あと、オーバーリアクションも面白かったです。	30	フルハウスは見たことがあつたので、とても懐かしく感じた。小さい頃みてた時と、今みた時とではおもしろいと思う部分があった。	37	中国が一っ子せいさくをしているのに、再婚で増えるのはいい人だと思った。
28	IQが高ければわかるということは、低いとわからないということで、一人はIQが低くもう一人が高いということがわかった。	28	女性のマネをして支払いしようとするが、出来なかったことにおもしろみを感じた。	37	そいつ変態だろ？からのチョコ食べる？は意味が分らなさすぎて、逆におもしろかった。	42	父がいない時に悪口を言って、父が戻ってきたら訂正する設定が面白かった。	31	家族の絡みがおもしろかった。	38	話が分かりにくかった。
29	最初らへんはよく分からなかった。	29	テンポが良かった。	38	話してるリズム感が面白かった。	43	話がよく分からなかった。	35	とてもおもしろかったです。日本でも笑えるような内容だった。	39	字幕で見ると話が入ってきにくかった。
30	話自体はあまりよく分からなかった。日本ではデリケートな部分があったことが海外との違いなのかと思った。	30	後半からのコメディのスピード感が凄かった。	40	Chandlerが一人だけマイペースで、話の途中でも自分の話を入れてくる、そんな性格が面白かったです。あと、所々、カオス状態だったのも面白かったです。			37	その人その人の愛がよく伝わった番組だった。	40	物語の冒頭で、これから一緒にいる家族が皆そろって「イエーイ」と言っていたところがホックリしました。
31	会話のテンポが速くておもしろかった。	31	一菲の話（場面）がおもしろかった。	41	今、このFriendsを見て一番思ったのが、このドラマ、私がEテレではまったいたものによく似ていると思いました。			38	クセの強い人ばかりで面白かった。	41	カリフォルニアのくもをカニに見ましがえるところがすごいと思った。子どもを羊の変わり（代わり？）とかにするっていうのもおもしろかった。
32	おかしなことも言うから面白いと思う。	32	ふざけた感じがあって面白いと思った。	42	普通に面白そうな番組だったので見たいなと思いました。面白いです。			39	フルハウスは小さい頃よく見てた。	42	家族の内容を作品にして面白い内容でした。
33	会話のテンポが速いから、おもしろいかなと思いました。	33	言葉だけでなく、行動がおもしろいところもありました。					40	大人達よりも子供達の方が冷静で、また、子供達が大人達にあきれているところが面白かったです。	43	「カリフォルニアのクモに噛まれた」というセリフが一番面白くて好きです。
35	笑い声が入ることで、おもしろくなくても笑ってしまうことがあった。アメリカと日本では、笑いの違いがあったと思った。	35	日本と同じような笑いでおもしろかった。					41	これは結構おもしろく感じた。いろんな人物がでてきて、家でみていたらかなり笑っていると思う。		
37	ジョークが多めの面白い番組だと思った。女の人が大らかな男が多いイメージとなるビデオだった。	37	女性のまねをする男の人がすなおすぎて面白かった。					42	笑えるところがたくさんあり、とっても面白かった。		
39	同じくだりを何回もしていたが、少し面白く感じたのは最初だけだった。	38	笑い声がない方が面白いかもって思った。					43	小さい頃に見ていたので、とてもなつかしく感じました。女の子たちが可愛くて、とても面白かったです。		
40	私は、中学生くらいの頃に「アイ・カーリー」というコント番組を観ていた時期があって、その番組に少し似ていたので、なつかしく感じました。	39	女性が綺麗だった。								
41	最初はという話か理解できなかったけど、理解しておもしろいように感じた。なんか、Eテレで見たことがあるようなものだった。	40	物語の冒頭で展博が女性のマネをして、ICカードをしているところが、私的にはとても面白かったです。								
		41	アメリカと違って、話の内容が理解しやすかった。私は中国の方が見やすいと思えた。普通の話だと思うのにおもしろい。								
		42	初めて見たけど、結構面白いなということを感じました。								

